

大学・短期大学・専修学校のための

リクルート Recruit College Management

Sep.-Oct. 2016

カレッジマネジメント

200

200号記念特集

トップマネジメント座談会

今後の大学経営における学長の責務とは

近藤倫明 / 田中優子 / 山崎光悦 / 吉武博通



特集

進学ブランド力調査

2016



カレッジマネジメントのバックナンバー・WEB限定 月次特集はこちらから

200号記念に寄せて

潮木守一

名古屋大学・桜美林大学名誉教授

本誌の創刊号が刊行されたのは、1983年7月のことだという。今から33年前のことになる。編集部調べによると、この創刊号にはほかならぬ小生が一文を寄せているという。何を書いているのか、そのコピーを送ってもらったところ「18歳人口の推移と高等教育人口の展望」なる一文を寄稿している。

33年前の自分と出会うことは、懐かしさ2割、気恥かしさ8割。かすかな記憶をたどりながら思い起こしてみると、その当時、話題となっていたのは将来起こる18歳人口の減少問題であった。やがて18歳人口の減少期がくる。その時大学はどういう運命に晒されることになるのか。それが話題となり始めていた。

あたかもその頃のアメリカは、まさに18歳人口の減少期のまっただなかにあった。かなりの大学が閉鎖に追い込まれ、当時のNHKが学生が来なくなり、無人の廃墟と化したカレッジの様子を映像で流していた。それは将来の日本の大学を暗示しているように思えた。しかしアメリカの場合、18歳人口の減少は先が見えており、1995年からは再び18歳人口の増加が始まること明らかにになっていた。

これに対して日本の場合、少なくとも1992年めがけて18歳人口が増加するが、それを過ぎると今度は一転して減少期に入ることが既に明らかになっていた。つまりこの論文執筆の1983年時点から眺めれば、今後8年間は増加するが、そのあとに減少期が控えていることになる。ただその18歳人口の減少がいつまで続くのか、その先が見えなかった。年々報告される出生数は減少の一路をたどっていた。出生数が減少すれば当然のことながら18年後の18歳人口は減少する。しかし人々

の知りたい点は、日本の出生数がいつになったら持ち直すのかだった。今でこそ少子化、晩婚化、非婚化、草食化が話題にされ、社会問題化、政治問題化されているが、1983年当時はまだそれほど騒がれてはいなかった。

それだけでなく、そもそも権威ある政府機関の発表する出生数の推計値が毎年外れる状態が続いていた。その機関はやがて出生数が上向くと推計結果を発表していたが、その推計値は年々現実によって裏切られていた。世間はこの権威ある政府機関の推計をどこまで信じたらよいか迷っていた。しかしこうした迷いを抱えていたのは一部の人間だけで、世の中は年々増加を続ける18歳人口を大いに歓迎していた。その当時、ある大学経営者が受験会場に押し掛ける受験生の顔が、みな札束にみえると告白したことを今でも記憶している。

それ以来、規制緩和があり、臨時定員増があり、大学の増設・拡張が起こった。新たな学部・学科の新増設が行われ、今まで聞いたこともない学部・学科が登場した。中には「果たしてまじめに考えているのか」と疑われるような名称を冠した学部・学科が出現した。入試方法を多様化し、「選抜」・「選考」を放棄し、実質的にオープン・アドミッションをとるところも登場した。その結果、今では40%の大学が定員を割り込んでいるという。

30年前閉鎖に追い込まれたアメリカの大学の中には、見事に復活を果たしたところもあるし、とうとう浮上することのできなかった大学もあるという。悪貨が良貨を駆逐するのか、良貨が悪貨を駆逐するのか、いよいよその正念場に立たされる局面に達した。



4 200号記念特集

2 200号記念に寄せて 潮木守一 名古屋大学・桜美林大学名誉教授

5 トップマネジメント座談会
今後の大学経営における学長の責務とは

近藤倫明 公立大学法人北九州市立大学 学長・副理事長

田中優子 法政大学 総長

山崎光悦 国立大学法人金沢大学 学長

吉武博通 筑波大学 ビジネスサイエンス系教授・大学研究センター教授(兼)



14 特別寄稿

オックスフォードから見た日本の大学

荻谷剛彦 オックスフォード大学社会学科及びニッサン現代日本研究所教授

特集

18 進学ブランド力調査 2016

20 景気回復の兆しを受け私学志向が高まる

60 CASE 1 龍谷大学
**大学全体の質向上戦略としての
 長期計画の実現**

64 CASE 2 國學院大學
**「3つの慮い」と「5つの基い」で育む
 國學院ブランド**

68 CASE 3 広島修道大学
**アウター、インナー双方の改革による
 ブランド力向上**



龍谷大学



國學院大學



広島修道大学

連載

74 学ぶと働くをつなぐ ③ 園田学園女子大学 角方正幸

72 TOP INTERVIEW 佐藤圭一 国士館大学 学長

78 新世紀のキャンパス 武蔵野美術大学「14号館(デザイン工房棟)」

83 当代学生のリーダー 大島彩弓 群馬県立女子大学 ALOHA DANCE CIRCLE



200号記念特集

CONTENTS

- 2 200号記念に寄せて 潮木守一
- 5 トップマネジメント座談会
今後の大学経営における学長の責務とは 近藤倫明／田中優子／山崎光悦／吉武博通
- 14 特別寄稿
オックスフォードから見た日本の大学 荻谷剛彦

リクルート「カレッジマネジメント」が創刊されたのは、1983年7月である。皆様のご支援を受けて、33年間発行を続け、今号で無事200号を迎えることができた。創刊号の記事を見ると、現在でも巻頭(表2)の書評をご執筆頂いている潮木先生に「18歳人口の推移と高等教育人口の展望」というテーマで、ご寄稿頂いている。18歳人口は8年後の1992年までは増加するが、ピークを迎えた後、減少に向かう。そうした環境の中で、大学に今後の展望を問う内容だ。今読んで面白い。今号では、潮木先生にいつもの書評ではなく、当時のご執筆記事を現在の視点で振り返って頂いた。ぜひ、ご一読頂きたい。

では、18歳人口はその後どうなったのか。1983年当時の予想では、1992年のピークに18歳だった団塊ジュニアのジュニア世代が、今頃もう一度18歳人口のピークを作っているはずであった。しかし、非婚化、少子化により、再度のピークは来ないまま、再び18歳人口の減少フェーズに突入する“2018年問題”を迎えることになる。これから始まる人口減少フェーズについては、残念ながら、今のところ二度と増加に転じる予測はない。

さらに、大きな社会環境の変化が予測され、様々な未来への展望が示されている。例えば、「2011年にアメリカの小学校に入学した子ども達の65%は、大学卒業後、今

は存在していない職業に就く(キャリア・デヴィットソン ニューヨーク市立大学大学院センター教授)」、「今後10～20年程度で、約47%の仕事が自動化される可能性が高い(マイケル・オズボーン オックスフォード大学准教授)」などである。また、「2014年に450万人であった世界の留学生は、2025年には800万人に拡大する(OECD予測)など、IT化、グローバル化により、産業構造も変化し、世界の人口動態も変化していく。

このように、変化が激しく、予測がつかない時代だからこそ、高等教育機関に求められるものも大きくなっていくのではないか。厳しい時代ではある。しかし、だからこそ高等教育機関の出番ではないか。今号では、200号記念号として、オックスフォード大学での7年の経験をもとに、荻谷剛彦教授から海外から見た日本の大学への示唆をご寄稿頂いた。また「トップマ

ネジメント座談会」として、国立・公立・私立の各学長に設置者の枠を超えて、学長の役割と学校経営について忌憚なく語って頂いた。

答えのない事象に向かって、学び、考え、研究し、そして未来を創っていく。そんな、未来を創造する高等教育機関をカレッジマネジメントは応援し続けるとともに、そこで学ぶ学生達の未来を応援し続けたい。

(本誌編集長 小林 浩)



「カレッジマネジメント」創刊号

今後の大学経営における 学長の責務とは

近藤倫明 公立大学法人 北九州市立大学
学長・副理事長

山崎光悦 国立大学法人 金沢大学 学長

田中優子 法政大学 総長

吉武博通 筑波大学 ビジネスサイエンス系教授
大学研究センター教授(兼)

(50音順)

司会 小林 浩 リクルート「カレッジマネジメント」編集長

現在の学長の役割

司会 本日のテーマは「今後の大学経営における学長の責務」です。2014年学校教育法92条が改正され、学長中心のガバナンスにより、意志決定と変革のスピードを上げていくという方向性が示されました。国立大学は法人化以来、変化しているように思いますが、学長の役割がどのように変化してきたのでしょうか。

山崎 金沢大学は2004年に法人化して以来、従来の学部・学科制を廃止し、3学域・16学類に再編成する等、目まぐるしい改革を推進してきました。教学だけではなく、マネジメントの観点でも学部の垣根がなくなり、部局長の人数が減った結果、意志決定のスピードが上がりました。今では教職員も国や大学が掲げる方針をやらなければいけないという雰囲気になっています。改革を進めるにあたり、学内の理解が得やすいと感じており、こちらとしては大変やりやすいのですが、逆にかじ取りを間違わないわけにはいけないというプレッシャーもあります。競争的資金の獲得や、

大学の研究成果等の数値把握等、学長の仕事はこれまでよりずっと多岐に渡り、非常に忙しい。おかげさまで少しずつですが、パフォーマンスや目に見える数値も良くなってきました。そうした結果を見て、教職員も改革を続けなければという意識が高まってきている状況です。

田中 法政大学の場合は教授会が非常に強いですが、最終的に決めるのは総長です。総長は学長であるとともに理事長の権限を持っており、最終的に総長があらゆる決裁をします。実は学則の中ではっきりと明文化されていませんでしたが、今回の学校教育法改正の折に、総長が決定するという一文を学則に入れるという学則改正を行いました。しかし、それまでやってきたことを文章にしただけですし、そのことで現状が変わるわけではありません。本学は学部の自治が非常に強い反面、学部の教員は学生に対する強い責任感を持っていて、教育を良くしていくというFD活動も非常に盛んです。学部のブランディングも強く意識し、特に小さい学部ほど能動的かつ精力的に取り組んでいます。

例えば国際文化学部は1999年に設立した際、学生全員を

留学させるという制度を取り入れました。しかも英語圏に限らず10か国に派遣します。実務的には困難な作業ですが、それをやり遂げて教育が大変良くなりましたし、そうした取り組みを他学部も取り入れ始めました。本学は15学部ありますが、そうした学部独自の取り組みがあちこちで起きています。また、以前はお互いに何をやっているのかよくわかりませんでした。自己点検懇談会という組織を作り、自分の学部でやっていることを発表する機会があります。その結果、刺激を受けて自分たちの学部も何とかしようという空気が出来上がっています。

新しいことをやろうとすれば、当然不都合だという意見も出てきます。そうした意見をちゃんと聞いたうえで、折り合いのつく方法を再提案する等、言葉を磨きながら納得してもらいやりとりを心掛けています。ただし、15人の学部長が相手ですから、スピードという問題はあります。しかし、総長がトップダウンで決定したことについて、実際の現場で問題が発生し、そのやり方はまずいということになると、結局はスピードが遅くなるのです。それを考えると、相手の異論を踏まえて話し合い、納得してもらったほうが速いのではないかと考えています。

近藤 2004年に国立大学が一齐に法人化し、同じ年に公立大学も法人化を選択できるようになりました。北九州市立大学は2005年に法人化しています。この法人化の時に、既に今回の法改正によるガバナンス改革に取り組み始めました。法人化に至る過程で、法人化にはどういうメリットがあるのかについてはかなり議論しました。それまでは設置団体の北九州市の一部局でしたから、市議会での承認がなければ決まらなことが多くあったのです。一方、法人化をすれば、大学の裁量の範囲が大きくなります。このため、大学で何を決め、どんな成果が求められるのかについて話し合いました。大学運営において大事なのは人事と予算です。そこでまず、人事や予算等について、学部教授会ではなく、教育研究審議会で審議することにしました。また、私が学長になった第2期(2011年～)には、更に一歩進めて、予算方針会議、組織・人事委員会を設置し、全学的な方針については、そこで決めていくことにしました。

教員評価にも取り組んでいます。しかし、この制度を導入した時に、評価する学部長・学長は誰が評価するのかと

いう意見もありました。これを受けて、学部長評価・学長評価を導入することにしたのです。初めて学長を評価する規程を作り、私も一昨年学長評価を受けました。学長選考委員会とは別に新たに学長を評価する委員会を作り、学外の評価委員を中心にして実施しました。今年度からは、学長が評価者となる学部長評価も導入します。評価をどう活用するかの問題もありますが、評価結果によって何かを下げるという減点主義ではなく、良い点をもっと伸ばすというポジティブな評価システムとして、構成員全員できちんと自己点検できる仕組みを作ろうと考えています。

ガバナンスの変容

司会 法律が変わり、学長のガバナンスはどのように変わってきたのでしょうか。

吉武 国立大学の場合は今回の法改正より、2004年の国立大学法人法以降からの変化が大きいです。そうした意味で、今回の改正では私立大学が大きな影響を受けることになるかもしれません。ただ懸念しているのは、ガバナンスと言うと必ず、学長のリーダーシップとはイコールトップダウンだと考える学長が出てくることです。田中総長のような考えを持っている方であれば良いのですが、ガバナンス＝リーダーシップ＝トップダウンという図式になってしまうと、反発も生まれますし、大学としては不幸なことになってしまいます。教員や職員も納得しない限り、良い仕事はしないものです。納得するプロセスをどうやって作り上げていくのか、ある意味では多少時間がかかっても丁寧にやっていくことが大学ガバナンスの一つのポイントだと思います。

また、全学一体だと強調し、求心力を高めようとする風潮も行き過ぎると問題です。例えば大手企業の場合は事業部制を敷いて、いかに事業部に権限委譲してエンパワーするかに注力しています。せっかく学部や研究科という部局があるわけですから、学部長や研究科長に一定の責任を持たせて任せることは大変意味があることだと思います。全体として、リーダーシップや全学一体を強調しすぎる大学と、役割と責任を明確にしながら上手にやっている大学とに分かれている印象があります。



学長と同じ方向を向いている副学長や学長補佐を周囲に配置し、学長が最終的に責任をとる体制を作ること、学長ガバナンスは機能する。(近藤)

司会 確かにリーダーシップは非常に重要な課題ですが、トップダウン型のリーダーシップ以外に、皆を支えて働きやすくするサーバント型リーダーシップという言葉もあります。組織のあり方によってガバナンスのあり方も違うということですね。

近藤 おっしゃるように大学改革は「用意ドン」で一気に進むわけではありません。意識を変えることが大事だと言われますが、実際は難しい。そのためには成功事例とその成果を経験していくことが重要だと思います。時間はかかりますが、新たなガバナンスによってどういうことが変わるのか、目に見える形にしていくことで、知らず知らずのうちに時間軸で変わっていくようなストーリーを描くことが重要だろうと思います。例えば本学では基盤教育センターや地域創生学群という教育組織を作りましたが、その成功事例や成果を全学的に広めていこうというスタンスでやっています。

リーダーシップに関しては、前学長がトップダウンとミドルアップという言い方をしました。ミドルアップとは、大学改革に意欲ある若い教員を、学長指名で副学長や全学的な組織の長に就任させるということです。ガバナンスで大事なことは、学長と同じ方向を向いている副学長や学長補佐を周囲に配置し、学長が最終的に責任をとる体制を作ることです。また、本学では、リスクマネジメントの観点から、法学部の法律を専門とする教授を副学長に選びました。更に、グローバル化を推進することで生じるリスクマネジメントのために、学長付きの特任教授として、国際間の協定を精査する専門家を置いています。学長を支援する補佐体制を作ることによって、学長ガバナンスは機能するだろうと思います。

外部競争資金の獲得

司会 法政大学も成功事例として先ほど国際文化学部の例が紹介されました。

田中 その後も様々な変化が起きています。スーパーグローバル大学創成支援(以下SGU)に採択されて以降、英語で履修して卒業可能なコースが次々とできています。SGUのような外からのインパクトが今はたくさんありますが、

教職員は忙殺されることにもなり、バランスをとるのは大変です。しかし、それによって大学が変わるという希望もあります。変化の契機をいかに掴んで、教職員自身の成長につなげていくかは非常に重要です。現状維持ではなく、変化し続けることを新しい大学の価値にしていく取り組みが重要だと思います。ただそれにはお金がかかりますし、財政的問題は大きな課題でもあります。

司会 金沢大学ではSGUも獲られ、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(以下COC+)、大学教育再生加速プログラム(以下AP)も獲られています。全国で見てもこの3つを全て獲っているのは珍しい。何故これだけ競争資金に採択されるのでしょうか。

山崎 確かに意識して獲るように注力しています。金沢大学はURA(ユニバーシティー・リサーチ・アドミニストレーター)制度をいち早く導入し、積極的に研究支援・研究マネジメント人材の育成を進めています。大学として外部の競争的資金獲得の申請をする時に、そうした人材が下支えをしています。彼らの下には本学のあらゆる情報を集めていますし、他の大学の動きや外国の状況も調査してもらっています。それによって新しい方向性を打ち出し、結果として外部資金の獲得につながっています。

司会 皆さんも外部資金というのは意識されていますか。
近藤 はい。法人化以降、本学では6年間の中期計画の中で外部資金の数値目標を設定する等、「選ばれる大学になる」ことを掲げています。受験生から選ばれ、また、外部資

金を得るために、例えば文科省補助事業に採択されること等も大学の重要な取り組みです。実際、現在は4つの文科省の競争的資金が走っています。法人化前にはなかったものを獲得することで、できなかったことができるという良い循環を創っていけるメリットやインパクトがありました。

また、COC+に関連させると、本学のような地方の公立大学はある意味で動きやすい部分もあります。設置団体との距離が近く、一体となった取り組みができるのです。更に北九州市内には10の国公私立大学があります。特色のある単科大学もあるので、大学間連携が進めばいわゆるユニバーシティになります。COC+もそうですが、そうした地域の強みを生かそうということで、私も他大学の学長を訪問し、それぞれの大学の良さをどう生かすかについて話し合い、一層の連携を進めています。

司会 法政大学もSGUに採択されています。外部資金は良い刺激にもなる一方で、期限があるために予算も限定されますが、その効果をどう考えていますか。

田中 実際は、最初から持ち出し前提と覚悟してやっています。例えばSGUの期限は10年ですが、もっと先まで展望して考えなくてははいけません。そうしたことを含め、2年間かけて「法政大学2030」という2030年を見据えた長期ビジョンを創りました。その中に外部資金獲得による計画も入っています。長期ビジョンは私が総長になったときのマニフェストで必要性を掲げていました。これまで私立大学は財政面も含めて外部資金等いつも外の声に翻弄されている状態でやってきました。それはある意味で大変危機的な状態です。

もう一つは、進学率の高まりで受験生が多くなる拡大の時代には、少子化が既に始まっていたにも関わらず、学部やキャンパスを増やしてきました。ところが現在、本当の少子化が進行する中で、今まで拡大したものをこれからどうするのか、長期ビジョンが必須となっています。2030年までを見越して少子化の時代にどういう手を打っていくのかについてまとめています。今年度から具体的な16のプロジェクトに落として進めています。

司会 2030年のビジョンはどのような形のプロジェクトで創られたのでしょうか。

田中 法政大学が抱えている主要な課題を討議するため、委員会を5つ設置しました。財政基盤検討委員会、キャンパス再構築委員会、ダイバーシティ化委員会、ブランディング戦略会議、そして全体を統括する策定委員会です。私立大学にとって少子化を迎えて財政状況がどうなっていくのかが一番重要な問題です。まず現状を正しく把握したうえで、土地や建物の運用等も含め、どれだけ予算の見直しをしなければならないのかも検討しました。そうした委員会で精力的に集中審議し、全体をまとめる策定委員会の長を私が担当するという形で進めてきました。

司会 大学改革を動かしていくドライバーとして外部資金を使うこと、中期計画を策定すること等が挙げられています。改革のドライバーをどのように考えていますか。

吉武 やはり大学が主体になることです。例えば、国立大学は法人化までは文部科学省を中心とする一塊の一部でしたが、そこから真の意味で自立しないと、せっかく広がった社会との接触面を生かすことができません。大学の周りにはいる学生、保護者、そして地域社会・企業との対話を通じて大学自身が五感で社会の変化を感じ、単に社会に迎合するのではなく、教育研究はどうあるべきなのか、大学自身が発想することが重要です。その点長期プランは、社会を洞察して自分たちはこれからどう打って出ていくのかを考える契機になります。そこに文科省が打ち出してくる施策を上手に利用していくことが大事になります。しかし、そうしたことを主体的に考えている大学もあれば、文科省が打ち出す施策を一生懸命に球拾いして、右往左往している大学もあります。執行部の右往左往している姿を冷ややかに見ている教育現場もあります。



地域と大学

司会 少子化により人口が減少する中で、地域との関わりを経営的にはどのように捉えていますか。

山崎 少子化に関して、金沢大学は他の地方都市にある国立大学とは立ち位置が違うという認識を持っています。金沢は高等教育機関の集積が高く、人口比率で言えば全国で2番目ですし、かつ18歳人口は増えています。大都市を除いて地方都市では唯一の地域だと思います。ただし22歳

～24歳人口になると急減します。そこをどのようにして食いつめるか、つまり学生の定着が、COC+における地域課題でもあります。従って、金沢大学は世界に展開する大学を目指す一方で、地域に必要な人材を輩出するという両方の責務を担っています。

その意味でブランディングは極めて重要だと思っています。今まではどこの国立大学にも工学部や教育学部があり、学制改革以来に設立された駅弁大学はどこも一緒だよ、と言われる金太郎アメの状況でした。少しずつ違うものを創り出しながら、特色ある大学にすることが我々国立大学の学長に問われている課題だと考えています。併せて都会からも人が呼べる大学になりたいと考えています。金沢には京都ともまた違う文化的魅力がありますし、町の生活の中に文化が溶け込んでいるという点で特異であると思います。例えば昼間はうちの大学の事務や技術の職員として働いている人が、夜になると陶芸教室や加賀宝生流の先生をやっていたりします。そうした金沢の地域性や文化の特色、それにプラスした食文化を含めて大学に取り込んでいきたいと考えています。

司会 北九州市も地域性もローカルとは言いながら、アジアと接している点グローバルの先端でもあり、人材育成は重要なテーマです。人口は増えないという課題に対してどのように取り組んでいますか。

近藤 今年、本学は創立70周年を迎えますが、「北九州市立大学100年」という30年後を描いたビジョンを創りました。ちょうど29年前に私は北九州市立大学に赴任したのですが、このビジョンは、新しく入った先生方が30年後もこの大学で夢や希望を抱けるように考えたものです。このビジョン創りで意識したのが、人口減少という課題です。北九州市は現在人口96万人、10年後には80万人台になると言われています。実は海峡を隔てて同じ経済圏として学問的交流の深い山口県下関市も、同じような状況にあります。この課題に対して、地方創生の中で大学が取り組むべきことは、北九州市や下関市に残る学生を増やすこと、つまり、学生の地元への就職と定着の支援です。ポイントは、地元に残りたいという学生が3割程度いるのに、実際に地元企業に就職するのは2割程度に留まるということ。1割のミスマッチがあるのです。これは、学生が企業を含めて地

単に社会に迎合するのではなく、**教育研究はどうかあるべきなのか、大学が自ら発想することが重要。**（吉武）



域のことを知らないからではないか。また、大学もこの問題に対してこれまで取り組みが足りなかったのではないかと自問し、新たなアプローチの一つとして地域関連科目を開設しました。学生に地域のことを知ってもらうためです。一方、地元企業も8割以上が地元の大学生を採りたいと思っているのに採れない状況があります。こうした状況を変えるため、この4月から、COC+によって、大学・企業・行政が連携する取り組みが始まったのです。

司会 地域・企業と大学は産学官連携と言いますが、個人の先生だけがつながっているような状況も多くあります。ドイツでは産業クラスターと大学がつながっていると聞きますが、日本はそこまで進んでいません。その理由は何でしょうか。

吉武 一つは大学に対する地域の失望感がかなりあると思っています。地方創生を推進している方々は大学等教育機関に期待しており、大学も色々な形でやってはいますが、現実には個々の先生たちが一本釣りされてやっている等、点でしかつながっていない状況です。私は新日本製鐵の出身ですが、例えば製鐵所の総務部長として週に一度程度は市長と会っていましたし、土日でも地域の行事に参加していました。それに対して大学は個々の教員の活動も大事ですが、職員も含めて地域に出て行くという感覚がまだ少ないと思います。今はまさに大学が組織的に地域に展開していくかどうか試されていると考えるべきではないでしょうか。

山崎 石川県の能登半島は、日本の中でも少子高齢化が特に進んでいる地域の一つですが、先端にある珠洲市の高齢化率は46～47%です。実はそこに廃校を活用した私たちの能登キャンパスがあります。そこで地域の課題とその解決に向けて、先生・住民・企業を巻き込んで取り組んでいます。例えば七尾市と本学とは5つの課題の解決に向けた委員会を組織し、毎年進捗状況を確認しています。田舎では病院や買い物にいくうえで車は重要な手足なので、珠洲市では自動運転の普及を目的にした社会実証研究も推進しています。大学としては世界を目指す一方で、地域の課題にも真摯に目を向け、教職員が一丸となって取り組み、先進事例を作っていきたいと考えています。

近藤 問題となるのは地域社会と大学の距離感でしょう。本学では地域と大学の距離を超えるために、地域創生学群や地域共生教育センターという新しい教育組織を開設しました。学群では、学生が学外に出て、地域固有の課題に地域の皆さんと取り組むという教育プログラムを導入しています。例えば、八幡東区猪倉地区の過疎化が進んだ地域では、学生たちが農業関連プロジェクトに取り組み、泊まり込みでやり始めてから5年になります。これも地方創生のあり方を考えていく取り組みです。その一環として耕作放棄地でサツマイモを栽培し、市の特産品を作ろうと地域の酒造メーカーに相談し、市と地域と学生が協働して芋焼酎の製造につなげました。教職員が地域に入ることで同時に、学生が入っていくことも地域との連携を深めるために必要なことだと思います。

田中 地域と大学の関係ですが、首都圏の大学として法政大学が力を入れているのがフィールドワークです。もともと先生方も外で合宿や調査をする方が多いのです。これからは海外のフィールドワークはもちろん、国内でも地域と提携したフィールドワークを奨励したい。今のお話は大変興味深いですし、地方の大学と一緒に何かができるはずだと思っています。首都圏の大学にとってフィールドワークは重要な教育の方法です。 Semester制・クォータ制に変わっていくなかで、春休み・夏休みをスプリングセッション・サマーセッションとして、正規の授業にしていく方法があると思います。

教職員の教育力

司会 これまでは偏差値を軸に入試を受け、入学がゴールという「入学の国」でしたが、入学後の学習成果が求められる「卒業の国」に向かう動きが生まれてきています。学習の成果を上げ、学生の成長を促すためにどのように取り組んでいますか。

田中 学生が養うべき能力に関しては、文科省が能力の基準を変えました。その中の思考力・判断力・表現力は非常に重要な能力ですが、そうした能力開発はそもそも大学の教育でやってきたことです。しかし、それが入試と結びついておらず、全学的体制で取り組んでいなかったという問題があります。全学的にやるには教育方法を全面的にアクティブラーニングに変えないといけません。大教室スタイルの講義も、議論型・プレゼンテーション型に変える必要があります。

また、求められる能力の基準が変わると、大学教育と同時並行で高校の教育も変えなければなりません。小・中学校も含めていよいよ教育全体の方法、能力の考え方が変化する時期に来ている以上、グローバル化を含めて能力について私たちがしっかりとした考えを持つべきだと思っています。

司会 そうなると教員も職員も変わっていかないとはいけませんね。教育力を高めていくためにどういう取り組みをしていますか。

山崎 私どもは以前からアクティブラーニングを取り入れている大学の一つですし、かなり先行しているという自負も持っています。また、本学学生のブランディング力を打ち立てようということで、昨年から育成する人材のモデル像を5つのスタンダード(能力)で設定し、教養教育から作り直し、2016年4月から実践を始めています。これら5つのスタンダードをKUGS「金沢大学グローバルスタンダード」と呼んでいます。例えば5つの中には「自己の立ち位置を知る」、つまり日本と世界の歴史や地理を理解するというものがあり、そのスタンダードのために6つの独自科目がある、といった具合で、5つのスタンダード全体で30科目程度を用意しています。基本的にはアクティブラーニングですが、それぞれ教材を独自に開発しました。我々としては5～10年後に、最近の金沢大学を卒業した学生は変わってきたよね、と言われるように

したいと思います。

そのために教育方法も見直し、一部は英語による授業を開始し、10年後には学士課程の原則50%・大学院の100%を英語で教えることにしています。また、留学生を増やすために、英語だけで学位が取れるコースのカリキュラムを作っていく。そのためにアメリカのタフツ大学から数人の先生を招聘し、本学の先生方向けに英語教授法に関する教員研修をやらせてもらっています。授業のない時期に集中的に開講しているもので、宿題も多いので、受講している先生方は悲鳴を上げていますけれども。また、タフツ大学の先生方には職員向けに業務に役立つ英語研修や学生の英語の授業も担当してもらっています。トレーニング専門の先生方なので教え方が上手く、学生の評判も高いです。

近藤 これまで先生方は研究のプロフェッショナルとしてやってきましたが、やはり教えるということを真摯に受け止めないといけないと考えています。本学では12年前に法人化した後、FDの特命教授を外部からお招きしました。先生を教えるための先生です。50～60代の先生に教えようとしても嫌がる方もいますので、最初は新任の先生たちに研修を行う仕組みを作りました。それから約10年経ちますが、3分の1の教員がそうした研修を受けた状態になりました。ある程度そうした母数が大きくなってくると、例えば、アクティブラーニングの取り組み等、大学内でも様々な教育文化が育ち始めます。FDのベストプラクティスを先生方が競い合うようになってきました。

同時に教育の成果をどういう形で見るのかという問題があります。一昨年に文科省のAP事業に採択されたのに合わせて、この問題にも取り組んでいます。学生はどのように成長していくのか、また、学習の成果をどういう形で発信していくのかという観点から、地域創生学群では1年次から学生自身が自らの学びを自己評価する取り組みを実施しています。

司会 大学が個性を明確にして人材育成に対してコミットし、社会に輩出していこうという取り組みについて、どう考えていますか。

吉武 良い動きがたくさん出てきていると思います。ただし、気になるのは供給者の論理が強いことです。つまり、「こういう教育をしているから良いはずだ」というものです。でも学生にとってはどうなのでしょう。つまり、実際に大学

外部環境に翻弄されすぎないためにも、正しい現状把握を基盤にした長期ビジョンが必要。(田中)



にはどんな学生がいて、どんな学習をし、その結果どういう成長をしているのか。さらに社会は一体どんな学生を求めているかということを含めて、学生の立場に立って自分たちの教育はどうあるべきかを考えている大学が意外に少ないように思います。

もう一つは、熱心に教育に取り組んでいる教員の間でも、社会が何を求めているのかに関しては、社会が求める通りにやっても仕方ないと考える教員もいますし、社会が求めることを重視して教育を行なうべきだと考える教員もいる。こうしたいろんな考えを含めて社会と対話しながら、最後は大学が主体となってこういう能力を身につけさせるべきだということを議論し、大学の教員の間で共有するプロセスが必要だと思います。エビデンスも大事ですが、必ずしも全て定量的に計れるわけではありません。それでわかるのは2～3割の部分かもしれませんが、それを参考にしながら学生と皮膚感覚で接触していくことが大事だと思います。何のために教育するのかという問いに明確に答えることは難しいと思いますが、常に教職員が社会との対話を通じて議論するというプロセスが、教育力を上げていくことになるのではないかと考えています。

近藤 大学は学生が卒業する時に成績証明書を出していますが、それでは不十分だと思います。企業・社会が学生にどのようなものを求めているのかを踏まえ、大学の教育によって、学生がどのような能力を身につけたのか、つまり、学位授与方針に基づき、責任を持って学修成果を証明する必要が



世界に展開する大学を目指す一方で、
地域に必要な人材を輩出する両責務を
負うのが国立大学。(山崎)

あります。本学では、AP事業に関連して、成績ファイルを作るという研究が始まっています。例えば金融機関がどうい
う人材を求めているのかを調査すると、色々な能力が提示さ
れます。それに対してこの学生は4年間でどの能力を身に
つけたのかを示す推薦ファイルのような仕組みを作りたい
と考えています。それをデータベース化し、例えば公務員を
受けることになれば、同じ書類の中でも公務員用の証明書
を作成する。大学として一つの成果保証になるものを作る方
向で検討しています。

今後の大学と学長の役割

司会 国立大学プランの中でミッションの再定義や3つの
重点施策が示されました。公立大学と存在意義が被る内容
も見受けられます。国立大学・公立大学のこれからの役割と
は何でしょうか。

山崎 難しい課題だとは思いますが、国の財政問題や人口
減少を考えると、2020年まで等の短期ではなく、長期で考え
ないといけません。その中で質の高いボリュームゾーンの
人材を国立大学として育成していくことが大事な役割だと
思っています。今後どう住み分けていくのかという問題と
規模感の問題がありますが、今の86の国立大学を、地方都市
が小さくなっていく中で本当に存続させることができるの
かについては極めて疑問です。北陸3県を合わせても人口
は300万人ぐらいしかいません。だからといって金沢大学

やその他の大学が消えたら、都市は半分ぐらい消滅してし
まいます。国立大学の機能をどのように残しながら、効率的
に存続させるかという議論が、ようやく始まろうとしていま
す。その場合に公立・私立大学とは競合していくのか、それ
とも共存するのかという大きな施策を、皆で考えていく必要
があります。

もう一つ国立大学の大事な使命は、文理を問わず基礎的
分野を守っていくことです。文系の哲学・宗教等をはじめ、
基礎学問は国立大学だからこそやらないといけないものも
あります。研究費や助成金が獲れる分野だけをやっていれ
ば良いということではありません。

近藤 地域にある公立大学は、基本として設置主体がどう
いう方針でこの大学を作ったのか、つまり、設置理念を意識
することが必要です。また、公立大学の一番の応援団は市
民の皆さんです。市民の皆さんに、地域社会の中でこの大
学が本当に必要だとどのくらい思ってもらえるのが極めて
重要です。そのためには、地域にどういう形で、どれだけ
参加していくかが問われます。教職員や学生も含めて大学
が地域にとってどういう意味を持っているのか、常に思考
し、行動していくことが必要でしょう。更に、今後は地域が
抱える課題等を軸に、他大学との連携をますます深めていく
必要もあると思います。

司会 私立大学は全国に約600校あり、学生の8割が私大・
短大に在籍しています。人口も減り、2015年度には43%の
大学が定員割れという状況を考えて時に、これからの私立
大学の役割とは何でしょうか。

田中 やはり学生が偏差値だけではなく、この大学が自分に
合っていると判断することが非常に大切です。この最初の
マッチングをどうするのか。選ぶ側の高校生にとっては、実
は私立大学の特徴がよくわからないことが最大の問題で
す。まずそれぞれの大学が自校の特色を明確に認識して打
ち出す必要があると思います。例えば本学で2年間実施し
たブランディング調査では、それまで法政大学は何をやっ
てきたのか、学生はどういう教育を受けて、どうい
う学生が卒業していったのかをまず検証するところから始めました。
目新しいものを創るのではなく、まずは大学が持っているも
のを活かそうということです。その特色を様々な形で外に
発信し、この大学のここに共感する、と判断してくれる高校

生を増やしていくことが、特に私立大学にとっては非常に大事です。建学以来の歴史をたどり、事実を検証して大学の特徴を見出すことができれば、それにどういう特徴をプラスしていけば良いのかが見えてくると思います。

司会 今後の大学の再編はどうなっていくのでしょうか。

吉武 少子化が進み、財政的にも厳しくなってきます。高等教育に投入される資金はどうしても減らざるを得ません。カバーするには個々の大学単位で効率化していかないといけません。780校全体が個々にやっていると、大学全体として力が弱くなってきます。難しい課題ですが、国がやらなければいけないのは大学のグランドデザインを描くことです。学生の在籍状況から考えると、やはり私学を高等教育の中心に位置づけ、再編を進めていくことになるのだらうと思います。ただ、学問分野的に私学でやるのは難しいが、国公立であればできるものもあります。その意味でも、国公立こそ、「自分たちが何を本当にやらなければいけないのか」という存在意義を突き詰めて考え、明らかにしていく責任があるのだらうと思います。

もう一つは、大学は学生、教職員そして地域社会等、リソースをたくさん持っています。企業と連携しようと思えば本来色々なことができます。ところが日本の大学は、自分たちにはリソースがないので外から借りてこないといけないという感覚が非常に強い。自分たちの大学の歴史の中で培ってきたこと、自分たちの大学の内外で手に入るリソース等をきちんと把握して、それらを活かしていくことが大事ではないかと思っています。

司会 最後に、学長の役割とは何でしょうか。

山崎 学長の任期が4年間ですので、2年前の就任時に「YAMAZAKIプラン2014」なるものを策定しました。実際には計画の進捗状況がよく、3年間で達成できそうになり、新たに「YAMAZAKIプラン2016」を策定しているところです。この中身は私が勝手に決めたものではなく、周りと議論を重ね、合意点を探りながらまとめたものです。大方針は出すのは学長ですが、さらに大事なことは具体的な中身については周りが議論しやすいような環境を整えることだと考えています。あまり早くやりすぎても皆が幸せになるわけではありません。しかし、財政基盤を整えると同時に、皆に一つの方向性をメッセージとして示していくために国の競争的資金

等を積極的に獲得していく必要もあります。そうした外部の動きをうまく活用することで、結果的に改革のスピードが早くなりました。本学はめまぐるしく動いていますが、変化し続けることが大事であり、止まってはいけないと考えています。誰にしても現状維持の方が楽ですが、そこから新しいことは生まれにくい。大方針を掲げると同時に皆が動きやすいように環境を整え、変化し続けることを後押しするのが学長の役割だと思っています。

近藤 学長の役割は全体の大きなストーリーを書くことだと思います。本学の場合、6年間の中期計画でやるべき項目が70あります。学長の仕事として大事なことは、全体のなかでそれぞれの項目がどういう意味があるのかというストーリーを、きちんと提示することです。北九州という場所は、アジアの諸外国に近い。その立地だからこそ紡がれた歴史と伝統があるわけで、大学の存在意義はそこに起因するはず。そうした大学の歴史を紐解きながら、大きな絵としての国際化や地域貢献の意味を示し、北九州市立大学の将来像を導くストーリーを創る。それが、学長としての私に課せられた大事な役割だと思っています。

田中 私立大学の学長の場合は、大学の壮大な物語を創っていくに加えて、経営を考えることが大きな役目です。大規模大学は付属校もありますし、学部と大学院組織・専門職大学院もあります。財政状態をいつもウォッチしていると、各部門の採算状況が見えてきます。そうになると、ここは赤字だから切らないといけない、これは止めないといけない等の話になりがちです。しかし、赤字だからと切るだけなら、方針も何もなくなります。大事なことは、今は赤字だが、これまでの経緯を踏まえると今後はこうなるのではないか、あるいは逆に今は黒字だが、今後のことを考えると止めるべきといった見立ても含め、まさに長期的なストーリーに基づいて判断していくことです。企業と違い、大学定員の管理が首都圏は厳しく、収入が増えるということはほぼないわけです。増えないなかで財政的な面だけを考えると、削減しかありません。そういう道を歩みつつも、大学の基本的方針やあり方を変える、あるいは変化し続けることによって、根幹にある部分を見極めるのが総長の役割だと思っています。



(文:溝上憲文 ジャーナリスト)

オックスフォードから見た 日本の大学



荻谷剛彦

オックスフォード大学社会科学及び
ニッサン現代日本研究所教授



現代化を続ける中世以来の大学

オックスフォード大学については、既に拙著^(注1)を含め様々な紹介が行われている。屋上屋を重ねる議論になることをいとわず、ここでの議論にとって重要と思われるその特徴をあげると、次の3点となる。

第一に、古くて新しい大学ということである。11世紀にパリ大学から分かれてできた、イギリス最古の大学である。その起源は中世の大学にあるが、ほかのヨーロッパの古い大学が現在では必ずしも世界レベルの有力大学として残っていないのに対し、オックスフォードは現在でも世界ランキングの上位を常に占めるワールドクラスの大学である。言い換えれば、中世以来の大学の伝統を残しつつ、現代的なグローバル化に対応すべく、常に改革を進めている大学と言える。いわば伝統と革新の二面性という特徴を持つということである。

第二の特徴は、設置形態の面では「国立大学」の性格を維持しつつ、国家から一定の距離を置いた、エリート主義的な(あるいは権威主義的と言ってよい)伝統を継承している点である。端的に言えば、近代国家のために作られた日本の大学に対し、近代国家の出現以前にできた大学であり、いわばそこで教育を受けた人びと(例えばジョン・ロックや歴代の首相等)が近代社会、近代国家の建設に

与った、という自負を持つ。ここから見えてくるのは、大学と社会、国家との関係というテーマである。

第三の特徴は、チュートリアルと呼ばれる教授・学習法を現在でも維持し続けていることである。個別指導を重視する教授形態は、費用のかかる、贅沢な教授学習法であるにも拘わらず、それを今日でも大学の「売り」としている。学生の十分な学修時間の確保や「アクティブラーニング」導入等の改革が議論されている日本の大学の問題を論じるためにも、教授・学習法の特徴から見たオックスフォードの経験は、有益な視点を与えてくれるはずである。



伝統と革新

古き良き伝統は、ブランド力に転化しうる。しかし、グローバル化を含む現代社会の変化に対応できなければ、古いだけではブランド力を維持できない。その点では、特にこの20～30年間の大学革新の努力は、ワールドクラスの大学としての地位を維持するうえで必要な営みだった。後で述べるチュートリアルやカレッジ制といった伝統を維持しつつ、主たる改革はカレッジを超えた、Universityが担う。特に大学院の拡張は、北米の有力大学をライバル視しつつ、現代化に向けた改革の成果である。ビジネススクールや公共政策大学院、学際的地域研究大学院等の開設は、大学院レベルで海外から優秀な学

生を呼び込むことに成功した。特に社会科学系では、1年制の修士コースが北米の有力大学との競争において重要な役割を果たした。38のそれぞれに独立したカレッジの連合体であるオックスフォードが、学部教育においてはカレッジの伝統を維持しつつ、カレッジの影響力から離れて、その連合体の運営管理を行う University が、新設の大学院プログラムをスピード感を持って増設してきたのである(表1参照)。

外部からの資金集めも国境を超えて行われた。冠名が示すように、サイド・ビジネススクールはシリア生まれのサウジアラビアの富豪から、ブラバトニック公共政策大学院はロシア生まれのアメリカの投資家で慈善家からの資金援助によってその基盤が作られた。グローバルな資金集めによって、グローバル人材の育成に必要な新しいプログラムが作られていったのである。

このような経験から日本の大学を見ると、グローバル化をはじめとする現代的課題への迅速な対応を展開することに四苦八苦しているように見える。と同時に、場合によっては改革を急ぐあまり、これまで培ってきた日本の大学の強みを十分に認識しないままに改革に走る傾向もあるようだ。

日本の大学の多くは専門学部を組織構成の基礎単位にしている。その特徴は、それがカリキュラムのユニットであり、学生が所属する組織であり、しかも教員の所属する組織でもある点にある。この構造的特徴が、スクラップ・アンド・ビルドを要する組織改革の足かせとなっている。

資金集めも国内に限られる。そのため、一定規模の新たな組織を作るのは難しい。限られた資金のもとでは、教員の定数を動かさない限り、新たな組織作りは容易でなくなるが、定数を既存の組織単位から新たな組織に移すことへの抵抗感は強い。そのため、学内での合意形成は困難になる。特に、グローバルな人材市場で進行中の、専

門職的な修士課程プログラムの展開という点では、規模の点でもスピード感でも見劣りがする。海外からの優秀なスタッフや学生を集めるにはいたらない。

日本の大学も設置から百年以上の年月を重ねるものがある。にも拘わらず、その伝統と革新との調和あるバランス、融合を図ることは難しい。伝統が改革の足かせとなったり、改革の急が良き伝統を侵したり、こうした伝統と革新の関係が、生産的な緊張感を生むよりも、大学の中途半端さにつながっているように見える



国家と大学

前述の通り、オックスフォードは38のカレッジの連合体としての University と、大学院教育を担当する4つの divisions (日本の研究科に近い) を管轄する University との二重構造を持つ。カレッジの連合体としての管轄権を持ち大学院を統括する University に対しては、国からの資金がでている。それ故設置形態としては国立大学の性格を持つ。

他方で、38のカレッジはそれぞれが独立した財源を持つ、国から認定された charity (寄付金を受け入れることのできる慈善団体) で、政府から独立した法人としての性格を保つ。カレッジによっては膨大な資産を持つものもある。あえて言えばカレッジは私学的な性格を保ちつつ、University の部分は国立の性格を持つ。また全体としても、国からの運営資金の比重は年々減少しつつある。その分、外部資金や寄付金の比率を高めている。このような複雑な組織・財政構造を持つ大学であるが、ポイントは国家からの半ばの独立性である。徴収できる授業料の上限や、研究評価や教育評価等、政府の設定した枠組みへの参加を拒むことはできないが、教育研究面での大学運営についての自由度は高い。

表1 オックスフォード大学の概要

(2014年7月31日時点)

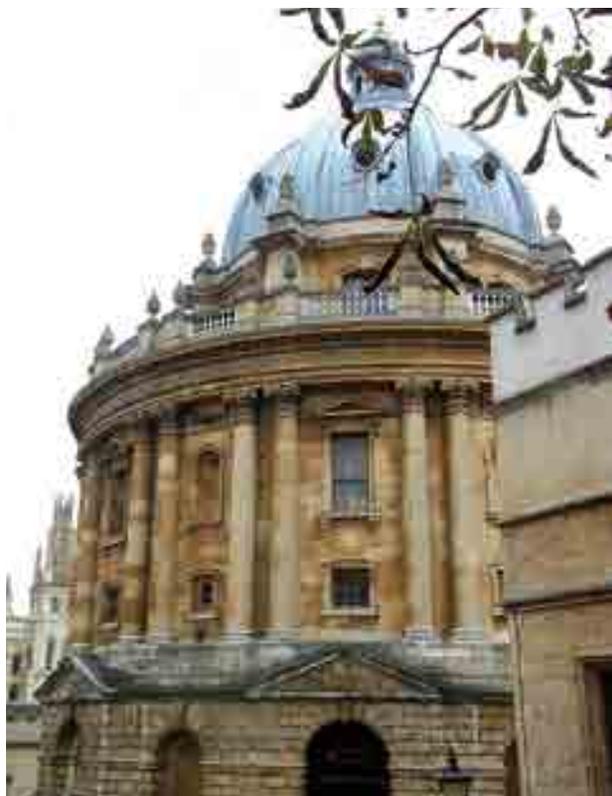
38のカレッジと5つの divisions から構成	
学部学生数	1万1603人(うち、イギリス人9416人、日本人22人、中国系391人)
大学院学生数	1万499人(うち、イギリス人3896人、日本人66人、中国系612人)
スタッフ	Academic 1799人; Research 4536人 うち約35%がUK以外

このような点を踏まえて近年の日本の大学を見ると、国立大学は言うに及ばず、私立大学においても文科省の政策に右往左往している印象を受ける。国は財政支援を競争的資金にウェイトを掛けることで政策誘導をしようとし

ている。だが、そこでの政策自体が十分に練られたものには見えない。にも拘わらず、大学はわずかな資金獲得をめぐるその政策に左右されている。あるいは改革の実はともあれ、形式主義的ともいえる改革を志向しているように見える。

別のところで詳しい分析を行ったが、その一例はスーパーグローバル大学支援事業への対応に見ることができる。世界ランキングの順位を上げることが主な政策目標となつて、英語による授業等を増やすことが目標とされた。しかし、その中身を詳しく分析すると、「外国人教員等」の数値目標に見られるように、実効性よりも数字合わせとしか言いようのない改革案が出されていた^(注2)。それでも、その波に乗りおくれまいと、私学を含めグローバル化対応の大合唱が起きた。

また、国立大学に限られる話であるが、昨年6月の文科省による「文系学部廃止論」騒ぎにも、日本の大学と国家とのパワーバランスの歪みが現れている。原因となった文科省の「通知」の真意がどこにあったかはおくとして、騒然となるだけの背景は、近年の日本の「国家と大学」のパワーバランスの変化にあったと考える。誤解を生むような、あるいは熟慮を欠いたトップダウンの政策であっても、大学は政府の意向に過敏にならざるを得ない。ある意味、大学側の抵抗力、あるいは独立性の弱体化を示す出来事であった。



このように、日本の大学と国家とのパワーバランスが、後者に傾きつつある背景には、大学の財政基盤が欧米の有力大学に比べ盤石ではないことに加え、社会からの信頼基盤の弱さにもあるのだろう。文系学部廃止論がまことしやかに受け止められたのも、文系学部が社会の「役に立ってない」という暗黙の前提が社会の側にあり、そこを衝かれたからだ。すぐに役立つ教育をという判断基準自体に疑義を呈することもできるが、そうした主張に説得力を与えるところまで、日本の大学は特に教育面でその実力も実績も社会で受けいれられていなかったのかもしれない。古典学を含め人文系中心で、すぐに役立つわけではない教育を長年行ってきたオックスフォードの歴史から見ると、universityと呼ばれるものへの社会の期待や受け止め方の違いである。もちろん、現代的な「役立つ教育」への期待もあるが、オックスフォードでは、それは時代の要請に合わせた専門職教育を大学院が提供することで応えている。

もう一つの例は、現在議論されている新しい入試制度への対応である。日本では入試に論述式や面接を入れると「客観性」や「公平性」が損なわれるのではないかと心配される。それも見方を変えれば、大学への信頼の希薄さの表れといえるだろう。オックスフォードでは学部生の入学には面接が大きな比重を占める。そこでは全くの主観的な評価が大手を振る。主観的に決断を下すこと自体に揺るぎない自信を持っている。それを社会が受けいれているのも、大学の権威の受容があるからだろう。従って、日本のような批判は起こらない。

国家とのパワーバランスにおいて、大学は社会を味方につけなければ有利な地歩を得られない。横並びの平等主義の進んだ戦後の日本では、大学はエリート主義の鎧をまとえず、権威に頼って社会からの信頼を得るわけにはいかない。その分、国家という権力に従う余地が大きくなる。



個人主義の教育

オックスフォードでの教育の特色であるチュートリアルについては、ほかのところでも紹介をした(前掲書)。学生2、3人に1人の教員が毎週行うこの個別指導の仕組み

表2 チュートリアルシステムの基本

週1回1時間、学生2、3人に先生1人、8週間
毎回エッセイの課題が出る
課題に答えるための課題図書が出る
課題図書を読んで、毎回A4の用紙に10枚分くらいの論文を宿題として提出する
試験問題も、チュートリアルで読んだ文献をもとに、論文の課題に似た問題が出る

は、ともかく、たくさん学生に読ませ、書かせ、それをもとに議論することの繰り返しである。学生に大きな負荷を掛ける、まさにオックスフォードの良き伝統と信じられている教育実践である(表2参照)。

この教授学習法が現在にまで生き残っていることを改めて振り返ると、それはイギリス社会に根づいている個人主義(自立した個人=市民の相互承認によって社会が成り立っていると考える)の思想と分かちがたく結びついている。大量の文献を読ませることで共通の知識の基盤を提供したうえで、その知識を用いてそれぞれが独自にどのように考えるのか、批判的思考力を徹底して鍛える方法として、この贅沢な学習が現在でも維持されている。それは強制による主体(subject)づくりの学習である。また、別の見方をすれば個々のチューターによる極めて主観的(subjective)な教授法でもある。

論文形式で行われる最終試験の採点においても、採点者の主観的な判断が尊重される(ただし必ず複数の採点者がいて、しかも他大学の試験官のチェックを受けることで主観性への質が保証されると見なしている)。入学者選抜における面接でも主観的な判断が重視される。いずれも、相互に個人の主観(あるいは主体であること)をリスペクトし合うことが前提となっている。もちろん一定の厳しい選抜を経てフェロー(仲間)となった人びとの間の信頼ではある(オックスフォードでは教員をシニアフェロー、学生をジュニアフェローと呼ぶ)。

翻って講義中心の日本の大学の学習場面を見ると、ここでは公平さや客観性を求めるために、個々の学生の顔を見えにくくする学習が主流となる。入試もしかり、である。主観性を排することが公平とされ、受験生は受験番号と試験の得点によって記号化される。前述したように、入試改革での面接導入への危惧は、このような社会心理

と関係しているのだろう。

日本の大学でも学生に批判的思考力を身につけさせることが重視され、その一環としてアクティブラーニングが奨励されるようになった。授業への学生の主体的な参加を促すことが、主体的な学習者を生み出す方法だと見なされている。そのための授業の工夫が教員にも

求められている。

だが、講読文献や論文執筆等の点で学習への負荷が小さいままであれば、どんなに表面的には積極的に授業に参加する学生が増えても、そこで育成される思考力が深いものになるとは限らない。行動として目に見える一見主体的な学習への参加が、主体的な学習を生み出す保証はないのである。ましてや自立した個人の育成につながるとは限らない。特にこれまでのように、学生達に学習の負荷を大きく掛けないカリキュラムの構造(週に十何種類もの授業を履修!)を変えないままであれば、参加型学習のススメは表層的な活動主義に終わる可能性が高い。流行の協働学習のような試みも、個の自立より集団への同調・埋没を誘うだけになりかねない。



この小論では、8年間の私のオックスフォードでの経験をもとに、そこから見えてくる日本の大学の問題点について考えてみた。オックスフォードとの比較が、日本の大学にとってすぐさま意味ある議論とは限らない。だが、あえて権威主義風の物言いをすれば、高みから見えてくる景色をバックに、自己像を捉え直すことにも多少の意味があるのではないかと。オックスフォードも、前述の通り現代化に向けた改革の努力を怠らない。それが可能なもの、「ワールドクラス」の大学としての自負と、それを維持するためにグローバルに資金や人材を集める努力を続けているからだろう。その矜持は大学への社会的信頼(鼻持ちならないことを認めつつ)と無関係であるはずがない。



注1 拙著『イギリスの大学・ニッポンの大学』(中公新書ラクレ、2012年)。
注2 拙著『スーパーグローバル大学のゆくえ：外国人教員「等」の功罪』
『アステイオン』(82)、2015年 38-52ページ。

特集

進学ブランド力調査

2016

2008年にリリースを開始した「進学ブランド力調査」が、今年で9年目を迎えた。実は当初、大学の募集課題を発見し、募集戦略に活かすことを目的として、「募集ブランド力調査」という名称で調査設計をしていた。しかし、社会への公表を検討するなかで、やはり主役は学生なのだから、「募集」ではなく「進学」という名称にしようということで、現在の「進学ブランド力調査」になったという経緯がある。現在では、様々なランキングが世に出ているが、この調査は一切係数化や指標化、総合化などを行っていない、高校生の純粋な志願度、知名度、イメージとなっているのが特徴である。

単純な調査だけに、高校生の学校選びに社会環境が大きく影響していることが分かる。一つは、国公立志向か私学志向かである。私学志向の強い関東エリア、国公立志向の強い東海エリアと比較して、特に景気の影響を受けやすいのが、関西エリアである。関西エリアは、景気が下振れると国公立志向が上回り、景気回復してくると私学志向が強くなる傾向がある。今年の調査では、私学志向が国公立志向を上回っているのが、景気回復基調であると推察される。折しも、先日発表された学校基本調査の結果を見ると、2016年度の大学進学率（過年度を含む）は52.0%と、前年より0.5ポイント上昇した。8割近くの学生は、私学に進学することから、それとなく連動している感じがしている。

もう一つは、希望分野の動向である。高校生が進学したいと考える分野を前年と比較すると、3エリア共通で増加しているのは「経済・経営・商」「文学」「人間・心理」「哲学・宗教」の4分野となった。その一方、これまで人気を集めてきた「医療・保健・衛生」や「教育・保育」は3エリア共通で減少に転じている。近年、長引く不況の影響を受け、資格取得が仕事に直結する学部や、理系学部の人気が高くなっていった。しかし、就職状況が改善したことで、文系学部でも就職しやすい環境になったこともあり、文系分野を希望する高校生が増加していると考えられる。

個別の大学の状況を見ると、これまで外国語大学の独壇場であった「国際的なセンスが身につく」イメージの大学の上位に外国語大学でない大学が入ってきた。各大学の国際化の動きが高校生にも伝わりつつあるのではないかと考えられる。また、全体として、中長期的に大学改革を進めている大学のイメージが変化していることが分かる。今回は志願度ランキングだけではなく、イメージの変化にも注目して、事例校を紹介したい。全体の志願度ランキングが注目されがちである。しかし、実は重要なのは各大学が高校生からどう見られているのか、発信しているメッセージが伝わっているのかだと考えている。

（本誌編集長 小林 浩）



CONTENTS

- 20 **景気回復の兆しを受け私学志向が高まる**
- 60 CASE 1 **龍谷大学**
大学全体の質向上戦略としての長期計画の実現
- 64 CASE 2 **國學院大學**
「3つの^{おも}慮い」と「5つの^{もと}基い」で育む國學院ブランド
- 68 CASE 3 **広島修道大学**
アウター、インナー双方の改革によるブランド力向上

景気回復の兆しを受け 私学志向が高まる

全体傾向

国公立・私立志向(2009~2016)

大学・短大進学希望者に対して、国公立・私立への進学志向を聞いたものを、経年比較したのが図表1である。

関東は極めて私立志向が強いエリアだ。環境の変化に拘わらず、多少変動はあるものの、毎年国公立志向は30%強、私立志向は50%強と変化が

ない。今年も国公立33.7%、私立54.6%と、昨年とほぼ同水準であった。

対照的に国公立志向が50%以上と強いのが東海だ。2011年の東日本大震災でさらにその傾向は高まり、2012年には56.2%に達した。その後も高めに推移しているが、今年は消費税増税先送り等の影響を受けてか、私立志向が昨年より1.3ポイント

上昇している。

関西は例年国公立と私立がいずれも40%台で拮抗している。2011・2012年は震災の影響も反映してか国公立志向が強まったが、2013・2014年は私立が逆転。昨年は消費税8%導入を背景に国公立志向が高まるも、今年は私立が昨年より4.4ポイント上昇し、45.1%で再び逆転した。

図表1 国公立及び私立大学・短期大学進学志向(大学・短期大学進学希望者/単一回答)

	国公立の大学・短期大学にぜひ行きたい							どちらかといえば国公立の大学・短期大学に行きたい			まだ分からない			私立の大学・短期大学にぜひ行きたい			どちらかといえば私立の大学・短期大学に行きたい			無回答			国公立志向・私立志向・計	
	24.1	9.7	7.9	45.1	9.5	3.8	33.8	54.8	34.3	53.9	35.0	53.0	34.1	54.3	35.2	52.9	33.8	55.0	33.7	55.5				
関東	2016年(N=3925)	24.1	9.7	7.9	45.1	9.5	3.8	33.8	54.8	34.3	53.9	35.0	53.0	34.1	54.3	35.2	52.9	33.8	55.0	33.7	55.5			
	2015年(N=4408)	24.3	9.5	8.0	45.6	9.2	3.4	33.8	54.8	34.3	53.9	35.0	53.0	34.1	54.3	35.2	52.9	33.8	55.0	33.7	55.5			
	2014年(N=4672)	24.3	10.1	8.3	44.0	9.9	3.4	34.3	53.9	35.0	53.0	34.1	54.3	35.2	52.9	33.8	55.0	33.7	55.5	33.7	55.5			
	2013年(N=4920)	25.4	9.6	8.3	43.2	9.9	3.7	35.0	53.0	34.1	54.3	35.2	52.9	33.8	55.0	33.7	55.5	33.7	55.5	33.7	55.5			
	2012年(N=5403)	23.5	10.6	7.3	43.5	10.7	4.3	34.1	54.3	35.2	52.9	33.8	55.0	33.7	55.5	33.7	55.5	33.7	55.5	33.7	55.5			
	2011年(N=5357)	23.8	11.4	7.7	42.5	10.4	4.2	35.2	52.9	33.8	55.0	33.7	55.5	33.7	55.5	33.7	55.5	33.7	55.5	33.7	55.5			
	2010年(N=5609)	23.5	10.3	6.9	44.6	10.5	4.3	33.8	55.0	33.7	55.5	33.7	55.5	33.7	55.5	33.7	55.5	33.7	55.5	33.7	55.5			
	2009年(N=5216)	22.6	11.1	5.9	44.4	11.1	4.8	33.7	55.5	33.7	55.5	33.7	55.5	33.7	55.5	33.7	55.5	33.7	55.5	33.7	55.5			
東海	2016年(N=1617)	42.1	13.0	7.5	26.5	7.7	3.2	55.1	34.2	56.0	32.9	53.8	34.7	55.2	33.2	56.2	32.2	53.1	36.4	51.9	37.8			
	2015年(N=1867)	41.1	14.9	7.4	27.3	5.6	3.6	56.0	32.9	53.8	34.7	55.2	33.2	56.2	32.2	53.1	36.4	51.9	37.8	52.1	36.1			
	2014年(N=2062)	40.3	13.5	8.3	26.5	8.2	3.2	53.8	34.7	55.2	33.2	56.2	32.2	53.1	36.4	51.9	37.8	52.1	36.1	52.1	36.1			
	2013年(N=2029)	40.7	14.4	7.8	25.4	7.8	3.8	55.2	33.2	56.2	32.2	53.1	36.4	51.9	37.8	52.1	36.1	52.1	36.1	52.1	36.1			
	2012年(N=2439)	41.0	15.2	8.3	23.7	8.5	3.4	56.2	32.2	53.1	36.4	51.9	37.8	52.1	36.1	52.1	36.1	52.1	36.1	52.1	36.1			
	2011年(N=2220)	38.1	15.0	7.0	27.0	9.4	3.4	53.1	36.4	51.9	37.8	52.1	36.1	52.1	36.1	52.1	36.1	52.1	36.1	52.1	36.1			
	2010年(N=2412)	39.9	12.0	6.5	28.6	9.2	3.8	51.9	37.8	52.1	36.1	52.1	36.1	52.1	36.1	52.1	36.1	52.1	36.1	52.1	36.1			
	2009年(N=1980)	36.3	15.8	6.9	27.8	8.3	5.0	52.1	36.1	52.1	36.1	52.1	36.1	52.1	36.1	52.1	36.1	52.1	36.1	52.1	36.1			
関西	2016年(N=2349)	34.0	9.5	7.0	37.0	8.1	4.4	43.5	45.1	46.9	40.7	43.1	44.9	42.2	42.8	45.4	41.8	46.2	41.6	41.5	45.9			
	2015年(N=2539)	37.6	9.4	8.3	33.3	7.4	4.0	46.9	40.7	43.1	44.9	42.2	42.8	45.4	41.8	46.2	41.6	41.5	45.9	43.4	44.8			
	2014年(N=2537)	32.9	10.2	8.7	36.6	8.3	3.3	43.1	44.9	42.2	42.8	45.4	41.8	46.2	41.6	41.5	45.9	43.4	44.8	43.4	44.8			
	2013年(N=2465)	30.7	11.5	9.9	34.3	8.4	5.2	42.2	42.8	45.4	41.8	46.2	41.6	41.5	45.9	43.4	44.8	43.4	44.8	43.4	44.8			
	2012年(N=2582)	33.7	11.8	8.2	33.2	8.6	4.5	45.4	41.8	46.2	41.6	41.5	45.9	43.4	44.8	43.4	44.8	43.4	44.8	43.4	44.8			
	2011年(N=2881)	33.3	12.9	7.7	33.0	8.6	4.5	46.2	41.6	41.5	45.9	43.4	44.8	43.4	44.8	43.4	44.8	43.4	44.8	43.4	44.8			
	2010年(N=2786)	31.0	10.5	8.0	36.7	9.2	4.6	41.5	45.9	43.4	44.8	43.4	44.8	43.4	44.8	43.4	44.8	43.4	44.8	43.4	44.8			
	2009年(N=2480)	31.0	12.4	7.7	36.5	8.4	4.1	43.4	44.8	43.4	44.8	43.4	44.8	43.4	44.8	43.4	44.8	43.4	44.8	43.4	44.8			

※割合(%)は、小数点第2位を四捨五入

※右の国公立志向・計/私立志向・計は、回答のうち「国公立の大学・短期大学にぜひ行きたい」「どちらかといえば国公立の大学・短期大学に行きたい」を合わせて「国公立志向」、
「私立の大学・短期大学にぜひ行きたい」「どちらかといえば私立の大学・短期大学に行きたい」を合わせて「私立志向」とし、数値の高いほうに赤の網がけをした

進学希望分野 (2015・2016)

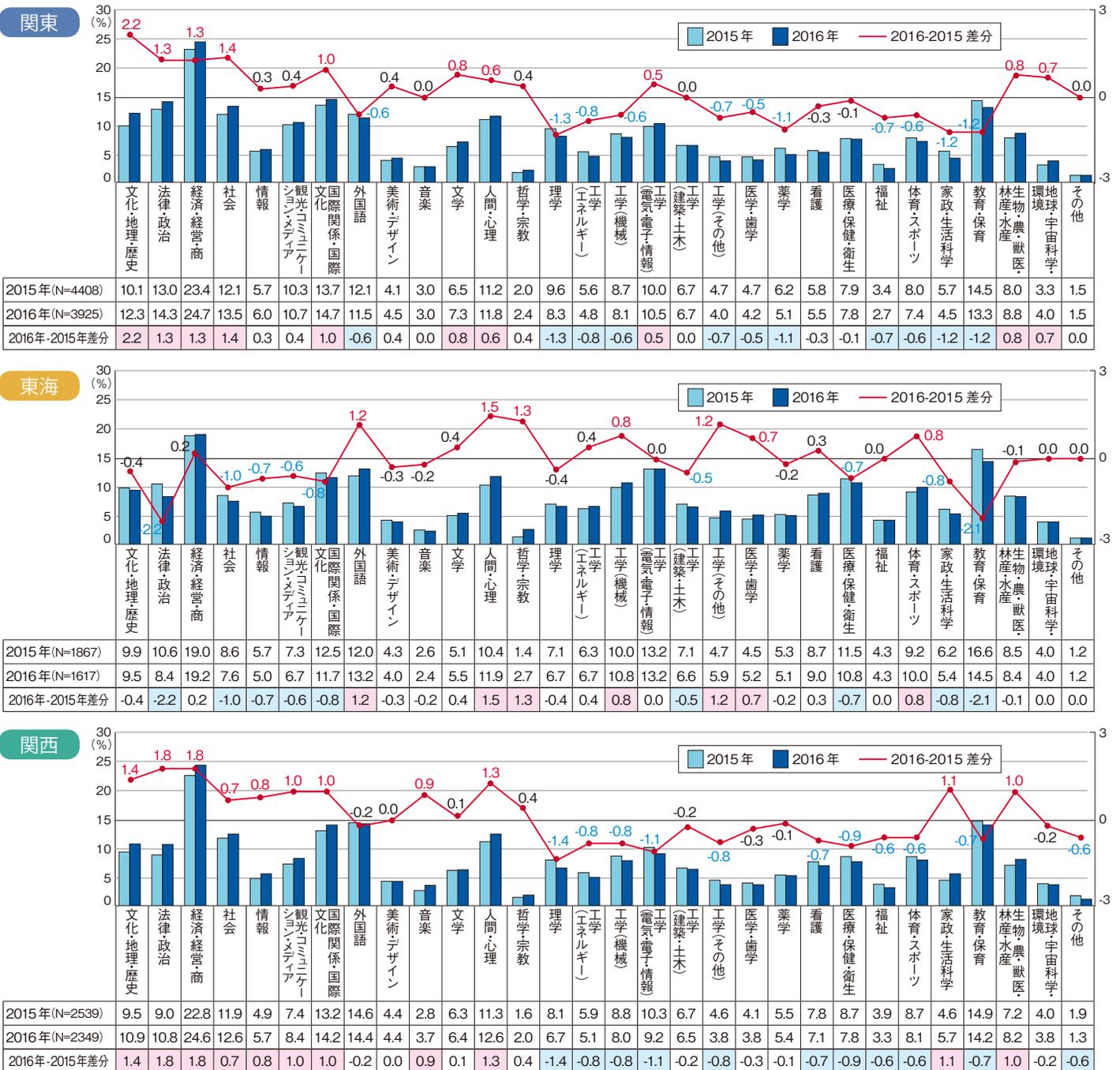
進学希望分野を2015・2016年で比較したものが図表2である。

2015年に対して2016年の値が全エリアで増加したのは「経済・経営・商」「文学」「人間・心理」「哲学・宗教」。減少したのは「理学」「薬学」「医療・保健・衛生」「教育・保育」。就職環境の回復を受けて文系人気が高まった。

た。関東・関西では「外国語」以外の文系（主に図表の左側）がほぼ全て増加しているが、東海では逆に文系が昨年同水準～減少し、「外国語」は増加する逆の現象が起きている。全国的に国際系改組が相次ぎ、外国語系統からのスイッチが進んでいる一方、東海エリアでは名城大学が外国語学部を新設したことも希望者増加の背景にありそうだ。

エリア別の増加トップは、関東は「文化・地理・歴史」（2.2ポイント増）、東海は「人間・心理」（1.5ポイント増）、関西は「法律・政治」「経済・経営・商」（1.8ポイント増）と、いずれも文系。減少トップは、関東は「理学」（1.3ポイント減）、東海は「法律・政治」（2.2ポイント減）、関西は「理学」（1.4ポイント減）と、ここでも東海だけ様相が異なる結果となった。

図表2 進学希望分野 (2015年・2016年の比較) (大学進学希望者/複数回答)



※2016年-2015年が0.5ポイント以上赤の網かけ、-0.5ポイント以下青の網かけ

エリア別傾向

関東

知名度

例年私立大規模総合大学でランキングが構成される関東エリアだが、今年も10位までは昨年ランキングの入れ替えのみで顔ぶれは全く同じ。値も85%以上と高い水準である。国公立は20校中4校。千葉大学・國學院大學が20位以内に入った。

文系は早稲田大学が1位。全体・

男子・女子全てで5連覇である。日本大学が12位から7位にランクアップした。文系男子で5位以上順位を上げたのは、慶應義塾大学・國學院大學。2015年に国際教養学部を開設した順天堂大学が上位に入った。文系女子では東京大学・日本大学が順位を上げた。理系でも早稲田大学が5年連続1位。日本大学・千葉大学が順位を上げ、東海大学・北里大学が

20位以内の上位にランクインした。理系男子は明治大学・千葉大学・東海大学・北里大学が、理系女子は駒澤大学・順天堂大学・日本体育大学・東海大学が上位へ順位を上げた。

広報を強化した大学だけでなく、スポーツや改組、その他の要因により、メディア露出が多かった大学の知名度が上昇している傾向が窺える。

図表3 知名度・志願度ランキング／関東

知名度

全 体											
全 体				男 子				女 子			
順位	昨年度	学校名	区分 (%)	順位	昨年度	学校名	区分 (%)	順位	昨年度	学校名	区分 (%)
1	1	早稲田大学	私 95.4	1	1	早稲田大学	私 95.3	1	1	早稲田大学	私 95.5
2	2	東京大学	国 93.2	2	3	青山学院大学	私 92.2	2	4	東京大学	国 94.5
3	3	青山学院大学	私 92.9	3	2	東京大学	国 92.0	3	3	青山学院大学	私 93.7
4	4	明治大学	私 92.0	4	7	明治大学	私 90.9	4	2	明治大学	私 93.2
5	8	慶應義塾大学	私 89.8	5	6	慶應義塾大学	私 89.9	5	12	日本大学	私 90.0
6	10	日本大学	私 89.2	6	9	中央大学	私 89.0	5	6	立教大学	私 90.0
7	9	中央大学	私 88.5	7	10	日本大学	私 88.6	7	8	慶應義塾大学	私 89.6
8	6	法政大学	私 87.0	8	5	法政大学	私 86.8	8	10	中央大学	私 88.0
8	5	立教大学	私 87.0	9	8	上智大学	私 86.2	9	7	法政大学	私 87.1
10	7	上智大学	私 86.6	10	4	立教大学	私 84.4	10	5	上智大学	私 86.9
11	11	駒澤大学	私 84.1	11	11	駒澤大学	私 83.0	11	9	お茶の水女子大学	国 85.7
12	13	東洋大学	私 75.5	12	14	東洋大学	私 74.8	12	11	駒澤大学	私 85.3
13	16	日本体育大学	私 74.3	13	31	千葉大学	国 74.7	13	17	日本体育大学	私 78.2
14	12	学習院大学	私 73.3	14	18	一橋大学	国 72.5	14	13	学習院大学	私 76.3
15	15	お茶の水女子大学	国 73.0	15	16	専修大学	私 71.9	15	15	東洋大学	私 76.1
16	18	一橋大学	国 72.8	15	18	東海大学	私 71.9	16	16	一橋大学	国 73.0
17	29	千葉大学	国 71.9	17	13	東京理科大学	私 71.1	17	19	國學院大學	私 71.8
18	17	帝京大学	私 71.0	17	15	日本体育大学	私 71.1	18	24	順天堂大学	私 71.6
19	22	國學院大學	私 70.5	19	17	帝京大学	私 70.9	19	14	明治学院大学	私 71.4
20	20	専修大学	私 70.3	20	12	学習院大学	私 70.5	20	18	帝京大学	私 71.2

文系全体			
順位	昨年度	学校名	区分 (%)
1	1	早稲田大学	私 96.7
2	2	青山学院大学	私 94.6
3	6	東京大学	国 94.4
4	5	明治大学	私 93.9
5	8	慶應義塾大学	私 92.4
6	9	中央大学	私 91.5
7	12	日本大学	私 91.3
8	4	立教大学	私 90.9
9	6	上智大学	私 90.8
10	3	法政大学	私 90.2
11	10	駒澤大学	私 87.7
12	13	東洋大学	私 80.2
13	11	学習院大学	私 78.2
14	16	日本体育大学	私 76.9
15	15	國學院大學	私 76.8
16	19	専修大学	私 75.6
17	17	お茶の水女子大学	国 75.2
18	18	帝京大学	私 74.4
19	20	一橋大学	国 74.3
20	14	明治学院大学	私 73.9

志願度

全 体											
全 体				男 子				女 子			
順位	昨年度	学校名	区分 (%)	順位	昨年度	学校名	区分 (%)	順位	昨年度	学校名	区分 (%)
1	1	明治大学	私 13.1	1	1	明治大学	私 14.7	1	4	早稲田大学	私 12.1
2	2	早稲田大学	私 12.4	2	2	早稲田大学	私 12.6	2	1	明治大学	私 11.4
3	3	青山学院大学	私 10.1	3	3	日本大学	私 9.9	3	2	青山学院大学	私 11.1
4	5	日本大学	私 7.9	4	4	青山学院大学	私 9.1	4	3	立教大学	私 10.1
4	6	法政大学	私 7.9	5	5	法政大学	私 8.0	5	6	法政大学	私 7.8
6	4	立教大学	私 7.4	6	6	中央大学	私 7.0	6	7	慶應義塾大学	私 6.7
7	7	慶應義塾大学	私 6.7	7	7	慶應義塾大学	私 6.7	7	8	日本大学	私 5.8
8	8	中央大学	私 5.5	8	9	東京理科大学	私 5.2	8	9	東洋大学	私 5.0
9	9	東洋大学	私 4.9	9	11	千葉大学	国 4.9	9	5	上智大学	私 4.9
10	11	千葉大学	国 4.3	10	10	東洋大学	私 4.8	10	11	中央大学	私 3.9
11	10	上智大学	私 4.2	10	8	立教大学	私 4.8	11	12	千葉大学	国 3.7
12	12	東京理科大学	私 3.6	12	16	首都大学東京	公 4.3	12	10	明治学院大学	私 3.6
13	15	首都大学東京	公 3.5	13	22	東京工業大学	国 4.1	13	22	駒澤大学	私 2.9
14	19	駒澤大学	私 3.2	14	12	横浜国立大学	国 4.0	14	16	大妻女子大学	私 2.8
15	15	横浜国立大学	国 2.9	15	19	東京大学	国 3.7	14	13	北里大学	私 2.8
16	13	筑波大学	国 2.8	16	12	上智大学	私 3.6	16	18	首都大学東京	公 2.7
17	29	東海大学	私 2.6	17	21	駒澤大学	私 3.5	17	13	日本女子大学	私 2.6
18	19	北里大学	私 2.5	18	12	筑波大学	国 3.4	18	26	國學院大學	私 2.5
18	19	専修大学	私 2.5	19	28	東海大学	私 3.3	19	21	東京農業大学	私 2.4
18	28	東京工業大学	国 2.5	20	16	神奈川大学	私 3.2	20	18	成蹊大学	私 2.1
18	23	東京大学	国 2.5					20	15	筑波大学	国 2.1
18	14	明治学院大学	私 2.5								

文系全体			
順位	昨年度	学校名	区分 (%)
1	2	明治大学	私 16.2
2	1	早稲田大学	私 15.5
3	3	青山学院大学	私 14.8
4	4	立教大学	私 12.2
5	5	法政大学	私 10.4
6	6	日本大学	私 8.7
7	9	東洋大学	私 7.5
8	8	慶應義塾大学	私 6.8
9	10	中央大学	私 6.7
10	6	上智大学	私 6.1
11	12	駒澤大学	私 4.8
12	11	明治学院大学	私 4.3
13	13	専修大学	私 4.0
14	16	成蹊大学	私 3.2
14	18	千葉大学	国 3.2
16	17	國學院大學	私 3.1
17	21	学習院大学	私 2.9
18	19	首都大学東京	公 2.7
19	19	東京外国語大学	国 2.4
20	14	神奈川大学	私 2.3

志願度

明治大学が8年連続で1位。上位10位の大学で昨年よりも合計5.4ポイント増加しており、上位有名校に人気が集まる傾向が見られる。国公立は上位20位中6校だった。駒澤大学が順位を上げたほか、東海大学・東京工業大学・東京大学がランクインした。男子は全体傾向とほぼ同じだが、女子では昨年4位の早稲田大学が明治大学を抜いて初めてトップとなった

ほか、駒澤大学・國學院大学・東京農業大学が上位に入った。文系全体では明治大学が1位に返り咲いたほか、学習院大学がランクイン。文系男子では千葉大学・首都大学東京・学習院大学・国士舘大学・東海大学・横浜国立大学が、文系女子では学習院大学・千葉大学・首都大学東京が、それぞれ上位へと順位を上げた。2016年に千葉大学は国際教養学部を、学習院大学は国際社会科学部を設置しており、その影響も考えられる。理系全体では明治大

学が5連覇。慶應義塾大学・東京工業大学が順位を上げ、東海大学がランクインした。理系男子では早稲田大学が初の1位。東京工業大学・慶應義塾大学・東京大学が順位を上げ、東海大学・神奈川大学がランクインした。理系女子では昨年に引き続き北里大学が1位。早稲田大学・法政大学が順位を上げ、昭和大学・埼玉県立大学・帝京大学・東海大学・東京医科歯科大学がランクインした。東京工業大学は、2016年より学部・大学院を統一した「学

※知名度:高校所在地が関東エリアの高校生の「知っている大学」。志願度:高校所在地が関東エリアの高校生の「志願したい大学」(質問紙で4校まで選択)。
※区分 国立/国 公立/公 私立/私

文系				理系															
文系男子				文系女子				理系全体				理系男子				理系女子			
順位	学年	学校名	区分 (%)	順位	学年	学校名	区分 (%)	順位	学年	学校名	区分 (%)	順位	学年	学校名	区分 (%)	順位	学年	学校名	区分 (%)
1	1	早稲田大学	私 97.0	1	1	早稲田大学	私 96.5	1	1	早稲田大学	私 94.3	1	1	早稲田大学	私 93.9	1	1	早稲田大学	私 95.2
2	8	慶應義塾大学	私 94.6	2	2	青山学院大学	私 95.0	2	2	東京大学	国 92.7	2	2	東京大学	国 92.2	2	3	東京大学	国 93.6
3	4	青山学院大学	私 94.0	2	7	東京大学	国 95.0	3	3	明治大学	私 92.3	3	4	青山学院大学	私 91.8	3	2	明治大学	私 93.4
4	4	東京大学	国 93.6	4	3	明治大学	私 94.6	4	6	青山学院大学	私 91.4	4	9	明治大学	私 91.4	4	7	青山学院大学	私 90.4
5	9	中央大学	私 93.2	5	5	立教大学	私 91.5	5	7	慶應義塾大学	私 88.5	5	6	慶應義塾大学	私 87.8	4	9	日本大学	私 90.4
6	7	明治大学	私 93.1	6	8	慶應義塾大学	私 90.6	6	11	日本大学	私 87.8	5	5	中央大学	私 87.8	6	8	慶應義塾大学	私 89.5
7	11	日本大学	私 92.3	7	13	日本大学	私 90.5	7	10	中央大学	私 86.3	7	11	日本大学	私 86.5	7	10	お茶の水女子大学	国 88.8
8	6	上智大学	私 92.0	8	10	中央大学	私 90.2	8	9	上智大学	私 84.5	8	8	法政大学	私 83.7	8	5	上智大学	私 87.1
9	2	法政大学	私 91.9	9	4	上智大学	私 89.9	9	8	法政大学	私 83.5	9	10	上智大学	私 82.8	9	4	立教大学	私 86.4
10	3	立教大学	私 90.2	10	5	法政大学	私 89.0	10	4	立教大学	私 81.8	10	12	駒澤大学	私 80.0	10	13	中央大学	私 83.2
11	10	駒澤大学	私 86.4	11	9	駒澤大学	私 88.6	11	13	駒澤大学	私 79.7	11	7	立教大学	私 79.6	10	6	法政大学	私 83.2
12	12	東洋大学	私 80.8	12	10	お茶の水女子大学	国 83.6	12	4	東京理科大学	私 77.7	12	3	東京理科大学	私 78.3	12	18	駒澤大学	私 79.2
13	20	國學院大学	私 78.7	13	16	東洋大学	私 79.7	13	19	千葉大学	国 76.5	13	24	千葉大学	国 76.7	13	12	学習院大学	私 78.8
14	12	専修大学	私 78.6	14	17	日本体育大学	私 79.2	14	14	一橋大学	国 73.7	14	19	東海大学	私 72.7	14	21	順天堂大学	私 78.4
15	14	学習院大学	私 77.7	15	12	学習院大学	私 78.6	15	23	東海大学	私 73.1	14	17	一橋大学	国 72.7	15	11	東京理科大学	私 77.0
16	15	帝京大学	私 76.6	16	14	明治学院大学	私 76.2	16	16	お茶の水女子大学	国 72.5	16	15	東洋大学	私 69.4	16	23	日本体育大学	私 76.8
17	18	東海大学	私 74.9	17	15	國學院大学	私 75.4	17	12	学習院大学	私 71.6	17	16	帝京大学	私 69.2	17	15	北里大学	私 76.6
18	17	一橋大学	国 74.5	18	18	一橋大学	国 74.2	17	28	北里大学	私 71.6	17	20	東京工業大学	国 69.2	18	16	千葉大学	国 76.0
19	16	日本体育大学	私 74.0	19	20	専修大学	私 73.3	19	19	日本体育大学	私 71.3	19	18	日本体育大学	私 68.6	19	14	一橋大学	国 75.0
20	25	順天堂大学	私 73.6	20	19	帝京大学	私 72.4	20	18	帝京大学	私 69.7	20	36	北里大学	私 68.3	20	28	東海大学	私 73.7
								20	17	東洋大学	私 69.7								

文系				理系															
文系男子				文系女子				理系全体				理系男子				理系女子			
順位	学年	学校名	区分 (%)	順位	学年	学校名	区分 (%)	順位	学年	学校名	区分 (%)	順位	学年	学校名	区分 (%)	順位	学年	学校名	区分 (%)
1	2	明治大学	私 18.8	1	1	青山学院大学	私 15.7	1	1	明治大学	私 9.3	1	3	早稲田大学	私 10.9	1	2	北里大学	私 8.0
2	1	早稲田大学	私 15.3	1	4	早稲田大学	私 15.7	2	2	東京理科大学	私 9.2	2	2	東京理科大学	私 10.8	2	2	明治大学	私 7.1
3	3	青山学院大学	私 13.7	3	2	立教大学	私 14.9	3	4	早稲田大学	私 9.0	3	1	明治大学	私 10.7	3	7	慶應義塾大学	私 6.5
4	4	日本大学	私 11.4	4	3	明治大学	私 14.2	4	5	日本大学	私 8.1	4	5	日本大学	私 9.5	3	5	東京理科大学	私 6.5
4	5	法政大学	私 11.4	5	6	法政大学	私 9.5	5	10	慶應義塾大学	私 7.1	5	10	東京工業大学	国 8.6	5	10	早稲田大学	私 6.0
6	9	一橋大学	私 8.8	6	9	東洋大学	私 7.4	6	3	千葉大学	国 6.2	6	13	慶應義塾大学	私 7.5	6	9	東京農業大学	私 5.8
6	5	立教大学	私 8.8	7	5	上智大学	私 7.1	6	13	東京工業大学	国 6.2	7	4	千葉大学	国 6.7	6	5	日本大学	私 5.8
8	8	東洋大学	私 7.6	8	8	慶應義塾大学	私 6.9	8	7	北里大学	私 5.9	8	6	芝浦工業大学	私 6.1	8	3	千葉大学	国 5.4
9	7	慶應義塾大学	私 6.8	9	10	日本大学	私 6.5	9	9	法政大学	私 5.1	9	11	横浜国立大学	国 5.8	8	17	法政大学	私 5.4
10	11	駒澤大学	私 5.8	10	7	明治学院大学	私 5.5	10	14	首都大学東京	公 5.0	10	14	首都大学東京	公 5.6	10	11	首都大学東京	公 4.0
11	12	専修大学	私 5.4	11	11	中央大学	私 5.0	11	8	芝浦工業大学	私 4.7	11	18	東京大学	国 5.5	10	30	昭和大学	私 4.0
12	10	上智大学	私 4.9	12	13	駒澤大学	私 4.0	12	6	筑波大学	国 4.6	12	7	中央大学	私 5.4	10	4	筑波大学	国 4.0
13	19	千葉大学	国 3.9	13	13	國學院大学	私 3.7	13	14	横浜国立大学	国 4.5	13	11	青山学院大学	私 5.2	13	17	日本女子大学	私 3.6
14	17	成蹊大学	私 3.3	14	12	大妻女子大学	私 3.0	14	12	青山学院大学	私 4.4	14	9	筑波大学	国 5.1	14	35	埼玉県立大学	公 3.4
15	21	首都大学東京	公 3.2	14	13	成蹊大学	私 3.0	15	11	中央大学	私 4.2	15	8	法政大学	私 4.9	15	13	青山学院大学	私 3.3
16	14	神奈川大学	私 3.1	16	16	専修大学	私 2.9	15	16	東京農業大学	私 4.2	16	17	北里大学	私 4.6	15	7	杏林大学	私 3.3
16	13	一橋大学	国 3.1	17	25	学習院大学	私 2.8	17	20	東京大学	国 3.8	17	15	埼玉大学	国 4.1	15	12	明治薬科大学	私 3.3
18	27	学習院大学	私 3.0	17	17	東京外国語大学	国 2.8	18	24	東海大学	私 3.5	18	25	東海大学	私 3.9	19	23	帝京大学	私 3.1
18	28	国士舘大学	私 3.0	19	27	千葉大学	国 2.6	19	17	埼玉大学	国 3.3	19	27	神奈川大学	私 3.6	19	39	東海大学	私 2.9
20	34	東海大学	私 2.9	20	33	首都大学東京	公 2.3	20	19	東京農工大学	国 3.0	20	20	東京電機大学	私 3.2	19	37	東京医科歯科大学	国 2.9
20	21	横浜国立大学	国 2.9									20	19	東京農業大学	私 3.2	19	13	東邦大学	私 2.9
																19	13	横浜市立大学	公 2.9

図表4 志願度ランキング5年推移/関東

■ 文系全体

2012年			2013年			2014年			2015年			2016年		
順位	学校名	区分 (%)	順位	学校名	区分 (%)	順位	学校名	区分 (%)	順位	学校名	区分 (%)	順位	学校名	区分 (%)
1	明治大学	私 15.8	1	明治大学	私 14.8	1	明治大学	私 15.8	1	早稲田大学	私 14.8	1	明治大学	私 16.2
2	早稲田大学	私 15.4	2	早稲田大学	私 14.1	2	早稲田大学	私 15.5	2	明治大学	私 14.6	2	早稲田大学	私 15.5
3	立教大学	私 12.3	3	立教大学	私 12.9	3	立教大学	私 12.9	3	青山学院大学	私 13.9	3	青山学院大学	私 14.8
4	青山学院大学	私 11.1	4	青山学院大学	私 12.6	4	青山学院大学	私 12.5	4	立教大学	私 12.1	4	立教大学	私 12.2
5	法政大学	私 10.0	5	法政大学	私 9.9	5	法政大学	私 9.2	5	法政大学	私 8.5	5	法政大学	私 10.4
6	東洋大学	私 8.7	6	日本大学	私 8.4	6	慶應義塾大学	私 7.3	6	上智大学	私 7.1	6	日本大学	私 8.7
7	日本大学	私 8.2	7	東洋大学	私 7.3	6	上智大学	私 7.3	6	日本大学	私 7.1	7	東洋大学	私 7.5
8	慶應義塾大学	私 7.4	8	上智大学	私 6.4	6	東洋大学	私 7.3	8	慶應義塾大学	私 7.0	8	慶應義塾大学	私 6.8
9	中央大学	私 7.1	9	慶應義塾大学	私 6.0	9	日本大学	私 6.5	9	東洋大学	私 6.5	9	中央大学	私 6.7
10	上智大学	私 6.1	10	中央大学	私 5.1	10	中央大学	私 6.1	10	中央大学	私 5.8	10	上智大学	私 6.1
11	駒澤大学	私 4.8	11	駒澤大学	私 4.1	11	専修大学	私 4.3	11	明治学院大学	私 4.9	11	駒澤大学	私 4.8
12	専修大学	私 4.2	12	専修大学	私 3.3	12	駒澤大学	私 3.8	12	駒澤大学	私 3.7	12	明治学院大学	私 4.3
13	明治学院大学	私 3.0	12	明治学院大学	私 3.3	13	成蹊大学	私 3.6	13	専修大学	私 3.6	13	専修大学	私 4.0
14	成蹊大学	私 2.8	14	学習院大学	私 2.8	14	明治学院大学	私 3.3	14	神奈川大学	私 3.0	14	成蹊大学	私 3.2
15	千葉大学	国 2.6	14	神奈川大学	私 2.8	15	國學院大學	私 2.9	15	一橋大学	国 2.8	14	千葉大学	国 3.2
16	文教大学	私 2.5	16	千葉大学	国 2.6	16	神奈川大学	私 2.8	16	成蹊大学	私 2.7	16	國學院大學	私 3.1
17	学習院大学	私 2.4	17	成蹊大学	私 2.5	17	学習院大学	私 2.7	17	國學院大學	私 2.5	17	学習院大学	私 2.9
17	獨協大学	私 2.4	17	横浜国立大学	国 2.5	18	千葉大学	国 2.6	18	千葉大学	国 2.1	18	首都大学東京	公 2.7
17	横浜国立大学	国 2.4	19	埼玉大学	国 2.4	19	埼玉大学	国 2.4	19	首都大学東京	公 1.9	19	東京外国語大学	国 2.4
20	埼玉大学	国 2.2	19	一橋大学	国 2.4	19	首都大学東京	公 2.4	19	東京外国語大学	国 1.9	20	神奈川大学	私 2.3
						19	一橋大学	国 2.4						

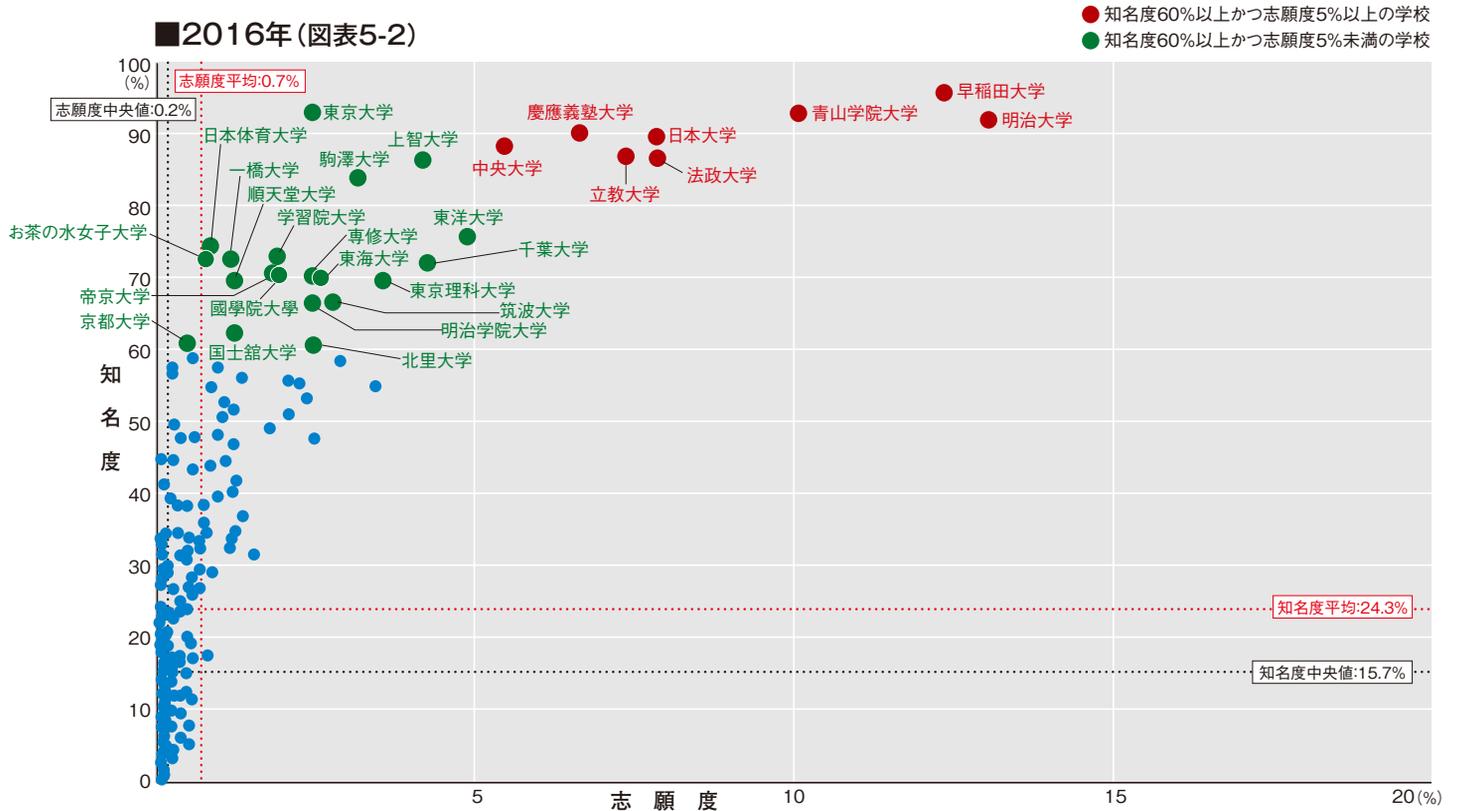
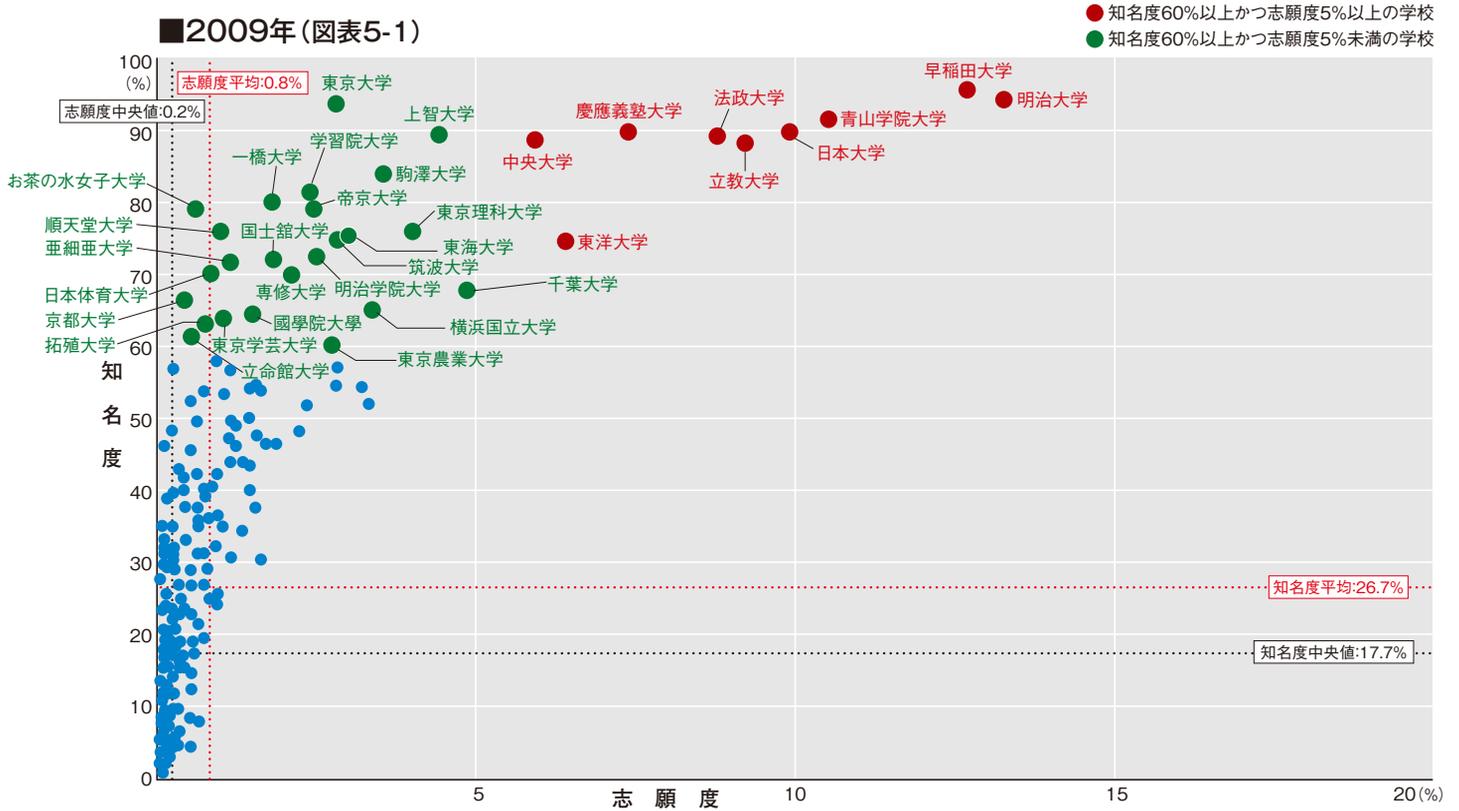
■ 文系男子

2012年			2013年			2014年			2015年			2016年		
順位	学校名	区分 (%)												
1	明治大学	私 19.9	1	明治大学	私 18.1	1	早稲田大学	私 17.8	1	早稲田大学	私 18.4	1	明治大学	私 18.8
2	早稲田大学	私 17.5	2	早稲田大学	私 16.4	2	明治大学	私 17.5	2	明治大学	私 16.2	2	早稲田大学	私 15.3
3	法政大学	私 12.5	3	青山学院大学	私 11.8	3	青山学院大学	私 11.6	3	青山学院大学	私 12.8	3	青山学院大学	私 13.7
4	日本大学	私 11.2	4	法政大学	私 11.4	4	法政大学	私 11.2	4	日本大学	私 9.8	4	日本大学	私 11.4
5	青山学院大学	私 10.1	5	日本大学	私 11.1	5	立教大学	私 10.0	5	法政大学	私 9.6	4	法政大学	私 11.4
6	中央大学	私 9.8	6	立教大学	私 10.6	6	日本大学	私 9.0	5	立教大学	私 9.6	6	中央大学	私 8.8
7	東洋大学	私 8.7	7	中央大学	私 7.3	7	慶應義塾大学	私 8.3	7	慶應義塾大学	私 8.7	6	立教大学	私 8.8
8	慶應義塾大学	私 8.5	8	慶應義塾大学	私 6.8	8	中央大学	私 8.1	8	東洋大学	私 8.0	8	東洋大学	私 7.6
8	立教大学	私 8.5	8	東洋大学	私 6.8	9	東洋大学	私 8.0	9	中央大学	私 7.7	9	慶應義塾大学	私 6.8
10	駒澤大学	私 5.8	10	駒澤大学	私 5.6	10	専修大学	私 5.7	10	上智大学	私 5.5	10	駒澤大学	私 5.8
11	専修大学	私 5.5	11	上智大学	私 4.9	11	上智大学	私 5.5	11	駒澤大学	私 5.0	11	専修大学	私 5.4
12	上智大学	私 4.0	12	専修大学	私 4.8	12	駒澤大学	私 4.8	12	専修大学	私 4.9	12	上智大学	私 4.9
13	横浜国立大学	国 3.4	13	神奈川大学	私 4.1	13	神奈川大学	私 3.8	13	一橋大学	国 4.4	13	千葉大学	国 3.9
14	神奈川大学	私 3.0	14	一橋大学	国 3.6	14	國學院大學	私 3.5	14	神奈川大学	私 4.3	14	成蹊大学	私 3.3
14	成蹊大学	私 3.0	15	横浜国立大学	国 3.2	14	一橋大学	国 3.5	15	明治学院大学	私 3.3	15	首都大学東京	公 3.2
14	千葉大学	国 3.0	16	東京大学	国 3.1	16	成蹊大学	私 3.3	16	東京大学	国 3.1	16	神奈川大学	私 3.1
14	一橋大学	国 3.0	17	千葉大学	国 2.7	17	国士舘大学	私 3.1	17	成蹊大学	私 2.7	16	一橋大学	国 3.1
18	東海大学	私 2.7	18	学習院大学	私 2.6	17	東京大学	国 3.1	18	大東文化大学	私 2.5	18	学習院大学	私 3.0
19	帝京大学	私 2.6	18	国士舘大学	私 2.6	19	首都大学東京	公 3.0	19	千葉大学	国 2.4	18	国士舘大学	私 3.0
20	首都大学東京	公 2.4	18	埼玉大学	国 2.6	19	横浜国立大学	国 3.0	19	帝京大学	私 2.4	20	東海大学	私 2.9
20	筑波大学	国 2.4	18	大東文化大学	私 2.6							20	横浜国立大学	国 2.9
20	獨協大学	私 2.4	18	帝京大学	私 2.6									

■ 文系女子

2012年			2013年			2014年			2015年			2016年		
順位	学校名	区分 (%)	順位	学校名	区分 (%)	順位	学校名	区分 (%)	順位	学校名	区分 (%)	順位	学校名	区分 (%)
1	立教大学	私 15.6	1	立教大学	私 14.8	1	立教大学	私 15.2	1	青山学院大学	私 14.7	1	青山学院大学	私 15.7
2	早稲田大学	私 13.7	2	青山学院大学	私 13.4	2	明治大学	私 14.5	2	立教大学	私 14.2	1	早稲田大学	私 15.7
3	明治大学	私 12.3	3	早稲田大学	私 12.2	3	早稲田大学	私 13.7	3	明治大学	私 13.2	3	立教大学	私 14.9
4	青山学院大学	私 11.9	4	明治大学	私 11.9	4	青山学院大学	私 13.2	4	早稲田大学	私 11.9	4	明治大学	私 14.2
5	東洋大学	私 8.6	5	法政大学	私 8.5	5	上智大学	私 8.7	5	上智大学	私 8.3	5	法政大学	私 9.5
6	法政大学	私 7.9	6	上智大学	私 7.7	6	法政大学	私 7.5	6	法政大学	私 7.7	6	東洋大学	私 7.4
7	上智大学	私 7.8	6	東洋大学	私 7.7	7	東洋大学	私 6.8	7	明治学院大学	私 6.2	7	上智大学	私 7.1
8	慶應義塾大学	私 6.5	8	日本大学	私 6.1	8	慶應義塾大学	私 6.5	8	慶應義塾大学	私 5.7	8	慶應義塾大学	私 6.9
9	日本大学	私 5.7	9	慶應義塾大学	私 5.2	9	中央大学	私 4.5	9	東洋大学	私 5.2	9	日本大学	私 6.5
10	中央大学	私 4.8	10	明治学院大学	私 4.6	9	日本大学	私 4.5	10	日本大学	私 4.9	10	明治学院大学	私 5.5
11	駒澤大学	私 3.9	11	中央大学	私 3.1	11	明治学院大学	私 3.9	11	中央大学	私 4.2	11	中央大学	私 5.0
12	明治学院大学	私 3.8	12	学習院大学	私 3.0	12	成蹊大学	私 3.8	12	中央女子大学	私 3.0	12	駒澤大学	私 4.0
13	専修大学	私 3.1	13	獨協大学	私 2.8	13	専修大学	私 3.2	13	國學院大學	私 2.7	13	國學院大學	私 3.7
13	文教大学	私 3.1	13	日本女子大学	私 2.8	14	駒澤大学	私 3.0	13	駒澤大学	私 2.7	14	大妻女子大学	私 3.0
15	学習院大学	私 2.9	15	大妻女子大学	私 2.7	15	日本女子大学	私 2.9	13	成蹊大学	私 2.7	14	成蹊大学	私 3.0
15	神田外語大学	私 2.9	15	駒澤大学	私 2.7	16	千葉大学	国 2.8	16	専修大学	私 2.5	16	専修大学	私 2.9
15	東京女子大学	私 2.9	15	首都大学東京	公 2.7	16	東京外国語大学	国 2.8	17	神田外語大学	私 2.2	17	学習院大学	私 2.8
18	成蹊大学	私 2.7	15	成蹊大学	私 2.7	17	学習院大学	私 2.6	17	東京外国語大学	国 2.2	17	東京外国語大学	国 2.8
18	日本女子大学	私 2.7	19	東京家政大学	私 2.6	19	國學院大學	私 2.4	17	日本女子大学	私 2.2	19	千葉大学	国 2.6
20	東京家政大学	私 2.5	20	千葉大学	国 2.5	19	東京家政大学	私 2.4	17	文教大学	私 2.2	20	首都大学東京	公 2.3

図表5 知名度×志願度プロット分析／関東



院]制度を導入していることも、順位上昇の背景にありそうだ。

志願度を上げた大学について、高校生の「志望理由」の自由回答を見ると、「早稲田だから」「最高峰」「スポーツマネジメント」(早稲田大学)、「MARCH」「社会学部」「留学」(法政大学)、「GMARCH」「小学校教員」「言語学」(学習院大学)等、学びたい分野の学部学科を有し、かつその大学に属すること自体が価値にもなるブランド校と、「歴史」「地理」「経営」(駒澤大学)、「パイロット」「体育教師」「観光学部」(東海大学)、「臨床検査技師」「救急救命士」(帝京大学)等、学びたい分野が明確に定まっている高校生から選ばれる大学に分かれる。また、国公立の場合、「理系国立トップ」「宇宙工学」「海外留学」(東京工業大学)、「国立で近い」「国際」「看護」(千葉大学)、「家から通える公立」「学費」「公務員」「助産師」(首都大学東京)等、経済的負担が少ないことと学びたいことの両立を目指している様子が垣間見える。

志願度経年比較 (2012～2016)

文理男女別の志願度を5年推移で追ったのが図表4である。

文系全体は2014年まで上位3位が明治大学・早稲田大学・立教大学という構図だったが、2015年から立教大学が青山学院大学に入れ替わった。文系男子では明治大学が早稲田大学を逆転し3年ぶりに1位、文系女子では昨年に引き続き青山学院大学が1位となった。理系は明治大学が5年連続1位だが、2位東京理科大学・3位早稲田大学との差は僅か0.3ポイントと接近している。理系男子では早稲田大学

が1位だが、同様に3位までのポイント差が0.2ポイントと僅差だ。様子が異なるのは理系女子で、昨年に引き続き北里大学が1位、明治大学が2位。3位には慶應義塾大学が入った。例年理系女子の特徴として、上位には医療系学部を持つ大学が多く入ることが挙げられる。

知名度×志願度プロット分析

知名度を縦軸、志願度を横軸にとり、大学の分布を表したものを2009年と2016年で比較したのが図表5である。関東エリアの平均知名度は2009年26.7%から2016年24.3%と2.4ポイント減少。平均志願度は0.8%から0.7%に低下した。知名度の中央値は17.7%から15.7%に下がり、3エリアで最も低くなった。全体として右上に向かって弓形の曲線を描くことから、一般的にはまず知名度を上げ、次にそれを志願につなげていく流れであることが分かる。

関東は赤表記の上位集団が私大のみで、志願度でやや劣る緑表記のポジションに、私大に混じり国公立が分布するのが特徴だ。2009年では図表右上の上位校が緩やかな曲線で分布していたが、2016年は赤表記のなかでも志願度10%以上と未満で集団が二分された。また、緑表記ゾーンが2009年には24校あったのが2016年には20校に減少しており、左下の青表記ゾーンの分布が増加した。これらの大学は高校生にとっては他校との違いを識別しにくく、個性化・差別化において課題があると言える。

イメージ項目

最後に、高校生が個別の大学にど

んなイメージを抱いているかを示した。機能的価値32項目(図表6)、感性的価値15項目(図表7)の計47項目である。

全体47項目中21項目で東京大学が、10項目で早稲田大学が、6項目で青山学院大学が1位となった。また、全47項目中24項目で男女の1位が一致した(機能16項目、感性8項目)。関東エリアは大学数も多いこともあり、大手総合大学に対するイメージが強く、個別の大学に対する認識がそこまで差別化できていない様子が窺える。特に大学本来の差別化ポイントであるはずの「教育方針・カリキュラムが魅力的である」は、東京大学に代わり早稲田大学が1位となったが、値は17.8%と2割に満たない。

そんななか、立地関連項目で強さを見せるのが青山学院大学だ。「交通の便が良い」「遊びに行くのに便利」「キャンパスがきれい」「おしゃれな」で1位と、都市部のメリットを多分に活かしたイメージを保持している。「偏差値」「入試が自分に合っている」「親しみやすい」で1位の日本大学は、近年入試でN方式を導入し、より受験しやすい環境を整備した経緯がランキングに表れた。「国際的なセンスが身につく」では上智大学が1位。従前からの外国語ブランドに加え、TEAP入試の導入や総合グローバル学部の設置等、高校生に関わりの強い入学周りでの改革イメージが定着してきたと言える。上位には例年外国語大学が多くランクインしているが、今年は総合大学も順位を上げてきており、「国際」と言われてイメージされる裾野が広がっている様子が窺える。

図表6 機能的価値を表すイメージ項目／関東

■ 伝統や実績がある

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(1)	東京大学	国	76.1	1(1)	東京大学	国	80.8	1(1)	東京大学	国	70.5
2(2)	早稲田大学	私	62.1	2(2)	早稲田大学	私	66.4	2(7)	お茶の水女子大学	国	57.5
3(3)	慶應義塾大学	私	60.0	3(5)	慶應義塾大学	私	62.8	3(2)	早稲田大学	私	57.3
4(5)	青山学院大学	私	48.5	4(3)	京都大学	国	46.8	4(3)	慶應義塾大学	私	56.9
5(8)	上智大学	私	47.5	5(9)	上智大学	私	46.2	5(4)	青山学院大学	私	52.0
6(13)	お茶の水女子大学	国	47.1	6(4)	明治大学	私	45.2	6(8)	上智大学	私	49.1
7(4)	京都大学	国	45.0	7(6)	青山学院大学	私	44.7	7(5)	京都大学	国	43.4
8(6)	明治大学	私	43.8	8(15)	中央大学	私	43.9	8(6)	明治大学	私	42.4
9(7)	立教大学	私	41.1	9(7)	立教大学	私	40.3	9(9)	立教大学	私	42.1
10(16)	中央大学	私	40.7	10(11)	一橋大学	国	39.5	10(18)	中央大学	私	37.8
11(10)	一橋大学	国	35.9	11(12)	法政大学	私	37.5	11(10)	学習院大学	私	33.9
12(11)	法政大学	私	32.5	12(27)	お茶の水女子大学	国	36.0	12(11)	一橋大学	国	31.6
13(12)	日本大学	私	32.3	13(13)	日本大学	私	33.8	13(16)	横浜国立大学	国	31.3
14(21)	駒澤大学	私	30.6	14(24)	駒澤大学	私	32.0	14(24)	日本体育大学	私	30.7
15(20)	日本体育大学	私	29.4	15(17)	同志社大学	私	28.5	15(13)	日本大学	私	30.4

■ 活気がある感じがする

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(2)	早稲田大学	私	37.7	1(2)	早稲田大学	私	42.4	1(4)	日本体育大学	私	42.5
2(5)	日本体育大学	私	37.2	2(7)	日本体育大学	私	31.6	2(1)	青山学院大学	私	34.6
3(1)	青山学院大学	私	31.9	3(1)	青山学院大学	私	28.9	3(2)	早稲田大学	私	32.5
4(7)	慶應義塾大学	私	28.5	4(3)	明治大学	私	27.0	4(5)	慶應義塾大学	私	30.9
5(3)	明治大学	私	24.9	5(9)	慶應義塾大学	私	26.4	5(8)	日本大学	私	24.1
6(8)	日本大学	私	24.8	6(6)	日本大学	私	25.4	6(3)	明治大学	私	22.9
7(15)	中央大学	私	18.7	7(12)	中央大学	私	20.2	7(6)	立教大学	私	19.3
8(18)	駒澤大学	私	17.4	8(14)	駒澤大学	私	17.6	8(10)	上智大学	私	18.8
9(10)	上智大学	私	16.5	9(10)	法政大学	私	17.3	9(32)	中央大学	私	17.3
10(6)	立教大学	私	16.0	10(8)	京都大学	国	16.9	10(35)	駒澤大学	私	17.1
11(4)	東京大学	国	15.7	10(4)	東京大学	国	16.9	11(9)	日本女子体育大学	私	16.9
12(11)	法政大学	私	15.1	12(11)	上智大学	私	14.6	12(19)	お茶の水女子大学	国	15.0
13(12)	日本大学	私	15.0	13(23)	東洋大学	私	14.4	13(6)	東京大学	私	14.3
14(22)	東洋大学	私	12.4	14(13)	筑波大学	国	13.2	14(12)	帝京大学	私	13.7
15(14)	筑波大学	国	11.6	14(5)	立教大学	私	13.2	15(11)	京都大学	国	13.2

■ 有名である

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(1)	東京大学	国	81.5	1(1)	東京大学	国	83.8	1(1)	東京大学	国	78.6
2(2)	早稲田大学	私	71.6	2(2)	早稲田大学	私	75.2	2(2)	青山学院大学	私	76.4
3(5)	慶應義塾大学	私	71.4	3(10)	慶應義塾大学	私	71.3	3(3)	慶應義塾大学	私	71.5
4(2)	青山学院大学	私	71.3	4(3)	青山学院大学	私	65.8	4(8)	お茶の水女子大学	国	68.5
5(15)	中央大学	私	61.4	5(14)	中央大学	私	61.4	5(3)	早稲田大学	私	67.5
6(7)	立教大学	私	59.7	6(4)	上智大学	私	60.0	6(17)	中央大学	私	61.4
7(4)	上智大学	私	59.5	7(7)	立教大学	私	59.7	7(7)	立教大学	私	59.6
8(14)	お茶の水女子大学	国	58.3	8(5)	明治大学	私	55.7	8(6)	明治大学	私	59.3
9(6)	明治大学	私	57.5	9(8)	法政大学	私	51.9	9(5)	上智大学	私	58.9
10(9)	日本大学	私	50.0	10(13)	一橋大学	国	51.2	10(10)	日本大学	私	51.8
11(12)	一橋大学	国	49.8	11(9)	日本大学	私	48.5	11(20)	日本体育大学	私	51.2
12(10)	法政大学	私	48.9	12(21)	お茶の水女子大学	国	47.4	12(13)	一橋大学	国	48.2
13(23)	日本体育大学	私	46.8	13(6)	京都大学	国	46.0	13(9)	京都大学	国	46.3
14(8)	京都大学	国	46.2	14(28)	日本体育大学	私	42.1	14(12)	法政大学	私	46.1
15(22)	駒澤大学	私	42.1	15(25)	駒澤大学	私	41.6	15(15)	筑波大学	国	44.5

■ 校風や雰囲気が良い

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(3)	早稲田大学	私	26.2	1(5)	早稲田大学	私	32.8	1(1)	青山学院大学	私	26.0
2(1)	青山学院大学	私	25.3	2(1)	青山学院大学	私	24.6	2(2)	慶應義塾大学	私	22.0
3(2)	慶應義塾大学	私	21.8	3(6)	慶應義塾大学	私	21.7	3(3)	立教大学	私	21.1
4(7)	上智大学	私	19.0	4(3)	東京大学	国	20.0	4(5)	上智大学	私	20.5
5(5)	東京大学	国	18.2	5(2)	明治大学	私	19.1	5(6)	お茶の水女子大学	国	19.7
6(5)	明治大学	私	16.8	6(4)	上智大学	私	17.7	6(4)	早稲田大学	私	18.8
7(4)	立教大学	私	16.0	7(6)	京都大学	国	16.1	7(7)	東京大学	私	16.1
8(11)	お茶の水女子大学	国	14.4	8(18)	中央大学	私	14.0	8(42)	法政大学	私	14.8
9(12)	学習院大学	私	11.9	9(11)	一橋大学	国	13.2	9(8)	明治大学	私	14.4
10(26)	中央大学	私	11.7	10(13)	学習院大学	私	12.5	10(22)	学習院女子大学	私	12.2
11(8)	京都大学	国	11.6	11(8)	立教大学	私	11.6	11(8)	学習院大学	私	11.3
11(10)	一橋大学	国	11.6	12(34)	成蹊大学	私	10.3	12(29)	横浜国立大学	国	10.4
13(13)	法政大学	私	11.3	13(25)	日本大学	私	10.0	13(11)	一橋大学	国	9.6
14(19)	日本大学	私	9.5	14(24)	お茶の水女子大学	国	8.8	14(37)	中央大学	私	9.4
15(21)	横浜国立大学	国	8.6	15(78)	東洋大学	私	8.7	14(26)	東京女子大学	私	9.4

■ 学校が発展していく可能性がある

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(1)	東京大学	国	28.1	1(1)	東京大学	国	29.2	1(1)	東京大学	国	26.8
2(5)	早稲田大学	私	25.2	2(6)	早稲田大学	私	26.4	2(4)	早稲田大学	私	23.9
3(2)	慶應義塾大学	私	21.4	3(8)	慶應義塾大学	私	21.7	3(2)	慶應義塾大学	私	21.1
4(7)	明治大学	私	14.6	4(3)	明治大学	私	14.8	4(5)	立教大学	私	16.7
5(3)	青山学院大学	私	13.2	5(2)	京都大学	国	12.9	5(3)	青山学院大学	私	15.0
6(4)	京都大学	国	12.3	6(7)	上智大学	私	11.5	6(8)	明治大学	私	14.4
7(8)	立教大学	私	11.8	7(5)	青山学院大学	私	11.4	7(10)	国際基督教大学	私	12.5
8(6)	上智大学	私	11.2	8(3)	筑波大学	国	10.5	8(7)	京都大学	国	11.8
9(11)	国際基督教大学	私	9.6	9(10)	東京理科大学	私	8.3	9(6)	上智大学	私	10.7
10(9)	筑波大学	国	8.6	10(12)	千葉大学	国	7.9	10(51)	中央大学	私	9.4
11(25)	中央大学	私	7.9	11(13)	一橋大学	国	7.8	11(15)	お茶の水女子大学	国	8.7
12(16)	法政大学	私	7.8	11(9)	立教大学	私	7.8	12(34)	法政大学	私	7.8
13(11)	上智大学	私	7.4	13(53)	東洋大学	私	7.7	13(36)	東京都市大学	私	7.6
14(10)	千葉大学	国	7.3	13(11)	法政大学	私	7.7	14(9)	東京外国語大学	国	7.2
15(14)	東京理科大学	私	7.2	15(88)	東京医科歯科大学	国	6.9	15(20)	日本大学	私	7.1
				15(17)	日本大学	私	6.9				

■ 教育方針・カリキュラムが魅力的である

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(2)	早稲田大学	私	17.8	1(6)	早稲田大学	私	20.8	1(1)	東京大学	国	15.2
2(1)	東京大学	国	16.6	2(1)	東京大学	国	17.7	2(2)	早稲田大学	私	14.5
3(3)	慶應義塾大学	私	13.9	3(11)	一橋大学	国	14.7	3(2)	慶應義塾大学	私	13.8
4(13)	一橋大学	国	11.2	4(15)	慶應義塾大学	私	14.0	4(5)	青山学院大学	私	11.0
5(10)	立教大学	私	9.9	5(8)	立教大学	私	11.6	5(12)	お茶の水女子大学	国	8.7
6(5)	京都大学	国	9.6	6(3)	京都大学	国	11.3	5(47)	横浜国立大学	国	8.7
7(6)	青山学院大学	私	9.5	7(9)	東京工業大学	国	10.6	7(8)	京都大学	国	8.1
8(7)	上智大学	私	8.7	8(7)	明治大学	私	9.6	7(9)	国際基督教大学	私	8.1
9(4)	明治大学	私	8.2	9(2)	上智大学	私	9.2	9(11)	上智大学	私	8.0
10(28)	横浜国立大学	国	7.7	10(5)	青山学院大学	私	7.9	10(13)	立教大学	私	7.9
11(14)	国際基督教大学	私	6.9	10(10)	筑波大学	国	7.9	11(14)	一橋大学	国	7.0
12(9)	筑波大学	国	6.0	12(21)	横浜国立大学	国	6.7	12(4)	明治大学	私	6.8
13(17)	東京工業大学	国	5.9	13(13)	千葉大学	国	6.1	13(31)	日本大学	私	6.3
14(15)	お茶の水女子大学	国	5.7	14(12)	東京理科大学	私	5.8	14(6)	東京外国語大学	国	5.8
15(11)	法政大学	私	5.5	14(4)	法政大学	私	5.8	15(64)	順天堂大学	私	5.7

■ 教育内容のレベルが高い

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(1)	東京大学	国	64.6	1(1)	東京大学	国	69.2	1(1)	東京大学	国	58.9
2(4)	慶應義塾大学	私	44.5	2(3)	早稲田大学	私	50.4	2(3)	慶應義塾大学	私	43.1
3(3)	早稲田大学	私	43.1	3(4)	慶應義塾大学	私	45.7	3(2)	早稲田大学	私	35.0
4(5)	上智大学	私	32.7	4(6)	上智大学	私	35.4	4(5)	上智大学	私	29.5
5(2)	京都大学	国	26.2	5(2)	京都大学	国	27.4	5(7)	お茶の水女子大学	国	29.1
6(13)	お茶の水女子大学	国	22.3	6(5)	一橋大学	国	25.6	6(13)	千葉大学	国	26.9
7(10)	筑波大学	国	21.8	7(8)	立教大学	私	20.2	7(12)	筑波大学	国	26.1
8(6)	青山学院大学	私	21.5	8(10)	東京工業大学	国	19.5	8(6)	青山学院大学	私	26.0
9(11)	千葉大学	国	21.3	9(20)	東京理科大学	私	19.2	9(4)	京都大学	国	25.0
10(20)	東京理科大学	私	20.7	10(7)	筑波大学	国	17.5	10(17)	東京理科大学	私	22.9
11(7)	一橋大学	国	19.1	11(13)	横浜国立大学	国	17.3	11(9)	明治大学	私	21.2
12(8)	立教大学	私	18.2	12(11)	青山学院大学	私	16.7	12(11)	東京外国語大学	国	18.0
13(9)	明治大学	私	17.5	13(12)	千葉大学	国	15.8	13(14)	国際基督教大学	私	17.6
14(18)	東京工業大学	国	16.3	14(25)	お茶の水女子大学	国	14.9	14(17)	中央大学	私	16.5
15(22)	中央大学	私	15.8	14(22)	中央大学	私	14.9	15(8)	立教大学	私	15.8

■ 自分の興味や可能性が広がられる

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(2)	早稲田大学	私	21.1	1(3)	早稲田大学	私	24.0	1(1)	早稲田大学	私	17.9
2(1)	東京大学	国	18.7	2(1)	東京大学	国	23.8	2(2)	東京大学	国	12.5
3(8)	慶應義塾大学	私	13.5	3(12)	慶應義塾大学	私					

※イメージ項目において()内は昨年順位。 ※区分 国立/国 公立/公 私立/私

■ 資格取得に有利である

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(4)	早稲田大学	私 18.6	1(1)	東京大学	国 21.5	1(3)	早稲田大学	私 17.1
2(1)	東京大学	国 17.8	2(4)	早稲田大学	私 20.0	2(67)	東京医科大学	私 14.4
3(2)	慶應義塾大学	私 14.8	3(6)	慶應義塾大学	私 18.6	3(24)	明治薬科大学	私 13.6
4(36)	東京医科大学	私 11.6	4(5)	京都大学	国 12.9	4(7)	東京医科大学	国 13.4
5(5)	東京医科大学	国 11.1	5(9)	上智大学	私 11.5	4(1)	東京大学	国 13.4
6(27)	明治薬科大学	私 10.7	6(25)	日本大学	私 10.8	6(2)	慶應義塾大学	私 10.6
7(6)	京都大学	国 10.1	7(2)	東京薬科大学	私 9.6	7(25)	東京歯科大学	私 9.6
8(10)	上智大学	私 10.0	8(2)	東京医科大学	国 9.2	8(18)	東京家政大学	私 9.3
9(13)	北里大学	私 9.0	9(55)	北里大学	私 9.0	9(35)	東京学芸大学	国 9.2
10(19)	東京歯科大学	私 8.8	10(28)	東京医科大学	私 8.9	10(5)	北里大学	私 9.0
11(33)	日本大学	私 8.3	11(47)	昭和薬科大学	私 8.7	11(56)	日本歯生命科学大学	私 8.1
12(38)	昭和薬科大学	私 8.0	12(12)	一橋大学	国 8.5	12(30)	上智大学	私 8.0
13(27)	聖マリアンノ医科大学	私 7.6	13(14)	東京歯科大学	私 8.1	13(36)	お茶の水女子大学	国 7.9
14(14)	東京外国語大学	国 7.3	13(35)	明治薬科大学	私 8.1	13(28)	日本体育大学	私 7.9
14(42)	法政大学	私 7.3	15(39)	聖マリアンノ医科大学	私 7.9	13(17)	日本医科大学	私 7.9
14(7)	明治大学	私 7.3				13(7)	立教大学	私 7.9

■ 社会で役立つ力が身につく

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(4)	早稲田大学	私 23.2	1(6)	早稲田大学	私 28.0	1(1)	慶應義塾大学	私 20.3
2(2)	慶應義塾大学	私 20.6	2(1)	東京大学	国 21.5	2(2)	東京大学	国 18.8
3(1)	東京大学	国 20.3	3(9)	慶應義塾大学	私 20.9	3(3)	早稲田大学	私 17.9
4(9)	明治大学	私 15.0	4(2)	京都大学	国 15.3	4(9)	明治大学	私 15.3
5(5)	上智大学	私 14.4	5(11)	明治大学	私 14.8	5(4)	上智大学	私 15.2
6(6)	青山学院大学	私 12.9	6(4)	上智大学	私 13.8	6(7)	青山学院大学	私 12.6
7(3)	京都大学	国 10.1	7(3)	青山学院大学	私 13.2	7(8)	東京外国語大学	国 12.2
8(41)	中央大学	私 10.0	8(10)	一橋大学	国 11.6	7(71)	明治大学	私 12.2
8(13)	法政大学	私 10.0	9(19)	日本大学	私 10.8	9(15)	お茶の水女子大学	国 11.8
10(10)	一橋大学	国 9.5	10(63)	中央大学	私 10.5	10(5)	立教大学	私 11.4
11(8)	東京外国語大学	国 9.4	11(13)	東京工業大学	国 8.1	11(64)	日本体育大学	私 10.2
12(31)	日本大学	私 9.1	12(18)	駒澤大学	私 8.0	12(209)	東京理科大学	私 10.1
13(7)	立教大学	私 9.0	13(14)	筑波大学	国 7.9	13(10)	国際基督教大学	私 9.6
14(21)	お茶の水女子大学	国 8.6	14(8)	法政大学	私 7.7	14(42)	中央大学	私 9.4
15(11)	筑波大学	国 8.1	15(37)	芝浦工業大学	私 7.0	15(20)	横浜国立大学	国 8.7
			15(46)	首都大学東京	公 7.0			
			15(5)	立教大学	私 7.0			

■ 教授・講師陣が魅力的である

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	東京大学	国 23.6	1(1)	東京大学	国 26.2	1(1)	東京大学	国 20.5
2(3)	慶應義塾大学	私 16.3	2(8)	早稲田大学	私 19.2	2(2)	慶應義塾大学	私 17.1
3(4)	早稲田大学	私 14.6	3(4)	慶應義塾大学	私 15.5	3(3)	早稲田大学	私 9.4
4(2)	京都大学	国 9.7	4(2)	京都大学	国 12.1	4(7)	立教大学	私 7.9
5(5)	上智大学	私 8.3	5(6)	上智大学	私 11.5	5(4)	京都大学	国 7.1
6(11)	一橋大学	国 6.2	6(13)	一橋大学	国 6.8	6(20)	お茶の水女子大学	国 7.4
7(9)	法政大学	私 5.5	7(74)	横浜国立大学	国 6.7	7(13)	法政大学	私 6.1
7(44)	横浜国立大学	国 5.5	8(14)	筑波大学	国 6.1	8(18)	立教音楽大学	私 5.1
9(13)	筑波大学	国 5.2	9(202)	北里大学	私 5.6	9(5)	上智大学	私 4.5
10(8)	立教大学	私 4.9	9(28)	東京芸術大学	国 5.6	10(8)	一橋大学	国 4.4
11(22)	日本大学	私 4.6	11(20)	日本大学	私 5.4	11(43)	横浜国立大学	国 4.3
12(16)	国際基督教大学	私 4.2	12(12)	東京工業大学	国 4.9	12(11)	筑波大学	国 4.2
13(6)	明治大学	私 3.9	13(14)	国際基督教大学	私 4.8	13(34)	国際基督教大学	私 3.7
14(106)	北里大学	私 3.8	13(36)	自治医科大学	私 4.8	14(35)	東京医科大学	国 3.6
15(12)	青山学院大学	私 3.7	13(7)	法政大学	私 4.8	14(35)	日本大学	私 3.6
15(19)	お茶の水女子大学	国 3.7				14(18)	武蔵野音楽大学	私 3.6

■ 学生の学力が高い

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	東京大学	国 60.0	1(1)	東京大学	国 63.1	1(1)	東京大学	国 56.3
2(2)	早稲田大学	私 43.5	2(3)	早稲田大学	私 49.6	2(3)	慶應義塾大学	私 37.4
3(4)	慶應義塾大学	私 42.2	3(4)	慶應義塾大学	私 46.5	3(2)	早稲田大学	私 36.8
4(5)	上智大学	私 29.4	4(5)	一橋大学	国 30.2	4(6)	上智大学	私 28.6
5(8)	一橋大学	国 25.2	5(6)	上智大学	私 30.0	4(9)	千葉大学	国 28.6
6(3)	京都大学	国 24.7	6(2)	京都大学	国 29.0	6(7)	お茶の水女子大学	国 26.0
7(11)	千葉大学	国 23.5	7(10)	筑波大学	国 20.2	7(4)	京都大学	国 20.6
8(12)	お茶の水女子大学	国 21.1	8(8)	青山学院大学	私 18.4	8(5)	青山学院大学	私 20.5
9(10)	筑波大学	国 20.2	8(15)	千葉大学	国 18.4	9(12)	筑波大学	国 20.2
10(6)	青山学院大学	私 19.5	10(9)	立教大学	私 17.8	9(13)	東京理科大学	私 20.2
11(7)	立教大学	私 18.1	11(11)	横浜国立大学	国 17.3	11(11)	明治大学	私 19.5
12(14)	東京理科大学	私 17.3	12(23)	お茶の水女子大学	国 15.8	12(10)	一橋大学	国 19.3
13(9)	明治大学	私 17.1	13(17)	東京理科大学	私 15.4	13(8)	立教大学	私 18.4
14(13)	横浜国立大学	国 15.6	14(7)	明治大学	私 14.8	14(20)	中央大学	私 15.0
15(21)	中央大学	私 13.2	15(15)	東京工業大学	国 14.6	15(14)	横浜国立大学	国 13.9

■ 就職に有利である

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(2)	早稲田大学	私 45.2	1(2)	早稲田大学	私 50.4	1(1)	慶應義塾大学	私 39.8
2(1)	東京大学	国 43.9	2(1)	東京大学	国 47.7	2(2)	慶應義塾大学	国 39.3
3(3)	慶應義塾大学	私 42.5	3(4)	慶應義塾大学	私 45.0	2(3)	早稲田大学	私 39.3
4(5)	青山学院大学	私 22.0	4(6)	一橋大学	国 26.4	4(8)	明治大学	私 21.2
5(6)	上智大学	私 21.2	5(5)	上智大学	私 24.6	5(4)	青山学院大学	私 20.5
6(4)	京都大学	国 19.3	6(9)	青山学院大学	私 23.7	5(10)	お茶の水女子大学	国 20.5
6(8)	明治大学	私 19.3	7(3)	京都大学	国 23.4	7(7)	上智大学	私 17.0
8(9)	一橋大学	国 18.7	8(7)	明治大学	私 17.4	8(6)	立教大学	私 15.8
9(15)	お茶の水女子大学	国 15.7	9(10)	東京工業大学	国 17.1	9(5)	京都大学	国 15.4
10(7)	立教大学	私 14.0	10(16)	中央大学	私 15.8	10(13)	法政大学	私 14.8
11(16)	中央大学	私 13.7	11(14)	東京理科大学	私 14.1	11(12)	筑波大学	国 13.4
12(13)	法政大学	私 13.2	12(17)	横浜国立大学	国 12.5	12(14)	千葉大学	国 12.6
13(18)	東京工業大学	国 12.9	13(8)	立教大学	私 12.4	13(20)	東京医科大学	国 12.5
14(14)	東京理科大学	私 12.5	14(19)	法政大学	私 11.5	14(16)	中央大学	私 11.8
15(10)	筑波大学	国 12.4	15(12)	筑波大学	国 11.4	15(11)	東京外国語大学	国 10.8
			15(45)	東京薬科大学	私 11.4			

■ 国際的なセンスが身につく

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(2)	上智大学	私 24.4	1(13)	早稲田大学	私 24.0	1(2)	上智大学	私 25.9
2(1)	東京外国語大学	国 21.5	2(2)	上智大学	私 23.1	2(1)	東京外国語大学	国 24.5
3(4)	国際基督教大学	私 20.3	3(9)	慶應義塾大学	私 21.7	3(6)	青山学院大学	私 22.8
4(10)	早稲田大学	私 19.9	4(2)	東京大学	国 19.2	4(4)	国際基督教大学	私 22.1
5(9)	慶應義塾大学	私 19.1	5(5)	国際基督教大学	私 18.5	5(3)	東京大学	国 17.0
6(6)	青山学院大学	私 19.0	5(1)	東京外国語大学	国 18.5	6(5)	立教大学	私 16.7
7(3)	東京大学	国 18.2	7(6)	青山学院大学	私 14.9	7(9)	慶應義塾大学	私 16.3
8(8)	神田外語大学	私 12.8	8(8)	神田外語大学	私 10.4	8(7)	早稲田大学	私 15.4
9(7)	立教大学	私 11.4	8(12)	明治大学	私 10.4	9(8)	神田外語大学	私 15.3
10(15)	関西外国語大学	私 10.2	10(11)	東京基督教大学	私 10.1	10(18)	関西外国語大学	私 12.2
11(13)	明治大学	私 8.6	11(4)	京都大学	国 8.9	11(45)	横浜国立大学	国 9.6
12(11)	東京基督教大学	私 8.4	12(15)	関西外国語大学	私 8.1	12(32)	お茶の水女子大学	国 9.4
13(30)	お茶の水女子大学	国 7.4	13(16)	一橋大学	国 7.0	13(38)	つくば国際大学	私 8.6
14(4)	横浜国立大学	国 6.8	13(7)	立教大学	私 7.0	14(53)	立命館大学	私 7.3
15(5)	京都大学	国 6.6	15(34)	獨協大学	私 5.4	15(22)	津田塾大学	私 7.0
			15(23)	フェリス学院大学	私 5.4	15(28)	法政大学	私 7.0

■ 先輩・卒業生が魅力的である

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	東京大学	国 23.2	1(1)	東京大学	国 25.4	1(2)	慶應義塾大学	私 22.0
2(4)	早稲田大学	私 20.7	2(5)	早稲田大学	私 24.8	2(1)	東京大学	国 20.5
3(3)	慶應義塾大学	私 20.6	3(3)	慶應義塾大学	私 19.4	3(2)	早稲田大学	私 16.2
4(2)	京都大学	国 12.3	4(2)	京都大学	国 14.5	4(4)	京都大学	国 10.3
5(8)	上智大学	私 8.7	5(7)	一橋大学	国 9.3	5(9)	青山学院大学	私 8.7
5(48)	横浜国立大学	国 8.7	6(12)	上智大学	私 9.2	5(33)	横浜国立大学	国 8.7
7(6)	青山学院大学	私 7.9	7(93)	横浜国立大学	国 8.7	7(5)	明治大学	私 8.5
8(5)	明治大学	私 7.7	8(22)	日本大学	私 8.5	8(6)	上智大学	私 8.0
9(13)	法政大学	私 7.3	9(4)	青山学院大学	私 7.0	9(17)	法政大学	私 7.8
10(17)	日本大学	私 7.1	9(9)	明治大学	私 7.0	10(25)	お茶の水女子大学	国 7.1
11(9)	一橋大学	国 6.2	11(13)	法政大学	私 6.7	11(8)	立教大学	私 7.0
11(7)	立教大学	私 6.2	12(32)	駒澤大学	私 6.4	12(7)	学習院大学	私 6.1
13(21)	千葉大学	国 5.6	13(11)	日本体育大学	私 6.1	12(24)	東洋大学	私 6.1
13(13)	筑波大学	国 5.6	14(55)	東京芸術大学	国 5.6	14(11)	千葉大学	国 5.9
15(27)	駒澤大学	私 5.0	15(6)	立教大学	私 5.4	14(12)	筑波大学	国 5.9
15(12)	日本体育大学	私 5.0						

■ 学生の面倒見が良い

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(5)	慶應義塾大学	私 9.5	1(5)	早稲田大学	私 11.2	1(2)	慶應義塾大学	私 9.8
2(6)	早稲田大学	私 8.7	2(9)	慶應義塾大学	私 9.3	2(1)	東京大学	国 7.1
3(1)	東京大学	国 7.9	3(1)	東京大学	国 8.5	3(2)	立教大学	私 7.0
4(3)	京都大学	国 6.2	4(1)	京都大学	国 6.5	4(7)	お茶の水女子大学	国 6.3
5(2)	立教大学	私 5.3	5(13)	上智大学	私 6.2	5(11)	早稲田大学	私 6.0
6(7)	上智大学	私 5.0	5(10)	一橋大学	国 6.2	6(7)	京都大学	国 5.9
7(10)	筑波大学	国 4.3	7(10)	筑波大学	国 5.3	7(7)	国際基督教大学	私 4.4
8(7)	一橋大学	国 4.2	8(19)	日本大学	私 4.6	8(52)	城西大学	私 4.3
9(19)	お茶の水女子大学	国 4.1	9(93)	東京女子大学	私 4.0	8(186)	東京未来大学	私 4.3
9(15)	日本大学	私 4.1	10(4)	立教大学	私 3.9	8(107)	東洋大学	私 4.3
11(4)	青山学院大学	私 3.7	11(10)	東京医科大学	国 3.8	11(4)	青山学院大学	私 3.9
12(39)	城西大学	私 3.6	12(3)	青山学院大学	私 3.5	12(5)	上智大学	私 3.6
13(11)	国際基督教大学	私 3.4	13(23)	駒澤大学	私 3.2	12(26)	日本大学	私 3.6
14(17)	駒澤大学	私 3.3	13(93)	昭和大学	私 3.2	14(186)	國學院大学	私 3.5
15(81)	自治医科大学	私 3.2	13(57)	東京農業大学</				

■ 卒業後に社会で活躍できる

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(1)	東京大学	国	39.3	1(1)	東京大学	国	41.5	1(1)	東京大学	国	36.6
2(3)	早稲田大学	私	33.1	2(3)	早稲田大学	私	33.6	2(2)	早稲田大学	私	32.5
3(4)	慶應義塾大学	私	29.4	3(4)	慶應義塾大学	私	30.2	3(3)	慶應義塾大学	私	28.5
4(5)	上智大学	私	19.8	4(2)	京都大学	国	20.2	4(5)	上智大学	私	22.3
5(2)	京都大学	国	17.7	5(7)	上智大学	私	17.7	5(4)	京都大学	国	15.4
6(6)	青山学院大学	私	14.1	6(23)	法政大学	私	17.3	6(11)	お茶の水女子大学	国	15.0
7(26)	法政大学	私	12.4	7(8)	青山学院大学	私	14.0	7(24)	東京医科歯科大学	国	14.3
8(9)	一橋大学	国	11.5	8(9)	一橋大学	国	12.4	8(6)	青山学院大学	私	14.2
9(20)	東京医科歯科大学	国	11.1	9(16)	横浜国立大学	国	11.5	9(20)	千葉大学	国	12.6
10(7)	明治大学	私	10.7	10(18)	東京工業大学	国	11.4	10(7)	立教大学	私	12.3
11(18)	お茶の水女子大学	国	10.3	11(5)	明治大学	私	11.3	11(10)	一橋大学	私	10.5
12(22)	横浜国立大学	国	10.1	12(19)	中央大学	私	10.5	12(8)	明治大学	私	10.2
13(24)	国際基督教大学	私	9.6	12(10)	筑波大学	国	10.5	13(16)	国際基督教大学	私	9.6
13(22)	中央大学	私	9.6	14(13)	東京理科大学	私	10.3	14(28)	中央大学	私	8.7
15(11)	筑波大学	国	9.5	15(41)	国際基督教大学	私	9.7	14(78)	横浜国立大学	国	8.7

■ 将来の選択肢が増える

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(1)	東京大学	国	33.9	1(1)	東京大学	国	34.6	1(1)	東京大学	国	33.0
2(2)	早稲田大学	私	26.5	2(3)	早稲田大学	私	31.2	2(3)	慶應義塾大学	私	22.0
3(4)	慶應義塾大学	私	22.6	3(4)	慶應義塾大学	私	23.3	3(2)	早稲田大学	私	21.4
4(5)	上智大学	私	14.9	4(5)	上智大学	私	17.7	4(5)	立教大学	私	12.3
5(9)	青山学院大学	私	12.9	5(2)	京都大学	国	15.3	5(7)	上智大学	私	11.6
6(3)	京都大学	国	12.7	6(8)	青山学院大学	私	14.9	6(9)	青山学院大学	私	11.0
7(6)	明治大学	私	9.9	7(19)	中央大学	私	11.4	7(4)	京都大学	国	10.3
8(7)	立教大学	私	8.6	8(6)	明治大学	私	10.4	8(8)	明治大学	私	9.3
9(18)	中央大学	私	8.0	9(13)	法政大学	私	9.6	9(12)	お茶の水女子大学	国	8.7
10(19)	横浜国立大学	国	7.8	9(18)	横浜国立大学	国	9.6	10(18)	千葉大学	国	7.6
11(15)	千葉大学	国	7.7	11(20)	日本大学	私	8.5	10(25)	筑波大学	国	7.6
11(14)	筑波大学	国	7.7	11(11)	一橋大学	私	8.5	12(6)	東京外国語大学	国	6.5
13(22)	日本大学	私	7.5	13(65)	大阪大学	国	8.3	13(23)	日本大学	私	6.3
14(11)	一橋大学	私	7.4	14(14)	千葉大学	国	7.9	14(14)	一橋大学	私	6.1
15(16)	法政大学	私	7.3	14(10)	筑波大学	国	7.9	14(24)	横浜国立大学	国	6.1

■ 学習設備や環境が整っている

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(1)	東京大学	国	25.3	1(1)	東京大学	国	28.5	1(2)	東京大学	国	21.4
2(2)	早稲田大学	私	20.8	2(4)	早稲田大学	私	25.6	2(1)	慶應義塾大学	私	17.9
3(3)	慶應義塾大学	私	17.9	3(12)	慶應義塾大学	私	17.8	3(4)	立教大学	私	17.5
4(5)	青山学院大学	私	14.1	4(5)	明治大学	私	16.5	4(3)	早稲田大学	私	15.4
5(7)	明治大学	私	13.8	5(3)	青山学院大学	私	14.0	5(5)	青山学院大学	私	14.2
6(9)	上智大学	私	10.8	6(12)	上智大学	私	12.3	6(7)	明治大学	私	11.0
7(6)	立教大学	私	10.6	7(2)	京都大学	国	12.1	7(17)	お茶の水女子大学	国	10.2
8(3)	京都大学	国	9.3	8(10)	東京理科大学	私	11.5	8(6)	上智大学	私	8.9
9(13)	東京理科大学	私	9.1	9(9)	法政大学	私	7.7	9(40)	日本体育大学	私	8.7
10(10)	法政大学	私	8.2	10(23)	中央大学	私	7.0	9(13)	法政大学	私	8.7
11(25)	お茶の水女子大学	国	7.0	10(6)	筑波大学	国	7.0	11(12)	日本大学	私	8.0
11(27)	日本体育大学	私	7.0	12(26)	横浜国立大学	国	6.7	12(14)	千葉大学	国	7.6
11(14)	日本大学	私	7.0	13(18)	日本大学	私	6.2	13(9)	筑波大学	国	6.7
14(18)	千葉大学	国	6.9	14(21)	千葉大学	国	6.1	14(8)	京都大学	国	6.6
14(8)	筑波大学	国	6.9	15(29)	大阪大学	国	5.8	15(20)	東京理科大学	私	5.5

■ キャンパスがきれいである

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(1)	青山学院大学	私	22.4	1(1)	青山学院大学	私	21.9	1(1)	青山学院大学	私	22.8
2(3)	慶應義塾大学	私	16.3	2(5)	慶應義塾大学	私	17.1	2(2)	立教大学	私	18.4
3(7)	早稲田大学	私	16.1	3(10)	早稲田大学	私	16.8	3(26)	法政大学	私	15.7
4(4)	明治大学	私	15.5	4(2)	明治大学	私	16.5	4(3)	慶應義塾大学	私	15.4
5(2)	立教大学	私	14.3	5(4)	東京大学	国	11.5	4(9)	早稲田大学	私	15.4
6(8)	法政大学	私	12.7	6(3)	立教大学	私	10.9	6(4)	明治大学	私	14.4
7(5)	東京大学	国	10.0	7(7)	上智大学	私	10.0	7(7)	上智大学	私	9.8
8(6)	上智大学	私	9.9	8(6)	法政大学	私	9.6	8(36)	お茶の水女子大学	国	9.4
9(44)	桜美林大学	私	6.8	9(19)	首都大学東京	公	7.9	9(7)	学習院大学	私	8.7
10(39)	お茶の水女子大学	国	6.2	9(35)	中央大学	私	7.9	9(60)	横浜国立大学	国	8.7
11(9)	成蹊大学	私	6.1	11(14)	成蹊大学	私	6.7	11(5)	東京大学	国	8.0
12(13)	学習院大学	私	5.9	12(35)	桜美林大学	私	7.7	12(16)	明治学院大学	私	7.6
12(10)	横浜国立大学	国	5.9	13(19)	筑波大学	国	6.1	13(11)	大妻女子大学	私	7.3
14(37)	中央大学	私	5.8	14(19)	東京理科大学	私	5.8	14(66)	桜美林大学	私	7.0
14(20)	東京女子大学	私	5.8	15(8)	京都大学	国	5.6	15(13)	東京女子大学	私	6.8
14(15)	日本大学	私	5.8	15(12)	国際基督教大学	私	5.6				

■ 寮や奨学金等が充実している

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(3)	慶應義塾大学	私	6.8	1(11)	早稲田大学	私	9.6	1(1)	慶應義塾大学	私	6.5
2(2)	早稲田大学	私	6.7	2(97)	慶應義塾大学	私	7.0	2(3)	東京大学	国	6.3
3(1)	東京大学	国	6.6	3(1)	東京大学	国	6.9	3(20)	横浜国立大学	国	4.3
4(5)	横浜国立大学	国	3.6	4(40)	千葉大学	国	5.3	4(59)	日本大学	私	3.6
5(10)	上智大学	私	3.3	5(14)	明治大学	私	4.3	5(65)	津田塾大学	私	3.5
5(4)	立教大学	私	3.3	6(4)	立教大学	私	3.9	5(81)	法政大学	私	3.5
7(6)	京都大学	国	3.1	7(16)	上智大学	私	3.8	7(2)	早稲田大学	私	3.4
8(10)	明治大学	私	3.0	8(2)	青山学院大学	私	3.5	8(8)	京都大学	国	2.9
9(6)	青山学院大学	私	2.9	8(16)	中央大学	私	3.5	9(47)	大妻女子大学	私	2.8
10(28)	法政大学	私	2.7	10(7)	京都大学	国	3.2	9(65)	鎌倉女子大学	私	2.8
11(31)	千葉大学	国	2.6	10(53)	駒澤大学	私	3.2	11(65)	関西大学	私	2.7
12(39)	駒澤大学	私	2.5	12(35)	埼玉大学	国	2.9	11(12)	上智大学	私	2.7
12(15)	日本大学	私	2.5	12(3)	自治医科大学	私	2.9	13(81)	兵庫県立大学	公	2.6
14(51)	埼玉大学	国	2.3	12(9)	東洋大学	私	2.9	13(8)	立教大学	私	2.6
14(10)	自治医科大学	私	2.3	12(106)	横浜国立大学	国	2.9	15(15)	青山学院大学	私	2.4
14(31)	東洋大学	私	2.3	12(204)	ルーテル学院大学	私	2.9				
14(174)	ルーテル学院大学	私	2.3								

■ 学生生活が楽しめる

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(2)	早稲田大学	私	21.6	1(2)	早稲田大学	私	28.8	1(2)	青山学院大学	私	19.7
2(1)	青山学院大学	私	20.3	2(1)	青山学院大学	私	21.1	2(3)	慶應義塾大学	私	19.5
3(3)	慶應義塾大学	私	18.2	3(8)	慶應義塾大学	私	17.1	3(5)	明治大学	私	16.1
4(5)	明治大学	私	15.9	4(3)	明治大学	私	15.7	4(1)	立教大学	私	15.8
5(4)	立教大学	私	11.0	5(11)	日本大学	私	12.3	5(3)	早稲田大学	私	13.7
6(8)	法政大学	私	10.9	6(5)	法政大学	私	9.6	6(46)	日本体育大学	私	12.6
7(10)	日本大学	私	10.4	7(9)	上智大学	私	9.2	7(13)	法政大学	私	12.2
8(9)	上智大学	私	9.1	8(12)	駒澤大学	私	8.8	8(12)	お茶の水女子大学	国	10.2
8(16)	中央大学	私	9.1	9(7)	東京大学	国	8.5	8(26)	明治学院大学	私	10.2
10(24)	日本体育大学	私	8.6	10(17)	中央大学	私	7.9	10(7)	上智大学	私	8.9
11(56)	横浜国立大学	国	6.9	11(37)	横浜国立大学	国	7.7	11(9)	日本大学	私	8.0
12(7)	立教大学	私	6.7	12(4)	京都大学	国	7.3	12(33)	明治学院大学	私	7.6
13(15)	東洋大学	私	6.4	13(16)	一橋大学	私	7.0	13(22)	國學院大学	私	6.1
14(13)	駒澤大学	私	5.8	13(6)	立教大学	私	7.0	13(18)	東洋大学	私	6.1
15(27)	お茶の水女子大学	国	5.7	15(45)	桜美林大学	私	6.7	13(178)	横浜国立大学	国	6.1
				15(20)	東洋大学	私	6.7				

■ クラブ・サークル活動が盛んである

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(1)	早稲田大学	私	21.1	1(2)	早稲田大学	私	21.6	1(1)	慶應義塾大学	私	22.8
2(3)	慶應義塾大学	私	20.2	2(1)	青山学院大学	私	21.1	2(5)	日本体育大学	私	22.0
3(2)	青山学院大学	私	19.9	3(12)	慶應義塾大学	私	17.8	3(2)	早稲田大学	私	20.5
4(5)	日本体育大学	私	17.8	4(8)	法政大学	私	16.3	4(3)	青山学院大学	私	18.9
5(9)	日本大学	私	14.5	5(7)	日本大学	私	16.2	5(6)	立教大学	私	14.0
6(10)	法政大学	私	14.2	6(3)	日本体育大学	私	13.2	6(12)	日本大学	私	12.5
7(14)	中央大学	私	10.4	7(14)	中央大学	私	12.3	7(9)	法政大学	私	12.2
8(7)	日本体育大学	私	10.1	8(6)	東洋大学	私	10.6	8(8)	明治大学	私	10.2
9(6)	明治大学	私	9.9	9(10)	国士舘大学	私	9.6	9(7)	東洋大学	私	9.6
10(8)	立教大学	私	9.4	9(5)	明治大学	私	9.6	10(13)	順天堂大学	私	8.9
11(13)	駒澤大学	私	8.7	11(15)	駒澤大学	私	8.8	10(20)	上智大学	私	8.9
12(17)	順天堂大学	私	8.2	12(26)	順天堂大学	私	7.4	12(14)	中央大学	私	8.7
13(18)	上智大学	私	7.4	12(10)	東海大学	私	7.4	13(10)	駒澤大学	私	8.5
14(12)	東海大学	私	7.0	14(17)	上智大学	私	6.2	14(70)	拓殖大学	私	7.3
15(15)	国士舘大学	私	6.9	14(13)	東京大学	国	6.2	15(37)	お茶の水女子大学	国	7.1

■ 周囲の人からの評判が良い

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(1)	東京大学	国	44.8	1(1)	東京大学	国	53.8	1(2)	慶應義塾大学	私	35.8
2(2)	早稲田大学	私	39.8	2(3)	早稲田大学</						

※イメージ項目において()内は昨年順位。 ※区分 国立/国 公立/公 私立/私

■ 入試方法が自分に合っている

Table with 4 columns: Rank, Overall, Gender, and Score. Lists universities like 日本大学, 明治大学, 早稲田大学, etc., with their respective scores and gender-specific rankings.

■ 偏差値が自分に合っている

Table with 4 columns: Rank, Overall, Gender, and Score. Lists universities like 日本大学, 駒澤大学, 法政大学, etc., with their respective scores and gender-specific rankings.

■ 教養が身につく

Table with 4 columns: Rank, Overall, Gender, and Score. Lists universities like 東京大学, 早稲田大学, 上智大学, etc., with their respective scores and gender-specific rankings.

■ 専門分野を深く学べる

Table with 4 columns: Rank, Overall, Gender, and Score. Lists universities like 東京大学, 東京理科大学, 早稲田大学, etc., with their respective scores and gender-specific rankings.

■ 交通の便が良い

Table with 4 columns: Rank, Overall, Gender, and Score. Lists universities like 青山学院大学, 日本大学, 早稲田大学, etc., with their respective scores and gender-specific rankings.

■ 勉強するのに良い環境である

Table with 4 columns: Rank, Overall, Gender, and Score. Lists universities like 東京大学, 早稲田大学, 慶應義塾大学, etc., with their respective scores and gender-specific rankings.

■ 遊びに行くのに便利な立地である

Table with 4 columns: Rank, Overall, Gender, and Score. Lists universities like 青山学院大学, 慶應義塾大学, 明治大学, etc., with their respective scores and gender-specific rankings.

■ 学費が高くない

Table with 4 columns: Rank, Overall, Gender, and Score. Lists universities like 東京大学, 横浜国立大学, 千葉大学, etc., with their respective scores and gender-specific rankings.

関東/機能的価値を表すイメージ項目

東海

関西

図表7 感性的価値を表すイメージ項目／関東

■ 知的な

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)	
1(1)	東京大学	国 54.1	1(1)	東京大学	国 54.6	1(1)	東京大学	国 53.6	
2(3)	早稲田大学	私 38.4	2(3)	早稲田大学	私 36.0	2(3)	慶應義塾大学	私 41.5	
3(4)	慶應義塾大学	私 35.2	3(5)	慶應義塾大学	私 29.5	3(2)	早稲田大学	私 41.0	
4(5)	上智大学	私 32.1	4(4)	上智大学	私 27.7	4(5)	上智大学	私 37.5	
5(6)	一橋大学	国 26.3	5(6)	一橋大学	国 24.0	5(6)	お茶の水女子大学	国 29.9	
6(2)	京都大学	国 24.1	6(19)	東京理科大学	私 19.9	6(8)	一橋大学	国 28.9	
7(8)	お茶の水女子大学	国 23.1	7(2)	京都大学	国 19.4	7(4)	京都大学	国 28.7	
8(14)	東京理科大学	私 18.2	8(14)	お茶の水女子大学	国 15.8	8(10)	筑波大学	国 21.0	
9(17)	横浜国立大学	国 17.3	9(7)	青山学院大学	私 14.9	9(21)	横浜国立大学	国 20.9	
10(10)	筑波大学	国 17.1	10(10)	明治大学	私 14.8	10(14)	千葉大学	国 19.3	
11(11)	明治大学	私 16.7	11(19)	東京工業大学	国 14.6	11(9)	明治大学	私 18.6	
12(7)	青山学院大学	私 15.8	12(18)	法政大学	私 14.4	12(12)	立教大学	私 18.4	
13(9)	立教大学	私 15.6	13(17)	横浜国立大学	国 13.5	13(7)	青山学院大学	私 16.5	
14(17)	法政大学	私 14.2	14(26)	中央大学	私 13.2	14(22)	国際基督教大学	私 16.2	
15(15)	千葉大学	国 14.1	14(9)	筑波大学	国 13.2	15(13)	東京理科大学	私 15.6	
			14(8)	立教大学	私 13.2				

■ 先進的な

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	東京大学	国 22.0	1(1)	東京大学	国 26.2	1(1)	慶應義塾大学	私 19.5
2(4)	早稲田大学	私 17.8	2(4)	早稲田大学	私 20.8	2(2)	東京大学	国 17.0
3(2)	慶應義塾大学	私 17.4	3(5)	慶應義塾大学	私 15.5	3(3)	早稲田大学	私 14.5
4(7)	上智大学	私 10.8	4(2)	京都大学	国 12.1	4(10)	上智大学	私 9.8
5(3)	京都大学	国 10.0	5(6)	上智大学	私 11.5	5(15)	デジタルハリウッド大学	私 9.2
6(5)	青山学院大学	私 8.3	6(8)	東京工業大学	国 8.1	6(7)	青山学院大学	私 8.7
7(27)	デジタルハリウッド大学	私 7.9	7(3)	青山学院大学	私 7.9	7(5)	東京外国語大学	国 8.6
8(9)	明治大学	私 7.7	8(16)	明治大学	私 7.8	8(13)	東京理科大学	私 8.1
9(19)	法政大学	私 7.3	9(18)	法政大学	私 7.7	9(4)	京都大学	国 8.3
10(12)	東京理科大学	私 7.2	10(77)	デジタルハリウッド大学	私 7.1	10(6)	明治大学	私 7.6
11(6)	東京外国語大学	国 6.9	11(20)	一橋大学	国 7.0	11(14)	国際基督教大学	私 7.4
12(17)	東京工業大学	国 6.7	12(17)	東京理科大学	私 6.4	12(26)	法政大学	私 7.0
13(15)	国際基督教大学	私 6.5	13(22)	国際基督教大学	私 5.6	13(27)	東京都立大学	私 6.8
14(19)	東京未来大学	私 5.5	14(9)	立教大学	私 5.4	14(22)	東京未来大学	私 6.1
14(42)	横浜国立大学	国 5.5	15(11)	東京外国語大学	国 5.2	14(22)	横浜国立大学	国 6.1

■ 自慢できそう

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	東京大学	国 52.9	1(1)	東京大学	国 53.8	1(2)	東京大学	国 51.8
2(2)	早稲田大学	私 44.1	2(4)	早稲田大学	私 37.6	2(1)	早稲田大学	私 51.3
3(4)	慶應義塾大学	私 40.4	3(7)	慶應義塾大学	私 37.2	3(3)	慶應義塾大学	私 43.9
4(4)	青山学院大学	私 29.8	4(3)	上智大学	私 30.8	4(4)	青山学院大学	私 33.9
5(6)	上智大学	私 29.0	5(6)	青山学院大学	私 25.4	5(7)	お茶の水女子大学	国 31.5
6(10)	お茶の水女子大学	国 23.1	6(8)	明治大学	私 22.6	6(9)	上智大学	私 26.8
7(8)	明治大学	私 22.7	7(2)	中央大学	私 21.0	7(5)	明治大学	私 22.0
8(3)	京都大学	国 20.4	8(10)	一橋大学	国 18.6	8(22)	中央大学	私 21.3
9(9)	一橋大学	国 19.3	9(5)	立教大学	私 17.1	9(10)	一橋大学	国 20.2
10(27)	中央大学	私 18.2	10(12)	横浜国立大学	国 16.3	10(6)	京都大学	国 19.9
11(7)	立教大学	私 16.9	11(27)	中央大学	私 14.9	11(11)	筑波大学	国 16.8
12(14)	法政大学	私 15.5	12(18)	法政大学	私 14.4	12(8)	立教大学	私 16.7
13(12)	横浜国立大学	国 15.1	13(19)	お茶の水女子大学	国 14.0	13(13)	法政大学	私 16.5
14(11)	筑波大学	国 14.1	14(23)	東京理科大学	私 12.8	14(14)	千葉大学	国 14.3
15(13)	千葉大学	国 11.5	15(9)	筑波大学	国 11.4	15(18)	国際基督教大学	私 14.0

■ のんびり

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)	
1(1)	東京農業大学	私 7.9	1(172)	大東文化大学	私 7.0	1(1)	東京農業大学	私 12.1	
2(33)	中央大学	私 5.0	2(139)	中央大学	私 6.1	2(20)	白百合女子大学	私 7.0	
2(5)	日本大学	私 5.0	3(8)	上智大学	私 5.4	3(22)	東京家政大学	私 6.8	
4(14)	上智大学	私 4.6	3(23)	日本大学	私 5.4	4(2)	お茶の水女子大学	国 5.5	
5(36)	白百合女子大学	私 4.5	5(212)	同志社女子大学	私 4.7	5(64)	津田塾大学	私 5.5	
6(24)	獨協大学	私 4.4	5(76)	明星大学	私 4.7	6(43)	茨城大学	国 5.1	
7(98)	大東文化大学	私 4.0	7(172)	群馬大学	国 4.3	7(51)	獨協大学	私 4.9	
7(14)	東京農工大学	国 4.0	7(32)	明治大学	私 4.3	8(250)	東京成徳大学	私 4.5	
7(17)	明星大学	私 4.0	9(16)	京都大学	国 4.0	8(3)	日本大学	私 4.5	
10(7)	明治大学	私 3.9	9(27)	専修大学	私 4.0	10(60)	立教大学	私 4.4	
11(7)	お茶の水女子大学	国 3.7	9(41)	玉川大学	私 4.0	11(174)	聖学院大学	私 4.3	
11(9)	東京家政大学	私 3.7	9(5)	東京農業大学	私 4.0	11(24)	帝京大学	私 4.3	
13(159)	群馬大学	国 3.5	9(8)	東京農工大学	国 4.0	11(64)	横浜国立大学	国 4.3	
14(21)	青山学院大学	私 3.3	9(27)	早稲田大学	私 4.0	14(41)	共立女子大学	私 4.2	
14(7)	茨城大学	国 3.3	15(23)	獨協大学	私 3.9	14(154)	千葉大学	国 4.2	
14(17)	帝京大学	私 3.3				14(64)	明治学院大学	私 4.2	
14(236)	平成国際大学	私 3.3							

■ 多様な

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(2)	早稲田大学	私 20.2	1(1)	東京大学	国 18.5	1(2)	早稲田大学	私 22.2
2(1)	東京大学	国 18.6	2(3)	早稲田大学	私 18.4	2(4)	東京大学	国 18.8
3(4)	慶應義塾大学	私 16.6	3(7)	慶應義塾大学	私 15.5	3(1)	慶應義塾大学	私 17.9
4(8)	日本大学	私 14.0	4(5)	青山学院大学	私 12.3	3(6)	日本大学	私 17.9
5(5)	明治大学	私 10.7	5(8)	上智大学	私 11.5	5(3)	明治大学	私 11.0
6(7)	青山学院大学	私 10.4	6(2)	京都大学	国 11.3	6(11)	立教大学	私 8.8
7(10)	上智大学	私 9.5	7(6)	日本大学	私 10.8	7(9)	青山学院大学	私 8.7
8(3)	京都大学	国 8.5	8(9)	明治大学	私 10.4	8(22)	帝京大学	私 8.5
9(29)	法政大学	私 7.8	9(19)	横浜国立大学	国 8.7	9(30)	法政大学	私 7.8
10(6)	立教大学	私 7.0	10(37)	法政大学	私 7.7	10(8)	上智大学	私 7.1
11(19)	横浜国立大学	国 6.9	11(16)	一橋大学	国 7.0	11(13)	国際基督教大学	私 6.6
12(17)	国際基督教大学	私 5.8	11(19)	早稲田大学	私 6.7	12(10)	東京外国語大学	国 6.5
13(24)	帝京大学	私 5.7	13(48)	亜細亜大学	私 5.4	13(18)	デジタルハリウッド大学	私 6.4
14(11)	東京外国語大学	国 5.1	13(4)	立教大学	私 5.4	14(15)	学習院大学	私 6.1
14(26)	東洋大学	私 5.1	15(35)	国際基督教大学	私 4.8	15(7)	京都大学	国 5.9

■ おしゃれな

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	青山学院大学	私 38.1	1(1)	青山学院大学	私 34.2	1(1)	青山学院大学	私 41.7
2(3)	慶應義塾大学	私 26.3	2(4)	慶應義塾大学	私 29.5	2(3)	慶應義塾大学	私 22.8
3(4)	上智大学	私 19.8	3(2)	上智大学	私 19.2	3(2)	立教大学	私 21.1
4(2)	立教大学	私 14.7	4(8)	早稲田大学	私 14.4	4(4)	上智大学	私 20.5
5(5)	明治大学	私 11.6	5(5)	明治大学	私 12.2	5(13)	フェリス学院大学	私 16.1
5(7)	早稲田大学	私 11.6	6(3)	立教大学	私 9.3	6(12)	大妻女子大学	私 13.8
7(9)	フェリス学院大学	私 11.5	7(10)	成蹊大学	私 9.0	7(39)	東京女子大学	私 13.7
8(21)	白百合女子大学	私 9.5	8(14)	清泉女子大学	私 7.7	8(17)	白百合女子大学	私 13.0
9(60)	東京女子大学	私 9.0	8(7)	フェリス学院大学	私 7.7	9(48)	東京芸術大学	国 12.9
10(13)	お茶の水女子大学	国 8.3	10(18)	お茶の水女子大学	国 7.0	10(21)	桜美林大学	私 11.3
11(23)	大妻女子大学	私 8.2	10(6)	成城大学	私 7.0	11(5)	明治大学	私 11.0
11(14)	法政大学	私 8.2	12(15)	東京大学	国 6.9	12(24)	聖心女子大学	私 10.9
13(15)	学習院女子大学	私 7.6	13(9)	法政大学	私 6.7	13(8)	学習院女子大学	私 10.8
14(17)	桜美林大学	私 7.2	14(40)	白百合女子大学	私 5.8	14(32)	国際基督教大学	私 10.3
14(30)	国際基督教大学	私 7.2	14(56)	多摩美術大学	私 5.8	15(31)	日本女子大学	私 10.2
14(6)	成蹊大学	私 7.2	14(32)	デジタルハリウッド大学	私 5.8			
			14(59)	東洋大学	私 5.8			

■ 力強い

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	日本体育大学	私 22.0	1(1)	日本体育大学	私 21.9	1(1)	日本体育大学	私 22.0
2(3)	早稲田大学	私 16.5	2(5)	早稲田大学	私 16.0	2(3)	早稲田大学	私 17.1
3(6)	慶應義塾大学	私 12.3	3(2)	東京大学	国 13.1	3(4)	慶應義塾大学	私 13.0
4(2)	東京大学	国 11.6	4(24)	慶應義塾大学	私 11.6	4(2)	東京大学	国 9.8
5(8)	明治大学	私 8.6	5(3)	京都大学	国 11.3	5(15)	東京女子体育大学	私 8.6
6(4)	京都大学	国 7.8	6(12)	明治大学	私 10.4	6(19)	青山学院大学	私 7.1
7(15)	青山学院大学	私 6.6	7(4)	国士館大学	私 8.7	7(6)	明治大学	私 6.8
8(16)	東京女子体育大学	私 5.4	8(25)	横浜国立大学	国 6.7	8(5)	日本女子体育大学	私 6.6
8(23)	日本大学	私 5.4	9(24)	東京工業大学	国 6.5	9(120)	東京農業大学	私 5.6
10(5)	国士館大学	私 5.1	10(7)	青山学院大学	私 6.1	10(199)	お茶の水女子大学	国 5.5
11(44)	中央大学	私 4.6	10(29)	中央大学	私 6.1	11(15)	上智大学	私 5.4
11(26)	東京工業大学	国 4.6	12(19)	日本大学	私 5.4	11(36)	日本大学	私 5.4
11(9)	日本女子体育大学	私 4.6	13(20)	東京理科大学	私 5.1	13(28)	東京芸術大学	国 4.8
14(17)	筑波大学	国 4.3	14(66)	東海大学	私 5.0	13(25)	東京農工大学	国 4.8
15(36)	東京理科大学	私 4.2	15(13)	法政大学	私 4.8	13(14)	立命館大学	私 4.8

■ 明るい

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	青山学院大学	私 18.6	1(6)	早稲田大学	私 17.6	1(1)	青山学院大学	私 20.5
2(8)	日本大学	私 15.3	2(3)	明治大学	私 17.4	2(2)	立教大学	私 17.5
3(4)	明治大学	私 15.1	3(5)	日本大学	私 16.9	3(6)	日本体育大学	私 15.7
4(3)	早稲田大学	私 14.9	4(1)	青山学院大学	私 16.7	4(3)	慶應義塾大学	私 13.8
5(5)	慶應義塾大学	私 14.3	5(2)	上智大学	私 16.2	5(7)	日本大学	私 13.4
6(6)	上智大学	私 13.7	6(10)	慶應義塾大学	私 14.7	6(5)	明治大学	私 12.7
7(2)	立教大学	私 11.4	7(52)	桜美林大学	私 7.7	7(31)	法政大学	私 12.2
8(7)	日本体育大学	私 11.1	8(4)	立教大学	私 6.2	8(3)	早稲田大学	私 12.0
9(13)	法政大学	私 7.7	9(90)	お茶の水女子大学	国 6.1	9(7)	日本女子体育大学	私 11.0
10(88)	お茶の水女子大学	国 7.0	9(11)	日本体育大学	私 6.1	10(15)	東京女子体育大学	私 10.8
11(26)	東京女子体育大学	私 6.9	11(37)	東洋大学	私 5.8	11(16)	上智大学	私 10.7
12(12)	日本女子体育大学	私 6.8	12(19)	東京大学	国 5.4	12(13)	日本女子大学	私 10.2
13(9)	明治学院大学	私 6.4	13(34)	中央大学	私 5.3	13(9)	明治学院大学	私 10.1
14(25)	中央大学	私 6.2	14(22)	東海大学	私 5.0	14(39)	駒沢女子大学	私 9.2
15(51)	桜美林大学	私 6.0	15(7)	京都大学	国 4.8	15(192)	こども教育宝仙大学	私 8.1
			15(13)	駒澤大学	私 4.8			
			15(174)	白百合女子大学	私 4.8			

※イメージ項目において()内は昨年順位。 ※区分 国立/国 公立/公 私立/私

■ 落ち着いた

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(4)	お茶の水女子大学	国 16.4	1(1)	東京大学	国 16.9	1(2)	お茶の水女子大学	国 25.2
2(1)	東京大学	国 14.1	2(20)	東京理科大学	私 9.6	2(17)	上智大学	私 13.4
3(7)	上智大学	私 10.7	3(19)	慶應義塾大学	私 9.3	3(1)	東京大学	国 10.7
4(10)	慶應義塾大学	私 9.1	4(9)	法政大学	私 8.7	4(4)	立教大学	私 10.5
5(3)	立教大学	私 7.8	5(6)	上智大学	私 8.5	5(27)	青山学院大学	私 9.4
6(9)	横浜国立大学	国 7.7	5(13)	一橋大学	国 8.5	6(10)	慶應義塾大学	私 8.9
7(11)	法政大学	私 7.3	7(8)	早稲田大学	私 8.0	7(12)	横浜国立大学	国 8.7
8(27)	中央大学	私 7.0	8(3)	京都大学	国 7.3	8(23)	東京女子大学	私 8.5
9(2)	京都大学	国 6.9	9(20)	お茶の水女子大学	国 7.0	9(33)	大妻女子大学	私 8.3
9(27)	東京理科大学	私 6.9	10(100)	日本大学	私 6.9	10(28)	中央大学	私 7.9
11(5)	学習院大学	私 6.4	11(11)	横浜国立大学	国 6.7	11(99)	東洋大学	私 7.8
11(14)	明治大学	私 6.4	12(24)	中央大学	私 6.1	12(6)	学習院大学	私 7.0
13(26)	青山学院大学	私 6.2	12(11)	明治大学	私 6.1	12(6)	白百合女子大学	私 7.0
13(16)	一橋大学	国 6.2	14(4)	学習院大学	私 5.8	12(14)	津田塾大学	私 7.0
15(78)	東京医科大学	国 5.4	15(2)	立教大学	私 5.4	15(26)	明治大学	私 6.8
15(71)	日本大学	私 5.4						
15(6)	早稲田大学	私 5.4						

■ まじめ

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	東京大学	国 50.0	1(1)	東京大学	国 47.7	1(1)	東京大学	国 52.7
2(8)	お茶の水女子大学	国 19.8	2(5)	早稲田大学	私 16.0	2(4)	慶應義塾大学	私 25.2
3(5)	慶應義塾大学	私 19.7	3(31)	お茶の水女子大学	国 14.9	3(3)	お茶の水女子大学	国 24.4
4(3)	早稲田大学	私 17.3	4(21)	慶應義塾大学	私 14.7	4(5)	京都大学	国 19.1
5(2)	京都大学	国 15.7	4(8)	一橋大学	国 14.7	5(2)	早稲田大学	私 18.8
6(7)	一橋大学	国 15.2	6(11)	横浜国立大学	国 12.5	6(10)	東京理科大学	私 18.3
7(9)	東京理科大学	私 14.7	7(6)	上智大学	私 12.3	7(11)	筑波大学	国 16.0
8(11)	横浜国立大学	国 13.2	7(24)	中央大学	私 12.3	8(6)	一橋大学	国 15.8
9(10)	上智大学	私 12.8	9(7)	東京理科大学	私 12.2	9(7)	学習院大学	私 13.9
10(4)	筑波大学	国 12.4	10(2)	京都大学	国 12.1	9(8)	横浜国立大学	国 13.9
11(6)	学習院大学	私 12.3	11(4)	学習院大学	私 10.6	11(12)	明治大学	私 13.6
12(24)	中央大学	私 11.6	12(3)	筑波大学	国 8.8	12(16)	上智大学	私 13.4
13(12)	明治大学	私 10.2	13(45)	国際基督教大学	私 7.3	12(20)	千葉大学	国 13.4
14(22)	法政大学	私 10.0	13(10)	東京工業大学	国 7.3	14(17)	法政大学	私 13.0
15(17)	千葉大学	国 9.8	15(26)	群馬大学	国 7.0	15(51)	東京女子大学	私 11.1
			15(13)	明治大学	私 7.0			

■ 自由な

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	青山学院大学	私 19.4	1(7)	早稲田大学	私 18.4	1(1)	青山学院大学	私 22.8
2(2)	早稲田大学	私 16.6	2(6)	慶應義塾大学	私 16.3	2(5)	慶應義塾大学	私 15.4
3(5)	慶應義塾大学	私 15.9	3(1)	青山学院大学	私 15.8	3(6)	日本大学	私 15.2
4(2)	日本大学	私 13.2	4(8)	明治大学	私 13.9	4(2)	早稲田大学	私 14.5
5(6)	明治大学	私 12.9	5(3)	東京大学	国 11.5	5(4)	立教大学	私 11.9
6(7)	東京大学	国 9.5	5(2)	日本大学	私 11.5	6(3)	立教大学	私 11.2
7(15)	上智大学	私 9.1	7(12)	上智大学	私 10.0	7(16)	日本体育大学	私 10.4
8(53)	日本体育大学	私 7.8	8(4)	京都大学	国 7.3	8(51)	東京芸術大学	国 9.7
9(22)	桜美林大学	私 7.3	9(199)	日本体育大学	私 5.3	9(36)	桜美林大学	私 9.6
10(50)	東京芸術大学	国 7.2	10(172)	多摩美術大学	私 5.0	10(35)	上智大学	私 8.0
11(4)	立教大学	私 6.9	11(14)	同志社大学	私 4.9	11(8)	中央大学	私 7.9
12(11)	法政大学	私 6.4	12(24)	桜美林大学	私 4.8	12(18)	法政大学	私 7.8
13(8)	京都大学	国 6.2	12(140)	作新学院大学	私 4.8	13(40)	国際基督教大学	私 7.4
14(9)	中央大学	私 5.8	12(14)	城西大学	私 4.8	14(11)	東京大学	国 7.1
15(133)	立正大学	私 5.0	12(199)	筑波技術大学	国 4.8	15(43)	東京未来大学	私 6.1
			12(196)	帝京平成大学	私 4.8			
			12(53)	東京芸術大学	国 4.8			
			12(262)	兵庫県立大学	公 4.8			
			12(10)	法政大学	私 4.8			
			12(49)	ものつくり大学	私 4.8			

■ 上品な

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(2)	お茶の水女子大学	国 34.3	1(8)	慶應義塾大学	私 26.4	1(1)	お茶の水女子大学	国 41.7
2(3)	上智大学	私 22.3	2(6)	お茶の水女子大学	国 26.3	2(17)	聖心女子大学	私 24.4
3(7)	慶應義塾大学	私 21.5	3(2)	上智大学	私 23.1	3(5)	白百合女子大学	私 24.3
4(3)	フェリス学院大学	私 20.6	4(6)	フェリス学院大学	私 18.5	4(12)	東京女子大学	私 23.9
5(1)	学習院大学	私 19.6	5(1)	学習院大学	私 15.4	5(2)	学習院大学	私 23.5
6(6)	白百合女子大学	私 18.6	6(19)	学習院女子大学	私 13.3	6(2)	フェリス学院大学	私 23.2
7(9)	学習院女子大学	私 18.2	7(10)	白百合女子大学	私 12.5	7(4)	学習院女子大学	私 23.0
8(17)	東京女子大学	私 16.4	8(9)	東京大学	国 12.3	8(8)	上智大学	私 21.4
9(21)	聖心女子大学	私 15.7	9(21)	国立音楽大学	私 12.2	9(49)	国立音楽大学	私 16.9
10(35)	国立音楽大学	私 14.5	10(5)	青山学院大学	私 11.4	9(26)	聖マリアンナ医科大学	私 16.9
11(31)	聖マリアンナ医科大学	私 13.5	11(3)	早稲田大学	私 10.4	11(15)	大妻女子大学	私 16.5
12(10)	青山学院大学	私 13.2	12(31)	聖マリアンナ医科大学	私 10.3	12(7)	慶應義塾大学	私 16.3
13(5)	立教大学	私 11.5	13(27)	国際基督教大学	私 9.7	13(13)	青山学院大学	私 15.0
14(15)	津田塾大学	私 11.0	14(35)	東京女子大学	私 9.6	14(18)	津田塾大学	私 14.9
15(32)	国際基督教大学	私 10.7	15(12)	成城大学	私 9.3	15(9)	昭和女子大学	私 14.4
			15(3)	立教大学	私 9.3			

■ 個性的な

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	東京大学	国 24.8	1(1)	東京大学	国 25.4	1(1)	東京大学	国 24.1
2(11)	東京芸術大学	国 11.5	2(14)	早稲田大学	私 12.8	2(7)	東京芸術大学	国 16.9
3(5)	慶應義塾大学	私 11.1	3(2)	京都大学	国 11.3	3(3)	慶應義塾大学	私 13.0
4(4)	早稲田大学	私 10.8	4(24)	慶應義塾大学	私 9.3	4(21)	女子美術大学	私 11.4
5(2)	京都大学	国 9.6	5(11)	上智大学	私 8.5	5(2)	武蔵野美術大学	私 9.0
6(8)	デジタルハリウッド大学	私 7.5	5(67)	日本大学	私 8.5	6(4)	早稲田大学	私 8.5
7(32)	女子美術大学	私 6.9	7(10)	デジタルハリウッド大学	私 7.1	7(9)	デジタルハリウッド大学	私 8.1
8(12)	上智大学	私 6.2	8(35)	東京芸術大学	国 6.3	8(6)	京都大学	国 8.3
8(57)	日本大学	私 6.2	9(23)	法政大学	私 5.8	9(10)	多摩美術大学	私 6.5
10(13)	多摩美術大学	私 5.7	9(60)	横浜国立大学	国 5.8	9(93)	東京農業大学	私 6.5
11(3)	武蔵野美術大学	私 5.6	11(27)	国際基督教大学	私 5.6	11(8)	青山学院大学	国 6.3
11(9)	明治大学	私 5.6	12(145)	中央大学	私 5.3	11(77)	お茶の水女子大学	国 6.3
13(6)	青山学院大学	私 5.4	13(3)	明治大学	私 5.2	11(16)	日本体育大学	私 6.3
13(20)	国際基督教大学	私 5.4	14(38)	多摩美術大学	私 5.0	14(18)	学習院大学	私 6.1
13(17)	日本体育大学	私 5.4	15(168)	東京電機大学	私 4.5	14(266)	国際武道大学	私 6.1
						14(120)	洗足学園音楽大学	私 6.1

■ 親しみやすい

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(4)	日本大学	私 15.7	1(3)	日本大学	私 16.2	1(4)	日本大学	私 15.2
2(6)	青山学院大学	私 11.2	2(2)	明治大学	私 12.2	2(6)	青山学院大学	私 12.6
3(2)	明治大学	私 9.9	3(4)	青山学院大学	私 9.6	3(16)	法政大学	私 10.4
4(9)	法政大学	私 8.2	4(6)	早稲田大学	私 8.0	4(1)	立教大学	私 9.6
5(3)	早稲田大学	私 7.0	5(9)	京都大学	国 6.5	5(15)	上智大学	私 8.9
6(13)	中央大学	私 6.2	6(8)	駒澤大学	私 6.4	6(3)	明治大学	私 7.6
7(1)	立教大学	私 6.1	7(40)	中央大学	私 6.1	7(20)	慶應義塾大学	私 6.5
8(10)	駒澤大学	私 5.8	8(7)	法政大学	私 5.8	8(8)	中央大学	私 6.3
9(14)	上智大学	私 5.7	8(48)	横浜国立大学	国 5.8	9(2)	早稲田大学	私 6.0
10(23)	慶應義塾大学	私 5.5	10(83)	東京農業大学	私 4.8	10(13)	東洋大学	私 5.2
11(47)	横浜国立大学	国 5.0	11(61)	慶應義塾大学	私 4.7	11(19)	駒澤大学	私 5.1
12(8)	京都大学	国 4.7	12(17)	日本体育大学	私 4.4	12(92)	和洋女子大学	私 4.9
13(15)	日本体育大学	私 4.6	13(12)	神奈川大学	私 4.1	13(20)	日本体育大学	私 4.7
14(23)	神奈川大学	私 4.1	14(98)	拓殖大学	私 4.0	14(38)	鎌倉女子大学	私 4.6
14(12)	東洋大学	私 4.1	14(25)	帝京大学	私 4.0	15(220)	ヤマザキ学園大学	私 4.5

■ 厳格な

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	東京大学	国 20.3	1(1)	東京大学	国 20.8	1(1)	東京大学	国 19.6
2(5)	お茶の水女子大学	国 11.2	2(2)	京都大学	国 11.3	2(3)	お茶の水女子大学	国 13.4
3(3)	京都大学	国 10.8	3(5)	早稲田大学	私 10.4	3(4)	慶應義塾大学	私 10.6
4(4)	慶應義塾大学	私 10.3	4(4)	慶應義塾大学	私 10.1	4(2)	学習院大学	私 10.4
5(5)	早稲田大学	私 9.5	5(9)	お茶の水女子大学	国 8.8	5(14)	京都大学	国 10.3
6(2)	学習院大学	私 7.7	6(5)	一橋大学	国 7.8	6(5)	早稲田大学	私 8.5
7(8)	上智大学	私 6.6	7(8)	上智大学	私 6.9	7(11)	國學院大学	私 7.0
7(7)	一橋大学	国 6.6	8(16)	国際基督教大学	私 6.5	7(12)	津田塾大学	私 7.0
9(11)	國學院大学	私 6.2	9(40)	東京理科大学	私 6.4	9(31)	東京医科大学	私 6.5
10(18)	日本体育大学	私 5.8	10(23)	日本体育大学	私 6.1	9(8)	立命館大学	私 6.5
11(14)	津田塾大学	私 5.7	11(68)	学習院女子大学	私 5.9	11(13)	上智大学	私 6.3
12(12)	国際基督教大学	私 5.0	12(151)	大阪大学	国 5.8	12(15)	日本体育大学	私 5.5
13(55)	東京理科大学	私 4.9	12(13)	国士館大学	私 5.8	13(6)	一橋大学	国 5.3
14(29)	学習院女子大学	私 4.8	14(11)	國學院大学	私 5.4	14(45)	明治大学	私 5.1
14(13)	立命館大学	私 4.8	15(3)	学習院大学	私 4.8	15(35)	聖心女子大学	私 5.0
			15(33)	聖マリアンナ医科大学	私 4.8			
			15(224)	東京女子大学	私 4.8			

関東 / 感性的価値を表すイメージ項目

東海

関西

エリア別傾向

東海

知名度

東海は他エリアの大学が多く混在するのが特徴である。今年は上位20位中11校がエリア外の大学となった。名古屋大学が文系男子を除く全てで1位となった。国公立大は上位20位中8校だった。

男子では法政大学・立教大学が20位以内にランクイン。女子では愛知淑徳大学が5位以上順位を上げたほか、

金城学院大学・三重大学・岐阜大学が上位に入った。文系全体では愛知淑徳大学・愛知県立大学がランクイン。文系男子1位は昨年4位の東京大学。愛知大学が順位を上げ、中部大学が上位に入った。文系女子では中京大学・愛知淑徳大学と、エリア外のお茶の水女子大学・青山学院大学がランクアップ。金城学院大学・静岡大学が新たに入った。理系全体では青山学院大学が順位を上げたほか、筑波大学・名古屋

屋工業大学・法政大学が上位に入った。理系男子では筑波大学・上智大学・法政大学がランクイン。理系女子では中京大学・青山学院大学・岐阜大学・筑波大学・三重大学が順位を上げたほか、立教大学が上位に入った。

大きく順位変動をしているのはエリア外の大学が多く、首都圏と近畿圏の中間地点である東海エリアが、両エリア大手校の広報活動の影響を受けやすいのが窺える。

図表8 知名度・志願度ランキング／東海

知名度

全体				男子				女子			
順位	学年	学校名	区分 (%)	順位	学年	学校名	区分 (%)	順位	学年	学校名	区分 (%)
1	1	名古屋大学	国 88.0	1	2	名古屋大学	国 87.0	1	1	名古屋大学	国 89.0
2	2	早稲田大学	私 82.9	2	3	早稲田大学	私 83.9	2	5	中京大学	私 85.6
3	4	中京大学	私 82.2	3	4	東京大学	国 82.1	3	2	早稲田大学	私 81.7
4	3	東京大学	国 79.7	4	6	明治大学	私 81.1	4	6	南山大学	私 80.9
5	5	明治大学	私 79.6	5	1	中京大学	私 79.8	5	4	明治大学	私 77.8
6	7	南山大学	私 79.1	6	5	名城大学	私 77.7	6	9	お茶の水女子大学	国 77.6
7	6	名城大学	私 76.7	7	7	南山大学	私 77.5	7	8	慶應義塾大学	私 77.2
8	11	青山学院大学	私 76.5	8	11	青山学院大学	私 76.1	8	12	青山学院大学	私 77.0
9	8	立命館大学	私 75.8	9	9	京都大学	国 75.2	8	3	東京大学	国 77.0
10	9	慶應義塾大学	私 75.4	9	8	立命館大学	私 75.2	10	7	立命館大学	私 76.6
11	10	京都大学	国 74.9	11	10	慶應義塾大学	私 73.8	11	11	名城大学	私 75.6
12	12	同志社大学	私 70.9	12	12	静岡大学	国 72.1	12	10	京都大学	国 74.3
13	14	静岡大学	国 69.8	13	13	同志社大学	私 70.7	13	18	愛知淑徳大学	私 72.1
14	18	三重大学	国 68.3	14	15	三重大学	国 69.4	14	14	同志社大学	私 71.2
15	13	愛知大学	私 68.2	15	16	岐阜大学	国 68.1	15	15	愛知大学	私 69.6
16	15	上智大学	私 67.0	16	18	上智大学	私 67.4	16	21	金城学院大学	私 68.0
17	21	岐阜大学	国 66.8	17	14	愛知大学	私 67.0	17	17	静岡大学	国 67.3
18	16	お茶の水女子大学	国 65.9	18	19	筑波大学	国 65.3	18	23	三重大学	国 66.9
19	22	筑波大学	国 65.0	19	17	中部大学	私 64.1	19	13	上智大学	私 66.5
20	19	中部大学	私 63.2	20	26	法政大学	私 63.7	20	26	岐阜大学	国 65.4
				20	22	立教大学	私 63.7				

文系全体			
順位	学年	学校名	区分 (%)
1	1	名古屋大学	国 87.3
2	6	南山大学	私 83.1
3	5	中京大学	私 83.0
4	2	早稲田大学	私 81.7
5	4	明治大学	私 80.1
6	3	東京大学	国 78.8
7	9	青山学院大学	私 78.6
8	10	名城大学	私 78.1
9	8	慶應義塾大学	私 77.4
10	7	立命館大学	私 76.6
11	15	愛知大学	私 76.5
12	13	同志社大学	私 73.8
13	11	京都大学	国 73.1
14	16	お茶の水女子大学	国 71.3
15	14	上智大学	私 70.6
16	12	愛知学院大学	私 69.7
17	19	静岡大学	国 66.8
18	21	愛知淑徳大学	私 66.4
19	17	中部大学	私 66.3
20	28	愛知県立大学	公 65.8

志願度

全体				男子				女子			
順位	学年	学校名	区分 (%)	順位	学年	学校名	区分 (%)	順位	学年	学校名	区分 (%)
1	2	名古屋大学	国 10.2	1	2	名古屋大学	国 12.9	1	2	愛知県立大学	公 7.9
2	1	名城大学	私 9.9	2	1	名城大学	私 12.5	2	4	名古屋市立大学	公 7.8
3	4	三重大学	国 7.2	3	3	名古屋工業大学	国 9.6	3	3	南山大学	私 7.5
4	6	南山大学	私 7.1	4	6	岐阜大学	国 9.4	4	1	名古屋大学	国 6.9
5	5	岐阜大学	国 6.8	5	7	静岡大学	国 8.9	5	7	名城大学	私 6.7
5	3	中京大学	私 6.8	6	4	三重大学	国 8.6	6	5	愛知淑徳大学	私 6.1
7	9	名古屋市立大学	公 6.3	7	5	中京大学	私 7.9	7	13	椋山女学園大学	私 5.9
8	7	静岡大学	国 6.0	8	11	南山大学	私 6.8	8	6	中京大学	私 5.5
8	8	名古屋工業大学	国 6.0	9	10	愛知大学	私 5.5	8	8	三重大学	国 5.5
10	9	愛知県立大学	公 4.7	10	9	中部大学	私 5.2	10	15	静岡県立大学	公 4.5
10	11	愛知大学	私 4.7	11	13	名古屋市立大学	公 5.1	11	13	名古屋外国語大学	私 4.2
12	14	中部大学	私 4.3	12	8	愛知学院大学	私 4.4	12	12	愛知大学	私 3.8
13	13	愛知学院大学	私 3.7	13	15	愛知工業大学	私 4.3	13	11	愛知教育大学	国 3.7
13	14	愛知淑徳大学	私 3.7	14	17	立命館大学	私 3.2	13	19	藤田保健衛生大学	私 3.7
15	12	愛知教育大学	国 3.2	14	22	早稲田大学	私 3.2	15	8	岐阜大学	国 3.5
16	16	静岡県立大学	公 3.1	16	12	愛知教育大学	国 2.7	15	10	金城学院大学	私 3.5
17	20	立命館大学	私 2.8	16	25	京都大学	国 2.7	17	27	中部大学	私 3.1
18	29	愛知工業大学	私 2.7	16	16	明治大学	私 2.7	18	18	愛知学院大学	私 2.8
18	25	椋山女学園大学	私 2.7	19	20	同志社大学	私 2.6	19	16	静岡大学	国 2.4
20	17	名古屋外国語大学	私 2.6	20	18	横浜国立大学	国 2.5	19	22	日本福祉大学	私 2.4
								19	23	立命館大学	私 2.4

文系全体			
順位	学年	学校名	区分 (%)
1	1	南山大学	私 12.0
2	2	中京大学	私 9.4
3	4	愛知県立大学	公 8.3
4	7	名城大学	私 7.7
5	3	愛知大学	私 7.6
6	10	名古屋市立大学	公 7.0
7	5	愛知淑徳大学	私 6.9
8	9	名古屋大学	国 6.3
9	12	三重大学	国 5.7
10	5	愛知学院大学	私 5.2
11	10	名古屋外国語大学	私 4.8
12	8	愛知教育大学	国 4.3
13	21	椋山女学園大学	私 3.6
13	17	立命館大学	私 3.6
15	19	静岡大学	国 3.3
15	20	同志社大学	私 3.3
15	25	明治大学	私 3.3
18	15	中部大学	私 3.2
19	17	青山学院大学	私 2.9
20	15	岐阜大学	国 2.5
20	14	金城学院大学	私 2.5

志願度

志願度では立命館大学を除く上位20位全てエリア内の大学となり、国公立大は20校中9校と3エリアで最多。今年名古屋大学が名城大学を抜いて1位となったが、その差は0.3ポイントと僅差だ。愛知工業大学・椋山女学園大学がランクインした。

男子では名古屋大学が昨年2位から1位に返り咲いた。名城大学を除く上位6位までが国立大学だ。エリア外から早稲田大学・京都大学が新たにラ

ンクインした。女子は愛知県立大学が初の1位。2位に名古屋市立大学が続ぎ、公立大学が強さを見せた。3位の南山大学も含め、ポイント差は0.4ポイントと僅差である。椋山女学園大学・静岡県立大学・藤田保健衛生大学が順位を伸ばしたほか、中部大学・日本福祉大学・立命館大学がランクインした。文系全体では南山大学が1位。同志社大学が順位を上げ、椋山女学園大学・明治大学が上位に入った。文系男子は中京大学が3連覇。静岡大学・岐阜大学・愛知淑徳大学が順位を上げ、

同志社大学・明治大学・慶應義塾大学・横浜国立大学がランクインした。文系女子では愛知県立大学が1位。名古屋市立大学・椋山女学園大学がランクアップしたほか、名古屋学芸大学・中部大学と、エリア外の青山学院大学・立命館大学・明治大学がランクインした。理系全体の1位は名古屋大学。2013年以來上位8位までは順位も顔ぶれも全く同じだったが、今年2位以下が変動している。豊田工業大学・愛知医科大学・愛知学院大学と、エリア外から早稲田大学・筑波大学・立命館大学が

※知名度:高校所在地が東海エリアの高校生の「知っている大学」。志願度:高校所在地が東海エリアの高校生の「志願したい大学」(質問紙で4校まで選択)。
※区分 国立/国 公立/公 私立/私
※エリア外の大学がランクインした場合、関東エリアの大学を青色、関西エリアの大学を緑色で示した。

文系				理系															
文系男子				文系女子				理系全体				理系男子				理系女子			
順位	昨年度	学校名	区分 (%)	順位	昨年度	学校名	区分 (%)	順位	昨年度	学校名	区分 (%)	順位	昨年度	学校名	区分 (%)	順位	昨年度	学校名	区分 (%)
1	4	東京大学	国 85.1	1	1	名古屋大学	国 90.0	1	1	名古屋大学	国 91.6	1	1	名古屋大学	国 91.3	1	2	名古屋大学	国 92.1
2	3	名古屋大学	国 83.5	2	7	中京大学	私 86.6	2	2	早稲田大学	私 86.0	2	3	早稲田大学	私 82.9	2	1	早稲田大学	私 91.4
3	5	明治大学	私 83.3	3	5	南山大学	私 85.7	3	3	東京大学	国 83.0	3	5	中京大学	私 81.3	3	4	東京大学	国 87.1
3	2	早稲田大学	私 83.3	4	14	お茶の水女子大学	国 81.3	4	7	明治大学	私 82.0	4	3	東京大学	国 80.6	4	3	明治大学	私 85.7
5	9	名城大学	私 80.0	5	2	早稲田大学	私 80.5	5	5	中京大学	私 81.9	5	6	京都大学	国 80.0	5	8	京都大学	国 83.3
6	7	南山大学	私 79.8	6	6	慶應義塾大学	私 80.0	6	6	京都大学	国 80.9	6	9	明治大学	私 79.8	5	10	中京大学	私 83.3
7	1	中京大学	私 79.2	7	12	青山学院大学	私 78.9	7	9	立命館大学	私 78.5	7	10	南山大学	私 78.3	7	12	青山学院大学	私 81.4
8	15	愛知大学	私 78.9	8	8	立命館大学	私 77.9	8	4	名城大学	私 76.8	8	8	立命館大学	私 78.0	8	7	立命館大学	私 79.6
9	6	青山学院大学	私 78.1	9	4	明治大学	私 77.4	9	14	青山学院大学	私 76.5	9	11	静岡大学	国 76.4	9	20	岐阜大学	国 78.9
10	10	同志社大学	私 75.2	10	10	名城大学	私 76.7	10	11	静岡大学	国 75.9	9	2	名城大学	私 76.4	10	14	名城大学	私 77.6
10	8	立命館大学	私 75.2	11	20	愛知淑徳大学	私 74.5	11	10	南山大学	私 75.3	11	7	慶應義塾大学	私 74.5	11	18	筑波大学	国 77.1
12	12	愛知学院大学	私 74.8	12	11	愛知大学	私 74.4	12	7	慶應義塾大学	私 75.1	11	14	三重大	国 74.5	12	5	お茶の水女子大学	国 76.3
13	10	慶應義塾大学	私 73.9	13	2	東京大学	国 73.7	12	13	三重大	国 75.1	13	15	青山学院大学	私 73.6	12	6	慶應義塾大学	私 76.3
14	13	京都大学	国 73.8	14	13	京都大学	国 72.5	14	12	岐阜大学	国 74.4	14	13	名古屋工業大学	国 72.7	12	17	三重大	国 76.3
15	22	中部大学	私 70.4	14	16	同志社大学	私 72.5	15	24	筑波大学	国 71.5	15	11	岐阜大学	国 72.0	15	11	静岡大学	国 75.0
16	19	上智大学	私 69.6	16	9	上智大学	私 71.3	16	15	同志社大学	私 70.2	16	17	同志社大学	私 68.7	16	12	同志社大学	私 74.1
17	20	立教大学	私 67.8	17	18	愛知県立大学	公 70.7	17	19	一橋大学	国 69.2	17	22	筑波大学	国 68.2	17	18	一橋大学	国 72.2
18	14	静岡大学	国 67.0	18	26	金城学院大学	私 70.5	18	21	名古屋工業大学	国 69.0	18	20	一橋大学	国 68.0	18	9	南山大学	私 70.0
19	17	筑波大学	国 66.7	19	19	名古屋外国語大学	私 67.3	19	16	上智大学	私 66.6	19	21	上智大学	私 67.7	19	16	駒澤大学	私 67.1
20	20	法政大学	私 66.4	20	25	静岡大学	国 66.7	20	33	法政大学	私 63.7	20	30	法政大学	私 64.7	20	21	立教大学	私 66.7

文系				理系															
文系男子				文系女子				理系全体				理系男子				理系女子			
順位	昨年度	学校名	区分 (%)	順位	昨年度	学校名	区分 (%)	順位	昨年度	学校名	区分 (%)	順位	昨年度	学校名	区分 (%)	順位	昨年度	学校名	区分 (%)
1	1	中京大学	私 13.0	1	2	愛知県立大学	公 12.3	1	1	名古屋工業大学	国 16.8	1	1	名古屋工業大学	国 20.0	1	1	名古屋工業大学	国 13.0
2	4	南山大学	私 12.2	2	1	南山大学	私 11.8	2	3	名古屋工業大学	国 15.3	2	3	名古屋工業大学	国 18.6	2	2	名古屋市立大学	公 11.0
3	5	名城大学	私 10.8	3	3	愛知淑徳大学	私 9.3	3	4	岐阜大学	国 13.1	3	2	名城大学	私 15.0	3	3	岐阜大学	国 10.0
4	2	愛知大学	私 10.3	4	10	名古屋市立大学	公 7.2	4	2	名城大学	私 12.9	4	5	岐阜大学	私 14.5	4	4	名城大学	私 8.5
5	2	愛知学院大学	私 7.7	5	5	名古屋外国語大学	私 6.7	5	6	静岡大学	国 10.2	5	6	静岡大学	国 13.0	5	6	静岡県立大学	公 7.5
6	7	名古屋大学	国 7.4	6	11	椋山女学園大学	私 6.5	5	5	三重大	国 10.2	6	4	三重大	国 12.0	5	9	藤田保健衛生大学	私 7.5
7	8	名古屋市立大学	公 6.9	6	4	中京大学	私 6.5	7	7	名古屋市立大学	公 6.8	7	8	愛知工業大学	私 7.3	7	5	三重大	国 6.5
8	11	三重大	国 5.3	8	12	三重大	国 6.0	8	10	愛知工業大学	私 5.6	8	7	中部大学	私 5.7	8	19	名古屋工業大学	国 5.5
9	16	静岡大学	国 5.0	9	6	愛知大学	私 5.3	9	8	中部大学	私 5.0	9	14	名古屋市立大学	公 4.8	9	11	愛知医科大学	私 5.0
10	16	岐阜大学	国 4.2	9	9	名古屋大学	国 5.3	10	10	藤田保健衛生大学	私 4.3	10	9	中京大学	私 4.1	10	7	静岡大学	国 4.5
10	21	同志社大学	私 4.2	11	13	名城大学	私 5.1	11	13	京都大学	国 3.7	11	14	京都大学	国 3.9	11	11	京都大学	国 3.5
12	19	愛知淑徳大学	私 4.0	12	8	愛知教育大学	国 4.9	12	9	静岡県立大学	公 3.5	12	34	早稲田大学	私 3.4	11	15	椋山女学園大学	私 3.5
12	21	明治大学	私 4.0	13	7	金城学院大学	私 4.6	13	13	中京大学	私 3.2	13	10	豊田工業大学	私 3.2	11	28	中部大学	私 3.5
12	11	立命館大学	私 4.0	14	17	愛知学院大学	私 3.2	14	40	早稲田大学	私 3.1	14	34	筑波大学	国 2.7	14	16	大阪大学	国 3.0
15	6	愛知教育大学	国 3.7	14	21	青山学院大学	私 3.2	15	17	大阪大学	国 2.4	14	14	東京大学	国 2.7	14	36	日本福祉大学	私 3.0
15	8	中部大学	私 3.7	14	21	名古屋学芸大学	私 3.2	16	32	筑波大学	国 2.3	14	14	豊橋技術科学大学	国 2.7	16	22	岐阜県立看護大学	公 2.5
17	10	愛知県立大学	公 3.4	14	21	立命館大学	私 3.2	16	24	豊田工業大学	私 2.3	14	10	藤田保健衛生大学	私 2.7	16	36	岐阜薬科大学	公 2.5
18	11	早稲田大学	私 3.2	18	27	中部大学	私 2.8	18	31	愛知医科大学	私 2.2	14	28	立命館大学	私 2.7	16	22	千葉大学	国 2.5
19	31	慶應義塾大学	私 2.9	18	27	明治大学	私 2.8	19	32	立命館大学	私 2.0	19	26	南山大学	私 2.5	16	28	常葉大学	私 2.5
19	26	横浜国立大学	国 2.9	20	16	静岡県立大学	公 2.5	20	27	愛知学院大学	私 1.9	20	40	近畿大学	私 2.3	16	51	早稲田大学	私 2.5
				20	17	同志社大学	私 2.5	20	12	愛知教育大学	国 1.9	20	19	横浜国立大学	国 2.3				

図表9 志願度ランキング5年推移/東海

■ 文系全体

2012年				2013年				2014年				2015年				2016年			
順位	学校名	区分	(%)																
1	南山大学	私	12.9	1	南山大学	私	13.2	1	中京大学	私	12.7	1	南山大学	私	10.8	1	南山大学	私	12.0
2	中京大学	私	9.9	2	愛知大学	私	11.3	2	南山大学	私	12.4	2	中京大学	私	10.6	2	中京大学	私	9.4
3	愛知大学	私	9.8	3	中京大学	私	9.9	3	愛知大学	私	10.5	3	愛知大学	私	8.3	3	愛知県立大学	公	8.3
4	愛知県立大学	公	8.6	4	愛知学院大学	私	8.3	4	愛知学院大学	私	8.0	4	愛知県立大学	公	7.9	4	名城大学	私	7.7
4	愛知淑徳大学	私	8.6	5	愛知県立大学	公	7.3	5	愛知県立大学	公	7.3	5	愛知学院大学	私	6.5	5	愛知大学	私	7.6
6	名古屋市立大学	公	7.2	6	愛知淑徳大学	私	6.5	6	愛知淑徳大学	私	6.6	5	愛知淑徳大学	私	6.5	6	名古屋市立大学	公	7.0
7	名古屋大学	国	6.5	7	愛知教育大学	国	6.1	7	名城大学	私	6.3	7	名城大学	私	6.2	7	愛知淑徳大学	私	6.9
8	愛知学院大学	私	6.4	8	名城大学	私	5.8	8	名古屋市立大学	公	5.7	8	愛知教育大学	国	5.9	8	名古屋大学	国	6.3
9	三重大学	国	6.3	9	名古屋市立大学	公	5.4	9	愛知教育大学	国	5.2	9	名古屋大学	国	5.4	9	三重大学	国	5.7
10	名城大学	私	5.9	10	名古屋大学	国	5.3	10	名古屋外国語大学	私	5.0	10	名古屋外国語大学	私	5.1	10	愛知学院大学	私	5.2
11	愛知教育大学	国	5.7	11	中部大学	私	5.0	11	名古屋大学	国	4.8	10	名古屋市立大学	公	5.1	11	名古屋外国語大学	私	4.8
12	椋山女学園大学	私	5.3	12	名古屋外国語大学	私	4.7	12	静岡大学	国	4.4	12	三重大学	国	3.9	12	愛知教育大学	国	4.3
13	金城学院大学	私	4.2	13	金城学院大学	私	4.3	13	三重大学	国	4.3	13	常葉大学	私	3.6	13	椋山女学園大学	私	3.6
13	静岡大学	国	4.2	14	椋山女学園大学	私	3.7	14	椋山女学園大学	私	4.1	14	金城学院大学	私	3.5	13	立命館大学	私	3.6
15	名古屋外国語大学	私	4.1	15	明治大学	私	3.6	15	岐阜大学	国	4.0	15	岐阜大学	国	3.4	15	静岡大学	国	3.3
16	中部大学	私	3.8	16	静岡大学	国	3.5	16	金城学院大学	私	3.9	15	中部大学	私	3.4	15	同志社大学	私	3.3
17	立命館大学	私	3.7	16	三重大学	国	3.5	17	中部大学	私	3.5	17	青山学院大学	私	3.2	15	明治大学	私	3.3
18	岐阜大学	国	3.3	18	常葉大学	私	3.2	18	立命館大学	私	3.3	17	立命館大学	私	3.2	18	中部大学	私	3.2
19	東海学園大学	私	3.1	19	立命館大学	私	3.1	19	常葉大学	私	3.1	19	静岡大学	国	3.0	19	青山学院大学	私	2.9
20	早稲田大学	私	2.7	20	岐阜大学	国	3.0	20	同志社大学	私	3.0	20	同志社大学	私	2.9	20	岐阜大学	国	2.5
																20	金城学院大学	私	2.5

■ 文系男子

2012年				2013年				2014年				2015年				2016年			
順位	学校名	区分	(%)	順位	学校名	区分	(%)	順位	学校名	区分	(%)	順位	学校名	区分	(%)	順位	学校名	区分	(%)
1	愛知大学	私	13.6	1	愛知大学	私	15.4	1	中京大学	私	17.4	1	中京大学	私	13.5	1	中京大学	私	13.0
2	南山大学	私	12.1	2	中京大学	私	13.4	2	愛知大学	私	16.5	2	愛知学院大学	私	11.1	2	南山大学	私	12.2
3	中京大学	私	11.3	3	南山大学	私	12.7	3	南山大学	私	11.9	2	愛知大学	私	11.1	3	名城大学	私	10.8
4	名城大学	私	9.8	4	愛知学院大学	私	11.7	4	愛知学院大学	私	11.0	4	南山大学	私	10.4	4	愛知大学	私	10.3
5	愛知学院大学	私	8.6	5	名城大学	私	10.3	5	名城大学	私	10.1	5	名城大学	私	9.8	5	愛知学院大学	私	7.7
6	名古屋大学	国	7.9	6	名古屋大学	国	6.6	6	名古屋市立大学	公	6.4	6	愛知教育大学	国	6.2	6	名古屋大学	国	7.4
7	名古屋市立大学	公	6.9	7	中部大学	私	6.1	7	名古屋大学	国	5.5	7	名古屋大学	国	5.7	7	名古屋市立大学	公	6.9
8	三重大学	国	6.7	8	愛知教育大学	国	5.4	8	静岡大学	国	5.3	8	中部大学	私	5.2	8	三重大学	国	5.3
9	愛知県立大学	公	6.0	8	名古屋市立大学	公	5.4	9	立命館大学	私	5.1	8	名古屋市立大学	公	5.2	9	静岡大学	国	5.0
10	愛知教育大学	国	5.0	10	静岡大学	国	5.1	10	愛知教育大学	国	4.8	10	愛知県立大学	公	4.1	10	岐阜大学	国	4.2
11	静岡大学	国	4.8	11	明治大学	私	4.9	10	中部大学	私	4.8	11	青山学院大学	私	3.9	10	同志社大学	私	4.2
12	中部大学	私	4.6	12	愛知県立大学	公	4.4	12	愛知淑徳大学	私	4.6	11	常葉大学	私	3.9	12	愛知淑徳大学	私	4.0
13	立命館大学	私	4.4	13	名古屋学院大学	私	3.7	13	岐阜大学	国	4.4	11	三重大学	国	3.9	12	明治大学	私	4.0
14	岐阜大学	国	4.2	14	愛知淑徳大学	私	3.4	14	三重大学	国	4.2	11	立命館大学	私	3.9	12	立命館大学	私	4.0
15	同志社大学	私	4.0	14	同志社大学	私	3.4	14	明治大学	私	4.2	11	早稲田大学	私	3.9	15	愛知教育大学	国	3.7
16	法政大学	私	3.8	14	常葉大学	私	3.4	16	愛知県立大学	公	4.0	16	岐阜大学	国	3.4	15	中部大学	私	3.7
17	早稲田大学	私	3.5	14	立命館大学	私	3.4	16	名古屋外国語大学	私	4.0	16	静岡大学	国	3.4	17	愛知県立大学	公	3.4
18	愛知淑徳大学	私	3.1	14	早稲田大学	私	3.4	18	名古屋学院大学	私	3.7	16	名古屋外国語大学	私	3.4	18	早稲田大学	私	3.2
18	東海学園大学	私	3.1	19	三重大学	国	3.2	19	同志社大学	私	3.1	19	愛知淑徳大学	私	3.1	19	慶應義塾大学	私	2.9
20	静岡県立大学	公	2.9	20	岐阜大学	国	2.9	20	関西大学	私	2.9	19	名古屋学院大学	私	3.1	19	横浜国立大学	国	2.9
20	明治大学	私	2.9					20	静岡県立大学	公	2.9								
																20	同志社大学	私	2.5

■ 文系女子

2012年				2013年				2014年				2015年				2016年			
順位	学校名	区分	(%)	順位	学校名	区分	(%)												
1	南山大学	私	13.6	1	南山大学	私	13.6	1	南山大学	私	12.8	1	南山大学	私	11.1	1	愛知県立大学	公	12.3
2	愛知淑徳大学	私	12.6	2	愛知県立大学	公	9.5	2	愛知県立大学	公	9.8	2	愛知県立大学	公	10.7	2	南山大学	私	11.8
3	愛知県立大学	公	10.5	3	愛知淑徳大学	私	8.9	3	中京大学	私	9.2	3	愛知淑徳大学	私	9.0	3	愛知淑徳大学	私	9.3
4	椋山女学園大学	私	9.2	4	愛知大学	私	8.2	4	愛知淑徳大学	私	8.2	4	中京大学	私	8.4	4	名古屋市立大学	公	7.2
5	中京大学	私	8.8	5	金城学院大学	私	7.5	5	椋山女学園大学	私	7.2	5	名古屋外国語大学	私	6.4	5	名古屋外国語大学	私	6.7
6	金城学院大学	私	7.4	6	中京大学	私	7.2	6	金城学院大学	私	6.8	6	愛知大学	私	6.2	6	椋山女学園大学	私	6.5
6	名古屋市立大学	公	7.4	7	愛知教育大学	国	6.6	7	愛知大学	私	6.0	7	金城学院大学	私	6.0	6	中京大学	私	6.5
8	愛知大学	私	6.9	8	椋山女学園大学	私	6.5	8	愛知学院大学	私	5.8	8	愛知教育大学	国	5.6	8	三重大学	国	6.0
9	愛知教育大学	国	6.2	8	名古屋外国語大学	私	6.5	8	名古屋外国語大学	私	5.8	9	名古屋大学	国	5.3	9	愛知大学	私	5.3
10	三重大学	国	5.9	10	愛知学院大学	私	5.6	10	愛知教育大学	国	5.5	10	名古屋市立大学	公	5.1	9	名古屋大学	国	5.3
11	名古屋大学	国	5.5	11	名古屋市立大学	公	5.5	11	名古屋市立大学	公	5.2	11	椋山女学園大学	私	4.5	11	名城大学	私	5.1
12	名古屋外国語大学	私	5.2	12	名古屋大学	国	4.3	12	名古屋大学	国	4.3	12	三重大学	国	3.9	12	愛知教育大学	国	4.9
13	愛知学院大学	私	4.8	13	中部大学	私	4.1	12	三重大学	国	4.3	13	名城大学	私	3.6	13	金城学院大学	私	4.6
14	静岡大学	国	3.7	14	三重大学	国	3.7	14	常葉大学	私	4.0	14	岐阜大学	国	3.4	14	愛知学院大学	私	3.2
15	名古屋学芸大学	私	3.5	15	東海学園大学	私	3.4	15	名古屋学芸大学	私	3.8	14	常葉大学	私	3.4	14	青山学院大学	私	3.2
16	中部大学	私	3.3	16	立教大学	私	3.2	15	名古屋女子大学	私	3.8	16	静岡県立大学	公	3.2	14	名古屋学芸大学	私	3.2
16	立命館大学	私	3.3	17	岐阜大学	国	3.1	17	岐阜大学	国	3.7	17	愛知学院大学	私	3.0	14	立命館大学	私	3.2
18	東海学園大学	私	3.1	17	常葉大学	私	3.1	17	静岡大学	国	3.7	17	同志社大学	私	3.0	18	中部大学	私	2.8
19	名城大学	私	3.0	19	青山学院大学	私	2.9	19	名城大学	私	3.5	19	静岡大学	国	2.8	18	明治大学	私	2.8
20	岐阜大学	国	2.5	19	立命館大学	私	2.9	20	同志社大学	私	3.0	19	名古屋女子大学	私	2.8	20	静岡県立大学	公	2.5
20	名古屋女子大学	私	2.5												20	同志社大学	私	2.5	

※高校所在地が東海エリアの高校生の「志願したい大学」(質問紙で4校まで選択)。 ※区分 国立/国 公立/公 私立/私
 ※エリア外の大学がランクインした場合、関東エリアの大学を青色、関西エリアの大学を緑色で示した。

理系全体

2012年			2013年			2014年			2015年			2016年		
順位	学校名	区分 (%)												
1	名古屋大学	国 18.6	1	名古屋大学	国 17.4	1	名古屋大学	国 16.4	1	名古屋大学	国 14.7	1	名古屋大学	国 16.8
2	岐阜大学	国 12.2	2	名城大学	私 15.1	2	名城大学	私 14.0	2	名城大学	私 13.6	2	名古屋工業大学	国 15.3
3	名城大学	私 12.2	3	名古屋工業大学	国 14.3	3	名古屋工業大学	国 12.9	3	名古屋工業大学	国 13.0	3	岐阜大学	国 13.1
4	名古屋工業大学	国 10.3	4	岐阜大学	国 10.7	4	岐阜大学	国 11.0	4	岐阜大学	国 12.0	4	名城大学	私 12.9
5	三重大学	国 10.0	5	三重大学	国 9.0	5	三重大学	国 9.3	5	三重大学	国 11.4	5	静岡大学	国 10.2
6	静岡大学	国 9.4	6	静岡大学	国 8.2	6	静岡大学	国 8.6	6	静岡大学	国 9.7	5	三重大学	国 10.2
7	名古屋市立大学	公 7.2	7	名古屋市立大学	公 7.3	7	名古屋市立大学	公 7.5	7	名古屋市立大学	公 5.5	7	名古屋市立大学	公 6.8
8	静岡県立大学	公 5.1	8	中部大学	私 4.8	8	中部大学	私 5.9	8	中部大学	私 4.4	8	愛知工業大学	私 5.6
9	愛知工業大学	私 3.8	9	中京大学	私 4.6	9	愛知教育大学	国 4.3	9	静岡県立大学	公 3.7	9	中部大学	私 5.0
9	藤田保健衛生大学	私 3.8	10	静岡県立大学	公 4.4	9	愛知工業大学	私 4.3	10	愛知工業大学	私 3.3	10	藤田保健衛生大学	私 4.3
11	中部大学	私 3.6	10	藤田保健衛生大学	私 4.4	11	静岡県立大学	公 4.2	10	藤田保健衛生大学	私 3.3	11	京都大学	国 3.7
12	愛知教育大学	国 2.7	12	愛知工業大学	私 3.3	12	中京大学	私 4.0	12	愛知教育大学	国 2.9	12	静岡県立大学	公 3.5
13	愛知医科大学	私 2.4	12	横浜国立大学	国 3.3	13	京都大学	国 3.4	13	京都大学	国 2.8	13	中京大学	私 3.2
13	大阪大学	国 2.4	14	神戸大学	国 3.1	14	藤田保健衛生大学	私 3.1	13	中京大学	私 2.8	14	早稲田大学	私 3.1
13	京都大学	国 2.4	15	南山大学	私 2.9	15	神戸大学	国 2.5	15	愛知立大学	公 2.6	15	大阪大学	国 2.4
16	岐阜薬科大学	公 2.3	16	筑波大学	国 2.8	15	筑波大学	国 2.5	16	浜松医科大学	国 2.4	16	筑波大学	国 2.3
16	日本大学	私 2.3	17	大阪大学	国 2.7	17	千葉大学	国 2.4	17	大阪大学	国 2.3	16	豊田工業大学	私 2.3
18	中京大学	私 2.2	18	愛知教育大学	国 2.5	17	浜松医科大学	国 2.4	18	豊橋技術科学大学	国 2.0	18	愛知医科大学	私 2.2
19	愛知学院大学	私 2.1	18	常葉大学	私 2.5	19	愛知学院大学	私 2.3	18	明治大学	私 2.0	19	立命館大学	私 2.0
19	神戸大学	国 2.1	20	愛知学院大学	私 2.4	19	鈴鹿医療科学大学	私 2.3	20	神戸大学	国 1.9	20	愛知学院大学	私 1.9
19	東京大学	国 2.1				19	南山大学	私 2.3	20	鈴鹿医療科学大学	私 1.9	20	愛知教育大学	国 1.9

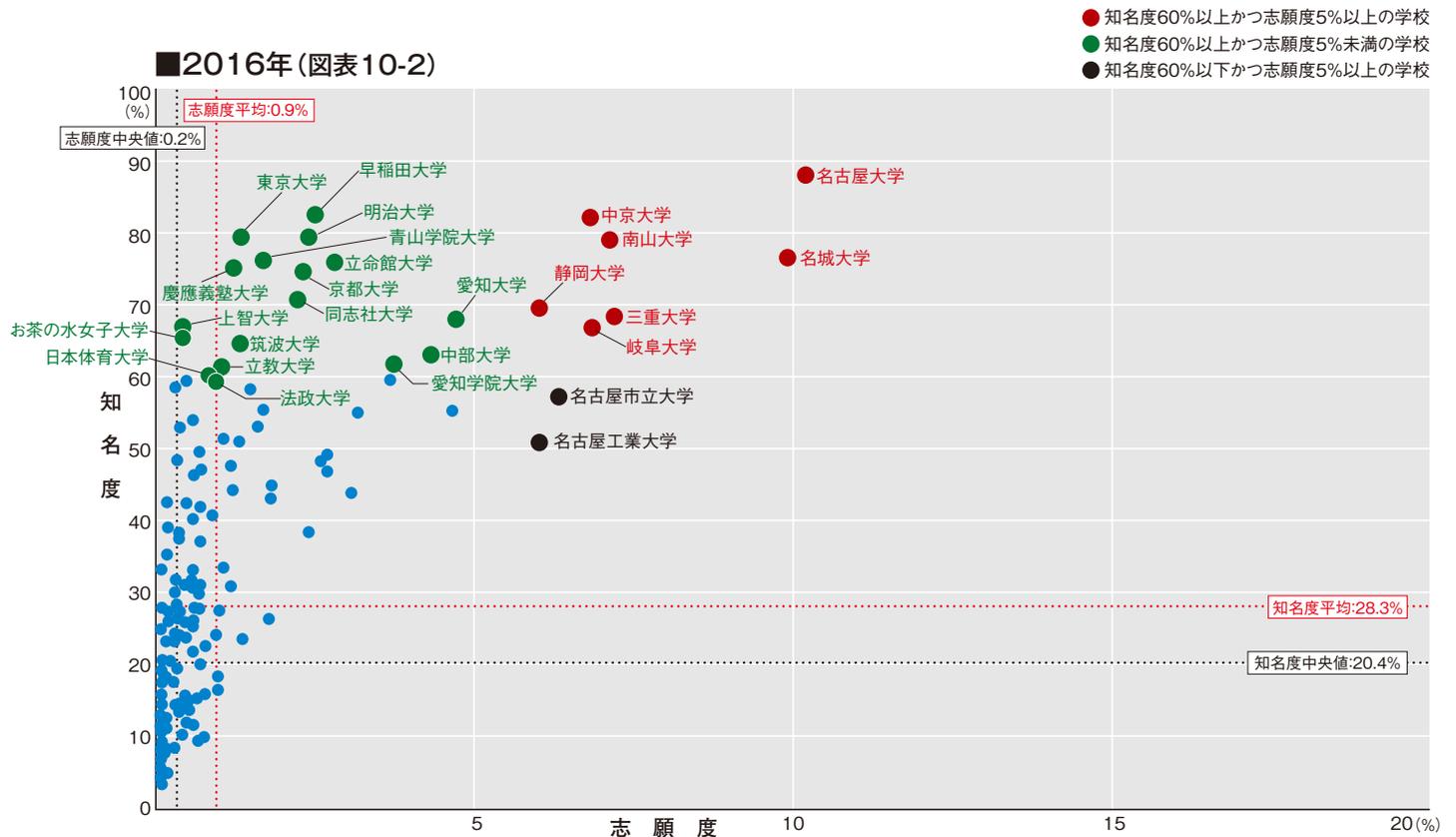
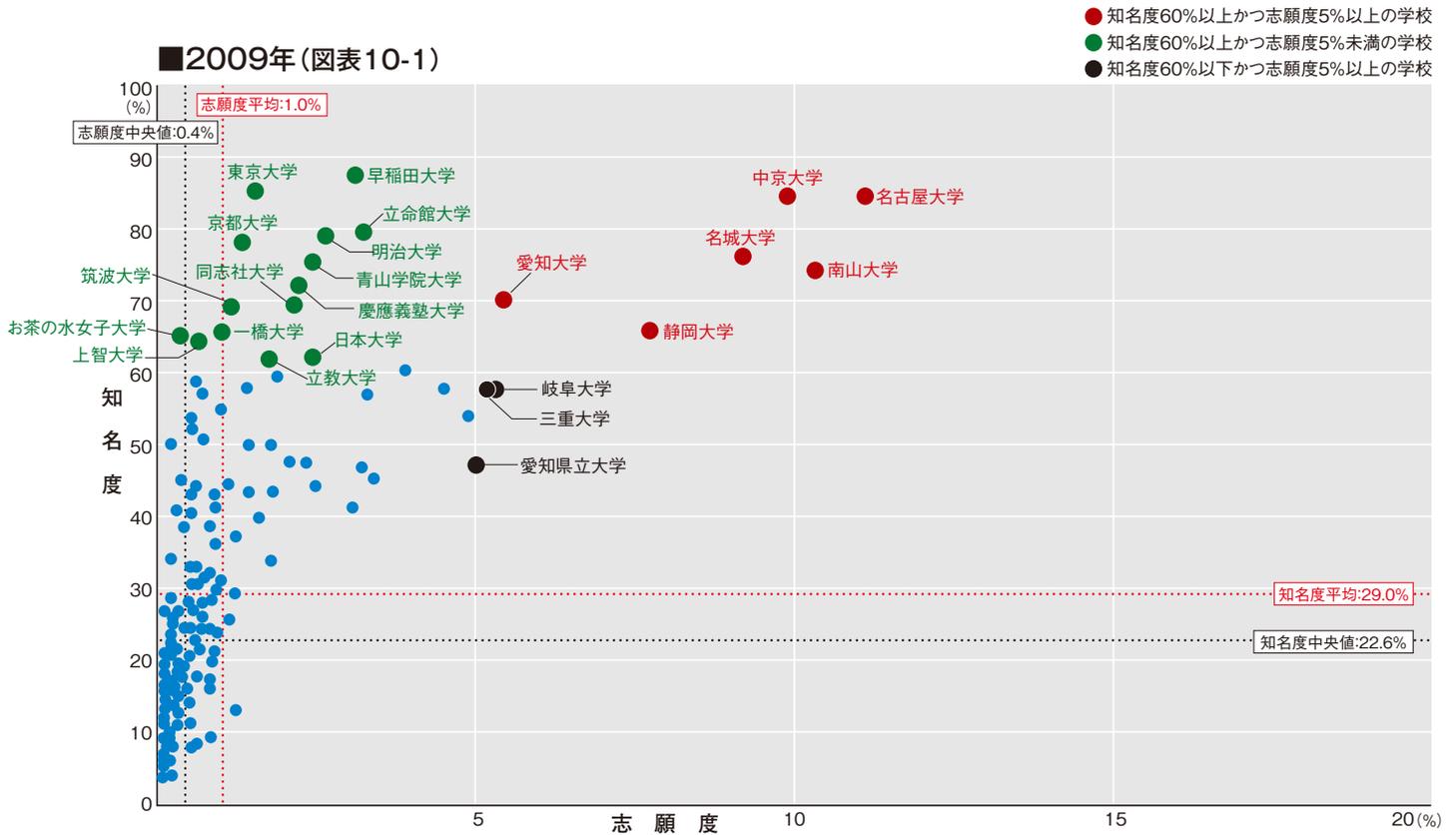
理系男子

2012年			2013年			2014年			2015年			2016年		
順位	学校名	区分 (%)	順位	学校名	区分 (%)	順位	学校名	区分 (%)	順位	学校名	区分 (%)	順位	学校名	区分 (%)
1	名古屋大学	国 17.8	1	名古屋工業大学	国 18.8	1	名古屋工業大学	国 16.5	1	名古屋工業大学	国 18.1	1	名古屋工業大学	国 20.0
2	名城大学	私 15.0	2	名古屋大学	国 18.2	1	名古屋大学	国 16.5	2	名城大学	私 15.3	2	名古屋大学	国 18.6
3	名古屋工業大学	国 13.6	3	名城大学	私 16.9	1	名城大学	私 16.5	3	名古屋大学	国 14.3	3	名城大学	私 15.0
4	岐阜大学	国 12.8	4	岐阜大学	国 11.4	4	静岡大学	国 10.8	4	三重大学	国 12.9	4	岐阜大学	国 14.5
5	静岡大学	国 12.6	5	三重大学	国 9.8	5	岐阜大学	国 8.6	5	岐阜大学	国 12.5	5	静岡大学	国 13.0
6	三重大学	国 10.0	6	静岡大学	国 9.4	5	三重大学	国 8.6	6	静岡大学	国 11.8	6	三重大学	国 12.0
7	愛知工業大学	私 5.6	7	中京大学	私 6.0	7	中部大学	私 7.5	7	中部大学	私 5.8	7	愛知工業大学	私 7.3
8	中部大学	私 4.7	8	名古屋工業大学	私 5.4	8	愛知工業大学	私 5.7	8	愛知工業大学	私 4.8	8	中部大学	私 5.7
9	名古屋市立大学	公 4.2	9	名古屋市立大学	公 5.3	9	中京大学	私 5.5	9	中京大学	私 3.8	9	名古屋市立大学	公 4.8
10	中京大学	私 3.3	10	愛知工業大学	私 4.9	10	愛知教育大学	国 4.6	10	愛知教育大学	国 2.6	10	中京大学	私 4.1
11	大阪大学	国 3.1	11	南山大学	私 4.3	11	名古屋市立大学	公 4.0	10	豊田工業大学	私 2.6	11	京都大学	国 3.9
12	静岡県立大学	公 3.0	12	横浜国立大学	国 3.6	12	京都大学	国 3.7	10	藤田保健衛生大学	私 2.6	12	早稲田大学	私 3.4
13	京都大学	国 2.5	13	愛知教育大学	国 3.0	13	筑波大学	国 3.5	10	明治大学	私 2.6	13	豊田工業大学	私 3.2
13	東京大学	国 2.5	14	筑波大学	国 2.8	14	千葉大学	国 3.1	14	京都大学	国 2.4	14	筑波大学	国 2.7
13	豊田工業大学	私 2.5	15	豊橋技術科学大学	国 2.6	15	神戸大学	国 2.7	14	静岡県立大学	公 2.4	14	東京大学	国 2.7
13	横浜国立大学	国 2.5	16	愛知学院大学	私 2.3	15	横浜国立大学	国 2.7	14	東京大学	国 2.4	14	豊橋技術科学大学	国 2.7
13	立命館大学	私 2.5	16	大阪大学	国 2.3	17	大同大学	私 2.6	14	豊橋技術科学大学	国 2.4	14	藤田保健衛生大学	私 2.7
18	愛知教育大学	私 2.3	16	神戸大学	国 2.3	17	南山大学	私 2.6	14	名古屋市立大学	公 2.2	14	立命館大学	私 2.7
18	早稲田大学	私 2.3	16	東京大学	国 2.3	19	愛知学院大学	私 2.2	19	愛知立大学	公 2.2	19	南山大学	私 2.5
20	神戸大学	国 2.2	16	藤田保健衛生大学	私 2.3	19	東京理科大学	私 2.2	19	横浜国立大学	国 2.2	20	近畿大学	私 2.3
20	千葉大学	国 2.2				19	早稲田大学	私 2.2				20	横浜国立大学	国 2.3
20	豊橋技術科学大学	国 2.2												
20	日本大学	私 2.2												

理系女子

2012年			2013年			2014年			2015年			2016年		
順位	学校名	区分 (%)	順位	学校名	区分 (%)									
1	名古屋大学	国 20.2	1	名古屋大学	国 15.7	1	名古屋大学	国 16.3	1	名古屋大学	国 15.5	1	名古屋大学	国 13.0
2	名古屋市立大学	公 13.2	2	名古屋市立大学	公 11.4	2	岐阜大学	国 15.6	2	名古屋市立大学	公 12.0	2	名古屋市立大学	公 11.0
3	岐阜大学	国 11.0	2	名城大学	私 11.4	3	名古屋市立大学	公 14.2	3	岐阜大学	国 10.8	3	岐阜大学	国 10.0
4	三重大学	国 10.1	4	岐阜大学	国 9.3	4	名城大学	国 10.6	4	名城大学	私 10.0	4	名城大学	私 8.5
5	静岡県立大学	公 9.2	4	静岡県立大学	公 9.3	5	名城大学	私 9.2	5	三重大学	国 8.4	5	静岡県立大学	公 7.5
6	藤田保健衛生大学	私 7.7	6	藤田保健衛生大学	私 8.9	6	静岡県立大学	公 8.9	6	静岡県立大学	公 6.4	5	藤田保健衛生大学	私 7.5
7	名城大学	私 6.7	7	三重大学	国 7.5	7	名古屋工業大学	国 6.0	7	静岡大学	国 5.6	7	三重大学	国 6.5
8	相山女子園大学	私 5.2	8	静岡大学	国 5.7	8	藤田保健衛生大学	私 5.7	8	浜松医科大学	国 5.2	8	名古屋工業大学	国 5.5
9	名古屋工業大学	国 4.0	9	神戸大学	国 5.0	9	金城学院大学	私 5.0	9	藤田保健衛生大学	私 4.8	9	愛知医科大学	私 5.0
10	愛知医科大学	私 3.4	9	常葉大学	私 5.0	10	岐阜薬科大学	公 4.3	10	金城学院大学	私 4.0	10	静岡大学	国 4.5
10	愛知教育大学	国 3.4	9	名古屋工業大学	国 5.0	10	静岡大学	国 4.3	11	愛知医科大学	私 3.6	11	京都大学	国 3.5
10	岐阜薬科大学	公 3.4	12	愛知医科大学	私 3.9	10	浜松医科大学	国 4.3	11	愛知教育大学	国 3.6	11	相山女子園大学	私 3.5
10	金城学院大学	私 3.4	13	愛知立大学	公 3.6	13	愛知教育大学	国 3.9	11	愛知立大学	公 3.6	11	中部大学	私 3.5
14	愛知学院大学	私 3.1	13	大阪大学	国 3.6	13	愛知立大学	公 3.9	11	京都大学	国 3.6	11	大阪大学	私 3.0
14	静岡大学	国 3.1	13	北里大学	私 3.6	15	鈴鹿医療科学大学	私 3.2	15	相山女子園大学	私 3.2	14	日本福祉大学	私 3.0
16	名古屋学芸大学	私 2.8	13	金城学院大学	私 3.6	16	京都大学	国 2.8	16	大阪大学	国 2.8	16	岐阜県立看護大学	公 2.5
16	日本赤十字豊田看護大学	私 2.8	13	相山女子園大学	私 3.6	16	中部大学	私 2.8	16	神戸大学	国 2.8	16	岐阜薬科大学	公 2.5
16	浜松医科大学	国 2.8	13	中部大学	私 3.6	18	愛知医科大学	私 2.5	16	名古屋学芸大学	私 2.8	16	千葉大学	国 2.5
16	三重県立看護大学	公 2.8	13	浜松医科大学	国 3.6	18	愛知学院大学	私 2.5	19	鈴鹿医療科学大学	私 2.4	16	常葉大学	私 2.5
20	首都大学東京	公 2.5	20	愛知学院大学	私 2.9	18	岐阜聖徳学園大学	私 2.5	19	聖隷クリストファー大学	私 2.4	16	早稲田大学	私 2.5
20	鈴鹿医療科学大学	私 2.5	20	筑波大学	国 2.9	18	相山女子園大学	私 2.5	19	名古屋工業大学	国 2.4			
20	聖隷クリストファー大学	私 2.5	20	日本赤十字豊田看護大学	私 2.9	18	聖隷クリストファー大学	私 2.5						
20	筑波大学	国 2.5	20	横浜国立大学	国 2.9									
20	日本大学	私 2.5												

図表 10 知名度×志願度プロット分析／東海



新たにランクインした。理系男子は名古屋工業大学が4連覇。志願度は昨年から約2ポイント上げて20%と高く、理系男子の5人に1人が志望している状態だ。名古屋市立大学が順位を上げ、南山大学と、エリア外の早稲田大学・筑波大学・立命館大学・近畿大学がランクインした。理系女子は名古屋工業大学が5連覇。上位4位は昨年と同順位で、20位中12校が国公立だ。名古屋工業大学がランクアップしたほか、中部大学・日本福祉大学・岐阜県立看護大学・岐阜薬科大学・常葉大学といった、コメディカル領域の学部を持つ大学が上位に入り、エリア外の千葉大学・早稲田大学もランクインした。

志願度経年比較 (2012～2016)

文理男女別の志願度を5年推移で追ったのが図表9である。

文系は2014年を除き南山大学が首位。近年2位とは僅差が続いていたが、今年はポイント差が26ポイントに広がった。文系男子は中京大学が3連覇を果たす一方、10～20位にエリア外の大学が6校入り、地元校比率が下がっている。特に関東圏からは4校と多い。文系女子では長らく1位を守ってきた南山大学を、今年は愛知県立大学が抜いた。また、エリア外のランクインも4校と、過去5年間で最多となった。

理系では名古屋工業大学が理系全体・理系女子で5連覇を果たした。11～20位にエリア外の大学が多く分布しており、エリア外流出も含めた進路選択が行われているようだ。理系男子は名古屋工業大学が4連覇。女子に比べて男子は上位校のポイント数が高く、一部の人気校に志願が集中して

いる様子が見てとれる。

知名度×志願度プロット分析

知名度を縦軸、志願度を横軸にとり、大学の分布を表したものを2009年と2016年で比較したのが図表10である。東海エリアの平均知名度は2009年の29.0%から2016年には28.3%へ0.7ポイント減少。中央値も22.6%から20.4%へと低下した。平均志願度は2009年の1.0%から2016年には0.9%へ、中央値も0.4%から0.2%へと低下した。

東海エリアは名古屋大学、名古屋市内の総合私大、そして愛知県に隣接する国立大学の3層で、赤表記ゾーンが構成される。2009年には志願度10.0%前後の大学が名古屋大学・南山大学・中京大学・名城大学だったが、2016年には名古屋大学・名城大学の2校に減少した。また、エリアの特徴として、黒表記ゾーンに国公立が数校分布すること、緑表記ゾーンにエリア外の大学が多く分布することの2点がある。2009年に黒表記ゾーンにいた岐阜大学・三重大学が、2016年には知名度を10ポイント前後向上させて赤表記ゾーンに入った一方、2016年には名古屋市立大学・名古屋工業大学が志願度を上げ、左下の青表記から黒表記ゾーンへとポジションチェンジを果たした。緑表記ゾーンの分布は2009年には14校だったところ、2016年は17校に増加している。

イメージ項目

最後に、高校生が個別の大学にどんなイメージを抱いているかを示した。機能的価値32項目(図表11)、感性的価値15項目(図表12)の計47項目である。

全47項目中約7割にあたる32項目でエリア外の大学が1位。東海エリアの大学が1位となったのは約3割の15項目で、うち12項目の1位は名古屋工業大学。名古屋工業大学以外にエリア内の大学が1位となったのは、「国際的なセンスが身につく」「入試方法が自分に合っている」(ともに南山大学)、「偏差値が自分に合っている」(名城大学)であった。また、本来最も伝えたいはずの「教育方針・カリキュラムが魅力的である」は、1位がエリア外の早稲田大学で、値も13.0%にとどまっている。そんな教育面を中心にランクアップが目立った大学をピックアップしてみよう。藤田保健衛生大学は「資格取得に有利である」「就職に有利である」「卒業後に社会で活躍できる」「学習設備や環境が整っている」「教育方針・カリキュラムが魅力的である」でランクアップ。アセンブリ入試等、高大接続の流れを推進する動きが高校側にも肯定的に受け入れられ、もともとの人材育成の実績を含めフォーカスされている様子だ。名古屋外国語大学は「教育方針・カリキュラムが魅力的である」「自分の興味や可能性が広がられる」「偏差値が自分に合っている」「専門分野を深く学べる」で順位を上げ、近年相次いだ改組を軸に志望者の幅が広がっていることが窺える。ほかに静岡県立大学は「学校が発展していく可能性がある」「教育方針・カリキュラムが魅力的である」「就職に有利である」「自分の興味や可能性が広がられる」等で、豊田工業大学は「専門分野を深く学べる」「学生の面倒見が良い」「就職に有利である」でランクアップした。

図表 11 機能的価値を表すイメージ項目／東海

■ 伝統や実績がある

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(2)	名古屋大学	国	62.1	1(1)	東京大学	国	67.9	1(4)	名古屋大学	国	60.7
2(1)	東京大学	国	61.2	2(2)	名古屋大学	国	63.4	2(1)	東京大学	国	53.6
3(4)	早稲田大学	私	51.4	3(3)	早稲田大学	私	54.2	3(5)	早稲田大学	私	48.3
4(3)	京都大学	国	45.9	4(4)	京都大学	国	45.7	4(2)	京都大学	国	46.2
5(5)	慶應義塾大学	私	38.8	5(6)	慶應義塾大学	私	38.8	5(3)	慶應義塾大学	私	38.9
6(6)	明治大学	私	35.3	6(7)	同志社大学	私	38.1	6(9)	お茶の水女子大学	国	35.2
7(12)	青山学院大学	私	34.0	7(5)	明治大学	私	35.4	6(6)	明治大学	私	35.2
8(7)	立命館大学	私	33.3	8(8)	一橋大学	国	34.5	8(14)	青山学院大学	私	34.8
9(10)	一橋大学	国	30.6	8(18)	名城大学	私	34.5	9(11)	立命館大学	私	33.3
10(21)	名城大学	私	29.8	10(11)	青山学院大学	私	33.3	10(15)	一橋大学	国	26.1
11(9)	同志社大学	私	27.8	10(9)	立命館大学	私	33.3	11(10)	日本体育大学	私	23.6
12(13)	南山大学	私	24.9	12(19)	南山大学	私	27.8	12(19)	名城大学	私	23.2
13(8)	お茶の水女子大学	国	23.3	13(24)	筑波大学	国	26.0	13(35)	中京大学	私	22.4
14(17)	筑波大学	国	23.0	14(15)	上智大学	私	24.1	14(7)	南山大学	私	21.7
15(11)	上智大学	私	22.5	15(31)	名古屋工業大学	国	20.8	15(8)	上智大学	私	20.4

■ 有名である

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(1)	東京大学	国	69.2	1(2)	東京大学	国	71.4	1(3)	早稲田大学	私	70.0
2(2)	名古屋大学	国	68.1	2(1)	名古屋大学	国	70.4	2(1)	東京大学	国	66.7
3(4)	早稲田大学	私	63.1	3(4)	早稲田大学	私	56.9	3(5)	名古屋大学	国	65.6
4(7)	青山学院大学	私	57.6	4(7)	青山学院大学	私	56.0	4(11)	青山学院大学	私	59.4
5(6)	明治大学	私	53.4	5(8)	明治大学	私	53.2	5(2)	慶應義塾大学	私	55.6
6(5)	慶應義塾大学	私	51.9	6(3)	京都大学	国	51.4	6(8)	明治大学	私	53.7
7(3)	京都大学	国	49.6	7(6)	慶應義塾大学	私	49.4	7(4)	京都大学	国	47.7
8(8)	同志社大学	私	45.0	8(5)	同志社大学	私	48.8	8(9)	南山大学	私	46.7
9(10)	立命館大学	私	41.0	9(19)	一橋大学	国	39.3	9(10)	立命館大学	私	45.0
10(8)	上智大学	私	39.9	10(15)	名城大学	私	38.1	10(7)	上智大学	私	42.6
10(17)	一橋大学	国	39.9	11(14)	上智大学	私	38.0	11(6)	お茶の水女子大学	国	40.7
12(11)	南山大学	私	37.4	12(10)	立命館大学	私	37.5	12(16)	同志社大学	私	40.6
13(13)	名城大学	私	33.4	13(25)	神戸大学	国	35.5	12(13)	一橋大学	国	40.6
14(12)	お茶の水女子大学	国	31.9	14(10)	筑波大学	国	32.9	14(15)	日本体育大学	私	34.5
15(14)	中京大学	私	29.9	15(44)	千葉大学	国	32.3	15(24)	大阪大学	国	29.1
				15(12)	中京大学	私	32.3				

■ 学校が発展していく可能性がある

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(2)	東京大学	国	19.7	1(1)	名古屋大学	国	21.1	1(1)	東京大学	国	24.6
1(1)	名古屋大学	国	19.7	2(5)	早稲田大学	私	20.8	2(3)	名古屋大学	国	18.0
3(6)	早稲田大学	私	15.7	3(2)	東京大学	国	15.5	3(11)	青山学院大学	私	14.5
4(4)	名城大学	私	12.8	4(3)	名城大学	私	14.3	3(32)	一橋大学	国	14.5
5(15)	青山学院大学	私	11.8	5(14)	横浜国立大学	国	11.0	5(61)	同志社大学	私	13.0
6(37)	同志社大学	私	11.2	6(4)	京都大学	国	10.0	6(2)	京都大学	国	12.3
7(3)	京大	国	11.1	7(21)	青山学院大学	私	9.5	7(5)	名城大学	私	10.7
8(64)	一橋大学	国	8.0	7(29)	同志社大学	私	9.5	8(7)	早稲田大学	私	10.0
9(5)	慶應義塾大学	私	7.9	9(8)	東京理科大学	私	8.3	9(9)	明治大学	私	9.3
10(8)	明治大学	私	6.8	10(9)	慶應義塾大学	私	8.2	10(20)	南山大学	私	8.3
10(10)	横浜国立大学	国	6.8	11(10)	筑波大学	国	6.8	11(4)	慶應義塾大学	私	7.4
12(23)	南山大学	私	6.1	12(12)	近畿大学	私	5.6	12(140)	三重大学	国	7.1
13(17)	近畿大学	私	5.3	13(14)	明治大学	私	5.1	13(44)	名古屋外国語大学	私	7.0
14(10)	東京理科大学	私	5.2	14(43)	千葉大学	国	4.8	14(140)	国際学院大学	私	5.8
15(30)	静岡県立大学	公	4.6	14(6)	中京大学	私	4.8	15(16)	お茶の水女子大学	国	5.6
15(7)	立命館大学	私	4.6	14(142)	京大農工大学	国	4.8	15(140)	首都大学東京	公	5.6
				14(58)	豊橋技術科学大学	国	4.8	15(117)	豊田工業大学	私	5.6
				14(20)	日本福祉大学	私	4.8				

■ 教育内容のレベルが高い

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(2)	名古屋大学	国	48.4	1(2)	名古屋大学	国	52.1	1(2)	名古屋大学	国	44.3
2(1)	東京大学	国	45.6	2(1)	東京大学	国	51.2	2(5)	早稲田大学	私	41.7
3(4)	早稲田大学	私	37.2	3(5)	早稲田大学	私	33.3	3(1)	東京大学	国	39.1
4(3)	京都大学	国	30.3	4(3)	京都大学	国	31.4	4(6)	京都大学	国	29.2
5(5)	慶應義塾大学	私	25.1	5(4)	慶應義塾大学	私	27.1	5(14)	一橋大学	国	26.1
6(18)	一橋大学	国	21.7	6(22)	横浜国立大学	国	20.5	6(7)	慶應義塾大学	私	22.2
7(17)	同志社大学	私	16.3	7(16)	東京理科大学	私	19.4	7(3)	明治大学	私	20.4
8(10)	南山大学	私	15.2	8(7)	同志社大学	私	19.0	8(10)	南山大学	私	18.3
8(21)	立命館大学	私	15.2	9(28)	一橋大学	国	17.9	9(16)	青山学院大学	私	17.4
10(7)	明治大学	私	14.4	10(11)	筑波大学	国	16.4	10(8)	上智大学	私	16.7
11(8)	上智大学	私	14.3	11(19)	立命館大学	私	13.9	10(23)	立命館大学	私	16.7
12(15)	青山学院大学	私	13.8	12(10)	上智大学	私	12.7	12(12)	大阪大学	国	16.4
13(14)	横浜国立大学	国	13.6	13(14)	南山大学	私	12.5	13(4)	お茶の水女子大学	国	14.8
14(22)	東京理科大学	私	11.9	14(22)	名古屋工業大学	国	11.1	14(25)	同志社大学	私	13.0
15(6)	お茶の水女子大学	国	10.9	15(6)	名古屋市立大学	公	11.0	15(54)	浜松医科大学	国	10.5

■ 活気がある感じがする

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(6)	早稲田大学	私	30.2	1(5)	早稲田大学	私	31.9	1(8)	早稲田大学	私	28.3
2(2)	青山学院大学	私	22.2	2(3)	青山学院大学	私	22.6	2(5)	青山学院大学	私	21.7
3(5)	慶應義塾大学	私	18.0	3(1)	名古屋大学	国	18.3	3(5)	慶應義塾大学	私	20.4
4(7)	名古屋大学	国	17.4	4(4)	慶應義塾大学	私	16.5	4(7)	日本体育大学	私	20.0
5(13)	名城大学	私	17.2	5(13)	名城大学	私	15.5	5(10)	名城大学	私	19.6
6(3)	日本体育大学	私	16.4	6(10)	京大	国	14.3	6(3)	中京大学	私	17.2
7(9)	明治大学	私	13.5	7(19)	明治大学	私	13.9	7(14)	名古屋大学	国	16.4
8(4)	中京大学	私	13.4	8(24)	筑波大学	国	13.7	8(1)	立命館大学	私	15.9
9(10)	京都大学	国	12.5	9(2)	日本体育大学	私	13.2	9(13)	立命館大学	私	15.0
10(12)	同志社大学	私	12.4	10(7)	同志社大学	私	13.1	10(44)	東海学園大学	私	14.0
10(45)	一橋大学	国	12.4	11(7)	立教大学	私	12.7	11(66)	関西大学	私	13.8
12(17)	立命館大学	私	12.2	12(33)	一橋大学	国	11.9	12(85)	一橋大学	国	13.0
13(1)	東京大学	国	11.9	13(12)	南山大学	私	11.1	12(3)	明治大学	私	13.0
14(20)	筑波大学	国	10.7	14(80)	帝京大学	私	10.7	14(67)	金城学院大学	私	12.7
15(15)	南山大学	私	10.6	15(6)	中京大学	私	9.7	15(82)	法政大学	私	11.7
				15(19)	立命館大学	私	9.7				

■ 校風や雰囲気が良い

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(5)	青山学院大学	私	19.6	1(6)	早稲田大学	私	22.2	1(7)	青山学院大学	私	18.8
1(8)	早稲田大学	私	19.6	2(7)	青山学院大学	私	20.2	2(14)	早稲田大学	私	16.7
3(1)	名古屋大学	国	15.9	3(1)	名古屋大学	国	16.9	3(32)	金城学院大学	私	16.4
4(10)	同志社大学	私	12.4	4(9)	同志社大学	私	16.7	4(6)	名古屋大学	国	14.8
5(2)	東京大学	国	11.7	5(2)	東京大学	国	13.1	5(1)	東京大学	国	10.1
6(3)	慶應義塾大学	私	11.5	6(3)	慶應義塾大学	私	12.9	6(2)	お茶の水女子大学	国	9.3
7(7)	南山大学	私	9.8	7(11)	南山大学	私	12.5	6(4)	慶應義塾大学	私	9.3
8(3)	京都大学	国	9.6	8(3)	京都大学	国	11.4	8(148)	関西学院大学	私	8.8
9(51)	金城学院大学	私	9.1	9(85)	一橋大学	国	10.7	9(9)	立命館大学	私	8.3
10(22)	一橋大学	国	8.4	10(152)	藤田保健衛生大学	私	7.0	10(32)	桐山女学園大学	私	8.2
11(8)	立命館大学	私	7.6	11(6)	立命館大学	私	6.9	11(22)	愛知淑徳大学	私	7.7
12(16)	愛知淑徳大学	私	6.7	12(14)	名古屋市立大学	公	6.8	11(4)	京都大学	国	7.7
13(26)	近畿大学	私	6.1	12(31)	横浜国立大学	国	6.8	13(20)	上智大学	私	7.4
13(23)	横浜国立大学	国	6.1	14(22)	岐阜大学	国	6.3	13(3)	明治大学	私	7.4
15(21)	岐阜大学	国	6.0	15(9)	愛知大学	私	5.9	15(16)	同志社大学	私	7.2

■ 教育方針・カリキュラムが魅力的である

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(14)	早稲田大学	私	13.5	1(50)	早稲田大学	私	16.7	1(4)	名古屋大学	国	13.1
2(1)	東京大学	国	12.4	2(1)	東京大学	国	14.3	2(27)	名古屋外国語大学	私	12.3
3(2)	名古屋大学	国	12.1	3(3)	京都大学	国	12.9	3(1)	東京大学	国	10.1
4(4)	京都大学	国	9.5	4(2)	名古屋大学	国	11.3	4(7)	早稲田大学	私	10.0
5(36)	名古屋外国語大学	私	7.1	5(29)	東京農工大学	国	8.1	5(3)	明治大学	私	9.3
6(14)	一橋大学	国	5.8	6(58)	一橋大学	国	7.1	6(44)	三重大学	国	7.1
7(9)	立命館大学	私	5.2	7(7)	立命館大学	私	6.9	7(8)	京都大学	国	6.2
8(11)	青山学院大学	私	4.6	8(58)	神奈川大学	私	6.5	7(33)	奈良女子大学	国	6.2
8(34)	静岡県立大学	公	4.6	9(75)	愛知教育大学	国	5.9	9(15)	上智大学	私	5.6
8(66)	藤田保健衛生大学	私	4.6	9(115)	名古屋商科大学	私	5.9	9(9)	名古屋芸術大学	私	5.6
8(4)	明治大学	私	4.6	11(18)	南山大学	私	5.6	11(22)	名古屋市立大学	公	5.3
12(8)	南山大学	私	4.5	12(14)	岐阜大学	国	5.1	12(102)	大阪教育大学	国	5.0
13(99)	神奈川大学	私	4.1	13(18)	青山学院大学	私	4.8	12(42)	静岡県立大学	公	5.0
13(36)	千葉大学	国	4.1	13(129)	関西大学	私	4.8	12(102)	創価大学	私	5.0
13(17)	日本福祉大学	私	4.1	13(22)	神戸大学	国	4.8	12(102)	兵庫県立大学	公	5.0
				13(115)	千葉大学	国	4.8				
				13(8)	日本福祉大学	私	4.8				

※イメージ項目において()内は昨年順位。 ※区分 国立/国 公立/公 私立/私

■ 資格取得に有利である

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(3)	名古屋大学	国 15.9	1(2)	名古屋大学	国 16.9	1(8)	名古屋大学	国 14.8
2(2)	東京大学	国 13.0	2(6)	東京大学	国 16.7	2(32)	銘座医療科学大学	私 14.0
3(1)	愛知教育大学	国 10.7	3(1)	愛知教育大学	国 12.9	3(18)	浜松医科大学	国 12.3
4(8)	藤田保健衛生大学	私 10.6	4(42)	藤田保健衛生大学	私 11.3	4(6)	日本福祉大学	私 10.3
5(5)	日本福祉大学	私 10.0	5(47)	東京理科大学	私 11.1	5(5)	藤田保健衛生大学	私 9.8
6(41)	銘座医療科学大学	私 8.7	5(6)	名古屋工業大学	国 11.1	6(21)	日本赤十字看護大学	私 9.1
7(9)	日本赤十字看護大学	私 8.2	7(12)	日本福祉大学	私 9.7	7(10)	岐阜聖徳学園大学	私 8.7
8(22)	浜松医科大学	国 8.0	8(4)	京都大学	国 8.6	7(9)	岐阜薬科大学	公 8.7
9(7)	名古屋工業大学	国 7.5	9(14)	早稲田大学	私 8.3	7(2)	東京大学	国 8.7
10(16)	早稲田大学	私 6.8	10(5)	日本赤十字看護大学	私 7.4	10(13)	岐阜県立看護大学	公 8.3
11(90)	東京理科大学	私 6.7	11(76)	青山学院大学	私 7.1	11(7)	相山女子学園大学	私 8.2
12(16)	岐阜聖徳学園大学	私 6.6	12(65)	一橋大学	国 6.0	12(1)	愛知教育大学	国 7.4
12(9)	京都大学	国 6.6	13(6)	慶應義塾大学	私 5.9	12(17)	三重県立看護大学	公 7.4
14(18)	相山女子学園大学	私 6.1	13(27)	豊田工業大学	私 5.9	14(144)	金城学院大学	私 7.3
15(14)	岐阜薬科大学	公 6.0	13(103)	名古屋商科大学	私 5.9	14(67)	日本体育大学	私 7.3

■ 社会で役立つ力がつく

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	名古屋大学	国 19.6	1(1)	名古屋大学	国 23.9	1(4)	名古屋大学	国 14.8
2(2)	東京大学	国 16.1	2(2)	東京大学	国 22.6	2(2)	京都大学	国 12.3
3(3)	京都大学	国 13.3	3(3)	京都大学	国 14.3	3(35)	早稲田大学	私 11.3
4(8)	早稲田大学	私 12.8	4(7)	早稲田大学	私 13.9	4(11)	明治大学	私 9.7
5(12)	青山学院大学	私 7.2	5(13)	同志社大学	私 9.5	5(1)	東京大学	国 8.7
5(7)	一橋大学	国 7.2	6(13)	青山学院大学	私 8.3	6(51)	名古屋経済大学	私 7.4
7(19)	同志社大学	私 7.1	6(20)	一橋大学	国 8.3	6(58)	四日市看護医療大学	私 7.4
8(29)	名古屋工業大学	国 6.8	8(28)	横浜国立大学	国 8.2	8(15)	日本赤十字看護大学	私 7.3
9(9)	日本福祉大学	私 6.7	9(8)	慶應義塾大学	私 7.1	9(22)	日本福祉大学	私 6.9
10(4)	慶應義塾大学	私 6.5	9(38)	名城大学	私 7.1	10(102)	名古屋工業大学	国 6.7
11(23)	名城大学	私 6.4	11(11)	名古屋工業大学	国 6.9	10(6)	立命館大学	私 6.7
12(5)	明治大学	私 6.1	12(11)	日本福祉大学	私 6.5	12(28)	青山学院大学	私 5.8
12(5)	立命館大学	私 6.1	13(137)	三重大学	国 6.0	12(5)	一橋大学	国 5.8
14(113)	三重大学	国 5.7	14(38)	静岡県立大学	公 5.6	14(8)	愛知教育大学	国 5.6
15(23)	横浜国立大学	国 5.3	14(54)	中央大学	私 5.6	14(14)	お茶の水女子大学	国 5.6
			14(9)	立命館大学	私 5.6	14(2)	慶應義塾大学	私 5.6
						14(15)	上智大学	私 5.6
						14(138)	豊田工業大学	私 5.6
						14(78)	日本大学	私 5.6

■ 教授・講師陣が魅力的である

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	東京大学	国 17.5	1(1)	東京大学	国 21.4	1(4)	名古屋大学	国 16.4
2(2)	名古屋大学	国 14.4	2(3)	京都大学	国 15.7	2(1)	東京大学	国 13.0
3(3)	京都大学	国 13.3	3(2)	名古屋大学	国 12.7	3(3)	京都大学	国 10.8
4(7)	早稲田大学	私 8.2	4(6)	早稲田大学	私 11.1	4(8)	名城大学	私 8.9
5(7)	一橋大学	国 6.6	5(3)	慶應義塾大学	私 7.1	5(6)	一橋大学	国 8.7
6(4)	慶應義塾大学	私 6.5	6(108)	名古屋工業大学	国 6.5	6(9)	慶應義塾大学	私 5.6
7(9)	同志社大学	私 4.6	7(42)	東京工業大学	国 5.7	6(12)	上智大学	私 5.6
8(5)	名城大学	私 4.4	8(19)	横浜国立大学	国 5.5	8(13)	早稲田大学	私 5.0
9(65)	愛知大学	私 4.3	9(8)	同志社大学	私 4.8	9(72)	奈良女子大学	国 4.6
10(29)	東京工業大学	国 3.6	9(7)	一橋大学	国 4.8	10(17)	青山学院大学	私 4.3
11(29)	千葉大学	国 3.3	11(108)	愛知大学	私 4.7	10(7)	同志社大学	私 4.3
12(11)	東京農工大学	国 3.2	12(108)	帝京科学大学	私 4.2	12(30)	愛知大学	私 3.7
13(12)	上智大学	私 3.1	12(13)	東京理科大学	私 4.2	12(30)	お茶の水女子大学	国 3.7
14(15)	筑波大学	国 3.0	12(57)	南山大学	私 4.2	12(2)	明治大学	私 3.7
14(10)	横浜国立大学	国 3.0	12(19)	立命館大学	私 4.2	15(94)	星城大学	私 3.6
14(19)	立命館大学	私 3.0				15(10)	日本体育大学	私 3.6

■ 学生の学力が高い

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(2)	名古屋大学	国 44.0	1(1)	東京大学	国 50.0	1(3)	名古屋大学	国 45.9
2(1)	東京大学	国 42.9	2(2)	名古屋大学	国 42.3	2(8)	早稲田大学	私 41.7
3(3)	京都大学	国 36.3	3(3)	京都大学	国 37.1	3(2)	京都大学	国 35.4
4(5)	早稲田大学	私 35.0	4(4)	慶應義塾大学	私 30.6	4(1)	東京大学	国 34.8
5(4)	慶應義塾大学	私 30.9	5(5)	早稲田大学	私 29.2	5(4)	慶應義塾大学	私 31.5
6(13)	上智大学	私 18.2	6(9)	一橋大学	国 20.2	6(15)	上智大学	私 24.1
6(8)	一橋大学	国 18.2	7(7)	大阪大学	国 17.6	7(7)	明治大学	私 20.4
8(10)	大阪大学	国 17.1	8(19)	横浜国立大学	国 16.4	8(14)	大阪大学	国 16.4
9(7)	明治大学	私 15.2	9(18)	神戸大学	国 14.5	9(10)	一橋大学	国 15.9
10(6)	お茶の水女子大学	国 12.9	10(10)	同志社大学	私 14.3	10(30)	南山大学	私 15.0
10(18)	立命館大学	私 12.9	11(11)	上智大学	私 13.9	10(20)	立命館大学	私 15.0
12(16)	同志社大学	私 12.4	11(24)	名古屋工業大学	国 13.9	12(5)	お茶の水女子大学	国 13.0
13(16)	青山学院大学	私 11.1	13(8)	お茶の水女子大学	国 12.9	13(23)	三重大学	国 12.5
14(19)	神戸大学	国 10.7	13(19)	千葉大学	国 12.9	14(16)	青山学院大学	私 11.6
15(27)	東京理科大学	私 10.5	15(27)	東京理科大学	私 12.5	15(22)	愛知教育大学	国 11.1
15(20)	名古屋工業大学	国 10.5						

■ 就職に有利である

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(2)	名古屋大学	国 34.1	1(1)	東京大学	国 35.7	1(2)	名古屋大学	国 32.8
2(1)	東京大学	国 29.9	2(2)	名古屋大学	国 35.2	2(1)	東京大学	国 23.2
3(5)	早稲田大学	私 22.7	3(3)	京都大学	国 24.3	3(7)	早稲田大学	私 21.7
4(3)	京都大学	国 20.6	4(4)	早稲田大学	私 23.6	4(25)	青山学院大学	私 20.3
5(4)	慶應義塾大学	私 18.6	5(5)	慶應義塾大学	私 22.4	5(9)	立命館大学	私 18.3
6(13)	一橋大学	国 14.4	6(7)	同志社大学	私 13.1	6(6)	京都大学	国 16.9
7(14)	青山学院大学	私 13.9	6(16)	一橋大学	国 13.1	7(13)	一橋大学	国 15.9
8(10)	立命館大学	私 13.8	8(19)	愛知教育大学	国 12.9	8(5)	明治大学	私 14.8
9(18)	同志社大学	私 13.1	8(22)	神戸大学	国 12.9	9(4)	慶應義塾大学	私 13.0
10(35)	豊田工業大学	私 10.8	10(27)	横浜国立大学	国 12.3	9(86)	同志社大学	私 13.0
11(6)	明治大学	私 10.6	11(22)	豊田工業大学	私 11.8	11(49)	三重大学	国 12.5
12(7)	愛知教育大学	国 10.0	12(113)	近畿大学	私 11.3	12(11)	岐阜薬科大学	公 11.6
13(8)	南山大学	私 9.9	12(54)	千葉大学	私 11.3	13(126)	金城学院大学	私 10.9
14(49)	静岡県立大学	公 9.1	12(163)	東京農工大学	国 11.3	13(40)	日本赤十字看護大学	私 10.9
14(45)	藤田保健衛生大学	私 9.1	15(57)	東京理科大学	私 11.1	15(33)	静岡県立大学	公 10.0
			15(10)	名古屋工業大学	国 11.1	15(8)	南山大学	私 10.0

■ 国際的なセンスが身につく

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(2)	南山大学	私 22.8	1(2)	南山大学	私 20.8	1(2)	南山大学	私 25.0
2(10)	早稲田大学	私 17.4	2(3)	東京大学	国 19.0	2(1)	名古屋外国語大学	私 22.8
3(1)	名古屋外国語大学	私 16.3	3(6)	早稲田大学	私 18.1	3(6)	関西外国語大学	私 17.4
4(6)	関西外国語大学	私 13.8	4(4)	名古屋大学	国 16.9	4(4)	上智大学	私 16.7
5(3)	東京大学	国 13.5	5(10)	京都大学	国 11.4	4(14)	早稲田大学	私 16.7
6(4)	上智大学	私 12.9	6(1)	名古屋外国語大学	私 11.0	6(5)	東京外国語大学	国 12.5
7(5)	東京外国語大学	国 11.5	7(14)	青山学院大学	私 10.7	7(10)	京都大学	国 9.2
8(7)	名古屋大学	国 10.4	7(8)	関西外国語大学	私 10.7	8(11)	青山学院大学	私 8.7
9(10)	京都大学	国 10.3	7(7)	東京外国語大学	国 10.7	9(17)	立命館大学	私 8.3
10(14)	青山学院大学	私 9.8	10(9)	慶應義塾大学	私 10.6	10(9)	慶應義塾大学	私 7.4
11(8)	慶應義塾大学	私 9.3	11(5)	上智大学	私 10.1	10(8)	明治大学	私 7.4
12(15)	立命館大学	私 8.3	12(11)	立命館大学	私 8.3	12(3)	東京大学	国 7.2
13(34)	愛知淑徳大学	私 5.9	13(101)	愛知淑徳大学	私 7.1	13(30)	関西学院大学	私 5.3
14(34)	神戸大学	国 4.1	14(55)	神戸大学	国 6.5	14(42)	立教大学	私 4.9
15(9)	明治大学	私 3.8	15(14)	同志社大学	私 6.0	15(20)	愛知淑徳大学	私 4.6
15(30)	立教大学	私 3.8						

■ 先輩・卒業生が魅力的である

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(6)	早稲田大学	私 17.3	1(5)	早稲田大学	私 20.8	1(5)	名古屋大学	国 18.0
2(1)	東京大学	国 16.3	2(2)	東京大学	国 17.9	2(8)	青山学院大学	私 15.9
3(2)	京都大学	国 15.6	3(3)	京都大学	国 15.7	3(2)	京都大学	国 15.4
4(4)	名古屋大学	国 14.5	4(4)	慶應義塾大学	私 15.3	4(1)	東京大学	国 14.5
5(3)	慶應義塾大学	私 14.4	5(1)	名古屋大学	国 11.3	5(9)	早稲田大学	私 13.3
6(7)	青山学院大学	私 9.3	6(29)	筑波大学	国 8.2	6(3)	慶應義塾大学	私 13.0
7(9)	立命館大学	私 7.6	7(29)	立命館大学	私 6.9	7(4)	明治大学	私 11.1
8(12)	一橋大学	国 6.6	8(20)	神戸大学	国 6.5	8(46)	上智大学	私 9.1
9(16)	立命館大学	私 6.1	9(11)	一橋大学	国 6.0	9(7)	日本体育大学	私 9.3
9(55)	筑波大学	国 6.1	10(6)	中京大学	私 4.8	10(6)	立命館大学	私 8.3
9(5)	明治大学	私 6.1	10(12)	同志社大学	私 4.8	11(20)	一橋大学	国 7.0
12(14)	同志社大学	私 5.2	12(14)	東京理科大学	私 4.2	12(19)	東京芸術大学	国 7.2
13(8)	日本体育大学	私 5.0	12(36)	南山大学	私 4.2	13(39)	同志社大学	私 5.8
14(55)	名城大学	私 4.3	12(102)	藤田保健衛生大学	私 4.2	14(39)	お茶の水女子大学	国 5.6
15(31)	神戸大学	国 4.1	15(14)	上智大学	私 3.8	15(99)	名城大学	私 5.4
15(9)	中京大学	私 4.1						

■ 学生の面倒見が良い

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(9)	名古屋大学	国 6.9	1(2)	早稲田大学	私 6.9	1(15)	名古屋大学	国 8.2
2(3)	早稲田大学	私 6.0	2(103)	豊田工業大学	私 5.9	2(10)	京都大学	国 7.7
3(1)	東京大学	国 5.2	3(9)	名古屋大学	国 5.6	3(1)	東京大学	国 5.8
4(150)	豊田工業大学	私 5.0	3(103)	南山大学	私 5.6	4(71)	日本体育大学	私 5.5
5(4)	名古屋大学	国 4.5	5(1)	東京大学	国 4.8	5(3)	早稲田大学	私 5.0
5(44)	南山大学	私 4.5	6(48)	愛知大学	私 4.7	6(71)	奈良女子大学	国 4.6
7(11)	同志社大学	私 3.9	7(103)	名古屋工業大学	国 4.2	7(26)	青山学院大学	私 4.3
8(17)	青山学院大学	私 3.3	8(103)	大阪芸術大学	私 4.1	7(14)	同志社大学	私 4.3
8(17)	日本体育大学	私 3.3	8(8)	東京農業大学	私 4.1	7(1)	一橋大学	国 4.3
8(44)	一橋大学	国 3.3	10(16)	同志社大学	私 3.6	10(10)	豊田工業大学	私 3.7
11(56)	東京農業大学	私 3.0	10(7)	名城大学	私 3.6	10(9)	三重県立看護大学	公 3.7
11(150)	名古屋工業大学	国 3.0	12(5)	慶應義塾大学	私 3.5	12(10)	星城大学	私 3.6
13(44)	愛知大学	私 2.8	13(48)	関西大学	私 3.2	12(10)	三重大学	国 3.6
1								

※イメージ項目において()内は昨年順位。 ※区分 国立/国 公立/公 私立/私

■ 入試方法が自分に合っている

Table with columns: 順位, 全体, 区分, (%), 順位, 男子, 区分, (%), 順位, 女子, 区分, (%). Lists university rankings for entrance methods.

■ 教養が身につく

Table with columns: 順位, 全体, 区分, (%), 順位, 男子, 区分, (%), 順位, 女子, 区分, (%). Lists university rankings for liberal education.

■ 交通の便が良い

Table with columns: 順位, 全体, 区分, (%), 順位, 男子, 区分, (%), 順位, 女子, 区分, (%). Lists university rankings for transportation convenience.

■ 遊びに行くのに便利な立地である

Table with columns: 順位, 全体, 区分, (%), 順位, 男子, 区分, (%), 順位, 女子, 区分, (%). Lists university rankings for entertainment location.

■ 偏差値が自分に合っている

Table with columns: 順位, 全体, 区分, (%), 順位, 男子, 区分, (%), 順位, 女子, 区分, (%). Lists university rankings by deviation value.

■ 専門分野を深く学べる

Table with columns: 順位, 全体, 区分, (%), 順位, 男子, 区分, (%), 順位, 女子, 区分, (%). Lists university rankings for specialized study.

■ 勉強するのに良い環境である

Table with columns: 順位, 全体, 区分, (%), 順位, 男子, 区分, (%), 順位, 女子, 区分, (%). Lists university rankings for study environment.

■ 学費が高くない

Table with columns: 順位, 全体, 区分, (%), 順位, 男子, 区分, (%), 順位, 女子, 区分, (%). Lists university rankings for low tuition.

関東

東海 / 機能的価値を表すイメージ項目

関西

図表 12 感性的価値を表すイメージ項目／東海

■ 知的な

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(1)	東京大学	国	43.1	1(3)	東京大学	国	44.0	1(1)	東京大学	国	42.0
2(2)	名古屋大学	国	40.2	2(1)	名古屋大学	国	39.4	2(5)	名古屋大学	国	41.0
3(7)	早稲田大学	私	32.6	3(6)	早稲田大学	私	30.6	3(9)	早稲田大学	私	35.0
4(2)	京都大学	国	29.0	4(4)	慶應義塾大学	私	24.7	4(2)	京都大学	国	33.8
5(4)	慶應義塾大学	私	25.2	5(2)	京都大学	国	24.3	5(2)	慶應義塾大学	私	25.9
6(9)	一橋大学	国	20.9	6(15)	一橋大学	国	20.2	6(6)	明治大学	私	24.1
7(10)	筑波大学	国	16.1	7(9)	筑波大学	国	16.4	7(15)	青山学院大学	私	21.7
8(14)	青山学院大学	私	14.6	7(13)	横浜国立大学	国	16.4	7(6)	一橋大学	国	21.7
8(12)	横浜国立大学	国	14.6	9(19)	名古屋立大	公	15.1	9(24)	同志社大学	私	18.8
10(8)	明治大学	私	14.5	10(33)	立命館大学	私	12.5	10(8)	上智大学	私	16.7
10(20)	立命館大学	私	14.5	11(16)	学習院大学	私	11.3	10(16)	立命館大学	私	16.7
12(15)	同志社大学	私	13.9	11(14)	神戸大学	国	11.3	12(10)	筑波大学	国	15.8
13(5)	上智大学	私	12.9	13(8)	南山大学	私	11.1	13(17)	南山大学	私	15.0
13(13)	南山大学	私	12.9	14(11)	大阪大学	国	10.3	14(17)	近畿大学	私	13.1
15(16)	神戸大学	国	10.8	14(26)	静岡大学	国	10.3	15(4)	お茶の水女子大学	私	13.0

■ 多様な

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(1)	東京大学	私	16.3	1(2)	東京大学	私	16.7	1(1)	東京大学	私	15.9
2(5)	早稲田大学	私	13.6	2(2)	早稲田大学	私	13.9	2(24)	早稲田大学	私	13.3
3(3)	慶應義塾大学	私	10.8	3(4)	慶應義塾大学	私	9.4	3(4)	慶應義塾大学	私	13.0
4(4)	京都大学	国	10.4	4(4)	京都大学	国	8.6	4(11)	京都大学	私	12.3
5(16)	同志社大学	私	7.9	5(37)	法政大学	私	6.7	5(5)	青山学院大学	私	11.6
6(2)	名古屋大学	国	7.7	6(6)	近畿大学	私	5.6	5(35)	同志社大学	私	11.6
7(14)	青山学院大学	私	7.3	6(16)	立命館大学	私	5.6	7(7)	名古屋大学	国	11.5
8(94)	一橋大学	国	6.6	8(145)	横浜国立大学	国	5.5	8(118)	一橋大学	国	10.1
9(26)	筑波大学	国	5.4	9(28)	中央大学	私	4.8	9(13)	日本大学	私	9.3
9(94)	東京学芸大学	国	5.4	9(13)	同志社大学	私	4.8	10(118)	東京学芸大学	国	8.3
11(24)	近畿大学	私	5.3	11(6)	中部大学	私	4.3	11(53)	日本体育大学	私	7.3
12(45)	法政大学	私	5.1	12(37)	静岡県立大学	公	4.2	12(26)	筑波大学	国	7.0
13(9)	南山大学	私	4.6	12(69)	名古屋工業大学	国	4.2	13(19)	関西外国語大学	私	5.8
14(7)	日本大学	私	4.4	12(1)	名古屋大学	国	4.2	13(43)	岐阜聖徳学園大学	私	5.8
15(45)	日本体育大学	私	4.2	12(19)	南山大学	私	4.2	13(75)	名古屋女子大学	私	5.8

■ 先進的な

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(1)	東京大学	国	18.3	1(3)	東京大学	国	19.0	1(22)	早稲田大学	私	20.0
2(6)	早稲田大学	私	15.3	2(2)	慶應義塾大学	私	11.8	2(1)	東京大学	私	17.4
3(2)	慶應義塾大学	私	12.2	3(1)	名古屋大学	国	11.3	3(3)	京都大学	国	15.4
4(3)	名古屋大学	国	12.1	4(5)	早稲田大学	私	11.1	4(5)	名古屋大学	国	13.1
5(4)	京都大学	国	11.2	5(4)	京都大学	国	7.1	5(8)	青山学院大学	私	13.0
6(10)	青山学院大学	私	8.6	6(8)	南山大学	私	5.6	5(2)	慶應義塾大学	私	13.0
7(31)	立命館大学	私	6.1	7(11)	横浜国立大学	国	5.5	7(138)	名理大学	私	10.7
8(9)	明治大学	私	6.0	8(40)	明治大学	私	5.1	8(11)	東京理科大学	私	8.3
9(18)	東京理科大学	私	5.4	9(21)	青山学院大学	私	4.8	8(24)	立命館大学	私	8.3
10(52)	近畿大学	私	5.3	9(75)	静岡産業大学	私	4.8	10(4)	明治大学	私	7.4
10(86)	藤田保健衛生大学	私	5.3	11(34)	大阪大学	国	4.4	11(138)	神戸学院大学	私	7.1
12(20)	一橋大学	国	4.6	12(137)	大阪学院大学	私	4.3	12(130)	近畿大学	私	6.6
13(54)	名城大学	私	4.4	12(70)	東京工業大学	国	4.3	12(98)	東京医科歯科大学	国	6.6
14(33)	愛知大学	私	4.3	14(28)	近畿大学	私	4.2	12(98)	藤田保健衛生大学	私	6.6
15(86)	静岡産業大学	私	4.1	14(87)	藤田保健衛生大学	私	4.2	15(52)	多摩美術大学	私	5.8
				14(40)	立命館大学	私	4.2	15(98)	同志社大学	私	5.8
								15(16)	一橋大学	国	5.8

■ おしゃれな

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(1)	青山学院大学	私	26.3	1(1)	青山学院大学	私	22.6	1(1)	青山学院大学	私	30.4
2(2)	慶應義塾大学	私	16.5	2(2)	慶應義塾大学	私	18.8	2(2)	お茶の水女子大学	私	14.8
3(4)	上智大学	私	13.5	3(3)	上智大学	私	15.2	3(3)	金城学院大学	私	14.5
4(7)	明治大学	私	12.0	4(3)	神戸大学	国	14.5	4(15)	同志社女子大学	私	14.0
5(19)	桐山学園大学	私	9.2	5(5)	明治大学	私	12.7	5(8)	桐山学園大学	私	13.1
6(16)	早稲田大学	私	9.1	6(39)	横浜国立大学	国	11.0	6(5)	慶應義塾大学	私	13.0
7(6)	愛知淑徳大学	私	9.0	7(10)	立教大学	私	9.9	7(4)	愛知淑徳大学	私	12.3
7(10)	神戸大学	国	9.0	8(9)	早稲田大学	私	9.7	8(7)	上智大学	私	11.1
9(5)	お茶の水女子大学	国	8.8	9(6)	南山大学	私	8.3	8(6)	明治大学	私	11.1
10(9)	同志社大学	私	8.5	10(8)	同志社大学	私	7.1	10(78)	東京外国語大学	国	10.7
11(3)	金城学院大学	私	8.3	11(74)	立命館大学	私	6.9	11(33)	多摩美術大学	私	10.1
12(25)	立命館大学	私	7.6	12(49)	法政大学	私	6.7	11(13)	同志社大学	私	10.1
13(17)	立教大学	私	7.5	13(12)	愛知淑徳大学	私	5.7	11(38)	名古屋女子大学	私	10.1
14(17)	多摩美術大学	私	7.3	14(137)	桐山学園大学	私	5.6	14(15)	東京芸術大学	私	8.8
14(43)	名古屋女子大学	私	7.3	14(126)	中央大学	私	5.6	15(14)	立命館大学	私	8.3
				14(137)	東海学院大学	私	5.6	15(38)	早稲田大学	私	8.3
				14(137)	東京理科大学	私	5.6				
				14(17)	名古屋大学	国	5.6				

■ 自慢できそう

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(1)	東京大学	国	43.7	1(3)	東京大学	国	46.4	1(6)	早稲田大学	私	41.7
2(4)	名古屋大学	国	38.0	2(4)	名古屋大学	国	35.2	2(5)	名古屋大学	国	41.0
3(5)	早稲田大学	私	34.3	3(1)	京都大学	国	34.3	3(1)	東京大学	国	40.6
4(2)	京都大学	国	31.0	4(2)	慶應義塾大学	私	29.4	4(3)	慶應義塾大学	私	31.5
5(3)	慶應義塾大学	私	30.2	5(5)	早稲田大学	私	27.8	5(2)	京都大学	国	27.7
6(9)	青山学院大学	私	21.1	6(7)	青山学院大学	私	16.7	6(9)	青山学院大学	私	26.1
7(17)	立命館大学	私	18.4	7(13)	横浜国立大学	国	15.1	7(8)	明治大学	私	25.9
8(6)	明治大学	私	18.2	8(13)	横浜国立大学	国	14.7	8(19)	立命館大学	私	25.0
9(13)	一橋大学	国	15.7	9(12)	神戸大学	国	14.5	9(4)	お茶の水女子大学	国	20.4
10(8)	上智大学	私	12.9	10(9)	一橋大学	国	14.3	10(7)	上智大学	私	18.5
11(18)	筑波大学	国	12.3	11(27)	千葉大学	国	12.9	11(20)	一橋大学	国	17.4
12(7)	お茶の水女子大学	国	11.7	12(6)	明治大学	私	12.7	12(12)	南山大学	私	16.7
13(36)	東京外国語大学	国	10.8	13(13)	立命館大学	私	12.5	13(26)	東京外国語大学	国	14.3
13(12)	南山大学	私	10.8	14(19)	筑波大学	国	12.3	14(16)	筑波大学	国	12.3
15(11)	横浜国立大学	国	10.6	15(20)	静岡大学	国	10.3	15(18)	愛知教育大学	国	11.1

■ 力強い

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(11)	早稲田大学	私	14.5	1(5)	早稲田大学	私	12.5	1(27)	早稲田大学	私	16.7
2(1)	日本体育大学	私	11.5	2(1)	日本体育大学	私	7.4	2(1)	日本体育大学	私	16.4
3(2)	東京大学	国	11.2	3(7)	東京大学	国	7.1	3(2)	東京大学	国	15.9
4(5)	京都大学	国	9.0	4(11)	立命館大学	私	6.9	4(8)	京都大学	国	12.3
5(22)	青山学院大学	私	7.3	5(130)	筑波大学	国	6.8	5(11)	青山学院大学	私	11.6
6(8)	立命館大学	私	6.0	6(10)	慶應義塾大学	私	5.9	6(6)	日本大学	私	7.4
7(5)	慶應義塾大学	私	5.8	7(6)	京都大学	国	5.7	7(99)	一橋大学	国	7.2
8(40)	帝京大学	私	5.0	8(2)	名古屋大学	国	5.6	8(62)	名城大学	私	7.1
9(140)	近畿大学	私	4.6	9(25)	帝京大学	私	4.8	9(131)	近畿大学	私	6.6
9(40)	南山大学	私	4.6	10(39)	南山大学	私	4.2	10(5)	慶應義塾大学	私	5.6
11(8)	筑波大学	国	4.5	11(25)	愛知学院大学	私	4.1	11(50)	大阪大学	国	5.5
11(3)	名古屋大学	国	4.5	11(3)	国士館大学	私	4.1	12(131)	神戸学院大学	私	5.4
13(14)	中央大学	私	4.2	13(75)	法政大学	私	4.0	12(131)	帝京大学	私	5.4
14(84)	一橋大学	国	4.0	14(19)	愛知工業大学	私	3.8	12(27)	三重大学	国	5.4
15(16)	愛知工業大学	私	3.8	14(124)	首都大学東京	公	3.8	12(131)	四日市大学	私	5.4
								12(131)	和歌山大学	国	5.4

■ のんびり

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(57)	青山学院大学	私	5.3	1(5)	日本福祉大学	私	6.5	1(101)	青山学院大学	私	7.2
1(128)	岡崎女子大学	私	5.3	2(140)	岐阜聖徳学園大学	私	4.8	2(73)	岡崎女子大学	私	6.7
3(14)	岐阜聖徳学園大学	私	5.2	2(140)	静岡産業大学	私	4.8	3(1)	岐阜聖徳学園大学	私	5.8
4(21)	南山大学	私	3.8	2(140)	東京農工大学	国	4.8	3(20)	名古屋女子大学	私	5.8
5(4)	京都大学	国	3.7	5(140)	愛知工科大学	私	4.2	5(131)	昭和女子大学	私	5.6
6(63)	茨城大学	国	3.3	5(140)	岡崎女子大学	私	4.2	6(37)	名古屋学院大学	私	5.3
6(79)	静岡産業大学	私	3.3	5(14)	静岡県立大学	公	4.2	7(43)	京都大学	国	4.6
6(105)	東京農工大学	国	3.3	5(1)	南山大学	私	4.2	7(43)	奈良女子大学	国	4.6
9(1)	日本福祉大学	私	3.2	9(62)	筑波大学	国	4.1	9(50)	多摩美術大学	私	4.3
10(20)	静岡県立大学	公	3.0	10(31)	名古屋経済大学	私	3.8	10(73)	京都女子大学	私	3.7
10(32)	中央大学	私	3.0	11(30)	青山学院大学	私	3.6	11(43)	愛知東邦大学	私	3.6
10(128)	筑波大学	国	3.0	11(62)	一橋大学	国	3.6	11(61)	茨城大学	国	3.6
10(42)	名古屋経済大学	私	3.0	13(83)	常葉大学	私	3.5	11(66)	静岡大学	国	3.6
10(4)	名古屋大学	国	3.0	14(83)	愛知県立大学	公	3.2	14(20)	愛知学院大学	私	3.5
15(105)	常葉大学	私	2.9	14(31)	東海学園大学	私	3.2	14(20)	関西学院大学	私	3.5
								14(137)	国士館大学	私	3.5

※イメージ項目において()内は昨年順位。 ※区分 国立/国 公立/公 私立/私

■ 落ち着いた

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(2)	名古屋大学	国 14.4	1(1)	名古屋大学	国 14.1	1(6)	名古屋大学	国 14.8
2(8)	南山大学	私 10.6	2(16)	南山大学	私 9.7	2(7)	南山大学	私 11.7
3(14)	一橋大学	国 8.5	3(11)	一橋大学	国 8.3	3(5)	京都大学	国 10.8
4(4)	京都大学	国 8.2	4(58)	学習院大学	私 8.1	4(1)	東京大学	国 10.1
5(1)	東京大学	国 7.9	4(7)	日本福祉大学	私 8.1	5(19)	三重大学	国 8.9
5(12)	同志社大学	私 7.9	6(8)	同志社大学	私 7.1	6(26)	同志社大学	私 8.7
7(65)	名古屋工業大学	国 6.0	7(66)	名古屋工業大学	国 6.9	6(24)	一橋大学	国 8.7
8(22)	三重大学	国 5.8	8(2)	東京大学	国 6.0	8(19)	金城学院大学	私 7.3
9(36)	立命館大学	私 5.3	9(10)	京都大学	国 5.7	9(2)	愛知県立大学	公 7.0
9(22)	早稲田大学	私 5.3	10(17)	静岡県立大学	公 5.6	10(12)	奈良女子大学	国 6.2
11(9)	慶應義塾大学	私 5.0	10(86)	東京理科大学	私 5.6	11(62)	愛知医科大学	私 5.8
11(36)	中京大学	私 5.0	10(132)	立命館大学	私 5.6	11(95)	國學院大学	私 5.8
13(16)	学習院大学	私 4.9	10(9)	早稲田大学	私 5.6	13(3)	お茶の水女子大学	国 5.6
13(25)	日本福祉大学	私 4.9	14(66)	至学館大学	私 4.8	13(9)	慶應義塾大学	私 5.6
15(32)	静岡県立大学	公 4.5	14(41)	中京大学	私 4.8	15(4)	静岡大学	国 5.5
15(96)	東京理科大学	私 4.5	14(132)	明海大学	私 4.8			

■ まじめ

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	東京大学	国 36.7	1(2)	東京大学	国 34.5	1(1)	東京大学	国 39.1
2(2)	名古屋大学	国 29.6	2(1)	名古屋大学	国 28.2	2(3)	名古屋大学	国 31.1
3(3)	京都大学	国 17.1	3(3)	京都大学	国 15.7	3(12)	慶應義塾大学	私 22.2
4(7)	一橋大学	国 15.7	4(4)	一橋大学	国 15.5	4(16)	南山大学	私 20.0
5(8)	慶應義塾大学	私 13.2	5(6)	岐阜大学	国 10.1	4(6)	早稲田大学	私 20.0
6(17)	南山大学	私 13.1	6(17)	東京理科大学	私 9.7	6(2)	京都大学	国 18.5
7(4)	早稲田大学	私 12.3	7(10)	名古屋市立大学	公 9.6	7(5)	お茶の水女子大学	国 16.7
8(22)	東京理科大学	私 11.4	8(10)	名古屋工業大学	国 8.3	8(21)	一橋大学	国 15.9
9(12)	静岡大学	国 9.8	9(8)	学習院大学	私 8.1	9(34)	東京理科大学	私 13.3
10(14)	愛知教育大学	国 8.7	10(17)	静岡大学	国 7.4	10(13)	愛知教育大学	国 13.0
10(11)	三重大学	国 8.7	11(10)	慶應義塾大学	私 7.1	11(10)	静岡大学	国 12.7
12(5)	名古屋市立大学	公 8.4	12(13)	南山大学	私 6.9	12(6)	三重大学	国 12.5
13(16)	岐阜大学	国 8.2	13(28)	横浜国立大学	国 6.8	13(17)	青山学院大学	私 11.6
14(6)	お茶の水女子大学	国 8.1	14(38)	至学館大学	私 6.5	14(30)	立命館大学	私 10.0
15(10)	明治大学	私 7.6	14(15)	千葉大学	国 6.5	15(34)	上智大学	私 9.3
15(25)	立命館大学	私 7.6	14(67)	東京農工大学	国 6.5	15(17)	日本大学	私 9.3
			14(38)	日本福祉大学	私 6.5	15(11)	明治大学	私 9.3

■ 自由な

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(3)	早稲田大学	私 16.7	1(1)	早稲田大学	私 16.7	1(14)	早稲田大学	私 16.7
2(9)	青山学院大学	私 13.1	2(6)	東京大学	国 14.3	2(8)	青山学院大学	私 15.9
3(2)	東京大学	国 11.7	3(8)	慶應義塾大学	私 12.9	3(4)	京都大学	国 15.4
4(18)	慶應義塾大学	私 10.7	4(27)	青山学院大学	私 10.7	4(127)	愛知大学	私 13.0
5(4)	京都大学	国 9.8	5(4)	明治大学	私 10.1	5(14)	日本大学	私 9.3
6(5)	明治大学	私 9.0	6(95)	玉川大学	私 9.7	6(55)	中部大学	私 8.8
7(65)	愛知大学	私 8.0	7(16)	東京農工大学	国 8.1	7(2)	東京大学	国 8.7
8(7)	同志社大学	私 7.2	8(31)	関西大学	私 6.5	7(8)	同志社大学	私 8.7
9(20)	中部大学	私 6.7	8(95)	静岡産業大学	私 6.5	9(78)	慶應義塾大学	私 7.4
10(12)	名古屋大学	国 6.1	10(165)	名古屋経済大学	私 6.3	9(11)	明治大学	私 7.4
11(108)	関西大学	私 5.8	11(10)	同志社大学	私 6.0	11(58)	同朋大学	私 7.1
12(31)	名城大学	私 5.7	12(64)	東京理科大学	私 5.6	11(25)	名城大学	私 7.1
13(117)	東京理科大学	私 5.3	12(3)	名古屋大学	国 5.6	13(85)	愛知県立大学	公 7.0
14(12)	日本大学	私 5.1	12(27)	南山大学	私 5.6	14(98)	名古屋大学	国 6.6
15(156)	玉川大学	私 4.9	15(11)	中部大学	私 5.3	15(58)	奈良女子大学	国 6.2
15(124)	東京農工大学	国 4.9	15(116)	法政大学	私 5.3			

■ 上品な

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	お茶の水女子大学	国 17.5	1(4)	慶應義塾大学	私 21.2	1(3)	金城学院大学	私 27.3
2(6)	金城学院大学	私 16.6	2(2)	学習院大学	私 19.4	2(1)	お茶の水女子大学	国 25.9
3(9)	南山大学	私 15.1	3(6)	南山大学	私 15.3	3(10)	青山学院大学	私 21.7
4(2)	学習院大学	私 14.9	4(1)	お茶の水女子大学	国 11.8	4(2)	桐山学園大学	私 16.4
4(3)	慶應義塾大学	私 14.9	5(11)	明治大学	私 10.1	5(15)	南山大学	私 15.0
6(10)	青山学院大学	私 13.9	6(3)	京都大学	国 10.0	6(18)	名古屋女子大学	私 14.5
7(7)	桐山学園大学	私 10.8	7(8)	名古屋大学	国 9.9	7(17)	奈良女子大学	国 13.8
8(20)	奈良女子大学	国 9.8	8(12)	同志社大学	私 8.3	8(5)	学習院大学	私 10.3
9(13)	明治大学	私 9.0	9(31)	横浜国立大学	国 8.2	9(56)	岡崎女子大学	私 10.0
10(66)	岡崎女子大学	私 8.4	10(5)	上智大学	私 7.6	10(6)	上智大学	私 9.3
11(5)	上智大学	私 8.3	11(9)	金城学院大学	私 7.4	10(35)	昭和女子大学	私 9.3
12(3)	京都大学	国 8.1	12(12)	青山学院大学	私 7.1	12(14)	同志社女子大学	私 8.8
13(13)	名古屋女子大学	私 8.0	13(20)	大妻女子大学	私 6.9	13(19)	名古屋音楽大学	私 8.7
14(23)	名古屋大学	国 7.5	13(88)	岡崎女子大学	私 6.9	13(68)	一橋大学	国 8.7
15(13)	大妻女子大学	私 6.8	13(31)	立命館大学	私 6.9	15(11)	桜花学園大学	私 8.2
15(18)	立命館大学	私 6.8	13(29)	早稲田大学	私 6.9			

■ 個性的な

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	東京大学	国 15.7	1(1)	東京大学	国 16.7	1(4)	京都大学	国 15.4
2(2)	京都大学	国 12.0	2(4)	早稲田大学	私 9.7	2(1)	東京大学	国 14.5
3(4)	早稲田大学	私 10.6	3(2)	京都大学	国 8.6	3(41)	早稲田大学	私 11.7
4(7)	慶應義塾大学	私 7.2	4(97)	東京農工大学	国 8.1	4(10)	多摩美術大学	私 8.7
5(49)	東京学芸大学	国 6.1	5(6)	慶應義塾大学	私 7.1	5(112)	東京学芸大学	国 8.3
5(19)	南山大学	私 6.1	6(26)	名古屋学芸大学	私 6.9	6(14)	愛知県立芸術大学	公 7.7
7(17)	名古屋学芸大学	私 6.0	7(26)	関西大学	私 6.5	7(28)	慶應義塾大学	私 7.4
8(11)	青山学院大学	私 5.9	7(77)	皇学館大学	私 6.5	8(6)	日本体育大学	私 7.3
9(11)	愛知県立芸術大学	公 5.3	9(7)	青山学院大学	私 6.0	9(2)	東京芸術大学	国 7.0
9(11)	多摩美術大学	私 5.3	10(152)	愛知工科大学	私 5.6	10(148)	東京理科大学	私 6.7
9(5)	東京芸術大学	国 5.3	10(97)	静岡県立大学	公 5.6	10(21)	南山大学	私 6.7
12(80)	東京農工大学	国 4.9	10(5)	名古屋大学	国 5.6	12(31)	青山学院大学	私 5.8
13(144)	東京理科大学	私 4.6	10(30)	名古屋文理大学	私 5.6	12(148)	同志社大学	私 5.8
13(106)	一橋大学	国 4.6	10(22)	南山大学	私 5.6	14(148)	愛知大学	私 5.6
13(35)	立命館大学	私 4.6	15(42)	至学館大学	私 4.8	14(43)	静岡文化芸術大学	公 5.6
			15(42)	一橋大学	国 4.8			

■ 親しみやすい

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(10)	青山学院大学	私 6.6	1(142)	桜花学園大学	私 8.5	1(62)	中部大学	私 8.8
2(9)	早稲田大学	私 6.0	2(9)	南山大学	私 6.9	2(2)	青山学院大学	私 8.7
3(62)	静岡県立大学	公 5.4	2(11)	早稲田大学	私 6.9	3(128)	静岡県立大学	公 8.3
4(5)	同志社大学	私 5.2	4(20)	同志社大学	私 6.0	4(132)	名城大学	私 7.1
4(7)	南山大学	私 5.2	5(142)	桐山学園大学	私 5.6	5(22)	駒澤大学	私 7.0
6(153)	近畿大学	私 4.6	5(89)	中京学院大学	私 5.6	6(1)	愛知教育大学	国 5.6
7(104)	桜花学園大学	私 4.4	7(42)	青山学院大学	私 4.8	6(101)	愛知大学	私 5.6
7(10)	京都大学	国 4.4	8(3)	京都大学	国 4.3	8(36)	日本体育大学	私 5.5
7(16)	名城大学	私 4.4	9(89)	近畿大学	私 4.2	9(50)	東京学芸大学	国 5.0
10(75)	愛知大学	私 4.3	9(89)	聖徳大学	私 4.2	9(9)	早稲田大学	私 5.0
11(1)	中部大学	私 4.1	9(30)	帝京科学大学	私 4.2	11(132)	近畿大学	私 4.9
12(17)	駒澤大学	私 4.0	9(5)	名古屋大学	国 4.2	12(132)	京都大学	国 4.6
13(7)	立命館大学	私 3.8	9(142)	名古屋文理大学	私 4.2	12(101)	奈良女子大学	国 4.6
14(104)	桐山学園大学	私 3.7	9(142)	藤田保健衛生大学	私 4.2	14(24)	愛知文教大学	私 4.3
15(3)	中京大学	私 3.3	9(142)	立教大学	私 4.2	14(24)	岐阜聖徳学園大学	私 4.3
16(45)	東京学芸大学	国 3.1	9(16)	立命館大学	私 4.2	14(2)	同志社大学	私 4.3
17(153)	専修大学	私 3.0				14(24)	名古屋女子大学	私 4.3
17(75)	帝京科学大学	私 3.0						
17(182)	東京医科歯科大学	国 3.0						
17(13)	名古屋大学	国 3.0						
17(182)	名古屋文理大学	私 3.0						

■ 厳格な

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	東京大学	国 18.9	1(1)	東京大学	国 21.4	1(1)	東京大学	国 15.9
2(3)	京都大学	国 12.5	2(3)	学習院大学	私 17.7	2(43)	早稲田大学	私 11.7
3(4)	学習院大学	私 11.5	3(4)	京都大学	国 15.7	3(5)	名古屋大学	国 11.5
4(2)	名古屋大学	国 9.2	4(11)	一橋大学	国 10.7	4(8)	明治大学	私 11.1
5(6)	慶應義塾大学	私 8.6	5(5)	慶應義塾大学	私 9.4	5(6)	日本体育大学	私 10.9
6(8)	一橋大学	国 8.4	6(2)	名古屋大学	国 7.0	6(3)	京都大学	国 9.2
7(22)	早稲田大学	私 7.0	7(38)	名古屋工業大学	国 5.6	7(70)	國學院大学	私 8.7
8(10)	明治大学	私 6.1	7(76)	南山大学	私 5.6	8(9)	慶應義塾大学	私 7.4
9(50)	國學院大学	私 6.0	7(12)	立命館大学	私 5.6	9(11)	青山学院大学	私 5.8
10(9)	日本体育大学	私 5.8	10(14)	駒澤大学	私 5.3	9(7)	一橋大学	国 5.8
11(28)	南山大学	私 5.3	11(18)	帝京大学	私 4.8	11(2)	お茶の水女子大学	国 5.6
12(25)	法政大学	私 4.5	12(15)	大阪大学	国 4.4	11(36)	上智大学	私 5.6
13(169)	日本赤十字豊田看護大学	私 4.1	13(37)	東京工業大学	国 4.3	13(132)	日本赤十字豊田看護大学	私 5.5
14(18)	駒澤大学	私 3.9	14(76)	法政大学	私 4.0	14(18)	国士舘大学	私 5.3
14(63)	同志社大学	私 3.9	15(62)	岐阜医療科学大学	私 3.8	14(53)	浜松医科大学	国 5.3
			15(15)	龍谷大学	私 3.8			

エリア別傾向

関西

知名度

今年近畿大学が4年ぶりに1位。文系女子を除く全てで1位となった(女子・理系男子は同志社大学が同率1位、文系女子は同志社大学が1位)。2位は昨年4位の立命館大学。国公立大は上位20位中7校。エリア外の大学は東京大学を筆頭に関東エリアの5校。青山学院大学が新たにランクインした。

属性別で見ると5位までは地元大学

率が高いが、女子・理系女子では早稲田大学が上位に入っている。また、青山学院大学は全属性で20位以内にランクインしているほか、大阪教育大学が順位を維持または上げている。ほかにランクインした大学は、文系全体で大阪府立大学、文系女子で梅花女子大学、理系全体・理系男子で甲南大学、理系男子で京都産業大学、理系全体・理系女子でお茶の水女子大学、理系女子で摂南大学となった。

志願度

志願度では上位20位すべてがエリア内の大学となり、うち8校が国公立大。全体では関西大学が9年連続1位となった。理系を除く全属性で1位となり、ポイントも文系全体では18.7%と5~6名に1名は志願したいと考えている状態。2位近畿大学とは5ポイント以上の差がある。男子では関西外国語大学が5位以上順位を上げたほか、全体・男子・

図表 13 知名度・志願度ランキング/関西

知名度

全体				男子				女子			
順位	詳細	学校名	区分 (%)	順位	詳細	学校名	区分 (%)	順位	詳細	学校名	区分 (%)
1	3	近畿大学	私 92.9	1	2	近畿大学	私 92.6	1	3	近畿大学	私 93.2
2	4	立命館大学	私 90.8	2	1	関西大学	私 91.3	1	1	同志社大学	私 93.2
3	2	同志社大学	私 90.5	3	4	立命館大学	私 89.5	3	4	立命館大学	私 92.2
4	1	関西大学	私 89.8	4	3	同志社大学	私 88.0	4	2	関西大学	私 88.4
5	7	京都大学	国 80.9	5	6	京都大学	国 83.2	5	5	早稲田大学	私 80.7
6	9	龍谷大学	私 78.3	6	9	龍谷大学	私 79.0	6	9	京都大学	国 78.4
7	8	大阪大学	私 77.3	7	7	大阪大学	私 77.9	7	7	同志社女子大学	私 78.3
7	5	神戸大学	国 77.3	8	10	東京大学	国 77.2	8	6	神戸大学	国 77.7
7	11	東京大学	国 77.3	9	5	神戸大学	国 77.0	9	13	龍谷大学	私 77.6
10	6	早稲田大学	私 77.1	10	8	早稲田大学	私 73.9	10	8	関西学院大学	私 77.4
11	10	関西学院大学	私 75.4	11	11	関西学院大学	私 73.4	10	11	東京大学	国 77.4
12	13	明治大学	私 73.4	12	13	明治大学	私 70.4	12	14	明治大学	私 76.8
13	12	慶應義塾大学	私 66.8	13	16	大阪市立大学	公 68.9	13	12	大阪大学	国 76.5
14	14	甲南大学	私 65.1	14	12	慶應義塾大学	私 67.3	14	18	甲南大学	私 67.4
15	16	大阪府立大学	公 64.8	15	14	大阪府立大学	公 67.2	14	16	武庫川女子大学	私 67.4
16	20	大阪教育大学	国 64.0	16	15	甲南大学	私 62.9	16	15	関西外国語大学	私 67.0
17	21	青山学院大学	私 63.7	17	17	大阪教育大学	国 62.4	17	10	慶應義塾大学	私 66.3
18	15	大阪市立大学	公 62.6	18	21	青山学院大学	私 61.7	18	24	青山学院大学	私 66.0
19	19	関西外国語大学	私 60.8	19	18	京都産業大学	私 58.1	19	22	大阪教育大学	国 65.7
20	17	同志社女子大学	私 60.2	20	19	上智大学	私 57.2	20	17	お茶の水女子大学	国 65.2

志願度

全体				男子				女子			
順位	詳細	学校名	区分 (%)	順位	詳細	学校名	区分 (%)	順位	詳細	学校名	区分 (%)
1	1	関西大学	私 14.0	1	2	関西大学	私 14.2	1	1	関西大学	私 13.9
2	2	近畿大学	私 12.5	2	1	近畿大学	私 14.0	2	5	近畿大学	私 10.9
3	3	神戸大学	国 8.8	3	3	神戸大学	国 10.2	3	1	関西学院大学	私 9.1
4	7	同志社大学	私 8.6	4	5	大阪市立大学	公 9.3	4	3	同志社大学	私 8.5
5	4	大阪市立大学	公 8.2	5	6	同志社大学	私 8.6	5	6	神戸大学	国 7.3
6	5	関西学院大学	私 8.0	6	4	大阪大学	国 8.1	6	4	大阪市立大学	公 7.0
7	6	大阪大学	国 7.0	7	7	立命館大学	私 7.3	7	10	立命館大学	私 6.6
8	8	立命館大学	私 6.9	8	8	関西学院大学	私 7.0	8	7	大阪大学	国 5.8
9	9	龍谷大学	私 6.1	9	9	龍谷大学	私 6.6	9	11	関西外国語大学	私 5.6
10	12	関西外国語大学	私 4.3	10	10	京都大学	国 5.4	10	9	龍谷大学	私 5.5
11	10	大阪府立大学	公 3.9	11	11	大阪府立大学	公 4.3	11	12	同志社女子大学	私 5.3
11	11	京都大学	国 3.9	12	12	京都産業大学	私 3.9	12	15	武庫川女子大学	私 3.9
13	14	甲南大学	私 3.3	13	14	甲南大学	私 3.7	13	8	大阪府立大学	公 3.4
14	12	京都産業大学	私 3.0	14	19	関西外国語大学	私 3.1	14	13	兵庫県立大学	公 3.0
15	14	兵庫県立大学	公 2.8	15	13	京都工芸繊維大学	国 2.9	15	15	甲南大学	私 2.8
16	19	同志社女子大学	私 2.7	16	16	兵庫県立大学	公 2.7	16	25	滋賀県立大学	公 2.5
17	16	大阪教育大学	国 2.2	17	20	摂南大学	私 2.4	17	14	大阪教育大学	国 2.4
17	27	滋賀県立大学	公 2.2	18	18	大阪工業大学	私 2.2	17	17	京都大学	国 2.4
19	20	摂南大学	私 1.9	19	17	大阪教育大学	国 1.9	19	20	京都女子大学	私 2.3
19	25	武庫川女子大学	私 1.9	19	34	滋賀県立大学	公 1.9	20	17	京都産業大学	私 2.0
								20	26	京都橘大学	私 2.0
								20	20	佛光大学	私 2.0

文系全体			
順位	詳細	学校名	区分 (%)
1	3	近畿大学	私 95.2
2	4	立命館大学	私 92.4
3	2	関西大学	私 92.3
3	1	同志社大学	私 92.3
5	9	京都大学	国 80.6
6	8	龍谷大学	私 80.5
7	7	関西学院大学	私 79.9
8	10	東京大学	国 77.9
9	6	早稲田大学	私 77.6
10	5	神戸大学	国 76.6
10	13	明治大学	私 76.6
12	11	大阪大学	国 76.1
13	14	甲南大学	私 69.3
14	12	慶應義塾大学	私 68.1
15	22	青山学院大学	私 67.1
15	15	関西外国語大学	私 67.1
17	19	大阪教育大学	国 65.2
18	17	同志社女子大学	私 63.7
19	21	大阪府立大学	公 61.7
20	16	大阪市立大学	公 61.4

文系全体			
順位	詳細	学校名	区分 (%)
1	1	関西大学	私 18.7
2	4	近畿大学	私 13.1
3	2	関西学院大学	私 12.4
4	3	同志社大学	私 11.9
5	6	立命館大学	私 8.9
6	5	龍谷大学	私 7.7
7	9	関西外国語大学	私 6.6
8	7	大阪市立大学	公 6.4
9	8	神戸大学	国 5.8
10	10	大阪大学	国 4.8
11	11	甲南大学	私 4.2
12	12	京都産業大学	私 3.5
13	13	大阪教育大学	国 2.7
13	18	同志社女子大学	私 2.7
15	25	武庫川女子大学	私 2.4
16	19	神戸市外国語大学	公 2.1
16	20	佛光大学	私 2.1
18	30	大阪経済大学	私 1.9
18	30	神戸学院大学	私 1.9
18	14	兵庫県立大学	公 1.9

図表 14 志願度ランキング5年推移／関西

■ 文系全体

2012年			2013年			2014年			2015年			2016年		
順位	学校名	区分 (%)												
1	関西大学	私 18.3	1	関西大学	私 18.8	1	関西大学	私 18.4	1	関西大学	私 16.5	1	関西大学	私 18.7
2	関西学院大学	私 12.1	2	関西学院大学	私 12.9	2	近畿大学	私 12.6	2	関西学院大学	私 14.0	2	近畿大学	私 13.1
3	近畿大学	私 11.8	3	近畿大学	私 10.9	3	関西学院大学	私 11.7	3	同志社大学	私 12.0	3	関西学院大学	私 12.4
4	同志社大学	私 10.7	4	同志社大学	私 8.3	4	同志社大学	私 11.0	4	近畿大学	私 11.9	4	同志社大学	私 11.9
5	立命館大学	私 8.3	5	龍谷大学	私 7.3	5	立命館大学	私 8.9	5	龍谷大学	私 8.5	5	立命館大学	私 8.9
6	龍谷大学	私 8.3	6	立命館大学	私 6.8	6	龍谷大学	私 7.2	6	立命館大学	私 8.1	6	龍谷大学	私 7.7
7	神戸大学	国 6.9	7	甲南大学	私 6.4	7	関西外国語大学	私 6.0	7	大阪市立大学	公 6.5	7	関西外国語大学	私 6.6
8	関西外国語大学	私 6.6	8	神戸大学	国 6.0	8	甲南大学	私 5.7	8	神戸大学	国 6.1	8	大阪市立大学	公 6.4
9	大阪市立大学	公 6.2	9	関西外国語大学	私 5.8	9	大阪市立大学	公 5.4	9	関西外国語大学	私 6.0	9	神戸大学	国 5.8
10	甲南大学	私 6.0	10	大阪市立大学	公 5.3	10	神戸大学	国 5.2	10	大阪大学	国 5.5	10	大阪大学	国 4.8
11	京都産業大学	私 5.1	11	京都産業大学	私 3.9	11	大阪大学	国 3.5	11	甲南大学	私 4.8	11	甲南大学	私 4.2
12	大阪大学	国 5.0	12	大阪教育大学	国 3.3	12	京都産業大学	私 3.3	12	京都産業大学	私 4.2	12	京都産業大学	私 3.5
13	大阪教育大学	国 4.5	13	大阪大学	国 3.2	13	大阪教育大学	国 3.2	13	大阪教育大学	国 3.9	13	大阪教育大学	国 2.7
14	京都女子大学	私 3.2	14	神戸学院大学	私 2.6	13	武庫川女子大学	私 3.2	14	兵庫県立大学	公 3.0	13	同志社女子大学	私 2.7
14	佛教大学	私 3.2	14	佛教大学	私 2.6	15	佛教大学	私 2.7	15	京都外国語大学	私 2.6	15	武庫川女子大学	私 2.4
16	同志社女子大学	私 3.0	16	京都外国語大学	私 2.4	16	神戸市外国語大学	公 2.6	16	大阪府立大学	公 2.5	16	神戸市外国語大学	公 2.1
17	兵庫県立大学	公 2.8	16	武庫川女子大学	私 2.4	16	和歌山大学	国 2.6	16	和歌山大学	国 2.5	16	佛教大学	私 2.1
18	京都外国語大学	私 2.6	18	京都橋大学	私 2.2	18	同志社女子大学	私 2.5	18	同志社女子大学	私 2.4	18	大阪経済大学	私 1.9
18	神戸市外国語大学	公 2.6	18	同志社女子大学	私 2.2	19	追手門学院大学	私 2.1	19	神戸市外国語大学	公 2.3	18	神戸学院大学	私 1.9
18	和歌山大学	国 2.6	20	神戸市外国語大学	公 2.0	20	京都女子大学	私 2.0	20	佛教大学	私 2.2	18	兵庫県立大学	公 1.9
			20	兵庫県立大学	公 2.0	20	四天王寺大学	私 2.0						

■ 文系男子

2012年			2013年			2014年			2015年			2016年		
順位	学校名	区分 (%)												
1	関西大学	私 20.4	1	関西大学	私 20.9	1	関西大学	私 18.3	1	関西大学	私 18.5	1	関西大学	私 19.5
2	近畿大学	私 14.7	2	近畿大学	私 14.4	2	近畿大学	私 14.4	2	近畿大学	私 16.5	2	近畿大学	私 16.9
3	関西学院大学	私 12.4	3	関西学院大学	私 11.8	3	同志社大学	私 11.9	3	関西学院大学	私 11.7	3	同志社大学	私 13.1
4	同志社大学	私 10.5	4	同志社大学	私 10.3	4	関西学院大学	私 10.3	4	同志社大学	私 11.2	4	関西学院大学	私 11.9
5	龍谷大学	私 10.5	5	立命館大学	私 8.5	4	立命館大学	私 10.3	5	龍谷大学	私 10.8	5	立命館大学	私 10.1
6	神戸大学	国 8.6	6	甲南大学	私 8.1	6	龍谷大学	私 9.2	6	立命館大学	私 10.2	6	龍谷大学	私 8.2
7	甲南大学	私 8.3	7	龍谷大学	私 7.7	7	甲南大学	私 7.5	7	大阪市立大学	公 6.5	7	大阪市立大学	公 6.8
7	立命館大学	私 8.3	8	神戸大学	国 6.3	8	大阪市立大学	公 6.4	8	神戸大学	国 5.9	8	神戸大学	国 6.3
9	大阪市立大学	公 8.0	9	大阪市立大学	公 6.2	9	京都産業大学	私 5.1	9	京都産業大学	私 5.8	9	甲南大学	私 5.4
10	京都産業大学	私 7.1	10	京都産業大学	私 5.2	10	神戸大学	国 4.9	10	大阪大学	国 5.3	10	大阪大学	国 5.2
11	大阪大学	国 6.7	11	大阪大学	国 4.3	11	大阪大学	国 4.1	11	甲南大学	私 5.0	11	関西外国語大学	私 5.1
12	大阪経済大学	私 4.1	12	関西外国語大学	私 3.6	12	関西外国語大学	私 3.6	12	関西外国語大学	私 3.9	12	京都産業大学	私 4.5
13	関西外国語大学	私 3.8	13	神戸学院大学	私 3.5	13	大阪教育大学	国 3.3	13	大阪教育大学	国 3.5	13	大阪経済大学	私 3.0
14	大阪教育大学	国 3.6	14	大阪教育大学	国 3.0	14	追手門学院大学	私 2.9	14	和歌山大学	国 3.2	14	神戸学院大学	私 2.6
14	佛教大学	私 3.6	14	大阪経済大学	私 3.0	14	大阪経済大学	私 2.9	15	大阪経済大学	私 3.0	15	大阪教育大学	国 2.3
16	京都大学	国 3.5	14	佛教大学	私 3.0	14	佛教大学	私 2.9	16	兵庫県立大学	公 2.9	16	摂南大学	私 2.1
17	兵庫県立大学	公 2.9	17	兵庫県立大学	公 2.5	17	和歌山大学	国 2.8	17	大阪体育大学	私 2.6	17	佛教大学	私 1.9
18	大阪府立大学	公 2.3	18	京都大学	国 2.4	18	早稲田大学	私 2.6	18	滋賀大学	国 2.3	18	滋賀大学	国 1.7
19	大阪体育大学	私 2.2	19	滋賀大学	国 2.2	19	神戸学院大学	私 2.5	18	摂南大学	私 2.3	18	阪南大学	私 1.7
19	和歌山大学	国 2.2	19	桃山学院大学	私 2.2	20	滋賀大学	国 2.3	18	阪南大学	私 2.3	20	大阪体育大学	私 1.6
												20	兵庫県立大学	公 1.6
												20	和歌山大学	国 1.6
												20	早稲田大学	私 1.6

■ 文系女子

2012年			2013年			2014年			2015年			2016年		
順位	学校名	区分 (%)												
1	関西大学	私 16.5	1	関西大学	私 16.9	1	関西大学	私 18.5	1	関西学院大学	私 16.0	1	関西大学	私 18.0
2	関西学院大学	私 11.9	2	関西学院大学	私 13.8	2	関西学院大学	私 12.9	2	関西大学	私 14.7	2	関西学院大学	私 12.9
3	同志社大学	私 10.8	3	関西外国語大学	私 7.7	3	近畿大学	私 11.0	3	同志社大学	私 12.6	3	同志社大学	私 11.0
4	近畿大学	私 9.3	3	近畿大学	私 7.7	4	同志社大学	私 10.2	4	関西外国語大学	私 7.8	4	近畿大学	私 9.9
5	関西外国語大学	私 9.0	5	龍谷大学	私 6.9	5	関西外国語大学	私 8.1	4	近畿大学	私 7.8	5	関西外国語大学	私 7.9
6	立命館大学	私 8.3	6	同志社大学	私 6.5	6	立命館大学	私 7.7	6	龍谷大学	私 6.5	5	立命館大学	私 7.9
7	龍谷大学	私 6.4	7	神戸大学	国 5.7	7	武庫川女子大学	私 5.9	7	大阪市立大学	公 6.4	7	龍谷大学	私 7.2
8	京都女子大学	私 6.0	8	立命館大学	私 5.3	8	龍谷大学	私 5.5	8	神戸大学	国 6.3	8	大阪市立大学	公 6.0
9	同志社女子大学	私 5.5	9	甲南大学	私 5.0	9	神戸大学	国 5.4	8	立命館大学	私 6.3	9	神戸大学	国 5.4
10	神戸大学	国 5.4	10	大阪市立大学	公 4.6	10	大阪市立大学	公 4.5	10	大阪大学	国 5.7	10	同志社女子大学	私 4.9
11	大阪教育大学	国 5.3	10	武庫川女子大学	私 4.6	10	同志社女子大学	私 4.5	11	甲南大学	私 4.7	11	大阪大学	国 4.5
12	大阪市立大学	公 4.7	12	同志社女子大学	私 4.1	12	甲南大学	私 4.1	12	大阪教育大学	国 4.2	12	武庫川女子大学	私 4.3
13	京都外国語大学	私 4.0	13	京都女子大学	私 3.7	13	京都女子大学	私 3.7	13	同志社女子大学	私 4.1	13	甲南大学	私 3.3
13	甲南大学	私 4.0	14	大阪教育大学	国 3.5	14	神戸市外国語大学	公 3.4	14	京都外国語大学	私 3.8	14	大阪教育大学	国 3.0
13	神戸市外国語大学	公 4.0	15	京都外国語大学	私 3.4	15	大阪教育大学	国 3.2	15	神戸市外国語大学	公 3.2	14	神戸市外国語大学	公 3.0
16	大阪大学	国 3.5	16	甲南女子大学	私 3.0	16	甲南女子大学	私 3.0	16	大阪府立大学	公 3.1	16	京都産業大学	私 2.6
17	京都産業大学	私 3.3	17	京都産業大学	私 2.7	17	大阪大学	国 2.9	16	兵庫県立大学	公 3.1	17	京都外国語大学	私 2.3
18	武庫川女子大学	私 3.2	17	京都橋大学	私 2.7	18	佛教大学	私 2.5	18	京都産業大学	私 2.9	17	京都女子大学	私 2.3
19	京都橋大学	私 3.1	17	神戸市外国語大学	公 2.7	19	和歌山大学	国 2.4	18	武庫川女子大学	私 2.9	17	甲南女子大学	私 2.3
20	和歌山大学	国 2.9	20	神戸女子大学	私 2.4	20	四天王寺大学	私 2.1	20	京都女子大学	私 2.8	20	兵庫県立大学	公 2.2
												20	佛教大学	私 2.2

※高校所在地が関西エリアの高校生の「志願したい大学」(質問紙で4校まで選択)。 ※区分 国立/国 公立/公 私立/私
 ※エリア外の大学がランキングした場合、関東エリアの大学を青色、東海エリアの大学を橙色で示した。

■ 理系全体

2012年				2013年				2014年				2015年				2016年			
順位	学校名	区分	(%)																
1	神戸大学	国	16.3	1	近畿大学	私	15.1	1	神戸大学	国	15.3	1	神戸大学	国	16.3	1	神戸大学	国	15.4
2	大阪大学	国	14.3	2	神戸大学	国	13.7	2	大阪市立大学	公	13.8	2	大阪市立大学	公	14.9	2	大阪市立大学	公	12.8
3	近畿大学	私	14.0	3	大阪市立大学	公	12.3	3	近畿大学	私	13.4	3	大阪大学	国	14.8	3	大阪大学	国	12.2
4	大阪市立大学	公	13.4	4	大阪大学	国	12.2	4	大阪大学	国	12.7	4	大阪府立大学	公	11.2	4	近畿大学	私	11.8
5	大阪府立大学	公	13.1	5	大阪府立大学	公	11.2	5	大阪府立大学	公	12.1	5	京都大学	国	9.9	5	京都大学	国	9.0
6	関西大学	私	9.1	6	関西大学	私	9.4	6	関西大学	私	10.1	6	近畿大学	私	9.9	6	大阪府立大学	公	8.4
7	京都大学	国	7.5	7	京都大学	国	6.2	7	立命館大学	私	6.8	7	関西大学	私	6.8	7	関西大学	私	7.7
8	立命館大学	私	7.1	7	立命館大学	私	6.2	8	京都工芸繊維大学	国	6.7	8	京都工芸繊維大学	国	6.8	8	兵庫県立大学	公	4.8
9	兵庫県立大学	公	5.5	9	同志社大学	私	5.8	9	同志社大学	私	5.2	9	立命館大学	私	5.2	9	京都工芸繊維大学	国	4.6
10	同志社大学	私	5.2	10	兵庫県立大学	公	4.6	10	兵庫県立大学	公	5.1	10	同志社大学	私	4.8	10	同志社大学	私	4.3
11	京都工芸繊維大学	国	5.0	11	大阪工業大学	私	4.1	11	関西学院大学	私	4.0	11	兵庫県立大学	公	4.3	11	立命館大学	私	3.8
12	大阪工業大学	私	3.5	12	京都工芸繊維大学	国	4.0	12	京都工芸繊維大学	国	3.7	12	大阪工業大学	私	3.8	12	滋賀県立大学	公	3.7
13	大阪薬科大学	私	3.1	13	大阪薬科大学	私	3.6	13	龍谷大学	私	3.1	13	龍谷大学	私	3.2	13	龍谷大学	私	3.6
14	大阪教育大学	国	3.0	14	摂南大学	私	3.4	13	和歌山大学	国	3.1	14	摂南大学	私	2.5	14	大阪工業大学	私	3.1
15	摂南大学	私	2.9	15	京都薬科大学	私	3.0	15	大阪工業大学	私	2.8	15	関西学院大学	私	2.4	15	同志社女子大学	私	2.8
16	同志社女子大学	私	2.9	16	京都産業大学	私	2.8	16	大阪薬科大学	私	2.7	16	畿央大学	私	2.3	16	大阪薬科大学	私	2.7
17	和歌山大学	国	2.9	17	関西学院大学	私	2.7	17	京都府立大学	公	2.5	16	京都産業大学	私	2.3	16	摂南大学	私	2.7
18	関西学院大学	私	2.7	18	甲南大学	私	2.6	18	摂南大学	私	2.4	18	京都府立大学	公	2.2	18	京都薬科大学	私	2.4
19	京都産業大学	私	2.7	19	京都府立大学	公	2.5	19	神戸薬科大学	私	2.3	18	和歌山大学	国	2.2	19	関西学院大学	私	2.3
20	滋賀県立大学	公	2.6	20	大阪教育大学	国	2.4	20	大阪教育大学	国	2.2	20	大阪教育大学	国	2.1	19	京都産業大学	私	2.3
				20	京都府立医科大学	公	2.4												

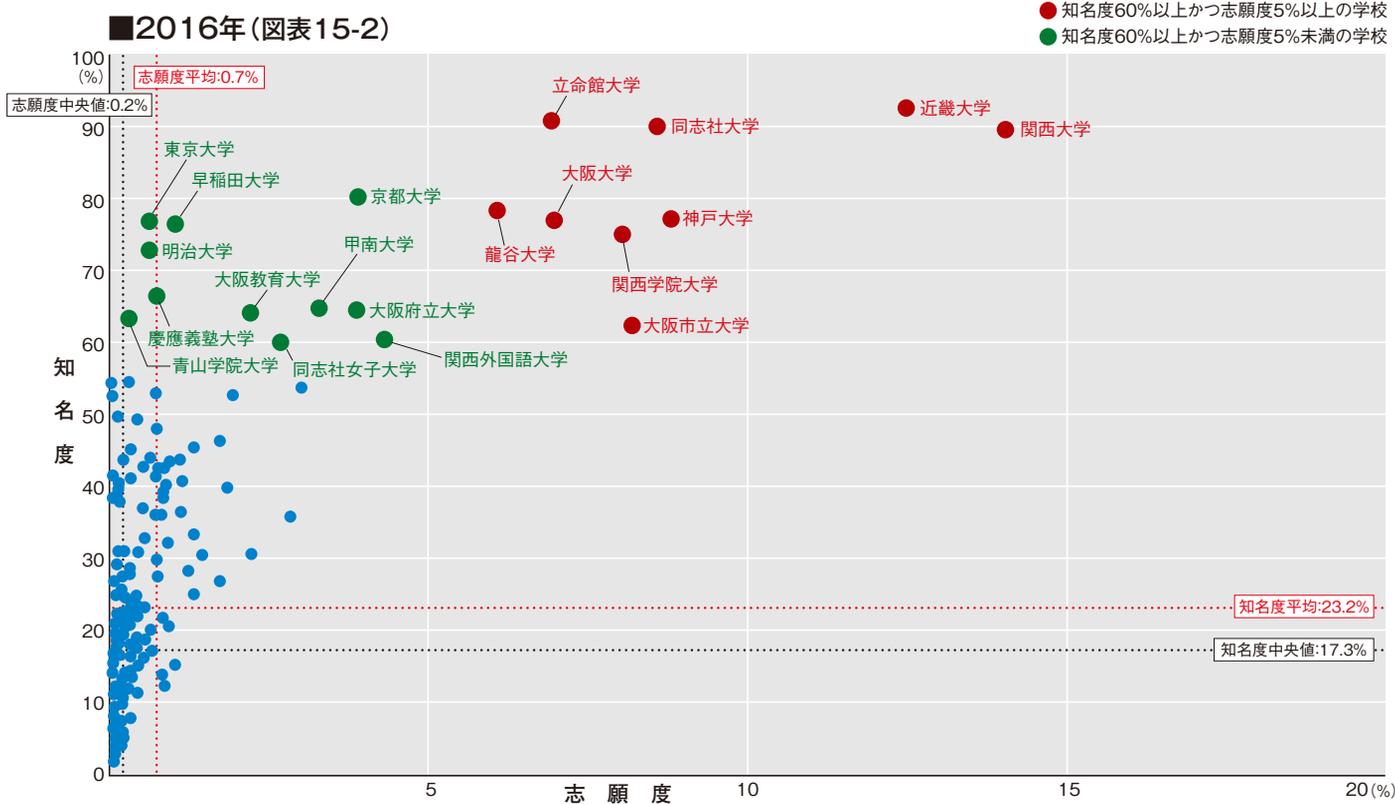
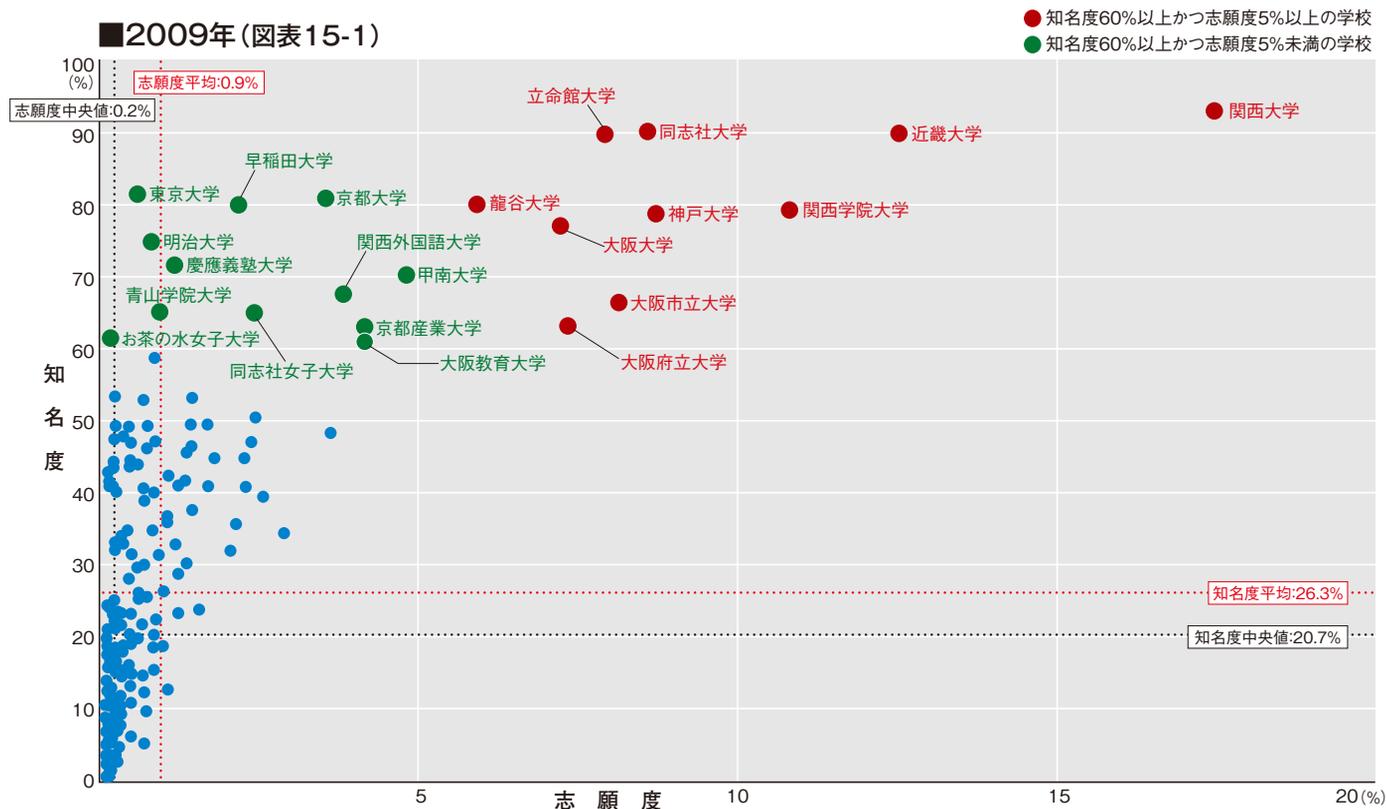
■ 理系男子

2012年				2013年				2014年				2015年				2016年			
順位	学校名	区分	(%)																
1	神戸大学	国	18.4	1	近畿大学	私	16.4	1	神戸大学	国	17.8	1	神戸大学	国	18.5	1	神戸大学	国	17.6
2	大阪大学	国	16.0	2	神戸大学	国	16.0	2	大阪大学	国	15.7	2	大阪大学	国	17.5	2	大阪市立大学	公	14.2
3	近畿大学	私	15.7	3	大阪大学	国	13.6	3	大阪市立大学	公	14.8	3	大阪市立大学	公	15.4	3	大阪大学	国	14.0
4	大阪市立大学	公	13.6	4	大阪市立大学	公	12.2	4	近畿大学	私	14.2	4	京都大学	国	12.0	4	京都大学	国	11.3
5	大阪府立大学	公	12.6	5	関西大学	私	11.6	5	関西大学	私	13.1	5	近畿大学	私	11.1	5	近畿大学	私	10.6
6	関西大学	私	12.1	6	大阪府立大学	公	10.1	6	大阪府立大学	公	12.5	6	大阪府立大学	公	9.7	6	関西大学	私	9.0
7	京都大学	国	8.2	7	立命館大学	私	8.3	7	京都大学	国	8.4	7	京都工芸繊維大学	国	9.4	7	大阪府立大学	公	8.8
8	立命館大学	私	7.4	8	京都大学	国	7.7	8	立命館大学	私	6.9	8	関西大学	私	8.7	8	京都工芸繊維大学	国	6.8
9	同志社大学	私	6.9	9	同志社大学	私	6.7	9	同志社大学	私	6.7	9	同志社大学	私	6.2	9	同志社大学	私	5.0
10	京都工芸繊維大学	国	6.2	10	京都工芸繊維大学	国	6.1	10	関西学院大学	私	5.2	10	立命館大学	私	5.9	10	立命館大学	私	4.5
11	兵庫県立大学	公	6.1	11	大阪工業大学	私	5.9	11	兵庫県立大学	公	4.7	11	大阪工業大学	私	5.5	11	大阪工業大学	私	4.3
12	大阪工業大学	私	3.9	12	兵庫県立大学	公	5.3	12	京都工芸繊維大学	国	4.5	12	龍谷大学	私	3.5	11	兵庫県立大学	公	4.3
13	和歌山大学	国	3.9	13	京都産業大学	私	3.4	13	大阪工業大学	私	4.1	13	京都産業大学	私	3.1	13	龍谷大学	私	4.1
14	関西学院大学	私	3.5	14	甲南大学	私	3.4	14	和歌山大学	国	3.9	14	関西学院大学	私	2.9	14	京都産業大学	私	3.2
15	京都産業大学	私	3.4	15	関西学院大学	私	3.0	15	龍谷大学	私	2.8	14	兵庫県立大学	公	2.9	14	滋賀県立大学	公	3.2
16	龍谷大学	私	3.4	16	龍谷大学	私	3.0	16	大阪教育大学	国	2.6	14	和歌山大学	国	2.9	16	摂南大学	私	2.7
17	大阪教育大学	国	2.5	17	摂南大学	私	2.8	17	摂南大学	私	2.2	17	名古屋大学	国	2.8	17	大阪薬科大学	私	2.5
18	滋賀県立大学	公	2.2	18	和歌山大学	国	2.4	18	京都府立大学	公	2.1	18	大阪教育大学	国	2.1	18	関西学院大学	私	2.5
19	摂南大学	私	2.0	19	大阪教育大学	国	2.2	18	滋賀県立大学	公	2.1	19	滋賀県立大学	公	1.7	19	京都薬科大学	私	2.0
20	東京大学	国	2.0	20	大阪薬科大学	私	2.0	20	京都産業大学	私	1.9	19	摂南大学	私	1.7	19	甲南大学	私	2.0
				20	名古屋大学	国	2.0	20	名古屋大学	国	1.9								

■ 理系女子

2012年				2013年				2014年				2015年				2016年			
順位	学校名	区分	(%)	順位	学校名	区分	(%)	順位	学校名	区分	(%)	順位	学校名	区分	(%)	順位	学校名	区分	(%)
1	大阪府立大学	公	14.0	1	大阪府立大学	公	13.0	1	大阪市立大学	公	12.1	1	大阪市立大学	公	13.9	1	近畿大学	私	13.4
2	大阪市立大学	公	13.0	1	近畿大学	私	13.0	1	近畿大学	私	12.1	2	大阪府立大学	公	13.6	2	神戸大学	国	12.2
3	神戸大学	国	12.7	3	大阪市立大学	公	12.4	3	大阪府立大学	公	11.5	3	神戸大学	国	12.7	3	大阪市立大学	公	10.8
4	大阪大学	国	11.4	4	大阪大学	国	9.9	4	神戸大学	国	11.2	4	大阪大学	国	10.2	4	大阪大学	国	9.6
5	近畿大学	私	11.1	4	神戸大学	国	9.9	5	大阪大学	国	7.6	5	近畿大学	私	8.0	5	大阪府立大学	公	7.8
6	同志社女子大学	私	7.8	6	大阪薬科大学	私	6.2	6	立命館大学	私	6.5	6	京都大学	国	6.5	6	同志社女子大学	私	6.4
7	立命館大学	私	6.5	7	関西大学	私	5.9	7	兵庫県立大学	公	5.9	6	京都府立大学	公	6.5	7	関西大学	私	5.8
8	京都大学	国	6.2	8	京都薬科大学	私	5.3	8	大阪薬科大学	私	5.6	8	畿央大学	私	4.6	7	京都大学	国	5.8
9	大阪薬科大学	私	5.2	9	奈良女子大学	国	4.6	9	武庫川女子大学	私	5.3	9	武庫川女子大学	私	4.0	9	兵庫県立大学	公	5.5
10	京都薬科大学	私	4.9	10	京都府立医科大学	公	4.3	10	関西大学	私	5.0	9	立命館大学	私	4.0	10	滋賀県立大学	公	4.4
11	摂南大学	私	4.6	10	京都府立大学	公	4.3	11	京都薬科大学	私	4.1	11	関西大学	私	3.7	11	武庫川女子大学	私	3.8
12	兵庫県立大学	公	4.6	10	摂南大学	私	4.3	11	同志社女子大学	私	4.1	11	京都府立大学	公	3.7	12	同志社大学	私	3.5
13	武庫川女子大学	私	4.2	10	同志社女子大学	私	4.3	13	京都大学	国	3.8	11	摂南大学	私	3.7	13	大阪薬科大学	私	2.9
14	大阪教育大学	国	3.9	10	同志社大学	私	4.3	14	神戸薬科大学	私	3.5	11	同志社女子大学	私	3.7	13	京都薬科大学	私	2.9
15	関西大学	私	3.9	10	武庫川女子大学	私	4.3	14	奈良女子大学	国	3.5	15	京都府立医科大学	公	3.4	13	立命館大学	私	2.9
16	京都府立大学	公	3.9	16	京都女子大学	私	4.0	14	龍谷大学	私	3.5	16	京都薬科大学	私	3.1	13	龍谷大学	私	2.9
17	神戸市看護大学	公	3.9	17	京都大学	国	3.7	17	畿央大学	私	3.2	16	奈良県立医科大学	公	3.1	17	摂南大学	私	2.6
18	奈良女子大学	国	3.9	17	神戸薬科大学	私	3.7	17	京都府立大学	公	3.2	18	甲南女子大学	私	2.8	18	大阪医科大学	私	2.3
19	京都女子大学	私	3.3	19	神戸学院大学	私	3.4	19	京都府立医科大学	公	2.9	18	龍谷大学	私	2.8	18	京都橋大学	私	2.3
20	滋賀県立大学	公	3.3	19	兵庫県立大学	公	3.4	20	摂南大学	私	2.6	20	京都工芸繊維大学	国	2.5	18	神戸学院大学	私	2.3
21	兵庫医療大学	私	3.3					20	同志社大学	私	2.6	20	滋賀県立大学	公	2.5	18	兵庫医療大学	私	2.3
								20	兵庫医療大学	私	2.6	20	滋賀県立大学	公	2.5	18	森ノ宮医療大学	私	2.3
								20	佛光大学	私	2.6	20	同志社大学	私	2.5	18	和歌山県立医科大学	公	2.3

図表 15 知名度×志願度プロット分析／関西



ン学部を設置したほか、総合リハビリテーション学部や栄養学部の改組等の動きがあったことも背景にありそうだ。大阪薬科大学と大阪医科大学は2016年4月より法人合併しており、合併による教育研究面での相乗効果を見込み、期待値が高い様子が窺える。

志願度経年比較 (2012～2016)

文理男女別の志願度を5年推移で追ったのが図表14である。

志願度は例年地元の大学が大半を占める。文系を中心に強いブランド力を維持するのは関西大学。昨年やや下降した志願度も、今年は全体で14.0%と一昨年の水準に戻した。特に文系では圧倒的な強さを誇っている。文系女子で昨年1位となった関西学院大学は今年2位。以下、例年私立総合大学が上位に並ぶ。理系は全体・男子で2014年以降、神戸大学が1位。例年上位5位は近畿大学を除く4校が国公立大で、私大の多い文系とは異なり、学費の高い理系では国公立志向が強いようだ。今年は理系女子で近畿大学が2013年以來の1位となった。ポイントも昨年8.0%から13.4%と大きく上昇している。以下の順位では公立大学の比率が高いのが、他エリアにはない特徴である。

知名度×志願度プロット分析

知名度を縦軸、志願度を横軸にとり、大学の分布を表したものを2009年と2016年で比較したのが図表15である。関西エリアの平均知名度は2009年の26.3%から2016年には23.2%に3.1ポイント低下。中央値も20.7%から17.3%に下がっている。平均志願度は

0.9%から0.7%に0.2ポイント低下、中央値は0.2%で変化がなかった。

赤表記の上位集団の中でも、2009年時点では知名度・志願度ともに関西大学が圧倒的だったが、2番手の近畿大学が2009年と2016年でほぼ同じ志願度を保った結果、2校の差が詰まってきた。知名度90%前後は関西大学・近畿大学・同志社大学・立命館大学の4校で変わらず、総合私大が強いが、赤表記ゾーンには国公立大3校が分布しており、有名私大と同様に高い知名度・志願度を保持している。また、緑表記ゾーンには関東エリアの大学も5校前後分布している。ポジションが上昇している大学では近年改革を進めているところが多い。入学者選抜や新增設等、特に高校生にわかりやすく、直接メリットを訴求できる改革が、ポジションアップに影響しているように感じられる。

イメージ項目

最後に、高校生が個別の大学にどんなイメージを抱いているかを示した。機能的価値32項目(図表16)、感性的価値15項目(図表17)の計47項目である。

関西エリアでは全47項目中38項目でエリア内の大学が1位となっており、エリア外の大学の占める割合が低い。ただし、2014年は43項目、2015年は42項目だったのが、じわじわと減少している。エリア外で1位となっているのは東京大学・慶應義塾大学・早稲田大学だ。エリア内では26項目で京都大学が1位(機能20項目・感性6項目)。イメージの総量で他大学を圧倒している。その他の12項目ではそれぞれ1位の大学が8大学に分散しており、他エリアに比べ地元の大学が個別に比

較的強くイメージされているようだ。全47項目中全体男女の1位が一致したのは9項目しかなく、その大半が京都大学。個別の設問ごとに男女でもイメージが分かれている様子だ。

個別の項目を見ると、「教育方針・カリキュラムが魅力的である」については他エリア同様、1位の京都大学でも11.8%と、上位であってもポイントが高いとは言えず、本来伝えたいはずの内容が伝わっていない様子が見える。そんななか、龍谷大学は同項目のほか、「自分の興味や可能性が広げられる」「伝統や実績がある」「交通の便が良い」「キャンパスがきれい」「寮や奨学金等が充実している」等で大きくランクアップしている。2013年の深草キャンパス開設、2015年の農学部・国際学部の設置等のインパクトが背景にありそうだ。ほかには、関西学院大学が「教育方針・カリキュラムが魅力的である」「教授・講師陣が魅力的である」「学生の面倒見が良い」でランクアップ。人の魅力を中心にイメージが高いようだ。大阪市立大学も「学生の面倒見が良い」「先輩・卒業生が魅力的である」「社会で役立つ力が身につく」等、人を軸にした魅力を訴求しつつ、「入試方法が自分に合っている」「偏差値が自分に合っている」と、進学時の重視項目で高いイメージをつけた。

一方、高大接続改革の文脈でフォーカスされる「入試方法が自分に合っている」で、昨年から人材の多様性を確保するために特色入試を開始した京都大学が1位になる等、高校生にとって身近なトピックスに強いイメージがついている様子が窺える。



(本誌 鹿島 梓)

図表 16 機能的価値を表すイメージ項目／関西

■ 伝統や実績がある

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(1)	京都大学	国	63.0	1(1)	京都大学	国	71.9	1(1)	京都大学	国	52.4
2(2)	東京大学	国	51.1	2(5)	大阪大学	国	53.8	2(2)	東京大学	国	49.0
3(3)	早稲田大学	私	49.0	3(2)	大阪大学	国	53.3	3(3)	早稲田大学	私	48.0
4(6)	慶應義塾大学	私	48.7	4(4)	慶應義塾大学	私	50.5	4(7)	慶應義塾大学	私	46.1
5(4)	大阪大学	国	46.7	5(3)	早稲田大学	私	50.0	5(8)	立命館大学	私	44.1
6(5)	同志社大学	私	43.2	6(5)	同志社大学	私	43.3	6(5)	同志社大学	私	43.0
7(9)	神戸大学	国	38.7	7(10)	神戸大学	国	37.4	7(6)	神戸大学	国	40.2
8(7)	立命館大学	私	37.6	8(8)	立命館大学	私	32.2	8(4)	関西大学	国	39.8
9(10)	関西大学	私	32.2	9(9)	関西大学	私	30.5	9(9)	関西大学	私	34.0
10(16)	大阪市立大学	公	26.2	10(18)	龍谷大学	私	28.3	10(13)	大阪市立大学	公	28.0
11(11)	関西学院大学	私	24.9	11(11)	関西学院大学	私	25.8	11(13)	お茶の水女子大学	国	25.8
12(19)	龍谷大学	私	24.7	12(19)	大阪市立大学	公	24.7	12(11)	関西学院大学	私	24.1
13(18)	上智大学	私	22.5	13(14)	大阪府立大学	公	22.1	13(19)	上智大学	私	24.0
14(13)	大阪府立大学	公	22.1	14(16)	大阪教育大学	国	21.9	14(9)	近畿大学	私	22.7
15(12)	明治大学	私	20.5	15(16)	上智大学	私	21.1	15(15)	大阪府立大学	公	22.0

■ 有名である

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(1)	京都大学	国	66.3	1(1)	京都大学	国	70.8	1(3)	同志社大学	私	62.0
2(4)	同志社大学	私	57.2	2(6)	大阪大学	国	58.5	1(9)	早稲田大学	私	62.0
2(5)	早稲田大学	私	57.2	3(9)	慶應義塾大学	私	55.6	3(1)	京都大学	国	61.0
4(3)	東京大学	国	56.8	4(3)	東京大学	国	54.4	4(4)	東京大学	国	59.0
5(6)	大阪大学	国	56.3	5(7)	立命館大学	私	53.0	5(10)	慶應義塾大学	私	55.3
6(10)	慶應義塾大学	私	55.4	6(5)	同志社大学	私	52.2	6(6)	立命館大学	私	54.9
7(7)	立命館大学	私	53.9	6(2)	早稲田大学	私	52.2	7(5)	大阪大学	国	54.2
8(8)	神戸大学	国	49.8	8(8)	神戸大学	国	51.3	8(7)	関西大学	私	54.0
9(9)	関西大学	私	47.4	9(4)	近畿大学	私	45.6	9(8)	神戸大学	国	48.0
10(2)	近畿大学	私	45.0	10(11)	関西学院大学	私	41.9	10(2)	近畿大学	私	44.3
11(11)	関西学院大学	私	41.8	11(10)	関西大学	私	41.1	11(11)	関西学院大学	私	41.7
12(19)	大阪市立大学	公	33.7	12(15)	龍谷大学	私	32.3	12(20)	大阪市立大学	公	40.2
13(15)	龍谷大学	私	32.6	13(19)	大阪教育大学	国	30.2	12(12)	お茶の水女子大学	国	40.2
14(16)	青山学院大学	私	31.1	14(12)	明治大学	私	28.2	14(15)	上智大学	私	39.0
15(13)	上智大学	私	31.0	15(20)	大阪市立大学	公	28.1	15(17)	青山学院大学	私	36.6

■ 学校が発展していく可能性がある

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(2)	京都大学	国	22.2	1(2)	京都大学	国	21.3	1(2)	京都大学	国	23.2
2(1)	近畿大学	私	18.6	2(1)	近畿大学	私	20.4	2(1)	近畿大学	私	16.5
3(4)	大阪大学	国	16.6	3(3)	大阪大学	国	18.9	3(6)	大阪大学	国	14.4
4(11)	慶應義塾大学	私	13.2	4(6)	東京大学	国	15.6	4(12)	立命館大学	私	13.7
4(3)	東京大学	国	13.2	5(11)	慶應義塾大学	私	15.2	5(7)	大阪市立大学	公	11.0
6(7)	立命館大学	私	12.4	6(12)	同志社大学	私	14.4	5(3)	東京大学	国	11.0
7(12)	同志社大学	私	11.7	7(5)	早稲田大学	私	13.3	7(11)	慶應義塾大学	私	10.5
8(14)	龍谷大学	私	10.3	8(4)	立命館大学	私	11.3	7(20)	龍谷大学	私	10.5
9(5)	早稲田大学	私	10.1	9(8)	関西大学	私	10.5	9(4)	神戸大学	国	9.8
10(8)	大阪市立大学	公	9.9	10(14)	龍谷大学	私	10.1	10(10)	同志社大学	私	9.0
11(10)	関西大学	私	9.3	11(8)	関西学院大学	私	9.7	11(9)	関西大学	私	8.0
12(6)	神戸大学	国	8.7	12(10)	大阪市立大学	公	9.0	12(8)	関西学院大学	私	7.4
13(9)	関西学院大学	私	8.5	13(7)	神戸大学	国	7.8	13(16)	千葉大学	国	7.3
14(25)	京都産業大学	私	6.2	14(14)	大阪府立大学	公	6.3	14(25)	明治大学	私	7.2
15(34)	明治大学	私	6.0	14(64)	京都産業大学	私	6.3	15(5)	早稲田大学	私	7.0
				14(57)	上智大学	私	6.3				

■ 教育内容のレベルが高い

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(1)	京都大学	国	42.1	1(1)	京都大学	国	41.6	1(1)	京都大学	国	42.7
2(3)	東京大学	国	37.8	2(2)	大阪大学	国	39.6	2(3)	東京大学	国	39.0
3(2)	大阪大学	国	36.3	3(2)	東京大学	国	36.7	3(2)	大阪大学	国	33.1
4(4)	早稲田大学	私	30.0	4(6)	慶應義塾大学	私	33.3	4(5)	早稲田大学	私	29.0
5(6)	慶應義塾大学	私	27.1	5(4)	早稲田大学	私	31.1	5(9)	同志社大学	私	26.0
6(8)	同志社大学	私	25.8	6(8)	同志社大学	私	25.6	6(8)	大阪市立大学	公	25.6
7(5)	神戸大学	国	24.4	7(5)	神戸大学	国	24.3	7(4)	神戸大学	国	24.5
8(9)	大阪市立大学	公	20.3	8(7)	立命館大学	私	16.5	8(10)	立命館大学	私	18.6
9(7)	立命館大学	私	17.5	9(9)	大阪市立大学	公	15.7	9(14)	慶應義塾大学	私	18.4
10(10)	関西学院大学	私	13.0	10(12)	関西学院大学	私	15.1	10(6)	関西大学	私	15.0
11(11)	関西大学	私	12.7	11(10)	大阪府立大学	公	13.7	11(16)	大阪医科大学	私	14.6
12(12)	大阪府立大学	公	12.4	12(16)	大阪府立大学	公	10.5	12(20)	上智大学	私	12.0
13(15)	上智大学	私	10.2	13(17)	大阪教育大学	国	10.4	13(11)	明治大学	私	11.3
14(20)	大阪教育大学	国	10.1	14(11)	一橋大学	国	9.4	14(6)	関西学院大学	私	11.1
15(15)	明治大学	私	8.9	15(24)	横浜国立大学	国	8.6	15(13)	大阪府立大学	公	11.0

■ 活気がある感じがする

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(8)	慶應義塾大学	私	27.4	1(7)	慶應義塾大学	私	27.3	1(1)	近畿大学	私	33.0
2(1)	近畿大学	私	26.8	2(18)	同志社大学	私	26.7	2(37)	大阪体育大学	私	29.4
3(2)	関西大学	私	23.1	2(5)	早稲田大学	私	26.7	3(9)	慶應義塾大学	私	27.6
4(12)	同志社大学	私	22.8	4(4)	関西大学	私	24.2	4(12)	立命館大学	私	25.5
4(3)	早稲田大学	私	22.8	5(3)	京都大学	国	22.5	5(2)	関西大学	私	22.0
6(14)	大阪体育大学	私	22.3	6(1)	近畿大学	私	21.4	6(22)	龍谷大学	私	19.7
7(5)	立命館大学	私	21.5	7(6)	東京大学	国	21.1	7(8)	同志社大学	私	19.0
8(4)	京都大学	国	18.3	8(8)	関西学院大学	私	19.4	7(3)	早稲田大学	私	19.0
9(7)	関西学院大学	私	16.5	9(2)	立命館大学	私	18.3	9(16)	明治大学	私	18.6
9(6)	東京大学	国	16.5	10(9)	大阪体育大学	私	16.5	10(5)	大阪大学	国	17.8
11(10)	大阪大学	国	15.1	11(10)	日本体育大学	私	13.9	11(13)	青山学院大学	私	15.8
12(11)	日本体育大学	私	14.5	12(12)	神戸大学	国	13.0	12(14)	日本体育大学	私	15.2
13(13)	青山学院大学	私	14.2	13(13)	大阪市立大学	公	12.4	13(6)	神戸大学	国	14.7
14(9)	神戸大学	国	13.8	14(11)	青山学院大学	私	12.3	14(4)	関西学院大学	私	13.9
15(20)	龍谷大学	私	13.5	14(14)	大手門大学	国	12.3	15(10)	京都大学	国	13.4

■ 校風や雰囲気が良い

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(3)	京都大学	国	16.6	1(1)	京都大学	国	22.5	1(1)	関西大学	私	16.0
2(7)	立命館大学	私	15.2	2(10)	慶應義塾大学	私	19.2	2(3)	近畿大学	私	15.5
3(10)	慶應義塾大学	私	15.1	3(3)	立命館大学	私	15.7	3(13)	大阪大学	国	15.3
4(6)	同志社大学	私	14.7	4(6)	早稲田大学	私	15.6	4(6)	同志社大学	私	15.0
5(5)	関西学院大学	私	14.5	5(9)	関西学院大学	私	15.1	5(11)	立命館大学	私	14.7
6(9)	大阪大学	国	13.8	6(7)	同志社大学	私	14.4	6(3)	関西学院大学	私	13.9
6(4)	早稲田大学	私	13.8	7(4)	大阪大学	国	12.3	7(12)	お茶の水女子大学	国	13.4
8(1)	関西大学	私	13.2	8(8)	神戸大学	国	12.2	8(7)	神戸大学	国	12.7
9(2)	近畿大学	私	12.9	9(18)	龍谷大学	私	12.1	9(15)	大阪市立大学	公	12.2
10(7)	神戸大学	国	12.4	10(11)	東京大学	国	11.1	10(2)	早稲田大学	私	12.0
11(12)	大阪市立大学	公	10.5	11(1)	近畿大学	私	10.7	11(28)	明治大学	私	10.3
12(23)	龍谷大学	私	10.4	12(5)	龍谷大学	私	10.5	12(27)	神戸学院大学	私	10.2
13(18)	明治大学	私	8.9	13(12)	大阪市立大学	公	9.0	13(5)	京都大学	国	9.8
14(11)	東京大学	国	8.5	14(39)	甲南大学	私	7.8	14(10)	慶應義塾大学	私	9.2
15(20)	甲南大学	私	8.0	14(15)	明治大学	私	7.8	15(19)	甲南大学	私	8.2

■ 教育方針・カリキュラムが魅力的である

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(1)	京都大学	国	11.8	1(2)	京都大学	国	14.6	1(7)	大阪大学	国	11.9
2(2)	大阪大学	国	11.1	2(27)	同志社大学	私	14.4	2(2)	神戸大学	国	9.8
3(15)	同志社大学	私	9.7	3(3)	東京大学	国	11.1	3(1)	京都大学	国	8.5
4(14)	関西学院大学	私	9.0	3(7)	早稲田大学	私	11.1	4(11)	関西学院大学	私	8.3
5(3)	神戸大学	国	7.3	5(1)	大阪大学	国	10.4	5(35)	同志社女子大学	私	7.4
6(11)	慶應義塾大学	私	6.5	6(9)	慶應義塾大学	私	10.1	6(9)	大阪市立大学	公	7.3
6(3)	東京大学	国	6.5	7(13)	関西学院大学	私	9.7	7(18)	お茶の水女子大学	国	6.2
8(7)	大阪市立大学	公	6.4	8(5)	立命館大学	私	7.0	7(53)	筑波大学	国	6.2
9(10)	立命館大学	私	5.6	9(10)	大阪教育大学	国	6.3	7(21)	明治大学	私	6.2
10(9)	早稲田大学	私	5.5	10(156)	追手門学院大学	私	5.6	10(4)	関西大学	私	6.0
11(72)	同志社女子大学	私	5.4	10(7)	大阪市立大学	公	5.6	11(8)	同志社大学	私	5.0
12(90)	兵庫医療大学	私	4.7	10(11)	埼玉大学	国	5.6	11(33)	兵庫医療大学	私	5.0
13(13)	大阪教育大学	国	4.2	13(4)	神戸大学	国	5.2	11(15)	和歌山大学	国	5.0
14(8)	関西外国語大学	私	4.0	14(55)	龍谷大学	私	5.1	14(12)	大阪医科大学	私	4.5
14(5)	関西大学	私	4.0	15(18)	関西外国語大学	私	5.0	15(44)	京都橘大学	私	4.1
14(20)	京都工芸繊維大学	国	4.0					15(6)	近畿大学	私	4.1
14(32)	龍谷大学	私	4.0								

■ 自分の興味や可能性が広げられる

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(1)	京都大学	国	12.2	1(4)	東京大学	国	13.3	1(1)	京都大学	国	13.4
2(2)	大阪大学	国									

※イメージ項目において()内は昨年順位。 ※区分 国立/国 公立/公 私立/私

■ 資格取得に有利である

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(5)	大阪教育大学	国 13.7	1(2)	東京大学	国 16.7	1(15)	大阪教育大学	国 15.7
2(4)	大阪大学	国 13.4	2(8)	慶應義塾大学	私 13.1	2(5)	大阪医科大学	私 14.6
2(1)	京都大学	国 13.4	3(1)	京都大学	国 12.4	2(2)	京都大学	国 14.6
4(2)	東京大学	国 12.3	4(7)	大阪大学	国 12.3	4(8)	大阪大学	国 14.4
5(11)	慶應義塾大学	私 10.4	5(4)	大阪教育大学	国 11.5	5(7)	神戸大学	国 8.8
6(9)	大阪医科大学	私 9.9	6(12)	立命館大学	私 11.3	6(23)	大阪市立大学	公 8.5
7(6)	神戸大学	国 9.7	7(41)	同志社大学	私 11.1	7(17)	武庫川女子大学	私 8.3
8(11)	立命館大学	私 8.4	8(9)	神戸大学	国 10.4	8(22)	関西福祉大学	私 8.0
9(41)	同志社大学	私 7.5	9(13)	大阪体育大学	私 8.7	8(96)	京都看護大学	私 8.0
10(15)	関西大学	私 7.2	10(10)	関西学院大学	私 8.6	8(1)	東京大学	国 8.0
11(16)	京都薬科大学	私 7.1	11(26)	関西大学	私 8.4	11(43)	森/宮医療大学	私 7.9
12(14)	大阪市立大学	公 7.0	12(43)	関西外国語大学	私 7.9	12(12)	京都薬科大学	私 7.6
13(35)	大阪薬科大学	私 6.6	13(35)	神戸薬科大学	私 7.8	13(27)	奈良教育大学	国 7.2
14(22)	大阪体育大学	私 6.5	13(3)	早稲田大学	私 7.8	13(18)	和歌山県立医科大学	公 7.2
14(24)	関西学院大学	私 6.5	15(50)	大阪商業大学	私 7.5	15(5)	関西医科大学	私 7.0
14(16)	和歌山県立医科大学	公 6.5				15(12)	京都教育大学	国 7.0
						15(52)	兵庫医療大学	私 7.0

■ 社会で役立つ力が身につく

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(5)	大阪大学	国 18.4	1(2)	大阪大学	国 20.8	1(1)	京都大学	国 17.1
2(1)	京都大学	国 18.2	2(1)	京都大学	国 19.1	2(7)	大阪大学	国 16.1
3(9)	慶應義塾大学	私 12.2	3(9)	慶應義塾大学	私 17.2	3(5)	神戸大学	国 11.8
4(2)	東京大学	国 11.8	4(5)	東京大学	国 16.7	4(9)	大阪市立大学	公 11.0
5(6)	神戸大学	国 10.6	5(8)	同志社大学	私 13.3	5(4)	近畿大学	私 8.2
6(7)	同志社大学	私 9.1	6(6)	神戸大学	国 9.6	6(8)	明治大学	私 7.2
7(12)	大阪市立大学	公 8.7	7(3)	早稲田大学	私 8.9	7(2)	東京大学	国 7.0
8(10)	立命館大学	私 7.4	8(41)	上智大学	私 8.4	8(39)	立命館大学	私 6.9
9(3)	早稲田大学	私 6.9	9(7)	立命館大学	私 7.8	9(11)	大阪医科大学	私 6.7
10(22)	上智大学	私 6.7	10(15)	大阪教育大学	国 7.3	10(18)	関西学院大学	私 6.5
11(4)	近畿大学	私 6.4	11(51)	龍谷大学	私 6.1	11(55)	和歌山大学	国 5.9
12(30)	大阪教育大学	国 6.0	12(13)	大阪市立大学	公 7.7	12(32)	武庫川女子大学	私 5.6
13(11)	関西学院大学	私 5.9	13(96)	京都薬科大学	私 6.6	13(17)	慶應義塾大学	私 5.3
14(8)	関西大学	私 5.7	13(87)	神戸外国語大学	公 6.6	14(29)	お茶の水女子大学	国 5.2
15(26)	関西医科大学	私 5.3	15(25)	関西大学	私 6.3	14(100)	奈良教育大学	国 5.2

■ 教授・講師陣が魅力的である

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	京都大学	国 15.9	1(1)	京都大学	国 19.1	1(1)	京都大学	国 12.2
2(4)	大阪大学	国 12.1	2(3)	東京大学	国 15.6	2(4)	大阪大学	国 11.0
3(2)	東京大学	国 11.2	3(4)	大阪大学	国 13.2	3(2)	京都大学	国 7.0
4(5)	慶應義塾大学	私 7.5	4(7)	慶應義塾大学	私 10.1	4(10)	大阪市立大学	公 6.1
5(10)	同志社大学	私 6.4	5(5)	同志社大学	私 8.9	5(3)	早稲田大学	私 6.0
6(3)	早稲田大学	私 5.8	6(30)	関西学院大学	私 7.5	6(23)	明治大学	私 4.1
7(8)	大阪市立大学	公 5.2	7(2)	早稲田大学	私 5.6	7(26)	同志社大学	私 4.0
8(38)	関西学院大学	私 5.1	8(13)	一橋大学	国 4.7	8(6)	慶應義塾大学	私 3.9
9(6)	神戸大学	国 3.7	9(8)	大阪市立大学	公 4.5	8(80)	立命館大学	私 3.9
9(13)	立命館大学	私 3.7	10(6)	神戸大学	国 4.3	10(88)	大阪医科大学	私 3.4
11(19)	一橋大学	国 3.2	11(10)	関西大学	私 4.2	11(26)	東京学芸大学	国 3.3
12(9)	関西大学	私 3.1	12(9)	立命館大学	私 3.5	11(45)	同志社女子大学	私 3.3
13(23)	明治大学	私 3.0	13(143)	京都工芸繊維大学	国 3.4	13(13)	お茶の水女子大学	国 3.1
14(71)	大阪音楽大学	私 2.7	14(68)	大阪音楽大学	私 3.3	13(15)	甲南大学	私 3.1
15(11)	上智大学	私 2.6	14(143)	京都看護大学	私 3.3	13(16)	桃山学院大学	私 3.1

■ 学生の学力が高い

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	京都大学	国 47.4	1(1)	京都大学	国 48.3	1(1)	京都大学	国 46.3
2(2)	東京大学	国 40.2	2(2)	東京大学	国 45.6	2(3)	大阪大学	国 37.3
3(3)	大阪大学	国 38.0	3(5)	早稲田大学	私 42.2	3(2)	東京大学	国 35.0
4(4)	早稲田大学	私 35.0	4(3)	大阪大学	国 38.7	4(4)	早稲田大学	私 28.0
5(6)	慶應義塾大学	私 28.0	5(6)	慶應義塾大学	私 28.3	5(6)	慶應義塾大学	私 27.6
6(5)	神戸大学	国 24.4	6(9)	同志社大学	私 25.6	6(14)	大阪市立大学	公 26.8
7(9)	同志社大学	私 23.2	7(4)	神戸大学	国 23.5	7(5)	神戸大学	国 25.5
8(11)	大阪市立大学	公 19.6	8(7)	立命館大学	私 14.8	8(9)	立命館大学	私 21.6
9(7)	立命館大学	私 17.8	9(8)	大阪府立大学	公 14.7	9(11)	同志社大学	私 21.0
10(8)	大阪府立大学	公 12.4	10(15)	関西学院大学	私 14.0	10(16)	お茶の水女子大学	国 13.4
11(10)	関西大学	私 10.8	11(12)	大阪市立大学	公 13.5	11(25)	筑波大学	国 11.3
12(16)	上智大学	私 10.3	12(17)	関西大学	私 12.6	11(12)	明治大学	私 11.3
13(12)	関西学院大学	私 10.1	13(11)	上智大学	私 11.6	13(9)	大阪府立大学	公 10.0
14(13)	一橋大学	国 9.4	14(15)	名古屋大学	国 10.8	14(17)	一橋大学	国 9.3
15(17)	明治大学	私 8.9	15(30)	横浜国立大学	国 9.9	15(38)	大阪教育大学	国 9.1

■ 就職に有利である

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(2)	東京大学	国 31.2	1(2)	東京大学	国 34.4	1(1)	京都大学	国 32.9
2(1)	京都大学	国 30.9	2(3)	大阪大学	国 31.1	2(3)	大阪大学	国 28.0
3(3)	大阪大学	国 29.5	3(1)	京都大学	国 29.2	2(2)	東京大学	国 28.0
4(4)	早稲田大学	私 25.3	4(6)	慶應義塾大学	私 28.3	4(4)	早稲田大学	私 25.0
5(8)	同志社大学	私 23.2	5(4)	早稲田大学	私 25.6	5(5)	神戸大学	国 23.5
6(6)	慶應義塾大学	私 23.1	6(8)	同志社大学	私 24.4	6(11)	同志社大学	私 22.0
7(5)	神戸大学	国 21.1	7(5)	神戸大学	国 19.1	7(10)	大阪医科大学	私 16.9
8(10)	立命館大学	私 13.8	8(10)	関西大学	私 15.8	8(8)	慶應義塾大学	私 15.8
9(15)	大阪教育大学	国 13.3	9(12)	関西学院大学	私 15.1	9(13)	立命館大学	私 15.7
10(8)	関西大学	私 12.4	10(13)	大阪教育大学	国 12.5	10(18)	大阪教育大学	国 14.0
11(13)	関西学院大学	私 11.6	11(7)	立命館大学	私 12.2	11(25)	大阪府立大学	公 13.0
12(16)	大阪府立大学	公 11.2	12(10)	近畿大学	私 9.7	12(15)	明治大学	私 11.8
13(14)	大阪医科大学	私 10.4	13(15)	大阪府立大学	公 9.5	13(9)	大阪市立大学	公 9.3
14(18)	明治大学	私 9.4	13(16)	上智大学	私 9.5	14(7)	関西大学	私 9.0
15(7)	近畿大学	私 9.0	15(23)	明治大学	私 7.8	15(12)	関西学院大学	私 8.3

■ 国際的なセンスが身につく

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	関西外国語大学	私 14.9	1(10)	慶應義塾大学	私 16.2	1(1)	関西外国語大学	私 18.2
2(13)	慶應義塾大学	私 13.8	2(3)	東京大学	国 15.6	2(5)	京都外国語大学	私 14.9
3(10)	大阪大学	国 11.7	3(2)	早稲田大学	私 13.3	3(2)	神戸外国語大学	公 13.6
4(2)	京都大学	国 11.2	4(8)	大阪大学	国 13.2	4(16)	神戸大学	国 10.8
4(3)	京都大学	国 11.2	5(1)	京都大学	国 12.4	5(14)	慶應義塾大学	私 10.5
6(4)	神戸外国語大学	公 10.6	6(14)	同志社大学	私 12.2	6(12)	大阪大学	国 10.2
7(5)	京都外国語大学	私 9.7	7(6)	関西外国語大学	私 11.9	6(13)	関西学院大学	私 10.2
8(14)	立命館大学	私 8.8	8(13)	立命館大学	私 8.7	8(4)	京都大学	国 9.8
9(9)	神戸大学	国 8.7	9(12)	神戸外国語大学	公 7.5	9(23)	大阪国際大学	私 9.3
10(10)	同志社大学	私 8.6	10(9)	上智大学	私 7.4	9(10)	近畿大学	私 9.3
11(12)	関西学院大学	私 8.4	11(6)	神戸大学	国 7.0	7(9)	東京外国語大学	国 9.3
12(5)	早稲田大学	私 8.1	12(26)	関西国際大学	私 6.9	12(16)	立命館大学	私 8.8
13(7)	東京外国語大学	国 7.5	13(10)	関西学院大学	私 6.5	13(34)	龍谷大学	私 7.9
14(16)	近畿大学	私 6.9	14(4)	東京外国語大学	国 5.7	14(18)	神戸国際大学	私 7.0
15(8)	上智大学	私 6.7	15(30)	近畿大学	私 4.9	14(3)	東京大学	国 7.0

■ 先輩・卒業生が魅力的である

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	京都大学	国 15.2	1(2)	東京大学	国 17.8	1(1)	京都大学	国 15.9
2(2)	東京大学	国 13.8	2(7)	慶應義塾大学	私 15.2	2(3)	早稲田大学	私 13.0
3(4)	慶應義塾大学	私 13.2	3(1)	京都大学	国 14.6	3(4)	慶應義塾大学	私 10.5
4(12)	大阪大学	国 12.1	4(10)	大阪大学	国 14.2	4(12)	大阪大学	国 10.2
5(3)	早稲田大学	私 11.5	5(9)	同志社大学	私 11.1	5(2)	東京大学	国 10.0
6(9)	同志社大学	私 8.5	6(3)	早稲田大学	私 10.0	6(9)	神戸大学	国 7.8
7(5)	近畿大学	私 7.0	7(11)	関西学院大学	私 8.6	7(16)	大阪市立大学	公 7.3
8(7)	関西学院大学	私 6.5	8(4)	近畿大学	私 7.8	8(5)	近畿大学	私 6.2
9(11)	大阪市立大学	公 6.4	9(23)	一橋大学	国 7.5	9(10)	同志社大学	私 6.0
9(6)	神戸大学	国 6.4	10(8)	大阪市立大学	公 5.6	10(93)	大阪体育大学	私 5.9
11(21)	大阪体育大学	私 4.6	11(28)	上智大学	私 5.3	11(7)	関西学院大学	私 4.6
12(22)	一橋大学	国 4.2	12(4)	神戸大学	国 5.2	12(11)	甲南大学	私 4.1
12(9)	立命館大学	私 4.2	12(4)	立命館大学	私 5.2	12(34)	明治大学	私 4.1
14(15)	上智大学	私 4.1	14(55)	日本大学	私 4.7	14(16)	武庫川女子大学	私 3.7
15(19)	日本体育大学	私 3.5	15(65)	京都産業大学	私 4.2	15(93)	大阪教育大学	国 3.3
15(68)	明治大学	私 3.5	15(52)	中京大学	私 4.2	15(100)	梅花女子大学	私 3.3
						15(112)	佛教大学	私 3.3

■ 学生の面倒見が良い

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	京都大学	国 7.1	1(5)	慶應義塾大学	私 10.1	1(2)	関西大学	私 6.0
2(5)	慶應義塾大学	私 7.0	2(1)	京都大学	国 9.0	2(4)	京都大学	国 4.9
3(5)	大阪大学	国 5.0	3(2)	大阪大学	国 7.5	3(10)	びわこ学院大学	私 4.1
4(8)	関西大学	私 4.6	4(10)	京都大学	国 6.7	4(6)	神戸大学	国 3.9
5(3)	東京大学	国 4.3	5(25)	大阪商業大学	私 3.8	5(42)	大阪市立大学	公 3.7
6(15)	大阪市立大学	公 3.5	6(63)	青山学院大学	私 3.7	5(28)	関西学院大学	私 3.7
6(13)	関西学院大学	私 3.5	7(13)	大阪市立大学	公 3.4	5(33)	京都ノートルダム女子大学	私 3.7
8(9)	立命館大学	私 2.8	8(23)	関西大学	私 3.2	5(10)	相愛大学	私 3.7
9(20)	上智大学	私 2.6	8(14)	関西学院大学	私 3.2	9(10)	東京農業大学	私 3.4
10(2)	近畿大学	私 2.5	8(41)	上智大学	私 3.2	10(76)	お茶の水女子大学	国 3.1
11(46)	青山学院大学	私 2.3	11(4)	近畿大学	私 2.9	10(10)	甲南大学	私 3.1
11(94)	京都ノートルダム女子大学	私 2.3	12(63)	一橋大学	国 2.8	10(42)	桃山学院大学	私 3.1
11(63)	相愛大学	私 2.3	13(3)	立命館大学	私 2.6	13(25)	立命館大学	私 2.9
11(24)	同志社女子大学	私 2.3	14(25)	大阪薬科大学	私 2.5	14(10)	京都女子大学	私 2.8
11(11)	龍谷大学	私 2.3	14(25)	京都市大学	私 2.5	15(7)	慶應義塾大学	私 2.6
						15(76)	龍谷大学	私 2.6

関東

■ 卒業後に社会で活躍できる

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(1)	京都大学	国	25.7	1(4)	東京大学	国	25.6	1(1)	京都大学	国	26.8
2(2)	東京大学	国	21.7	2(1)	京都大学	国	24.7	2(3)	大阪大学	国	21.2
3(3)	大阪大学	国	21.4	3(6)	慶應義塾大学	私	22.2	3(2)	東京大学	国	18.0
4(6)	慶應義塾大学	私	17.4	4(3)	大阪大学	国	21.7	4(4)	神戸大学	国	16.7
5(5)	神戸大学	国	16.6	5(5)	神戸大学	国	16.5	5(13)	同志社大学	私	11.0
6(4)	早稲田大学	私	13.2	6(2)	早稲田大学	私	15.6	5(5)	早稲田大学	私	11.0
7(8)	同志社大学	私	12.7	7(9)	同志社大学	私	14.4	7(6)	慶應義塾大学	私	10.5
8(11)	立命館大学	私	10.6	8(7)	立命館大学	私	11.3	8(11)	大阪医科大学	私	10.1
9(27)	大阪教育大学	国	9.7	9(17)	大阪教育大学	国	9.4	9(8)	関西大学	私	10.0
10(7)	大阪市立大学	公	8.1	10(19)	近畿大学	私	7.8	10(74)	大阪教育大学	国	9.9
11(11)	関西学院大学	私	7.6	11(13)	関西学院大学	私	7.5	11(10)	大阪市立大学	公	9.8
12(15)	大阪医科大学	私	7.2	12(36)	龍谷大学	私	7.1	11(74)	立命館大学	私	9.8
13(8)	近畿大学	私	7.0	13(8)	大阪市立大学	公	6.7	13(25)	大阪府立大学	公	7.0
14(21)	大阪府立大学	公	6.7	14(11)	一橋大学	国	6.6	14(7)	近畿大学	私	6.2
15(10)	関西学院大学	私	5.5	15(10)	大阪府立大学	公	6.3	15(25)	上智大学	私	6.0

■ 学習設備や環境が整っている

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(1)	京都大学	国	15.8	1(2)	大阪大学	国	17.0	1(1)	京都大学	国	15.9
2(3)	大阪大学	国	14.8	2(6)	慶應義塾大学	私	16.2	2(4)	大阪大学	国	12.7
3(9)	慶應義塾大学	私	13.3	3(1)	京都大学	国	15.7	3(8)	同志社大学	私	10.0
4(2)	東京大学	国	10.0	4(4)	東京大学	国	11.1	4(10)	神戸大学	国	9.8
5(5)	近畿大学	私	9.5	5(8)	立命館大学	私	10.4	5(3)	近畿大学	私	9.3
6(8)	同志社大学	私	8.9	6(7)	近畿大学	私	9.7	6(22)	慶應義塾大学	私	9.2
7(10)	立命館大学	私	8.8	7(9)	同志社大学	私	7.8	7(2)	東京大学	国	9.0
8(6)	神戸大学	国	7.8	7(3)	早稲田大学	私	7.8	8(6)	関西大学	私	8.0
9(4)	早稲田大学	私	7.4	9(12)	関西学院大学	私	7.5	9(14)	大阪医科大学	私	7.9
10(11)	関西学院大学	私	7.0	10(5)	神戸大学	国	6.1	9(9)	龍谷大学	私	7.9
11(13)	龍谷大学	私	6.2	11(64)	大阪音楽大学	私	5.6	11(17)	大阪市立大学	公	7.3
12(7)	関西大学	私	6.1	12(27)	龍谷大学	私	5.1	12(13)	明治大学	私	7.2
13(20)	大阪医科大学	私	5.5	13(46)	甲南大学	私	4.9	13(5)	早稲田大学	私	7.0
14(12)	大阪市立大学	公	5.2	14(25)	一橋大学	国	4.7	14(12)	立命館大学	私	6.9
15(63)	大阪音楽大学	私	4.8	15(72)	京都府立大学	公	4.5	15(7)	関西学院大学	私	6.5

■ 寮や奨学金等が充実している

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(14)	慶應義塾大学	私	6.4	1(22)	慶應義塾大学	私	9.1	1(4)	京都大学	国	4.9
2(6)	大阪大学	国	5.4	2(9)	大阪大学	国	7.5	2(3)	近畿大学	私	4.1
3(3)	京都大学	国	4.1	3(65)	摂南大学	私	4.9	3(76)	神戸大学	国	3.9
4(5)	近畿大学	私	4.0	4(7)	東京大学	国	4.4	4(100)	駒澤大学	私	3.7
5(9)	立命館大学	私	2.8	5(7)	近畿大学	私	3.9	5(7)	大阪大学	国	3.4
6(7)	神戸大学	国	2.7	6(92)	日本大学	私	3.8	6(13)	慶應義塾大学	私	2.6
6(2)	東京大学	国	2.7	7(6)	立命館大学	私	3.5	7(53)	大阪市立大学	公	2.4
6(11)	同志社大学	私	2.7	8(2)	京都大学	国	3.4	7(53)	四條畷学園大学	私	2.4
9(50)	摂南大学	私	2.3	8(12)	東京海洋大学	国	3.4	9(100)	京都府立大学	公	2.2
9(27)	龍谷大学	私	2.3	10(22)	同志社大学	私	3.3	9(100)	立教大学	私	2.2
11(1)	関西大学	私	2.1	10(2)	早稲田大学	私	3.3	11(100)	大阪経済大学	私	2.1
11(27)	上智大学	私	2.1	12(5)	関西学院大学	私	3.2	12(21)	関西外国語大学	私	2.0
13(8)	関西学院大学	私	2.0	13(92)	龍谷大学	私	3.0	12(1)	関西大学	私	2.0
14(27)	日本大学	私	1.9	14(50)	大阪商業大学	私	2.8	12(80)	上智大学	私	2.0
15(95)	東京海洋大学	国	1.8	14(65)	中部大学	私	2.8	12(100)	宝塚医療大学	私	2.0
				14(65)	一橋大学	国	2.8	12(9)	同志社大学	私	2.0
								12(76)	立命館大学	私	2.0

■ クラブ・サークル活動が盛んである

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(14)	大阪体育大学	私	17.4	1(1)	近畿大学	私	16.5	1(106)	大阪体育大学	私	19.6
2(1)	近畿大学	私	13.6	2(7)	大阪体育大学	私	15.7	2(2)	関西大学	私	15.0
3(11)	立命館大学	私	13.3	3(2)	慶應義塾大学	私	14.1	3(35)	立命館大学	私	14.7
4(8)	同志社大学	私	12.0	4(7)	立命館大学	私	12.2	4(6)	同志社大学	私	14.0
5(2)	関西大学	私	11.7	4(4)	早稲田大学	私	12.2	5(21)	大阪市立大学	公	11.0
6(4)	早稲田大学	私	11.6	6(9)	京都大学	国	11.2	5(4)	早稲田大学	私	11.0
7(6)	慶應義塾大学	私	9.9	7(14)	同志社大学	私	10.0	7(1)	近畿大学	私	10.3
8(7)	京都大学	国	8.3	8(12)	龍谷大学	私	9.1	8(24)	駒澤大学	私	8.5
9(13)	龍谷大学	私	8.0	9(34)	東京大学	国	8.9	9(15)	龍谷大学	私	6.6
10(12)	青山学院大学	私	7.2	10(13)	青山学院大学	私	8.6	10(10)	青山学院大学	私	5.9
11(18)	大阪市立大学	公	6.9	11(6)	関西大学	私	8.4	11(33)	京都橘大学	私	5.2
11(25)	東京大学	国	6.9	12(17)	国士舘大学	私	7.9	12(5)	日本体育大学	私	5.1
13(3)	関西学院大学	私	5.5	13(19)	大阪大学	国	6.6	13(17)	東京大学	国	5.0
13(5)	日本体育大学	私	5.5	14(5)	関西学院大学	私	6.5	14(7)	京都大学	国	4.9
15(16)	大阪大学	国	5.4	15(10)	天理大学	私	6.2	14(11)	神戸大学	国	4.9
								14(31)	東海大学	私	4.9
								14(13)	法政大学	私	4.9

■ 将来の選択肢が増える

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(1)	京都大学	国	21.6	1(2)	大阪大学	国	23.6	1(1)	京都大学	国	22.0
2(3)	大阪大学	国	21.5	2(1)	京都大学	国	21.3	2(3)	大阪大学	国	19.5
3(2)	東京大学	国	19.5	3(4)	大阪大学	国	21.1	3(2)	東京大学	国	18.0
4(7)	慶應義塾大学	私	13.8	4(7)	慶應義塾大学	私	16.2	4(10)	大阪市立大学	公	12.2
5(4)	早稲田大学	私	12.2	5(3)	早稲田大学	私	14.4	5(6)	神戸大学	国	11.8
6(6)	神戸大学	国	11.5	6(10)	同志社大学	私	13.3	6(8)	慶應義塾大学	私	10.5
7(11)	同志社大学	私	10.6	7(13)	関西学院大学	私	11.8	7(7)	関西大学	私	10.0
8(10)	立命館大学	私	9.7	8(6)	神戸大学	国	11.3	7(5)	早稲田大学	私	10.0
9(9)	大阪市立大学	公	9.2	9(5)	立命館大学	私	10.4	9(30)	立命館大学	私	8.8
10(12)	関西学院大学	私	8.6	10(8)	大阪市立大学	公	6.7	10(12)	明治大学	私	8.2
11(8)	関西大学	私	6.5	11(19)	上智大学	私	6.3	11(15)	同志社大学	私	8.0
11(5)	近畿大学	私	6.5	12(60)	首都大学東京	公	6.2	12(4)	近畿大学	私	7.2
13(17)	上智大学	私	5.7	13(9)	近畿大学	私	5.8	13(9)	関西学院大学	私	5.6
14(24)	大阪教育大学	国	5.1	14(16)	名古屋大学	国	5.4	14(143)	大阪経済大学	私	5.2
14(13)	大阪府立大学	公	5.1	15(12)	大阪府立大学	公	5.3	14(31)	お茶の水女子大学	国	5.2
								14(12)	甲南大学	私	5.2

■ キャンパスがきれいである

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(5)	立命館大学	私	17.4	1(7)	慶應義塾大学	私	19.2	1(11)	立命館大学	私	19.6
2(13)	慶應義塾大学	私	15.6	2(2)	立命館大学	私	15.7	2(1)	近畿大学	私	15.5
3(1)	近畿大学	私	15.5	3(3)	近畿大学	私	15.5	3(4)	同志社大学	私	13.0
4(2)	関西学院大学	私	13.0	4(1)	関西学院大学	私	15.1	4(7)	同志社女子大学	私	11.6
5(4)	同志社大学	私	12.6	5(10)	関西大学	私	13.7	5(3)	関西学院大学	私	11.1
6(3)	関西大学	私	11.9	6(5)	同志社大学	私	12.2	6(22)	慶應義塾大学	私	10.5
7(7)	京都大学	国	8.8	7(8)	京都大学	国	9.0	7(2)	関西大学	私	10.0
8(17)	龍谷大学	私	8.0	8(15)	東京大学	国	7.8	8(16)	甲南大学	私	9.3
9(11)	同志社女子大学	私	7.2	9(12)	龍谷大学	私	7.1	9(17)	龍谷大学	私	9.2
10(21)	甲南大学	私	6.4	10(4)	早稲田大学	私	6.7	10(5)	京都大学	国	8.5
10(15)	桃山学院大学	私	6.4	11(11)	大阪大学	国	5.7	11(21)	桃山学院大学	私	8.2
12(10)	東京大学	私	5.9	12(9)	桃山学院大学	私	4.9	12(11)	神戸大学	国	7.8
13(6)	早稲田大学	私	5.8	13(66)	大阪教育大学	国	4.2	13(55)	明治大学	私	7.2
14(12)	大阪大学	国	5.4	13(24)	上智大学	私	4.2	14(45)	神戸女学院大学	私	6.8
14(8)	神戸大学	国	5.4	15(40)	甲南大学	私	3.9	15(24)	大阪医科大学	私	6.7

■ 学生生活を楽しめる

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(10)	慶應義塾大学	私	14.4	1(7)	慶應義塾大学	私	16.2	1(2)	近畿大学	私	14.4
2(6)	立命館大学	私	12.9	2(10)	大阪大学	国	13.2	2(45)	立命館大学	私	13.7
3(2)	近畿大学	私	11.9	3(1)	立命館大学	私	12.2	3(7)	同志社大学	私	13.0
4(9)	大阪大学	国	11.7	4(4)	京都大学	国	11.2	4(19)	慶應義塾大学	私	11.8
5(7)	同志社大学	私	11.0	5(5)	関西学院大学	私	9.7	5(3)	関西学院大学	私	11.1
6(8)	京都大学	国	10.6	5(2)	近畿大学	私	9.7	6(24)	大阪市立大学	公	11.0
7(3)	関西学院大学	私	10.4	7(5)	関西大学	私	9.5	6(1)	同志社大学	私	11.0
8(1)	関西大学	私	10.2	8(8)	同志社大学	私	8.9	8(5)	神戸大学	国	10.8
9(4)	神戸大学	国	8.7	8(9)	早稲田大学	私	8.9	9(14)	龍谷大学	私	10.5
10(5)	早稲田大学	私	8.4	10(26)	東京大学	国	7.8	10(6)	大阪大学	国	10.2
11(18)	大阪市立大学	公	7.5	11(87)	大阪青山大学	私	7.4	11(9)	京都大学	国	9.8
12(13)	龍谷大学	私	7.3	12(3)	神戸大学	国	7.0	12(11)	甲南大学	私	9.3
13(21)	甲南大学	私	6.9	13(14)	青山学院大学	私	6.2	13(8)	明治大学	私	8.2
14(12)	青山学院大学	私	6.6	14(12)	龍谷大学	私	5.1	14(15)	大阪芸術大学	私	8.1
15(16)	大阪芸術大学	私	5.9	15(129)	甲南大学	私	4.9	15(4)	早稲田大学	私	8.0
								15(139)	和歌山大学	国	4.9

■ 周囲の人からの評判が良い

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(1)	京都大学	国	36.9	1(2)	京都大学	国	3				

※イメージ項目において()内は昨年順位。 ※区分 国立/国 公立/公 私立/私

■ 入試方法が自分に合っている

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(24)	京都大学	国 4.7	1(6)	関西学院大学	私 5.4	1(24)	大阪市立大学	公 7.3
2(5)	大阪市立大学	公 4.6	2(17)	京都大学	国 4.5	2(2)	近畿大学	私 6.2
3(9)	同志社大学	私 3.7	2(62)	相愛大学	私 4.5	3(114)	京都女子大学	私 5.6
3(1)	立命館大学	私 3.7	4(16)	同志社大学	私 4.4	4(69)	桃山学院大学	私 5.2
5(3)	関西大学	私 3.6	4(62)	早稲田大学	私 4.4	5(114)	京都大学	国 4.9
6(172)	京都女子大学	私 3.4	6(7)	関西大学	私 4.2	6(3)	京都外国語大学	私 4.0
6(4)	近畿大学	私 3.4	6(52)	京都産業大学	私 4.2	7(32)	立命館大学	私 3.9
8(172)	兵庫医療大学	私 3.2	8(8)	龍谷大学	私 4.0	8(69)	武庫川女子大学	私 3.7
9(172)	奈良県立医科大学	公 2.9	9(26)	大阪青山大学	私 3.7	9(46)	大阪樟蔭女子大学	私 3.3
9(17)	桃山学院大学	私 2.9	9(30)	立命館大学	私 3.7	9(18)	佛教大学	私 3.3
11(16)	大阪青山大学	私 2.8	11(1)	立命館大学	私 3.5	11(6)	関西外国語大学	私 3.0
11(37)	京都文教大学	私 2.8	12(9)	大阪産業大学	私 3.4	11(1)	関西大学	私 3.0
13(14)	京都外国語大学	私 2.7	12(22)	奈良県立医科大学	公 3.4	11(5)	同志社大学	私 3.0
13(102)	早稲田大学	私 2.7	14(12)	兵庫医療大学	私 3.3	11(114)	兵庫医療大学	私 3.0
15(10)	大阪府立大学	公 2.6	15(13)	大阪府立大学	公 3.2	15(114)	大阪体育大学	私 2.9
15(8)	関西学院大学	私 2.6	15(12)	中京大学	私 3.2	15(32)	神戸大学	国 2.9
15(32)	京都産業大学	私 2.6	15(62)	阪南大学	私 3.2			
15(172)	中京大学	私 2.6						

■ 教養が身につく

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	京都大学	国 20.4	1(1)	京都大学	国 19.1	1(3)	大阪大学	国 22.0
2(3)	大阪大学	国 19.1	2(4)	慶應義塾大学	私 17.2	1(1)	京都大学	国 22.0
3(2)	東京大学	国 12.7	3(6)	大阪大学	国 16.0	3(19)	大阪市立大学	公 12.2
4(6)	慶應義塾大学	私 11.7	4(10)	東京大学	国 14.4	4(13)	神戸大学	国 11.8
5(3)	早稲田大学	私 10.6	5(3)	早稲田大学	私 12.2	5(2)	東京大学	国 11.0
6(5)	神戸大学	国 10.1	6(8)	大阪教育大学	国 10.4	6(7)	お茶の水女子大学	国 9.3
7(14)	大阪市立大学	公 9.2	7(7)	同志社大学	私 8.9	6(17)	近畿大学	私 9.3
8(8)	同志社大学	私 8.9	8(2)	神戸大学	国 8.7	6(21)	明治大学	私 9.3
9(10)	大阪教育大学	私 7.9	8(5)	立命館大学	私 8.7	9(8)	同志社大学	私 9.0
10(12)	関西大学	私 7.7	10(24)	関西大学	私 8.4	9(5)	早稲田大学	私 9.0
10(13)	上智大学	私 7.7	11(14)	一橋大学	国 7.5	11(20)	上智大学	私 8.0
12(22)	一橋大学	国 7.2	12(20)	大阪府立大学	公 7.4	12(6)	関西大学	私 7.0
13(11)	立命館大学	私 7.0	12(8)	上智大学	私 7.4	13(64)	一橋大学	国 6.8
14(15)	関西学院大学	私 6.5	14(17)	関西外国語大学	私 6.9	14(11)	関西学院大学	私 6.5
15(9)	お茶の水女子大学	国 6.4	14(42)	滋賀大学	国 6.9	15(29)	甲南大学	私 6.2
15(16)	近畿大学	私 6.4						

■ 交通の便が良い

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(7)	大阪大学	国 10.4	1(6)	大阪大学	国 13.2	1(1)	関西大学	私 12.0
2(1)	関西大学	私 10.2	2(2)	近畿大学	私 11.7	2(13)	龍谷大学	私 10.5
3(2)	近畿大学	私 9.6	3(3)	京都大学	国 9.0	3(7)	大阪市立大学	公 9.8
4(14)	龍谷大学	私 8.5	4(9)	大阪府立大学	公 8.4	4(8)	大阪大学	国 7.6
5(3)	京都大学	国 7.7	4(1)	関西大学	私 8.4	5(1)	近畿大学	私 7.2
6(5)	大阪市立大学	公 7.5	6(24)	龍谷大学	私 7.1	6(5)	神戸大学	国 6.9
7(6)	神戸大学	国 6.4	7(5)	関西学院大学	私 6.5	6(20)	立命館大学	私 6.9
8(4)	関西学院大学	私 6.0	8(8)	神戸大学	国 6.1	8(27)	甲南大学	私 6.2
9(10)	大阪府立大学	公 5.7	9(3)	大阪市立大学	公 5.6	9(3)	京都大学	国 6.1
10(8)	同志社大学	私 5.3	9(11)	同志社大学	私 5.6	10(29)	大阪成蹊大学	私 5.9
11(9)	立命館大学	私 5.0	11(14)	大阪教育大学	国 5.2	11(4)	関西学院大学	私 5.6
12(37)	東京大学	国 4.7	12(29)	慶應義塾大学	私 5.1	11(17)	武庫川女子大学	私 5.6
13(25)	甲南大学	私 4.4	13(163)	神戸国際大学	私 4.4	13(13)	奈良女子大学	国 5.3
14(49)	兵庫医療大学	私 3.7	13(26)	東京大学	国 4.4	14(13)	甲南女子大学	私 5.1
14(27)	早稲田大学	私 3.7	13(128)	兵庫医療大学	私 4.4	15(76)	東京大学	国 5.0
			13(55)	早稲田大学	私 4.4	15(6)	同志社大学	私 5.0

■ 遊びに行くのに便利な立地である

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(3)	早稲田大学	私 7.0	1(3)	早稲田大学	私 10.0	1(13)	大阪市立大学	公 7.3
2(34)	東京大学	国 6.9	2(32)	同志社大学	私 8.9	2(19)	東京大学	国 6.0
3(12)	同志社大学	私 6.4	3(67)	東京大学	国 7.8	3(9)	青山学院大学	私 5.9
4(6)	大阪市立大学	公 4.6	4(11)	慶應義塾大学	私 6.1	4(6)	関西大学	私 5.0
4(9)	慶應義塾大学	私 4.6	5(62)	上智大学	私 5.3	5(15)	お茶の水女子大学	国 4.1
4(1)	神戸大学	国 4.6	6(1)	神戸大学	国 5.2	5(3)	甲南大学	私 4.1
7(9)	青山学院大学	私 4.3	7(155)	宝塚大学	私 5.1	5(43)	明治大学	私 4.1
8(50)	上智大学	私 3.7	8(14)	関西学院大学	私 4.3	8(4)	同志社大学	私 4.0
9(4)	関西大学	私 3.5	9(77)	首都大学東京	公 3.7	8(2)	早稲田大学	私 4.0
10(5)	立命館大学	私 3.2	10(77)	京都光華女子大学	私 3.4	10(5)	神戸大学	国 3.9
11(7)	近畿大学	私 3.0	10(115)	京都工芸繊維大学	私 3.4	10(69)	立命館大学	私 3.9
11(93)	宝塚大学	私 3.0	10(115)	駒澤大学	私 3.4	12(1)	京都大学	国 3.7
11(34)	明治大学	私 3.0	10(77)	奈良県立医科大学	公 3.4	13(103)	京都府立大学	公 3.4
14(2)	京都大学	国 2.9	14(77)	京都教育大学	国 3.3	14(103)	大阪樟蔭女子大学	私 3.3
14(159)	駒澤大学	私 2.9	14(32)	城西大学	私 3.3	15(25)	京都橘大学	私 3.1
			14(77)	帝京科学大学	私 3.3	15(6)	近畿大学	私 3.1
			14(62)	東京理科大学	私 3.3			
			14(155)	兵庫医療大学	私 3.3			

■ 偏差値が自分に合っている

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(12)	大阪市立大学	公 5.2	1(5)	立命館大学	私 7.0	1(10)	大阪市立大学	公 6.1
2(3)	龍谷大学	私 4.6	2(6)	神戸大学	国 6.1	1(108)	千葉大学	国 6.1
3(8)	立命館大学	私 4.3	2(3)	龍谷大学	私 6.1	3(1)	近畿大学	私 5.2
4(5)	神戸大学	国 4.2	4(2)	関西大学	私 5.3	4(26)	甲南女子大学	私 4.2
5(2)	関西大学	私 4.1	5(143)	大阪経済法科大学	私 4.5	5(5)	甲南大学	私 4.1
6(1)	近畿大学	私 4.0	5(20)	大阪市立大学	公 4.5	6(55)	京都大学	国 3.7
7(62)	京都大学	国 3.5	7(7)	関西学院大学	私 4.3	7(108)	大阪教育大学	国 3.3
8(160)	千葉大学	国 3.4	8(67)	慶應義塾大学	私 4.0	8(55)	桃山学院大学	私 3.1
9(96)	大阪教育大学	国 3.2	9(61)	大阪商業大学	私 3.8	9(55)	大阪青山大学	私 3.0
10(190)	大阪経済法科大学	私 3.0	10(100)	京都外国語大学	私 3.7	9(21)	大阪大谷大学	私 3.0
10(15)	甲南大学	私 3.0	10(10)	摂南大学	私 3.7	9(2)	関西大学	私 3.0
12(23)	摂南大学	私 2.8	12(67)	京都大学	国 3.4	9(5)	京都産業大学	私 3.0
13(23)	同志社大学	私 2.7	13(18)	同志社大学	私 3.3	9(88)	兵庫医療大学	私 3.0
14(4)	関西学院大学	私 2.6	14(54)	大阪教育大学	国 3.1	14(4)	龍谷大学	私 2.6
14(160)	兵庫医療大学	私 2.6	14(143)	奈良県立大学	公 3.1	15(108)	大阪樟蔭女子大学	私 2.5
						15(108)	神戸学院大学	私 2.5
						15(108)	帝塚山学院大学	私 2.5
						15(42)	同志社女子大学	私 2.5
						15(108)	梅花女子大学	私 2.5
						15(19)	佛教大学	私 2.5

■ 専門分野を深く学べる

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	京都大学	国 16.9	1(3)	大阪大学	国 17.9	1(1)	京都大学	国 18.3
2(2)	大阪大学	国 16.1	2(8)	大阪芸術大学	私 16.8	2(2)	大阪大学	国 14.4
3(3)	大阪芸術大学	私 15.6	3(17)	関西外国語大学	私 15.8	3(5)	大阪芸術大学	私 14.1
4(10)	東京大学	国 14.3	4(1)	京都大学	国 15.7	4(20)	東京大学	国 13.0
5(7)	大阪音楽大学	私 12.7	5(7)	大阪教育大学	国 15.6	5(4)	大阪医科大学	私 12.4
6(8)	関西外国語大学	私 12.6	5(5)	東京大学	国 15.6	6(5)	大阪音楽大学	私 12.0
7(16)	大阪教育大学	国 11.7	7(13)	大阪音楽大学	私 13.3	7(104)	大阪体育大学	私 11.8
8(6)	大阪医科大学	私 11.2	8(38)	京都府立医科大学	公 12.9	8(8)	関西医科大学	私 10.0
9(19)	京都府立医科大学	公 11.1	9(13)	関西福祉大学	私 12.2	8(28)	京都市立芸術大学	公 10.0
10(8)	関西医科大学	私 10.5	10(26)	日本体育大学	私 11.9	10(25)	京都外国語大学	私 9.9
11(19)	京都造形芸術大学	私 10.0	11(26)	大阪工業大学	私 11.1	11(37)	和歌山県立医科大学	公 9.3
12(11)	関西福祉大学	私 9.6	11(9)	関西医科大学	私 11.1	12(5)	関西外国語大学	私 9.1
12(15)	日本体育大学	私 9.6	11(18)	慶應義塾大学	私 11.1	12(18)	京都造形芸術大学	私 9.1
14(25)	慶應義塾大学	私 9.2	14(38)	京都造形芸術大学	私 10.9	12(18)	京都府立医科大学	公 9.1
15(14)	兵庫医科大学	私 9.0	15(10)	大阪医科大学	私 10.1	15(21)	大阪市立大学	公 8.5

■ 勉強するのに良い環境である

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	京都大学	国 25.7	1(1)	京都大学	国 24.7	1(1)	京都大学	国 26.8
2(2)	大阪大学	国 20.6	2(2)	大阪大学	国 21.7	2(3)	大阪大学	国 19.5
3(4)	東京大学	国 14.8	3(7)	慶應義塾大学	私 18.2	3(10)	大阪市立大学	公 13.4
4(10)	慶應義塾大学	私 13.9	4(12)	東京大学	国 16.7	4(2)	京都大学	国 13.0
5(5)	早稲田大学	私 12.7	5(3)	同志社大学	私 15.6	5(4)	神戸大学	国 12.7
6(3)	神戸大学	国 12.4	6(5)	早稲田大学	私 14.4	6(6)	早稲田大学	私 11.0
7(6)	同志社大学	私 12.2	7(10)	関西学院大学	私 14.0	7(25)	大阪医科大学	私 9.0
8(9)	関西学院大学	私 11.1	8(4)	神戸大学	国 12.2	7(9)	同志社大学	私 9.0
9(13)	大阪市立大学	公 9.8	9(15)	近畿大学	私 7.8	9(13)	立命館大学	私 8.8
10(8)	立命館大学	私 8.3	9(6)	立命館大学	私 7.8	10(8)	関西学院大学	私 8.3
11(1)	近畿大学	私 8.0	11(9)	大阪府立大学	公 7.4	11(18)	お茶の水女子大学	国 8.2
12(12)	大阪府立大学	公 6.7	12(21)	龍谷大学	私 7.1	11(5)	近畿大学	私 8.2
13(18)	龍谷大学	私 6.3	13(11)	大阪市立大学	公 6.7	11(49)	明治大学	私 8.2
14(7)	関西大学	私 6.1	13(200)	東京理科大学	私 6.7	14(12)	慶應義塾大学	私 7.9
15(30)	大阪医科大学	私 5.5	13(200)	兵庫医療大学	私 6.7	15(71)	京都女子大学	私 7.4

■ 学費が高くない

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	京都大学	国 24.1	1(3)	京都大学	国 28.1	1(5)	大阪市立大学	公 24.4
2(2)	大阪大学	国 21.5	2(1)	大阪大学	国 23.6	2(2)	大阪大学	国 19.5
3(5)	大阪市立大学	公 19.1	3(5)	大阪府立大学	公 18.9	2(1)	京都大学	国 19.5
4(4)	大阪府立大学	公 15.5	4(6)	大阪市立大学	公 14.6	4(3)	神戸大学	国 16.7
5(3)	神戸大学	国 13.7	5(2)	神戸大学	国 11.3	5(3)	大阪府立大学	公 12.0
6(6)	東京大学	国 11.0	6(7)	和歌山大学	国 11.1	5(6)	東京大学	国 12.0
7(7)	和歌山大学	国 10.5	7(8)	大阪教育大学	国 10.4	7(8)	大阪教育大学	国 9.9
8(9)	大阪教育大学	国 10.1	8(4)	東京大学	国 10.0	7(10)	和歌山大学	国 9.9
9(26)	横浜国立大学	国 6.7	9(19)	横浜国立大学	国 8.6	9(68)	奈良県立医科大学	公 7.3
10(23)	奈良県立大学	公 6.0	10(27)	名古屋大学	国 7.5	10(29)	奈良県立大学	公 6.6
11(40)	千葉大学	国 5.9	11(13)	滋賀大学	国 6.9	11(68)	東京工業大学	国 5

図表 17 感性的価値を表すイメージ項目／関西

■ 知的な

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(1)	京都大学	国	45.8	1(1)	京都大学	国	50.6	1(1)	京都大学	国	43.0
2(2)	東京大学	国	35.5	2(5)	大阪大学	国	32.1	2(2)	京都大学	国	40.2
3(4)	大阪大学	国	31.7	3(2)	東京大学	国	27.8	3(4)	神戸大学	国	32.4
4(6)	慶應義塾大学	私	27.3	3(4)	早稲田大学	私	27.8	4(3)	大阪大学	国	31.4
5(5)	早稲田大学	私	26.4	5(6)	慶應義塾大学	私	25.3	5(5)	慶應義塾大学	私	30.3
6(3)	神戸大学	国	24.6	6(16)	同志社大学	私	18.9	6(10)	大阪市立大学	公	25.6
7(8)	同志社大学	私	21.0	7(3)	神戸大学	国	18.3	7(6)	早稲田大学	私	25.0
8(10)	大阪市立大学	公	19.7	8(9)	大阪市立大学	公	14.6	8(18)	お茶の水女子大学	国	24.7
9(7)	立命館大学	私	14.7	9(7)	立命館大学	私	13.9	9(8)	同志社大学	私	23.0
10(15)	お茶の水女子大学	国	13.6	10(10)	一橋大学	国	11.3	10(11)	明治大学	私	21.6
11(14)	明治大学	私	12.7	11(13)	大阪教育大学	国	10.4	11(15)	上智大学	私	16.0
12(11)	上智大学	私	12.2	12(15)	関西学院大学	私	9.7	12(7)	立命館大学	私	15.7
13(45)	龍谷大学	私	9.1	13(34)	奈良県立医科大学	公	9.0	13(28)	大阪医科大学	私	13.5
14(13)	関西学院大学	私	9.0	14(22)	名古屋大学	国	8.6	14(32)	筑波大学	国	12.4
14(12)	一橋大学	国	9.0	15(8)	上智大学	私	8.4	15(22)	京都府立大学	公	11.2

■ 先進的な

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(1)	京都大学	国	14.1	1(2)	大阪大学	国	15.1	1(2)	近畿大学	私	17.5
2(3)	近畿大学	私	13.9	2(1)	京都大学	国	14.6	2(1)	東京大学	国	15.0
3(2)	東京大学	国	13.6	3(5)	東京大学	国	12.2	3(5)	慶應義塾大学	私	14.5
4(7)	神戸大学	国	11.5	4(10)	同志社大学	私	11.1	4(3)	京都大学	国	13.4
5(4)	大阪大学	国	11.3	4(7)	早稲田大学	私	11.1	5(8)	神戸大学	国	12.7
5(5)	慶應義塾大学	私	11.3	6(3)	近畿大学	私	10.7	6(20)	上智大学	私	8.0
7(8)	立命館大学	私	8.8	7(8)	神戸大学	国	10.4	7(38)	大阪医科大学	私	7.9
8(6)	早稲田大学	私	8.5	8(18)	関西学院大学	私	9.7	8(19)	立命館大学	私	7.8
9(14)	関西学院大学	私	7.5	9(4)	立命館大学	私	9.6	9(4)	大阪大学	国	7.6
9(9)	同志社大学	私	7.5	10(6)	慶應義塾大学	私	9.1	10(28)	明治大学	私	7.2
11(13)	上智大学	私	5.5	11(68)	兵庫医療大学	私	6.7	11(7)	早稲田大学	私	6.0
12(20)	青山学院大学	私	4.4	12(46)	青山学院大学	私	4.9	12(12)	関西学院大学	私	5.6
12(56)	大阪医科大学	私	4.4	13(12)	大阪市立大学	公	4.5	13(85)	大阪経済大学	私	5.2
12(17)	明治大学	私	4.4	14(9)	関西外国語大学	私	4.0	13(20)	お茶の水女子大学	国	5.2
15(102)	兵庫医療大学	私	4.3	14(84)	龍谷大学	私	4.0	15(9)	関西大学	私	5.0

■ 自慢できそう

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(1)	京都大学	国	38.7	1(1)	京都大学	国	41.6	1(2)	東京大学	国	38.0
2(2)	東京大学	国	37.3	2(5)	東京大学	国	36.7	2(6)	慶應義塾大学	私	36.8
3(5)	慶應義塾大学	私	33.0	3(2)	早稲田大学	私	33.3	3(1)	慶應義塾大学	私	35.4
4(3)	早稲田大学	私	32.7	4(3)	慶應義塾大学	私	30.3	4(3)	早稲田大学	私	32.0
5(4)	大阪大学	国	27.3	5(4)	大阪大学	国	29.2	5(4)	神戸大学	国	30.4
6(6)	神戸大学	国	26.6	6(7)	同志社大学	私	25.6	6(5)	大阪大学	国	25.4
7(7)	同志社大学	私	24.3	7(6)	同志社大学	私	23.5	7(7)	同志社大学	私	23.0
8(9)	立命館大学	私	17.8	8(17)	関西大学	私	16.8	8(10)	立命館大学	私	21.6
9(10)	関西大学	私	14.9	9(8)	関西学院大学	私	15.1	9(12)	お茶の水女子大学	国	19.6
10(8)	関西学院大学	私	14.0	10(9)	立命館大学	私	14.8	10(15)	明治大学	私	18.6
11(12)	青山学院大学	私	12.0	11(14)	一橋大学	国	13.2	11(12)	青山学院大学	私	14.9
12(18)	明治大学	私	11.7	12(29)	京都府立大学	公	9.0	12(16)	上智大学	私	14.0
13(15)	一橋大学	国	10.8	13(13)	青山学院大学	私	8.6	13(8)	関西大学	私	13.0
14(17)	お茶の水女子大学	国	10.1	14(14)	龍谷大学	私	8.1	13(9)	関西学院大学	私	13.0
14(11)	上智大学	私	10.1	15(27)	近畿大学	私	7.8	15(20)	近畿大学	私	12.4

■ のんびり

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(28)	近畿大学	私	4.9	1(50)	和歌山大学	国	6.2	1(49)	近畿大学	私	8.2
2(23)	和歌山大学	国	4.5	2(5)	東京農業大学	私	5.6	2(54)	甲南女子大学	私	5.9
3(29)	同志社大学	私	4.2	3(177)	京都ノートルダム女子大学	私	4.5	3(12)	龍谷大学	私	5.3
4(170)	京都ノートルダム女子大学	私	4.1	3(71)	大和大学	私	4.5	4(30)	お茶の水女子大学	国	5.2
5(64)	関西学院大学	私	4.0	5(177)	東京大学	国	4.4	4(89)	明治大学	私	5.2
5(10)	東京農業大学	私	4.0	5(104)	同志社大学	私	4.4	6(69)	羽衣国際大学	私	4.9
7(93)	お茶の水女子大学	国	3.4	7(50)	慶應義塾大学	私	4.0	7(147)	関西学院大学	私	4.6
7(57)	大和大学	私	3.4	8(45)	大阪大学	国	3.8	7(7)	武庫川女子大学	私	4.6
9(129)	大阪青山大学	私	3.3	9(177)	大阪青山大学	私	3.7	9(10)	大阪芸術大学	私	4.0
10(113)	甲南女子大学	私	3.0	9(57)	京都文教大学	私	3.7	9(105)	同志社大学	私	4.0
11(29)	慶應義塾大学	私	2.9	9(177)	首都大学東京	公	3.7	11(29)	神戸大学	国	3.9
11(143)	千葉大学	国	2.9	9(177)	姫路獨協大学	私	3.7	12(89)	京都ノートルダム女子大学	私	3.7
11(一)	姫路大学	私	2.9	13(104)	大阪産業大学	私	3.4	12(89)	大正大学	私	3.7
11(4)	武庫川女子大学	私	2.9	13(31)	駒澤大学	私	3.4	12(147)	千葉大学	国	3.7
11(64)	明治大学	私	2.9	15(177)	兵庫医療大学	私	3.3	12(一)	姫路大学	私	3.7

■ 多様な

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(1)	京都大学	国	16.3	1(7)	東京大学	国	17.8	1(1)	京都大学	国	17.1
2(2)	大阪大学	国	14.3	2(1)	京都大学	国	15.7	2(3)	大阪大学	国	13.6
2(4)	東京大学	国	14.3	3(5)	早稲田大学	私	15.6	3(2)	近畿大学	私	12.4
4(5)	早稲田大学	私	11.7	4(3)	大阪大学	国	15.1	4(4)	東京大学	国	11.0
5(9)	立命館大学	私	10.2	5(4)	慶應義塾大学	私	11.1	5(13)	大阪市立大学	公	9.8
6(11)	同志社大学	私	9.5	5(9)	同志社大学	私	11.1	5(21)	立命館大学	私	9.8
7(7)	慶應義塾大学	私	9.2	7(2)	立命館大学	私	10.4	7(7)	関西大学	私	9.0
8(3)	近畿大学	私	8.9	8(10)	関西大学	私	6.3	8(18)	同志社大学	私	8.0
9(8)	関西大学	私	7.6	9(107)	青山学院大学	私	6.2	8(6)	早稲田大学	私	8.0
10(12)	大阪市立大学	公	6.3	10(14)	龍谷大学	私	6.1	10(9)	慶應義塾大学	私	6.6
11(40)	龍谷大学	私	5.7	11(7)	近畿大学	私	5.8	11(10)	明治大学	私	6.2
12(10)	関西学院大学	私	5.5	12(12)	関西学院大学	私	5.4	12(5)	神戸大学	国	5.9
12(16)	神戸大学	国	5.5	13(6)	神戸大学	国	5.2	13(8)	関西学院大学	私	5.6
14(40)	青山学院大学	私	5.0	14(58)	亜細亜大学	私	4.5	14(23)	龍谷大学	私	5.3
15(27)	上智大学	私	4.1	15(70)	三重大学	国	4.0	15(72)	上智大学	私	5.0

■ おしゃれな

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(1)	慶應義塾大学	私	21.9	1(1)	慶應義塾大学	私	25.3	1(4)	青山学院大学	私	18.8
2(3)	青山学院大学	私	17.5	2(3)	青山学院大学	私	16.0	2(3)	同志社大学	私	18.0
3(4)	同志社大学	私	16.2	3(4)	同志社大学	私	14.4	3(1)	慶應義塾大学	私	17.1
4(9)	立命館大学	私	13.4	4(7)	早稲田大学	私	13.3	4(2)	関西学院大学	私	15.7
5(2)	関西学院大学	私	13.3	5(6)	立命館大学	私	13.0	5(6)	同志社女子大学	私	14.0
6(8)	神戸大学	国	11.1	6(4)	神戸大学	国	11.3	6(21)	立命館大学	私	13.7
7(6)	近畿大学	私	10.4	7(2)	関西学院大学	私	10.8	7(13)	甲南大学	私	13.4
8(5)	早稲田大学	私	10.1	8(8)	大阪芸術大学	私	9.9	8(7)	近畿大学	私	12.4
9(12)	甲南大学	私	9.9	9(9)	上智大学	私	9.5	9(9)	甲南女子大学	私	11.9
10(16)	同志社女子大学	私	9.5	10(9)	近畿大学	私	8.7	9(15)	神戸学院大学	私	11.9
11(15)	神戸学院大学	私	9.3	11(12)	甲南大学	私	6.8	11(12)	お茶の水女子大学	国	11.3
12(17)	上智大学	私	8.7	12(12)	神戸学院大学	私	6.6	12(19)	神戸大学	国	10.8
13(10)	甲南女子大学	私	7.9	13(12)	関西大学	私	6.3	13(10)	武庫川女子大学	私	10.2
14(13)	大阪芸術大学	私	7.6	14(50)	帝塚山学院大学	私	5.2	14(21)	京都女子大学	私	9.3
15(14)	お茶の水女子大学	国	7.4	15(68)	宝塚大学	私	5.1	15(11)	梅花女子大学	私	9.1

■ 力強い

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(5)	大阪体育大学	私	14.0	1(2)	慶應義塾大学	私	12.1	1(10)	大阪体育大学	私	20.6
2(1)	日本体育大学	私	10.6	2(1)	日本体育大学	私	11.9	2(1)	日本体育大学	私	9.1
3(6)	慶應義塾大学	私	9.3	3(4)	早稲田大学	私	8.9	3(4)	京都大学	国	8.5
4(3)	京都大学	国	7.6	4(3)	大阪体育大学	私	8.7	4(35)	明治大学	私	6.2
5(7)	大阪大学	国	7.2	5(12)	大阪大学	国	8.5	5(3)	大阪大学	国	5.9
6(2)	早稲田大学	私	4.4	6(5)	京都大学	国	6.7	6(14)	慶應義塾大学	私	5.3
7(4)	東京大学	国	4.3	7(6)	東京大学	国	5.6	7(6)	近畿大学	私	5.2
8(9)	近畿大学	私	4.0	8(19)	帝京大学	私	5.2	8(6)	神戸大学	国	4.9
9(11)	明治大学	私	3.9	9(11)	国士館大学	私	4.5	9(35)	畿央大学	私	4.1
10(23)	帝京大学	私	3.7	10(25)	同志社大学	私	4.4	10(142)	千葉大学	国	3.7
11(14)	青山学院大学	私	3.3	11(20)	関西学院大学	私	4.3	10(87)	奈良県立医科大学	公	3.7
12(8)	神戸大学	国	3.2	12(145)	玉川大学	私	3.8	12(28)	びわこ成蹊スポーツ大学	私	3.3
12(16)	同志社大学	私	3.2	13(16)	青山学院大学	私	3.7	13(71)	大阪経済大学	私	3.1
12(21)	びわこ成蹊スポーツ大学	私	3.2	14(29)	東京農業大学	私	3.4	13(51)	お茶の水女子大学	国	3.1
15(62)	東京農業大学	私	2.8	14(145)	大和大学	私	3.4	13(142)	東京経済大学	私	3.1
15(62)	大和大学	私	2.8								
15(11)	立命館大学	私	2.8								

■ 明るい

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(4)	立命館大学	私	14.6	1(18)	同志社大学	私	13.3	1(14)	立命館大学	私	17.6
2(1)	近畿大学	私	13.9	1(5)	早稲田大学	私	13.3	2(1)	近畿大学	私	17.5
3(3)	関西大学	私	12.6								

※イメージ項目において()内は昨年順位。 ※区分 国立/国 公立/公 私立/私

■ 落ち着いた

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	神戸大学	国 9.6	1(2)	東京大学	国 10.0	1(3)	お茶の水女子大学	国 12.4
2(1)	東京大学	国 8.5	2(9)	立命館大学	私 9.6	2(2)	神戸大学	国 11.8
3(4)	大阪大学	国 8.1	3(5)	大阪大学	国 8.5	3(5)	京都大学	国 9.8
4(7)	お茶の水女子大学	国 7.3	4(1)	神戸大学	国 7.8	4(8)	大阪市立大学	公 8.5
5(12)	立命館大学	私 7.0	5(26)	慶應義塾大学	私 7.1	5(11)	明治大学	私 8.2
6(8)	同志社大学	私 6.3	6(16)	一橋大学	国 6.6	6(4)	大阪大学	国 7.6
7(20)	関西学院大学	私 5.9	7(47)	龍谷大学	私 6.1	7(22)	関西学院大学	私 7.4
8(21)	慶應義塾大学	私 5.8	8(53)	近畿大学	私 5.8	8(1)	東京大学	国 7.0
9(3)	京都大学	国 5.7	9(26)	同志社大学	私 5.6	8(6)	同志社大学	私 7.0
10(9)	大阪府立大学	公 5.6	10(4)	大阪府立大学	公 5.3	10(75)	京都女子大学	私 6.5
11(25)	近畿大学	私 5.0	11(33)	早稲田大学	私 4.4	11(36)	京都橋大学	私 6.2
12(46)	龍谷大学	私 4.6	12(18)	関西学院大学	私 4.3	12(28)	大阪府立大学	公 6.0
13(5)	大阪教育大学	公 4.5	13(156)	三重大学	国 4.0	13(148)	愛知淑徳大学	私 5.6
14(73)	京都女子大学	私 4.4	14(53)	甲南大学	私 3.9	14(55)	京都ノートルダム女子大	私 4.9
14(18)	明治大学	私 4.4	15(87)	横浜国立大学	国 3.7	15(58)	甲南女子大学	私 4.2

■ まじめ

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	東京大学	国 28.3	1(2)	東京大学	国 25.6	1(1)	東京大学	国 31.0
2(2)	京都大学	国 24.4	2(3)	大阪大学	国 24.5	2(2)	京都大学	国 28.0
3(3)	大阪大学	国 24.1	3(1)	京都大学	国 21.3	3(3)	大阪大学	国 23.7
4(4)	神戸大学	国 16.4	4(4)	神戸大学	国 13.0	4(4)	神戸大学	国 20.6
5(8)	慶應義塾大学	私 11.9	5(9)	大阪教育大学	国 10.4	5(5)	早稲田大学	私 16.0
5(5)	早稲田大学	私 11.9	6(14)	一橋大学	国 9.4	6(9)	慶應義塾大学	私 15.5
7(12)	大阪府立大学	公 9.7	7(8)	慶應義塾大学	私 9.1	7(22)	大阪医科大学	私 13.8
8(9)	立命館大学	私 9.2	8(9)	立命館大学	私 7.8	8(19)	大阪市立大学	公 13.4
9(30)	大阪医科大学	私 8.8	8(6)	早稲田大学	私 7.8	9(7)	お茶の水女子大学	国 12.4
10(20)	大阪市立大学	公 8.6	10(17)	滋賀大学	国 6.9	9(6)	明治大学	私 12.4
11(14)	同志社大学	私 8.4	11(13)	同志社大学	私 6.7	11(10)	立命館大学	私 10.8
12(7)	お茶の水女子大学	国 7.8	12(17)	関西学院大学	私 6.5	12(21)	同志社大学	私 10.0
13(14)	一橋大学	国 7.2	13(5)	大阪府立大学	公 6.3	13(26)	大阪教育大学	国 9.1
14(6)	大阪府立大学	公 7.1	14(25)	上智大学	私 5.3	14(33)	大阪府立大学	公 8.0
15(9)	明治大学	私 6.8	15(145)	滋賀医科大学	国 4.9	15(103)	京都女子大学	私 7.4

■ 自由な

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(2)	京都大学	国 15.3	1(1)	京都大学	国 16.9	1(1)	近畿大学	私 17.5
2(1)	近畿大学	私 13.9	2(3)	早稲田大学	私 14.4	2(10)	京都大学	国 13.4
3(4)	早稲田大学	私 10.7	3(13)	同志社大学	私 12.2	3(2)	関西大学	私 11.0
4(8)	同志社大学	私 9.6	4(2)	近畿大学	私 10.7	4(33)	立命館大学	私 9.8
5(3)	関西大学	私 8.6	5(8)	大阪市立大学	公 9.0	5(12)	大阪芸術大学	私 9.1
6(12)	大阪芸術大学	私 8.5	6(6)	神戸大学	国 8.7	6(28)	大阪市立大学	公 7.3
7(11)	大阪府立大学	公 8.2	7(20)	大阪芸術大学	私 7.9	7(3)	同志社大学	私 7.0
8(5)	神戸大学	国 7.4	8(35)	東京大学	国 7.8	7(10)	早稲田大学	私 7.0
9(10)	立命館大学	私 7.3	9(7)	慶應義塾大学	私 7.1	9(5)	慶應義塾大学	私 6.6
10(7)	慶應義塾大学	私 6.9	10(4)	関西大学	私 6.3	10(110)	桃山学院大学	私 6.2
11(26)	桃山学院大学	私 6.0	11(13)	龍谷大学	私 6.1	11(45)	大阪産業大学	私 6.1
12(6)	関西学院大学	私 5.5	12(11)	桃山学院大学	私 5.8	11(38)	駒澤大学	私 6.1
13(9)	大阪大学	国 5.4	13(9)	大阪大学	国 5.7	13(24)	甲南女子大学	私 5.9
13(13)	東京大学	国 5.4	14(10)	関西学院大学	私 5.4	13(7)	神戸大学	国 5.9
15(62)	駒澤大学	私 4.6	14(71)	阪南大学	私 5.4	13(33)	羽衣国際大学	私 5.9

■ 上品な

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(3)	慶應義塾大学	私 19.6	1(4)	慶應義塾大学	私 23.2	1(1)	お茶の水女子大学	国 27.8
2(1)	お茶の水女子大学	国 17.6	2(17)	京都ノートルダム女子大	私 12.4	2(4)	同志社大学	私 15.0
3(4)	同志社大学	私 13.1	3(13)	関西学院大学	私 11.8	3(3)	学習院大学	私 14.8
4(2)	学習院大学	私 12.9	4(8)	同志社大学	私 11.1	4(5)	慶應義塾大学	私 14.5
5(16)	上智大学	私 11.7	5(2)	学習院大学	私 10.8	5(7)	神戸女学院大学	私 14.4
6(13)	関西学院大学	私 11.5	6(5)	神戸大学	国 10.4	6(21)	上智大学	私 14.0
7(7)	神戸大学	国 11.0	7(7)	京都大学	国 10.1	7(2)	同志社女子大学	私 13.2
7(5)	同志社女子大学	私 11.0	8(6)	立命館大学	私 9.6	8(15)	武庫川女子大学	私 13.0
9(16)	京都ノートルダム女子大	私 10.6	9(11)	上智大学	私 9.5	9(12)	青山学院大学	私 11.9
10(8)	神戸女学院大学	私 9.6	10(20)	大阪音楽大学	私 8.9	10(16)	神戸大学	国 11.8
11(5)	京都大学	国 9.4	11(1)	お茶の水女子大学	国 8.7	11(10)	関西学院大学	私 11.1
12(18)	青山学院大学	私 8.7	12(16)	同志社女子大学	私 8.3	11(11)	京都女子大学	私 11.1
13(24)	武庫川女子大学	私 8.3	13(11)	奈良女子大学	国 7.1	13(28)	甲南女子大学	私 10.2
14(14)	大阪音楽大学	私 7.9	14(3)	早稲田大学	私 6.7	14(22)	東京大学	国 9.0
15(11)	京都女子大学	私 7.8	15(17)	東京大学	国 5.6	15(83)	平安女学院大学	私 8.8

■ 個性的な

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	京都大学	国 18.2	1(1)	京都大学	国 19.1	1(2)	京都大学	国 17.1
2(2)	東京大学	国 12.2	2(2)	東京大学	国 14.4	2(4)	近畿大学	私 12.4
3(3)	大阪芸術大学	私 10.5	3(3)	大阪芸術大学	私 9.9	3(3)	大阪芸術大学	私 11.1
4(5)	近畿大学	私 7.8	4(9)	慶應義塾大学	私 8.1	4(1)	東京大学	国 10.0
5(10)	立命館大学	私 7.3	5(74)	京都美術工芸大学	私 7.9	5(13)	立命館大学	私 8.8
6(8)	慶應義塾大学	私 5.8	6(12)	同志社大学	私 6.7	6(61)	神戸大学	国 6.9
7(14)	大阪大学	国 4.9	7(11)	立命館大学	私 6.1	7(11)	京都市立芸術大学	公 6.0
8(35)	大阪音楽大学	私 4.8	8(112)	大阪音楽大学	私 5.6	8(87)	甲南大学	私 5.2
9(13)	京都市立芸術大学	公 4.7	8(112)	神戸芸術工科大学	私 5.6	8(41)	明治大学	私 5.2
10(23)	神戸大学	国 4.5	10(112)	首都大学東京	公 4.9	10(9)	大阪大学	国 5.1
11(44)	京都美術工芸大学	私 4.3	11(57)	大阪大学	国 4.7	10(6)	京都造形芸術大学	私 5.1
11(44)	同志社大学	私 4.3	12(186)	関西福祉大学	私 4.4	12(32)	大阪体育大学	私 4.9
13(4)	早稲田大学	私 4.2	12(4)	早稲田大学	私 4.4	13(32)	関西学院大学	私 4.6
14(36)	大阪体育大学	私 4.1	14(91)	大阪教育大学	国 4.2	14(52)	東京学芸大学	国 4.1
15(19)	関西学院大学	私 4.0	15(98)	宝塚大学	私 4.0	14(158)	びわこ学院大学	私 4.1
15(6)	京都造形芸術大学	私 4.0	15(91)	龍谷大学	私 4.0			

■ 親しみやすい

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	近畿大学	私 9.4	1(23)	同志社大学	私 10.0	1(1)	近畿大学	私 11.3
2(41)	同志社大学	私 8.5	2(1)	近畿大学	私 7.8	2(2)	関西大学	私 9.0
3(2)	関西大学	私 5.5	3(11)	慶應義塾大学	私 7.1	3(95)	同志社大学	私 7.0
4(11)	京都大学	国 5.3	4(4)	立命館大学	私 7.0	4(11)	お茶の水女子大学	国 6.2
5(6)	大阪市立大学	公 5.2	5(12)	京都大学	国 5.6	5(6)	大阪市立大学	公 6.1
5(10)	慶應義塾大学	私 5.2	5(89)	東京大学	国 5.6	6(4)	関西学院大学	私 5.6
7(9)	立命館大学	私 5.1	7(13)	京都産業大学	私 5.3	7(68)	梅花女子大学	私 5.0
8(7)	関西学院大学	私 5.0	8(173)	愛知大学	私 5.1	8(24)	京都大学	国 4.9
9(16)	東京大学	国 4.8	9(53)	京都文教大学	私 4.9	9(24)	武庫川女子大学	私 4.6
10(202)	大阪体育大学	私 3.7	9(21)	甲南大学	私 4.9	10(23)	甲南女子大学	私 4.2
10(213)	大妻女子大学	私 3.7	11(9)	大阪市立大学	公 4.5	11(159)	大妻女子大学	私 4.0
12(15)	甲南大学	私 3.6	11(136)	京都工芸繊維大学	国 4.5	11(159)	東京大学	国 4.0
13(19)	お茶の水女子大学	国 3.4	13(16)	関西学院大学	私 4.3	11(95)	和歌山大学	国 4.0
13(38)	武庫川女子大学	私 3.4	14(173)	天理大学	私 3.7	14(159)	大阪体育大学	私 3.9
15(24)	京都産業大学	私 3.2	15(136)	大阪体育大学	私 3.5	14(5)	神戸大学	国 3.9
15(5)	神戸大学	国 3.2				14(53)	羽衣国際大学	私 3.9
15(11)	早稲田大学	私 3.2						

■ 厳格な

順位	全体	区分 (%)	順位	男子	区分 (%)	順位	女子	区分 (%)
1(1)	東京大学	国 15.7	1(4)	慶應義塾大学	私 13.1	1(1)	東京大学	国 19.0
2(4)	慶應義塾大学	私 11.0	2(3)	京都大学	国 12.4	2(4)	大阪大学	国 11.9
3(2)	京都大学	国 10.6	3(1)	東京大学	国 12.2	3(18)	大阪医科大学	私 11.2
4(5)	大阪大学	国 9.3	4(9)	日本体育大学	私 6.9	4(13)	お茶の水女子大学	国 10.3
5(3)	学習院大学	私 7.4	5(15)	同志社大学	私 6.7	5(9)	学習院大学	私 9.3
6(7)	神戸大学	国 7.3	6(5)	大阪大学	国 6.6	6(6)	神戸大学	国 8.8
7(9)	お茶の水女子大学	国 6.9	7(6)	神戸大学	国 6.1	7(2)	京都大学	国 8.5
8(28)	大阪医科大学	私 6.6	8(2)	学習院大学	私 5.4	8(22)	明治大学	私 8.2
9(14)	同志社大学	私 6.3	9(47)	一橋大学	国 4.7	9(3)	慶應義塾大学	私 7.9
10(15)	明治大学	私 4.9	10(155)	京都ノートルダム女子大	私 4.5	10(14)	同志社大学	私 6.0
11(8)	日本体育大学	私 4.6	11(60)	滋賀大学	国 4.0	11(64)	関西看護医療大学	私 5.6
12(6)	早稲田大学	私 4.2	12(10)	お茶の水女子大学	国 3.9	12(5)	早稲田大学	私 5.0
13(85)	京都ノートルダム女子大	私 4.1	13(19)	大阪体育大学	私 3.5	13(157)	聖徳大学	私 4.9
14(33)	一橋大学	国 4.0	14(21)	国士舘大学	私 3.4	14(138)	愛知淑徳大学	私 4.5
15(98)	聖徳大学	私 3.5	14(68)	駒澤大学	私 3.4	14(138)	大阪府岡医療大学	私 4.5
			14(73)	大正大学	私 3.4			

調査概要

調査目的

2017年3月卒業予定の高校3年生の大学に対する志願度、知名度、イメージを把握し、関係各位の参考にする。

調査期間

2016年4月6日(水)～4月28日(木)

調査対象

関東エリア、東海エリア、関西エリアの高校に通っている2017年3月卒業予定者(調査時高校3年生)計7万4000名。

※平成27年度学校基本調査の「全日制・本科2年生生徒数(県別)」を基に、リクルートが保有するリスト^(注)より調査対象とする数を抽出

【エリア区分】

関東エリア(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県の1都6県)

東海エリア(静岡県、愛知県、岐阜県、三重県の4県)

関西エリア(大阪府、京都府、奈良県、和歌山県、兵庫県、滋賀県の2府4県)

調査方法

対象者に調査票を郵送し、記入後郵送で回収。

(注) リクルートが保有するリストとは、リクルートが発行する進学情報誌「リクナビ進学ブック」及び、配信する進学情報WEBサービス「リクナビ進学」(<http://shingakunet.com>)会員リスト

調査対象校

(各エリアとも下記に該当する大学を調査対象とした)

調査対象都府県に所在する全大学及びその他2エリアの国立大学全て、公立・私立大学の入学定員1000名以上の大学

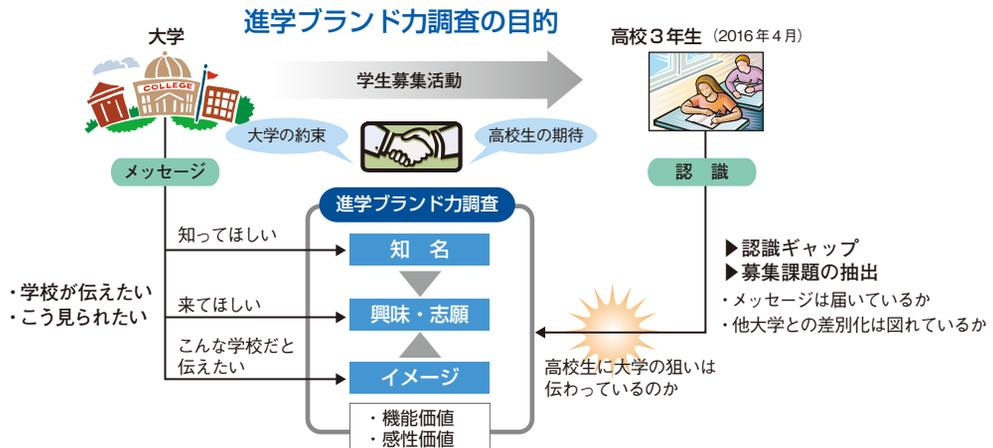
調査エリア	調査対象校数	有効回答数(※ウェイトバック前)
関東エリア	大学 303校 (自エリア 241校、他エリア 62校)	全体 4378件 (男子 2152件・女子 2226件)
東海エリア	大学 208校 (自エリア 78校、他エリア 130校)	全体 2029件 (男子 1051件・女子 978件)
関西エリア	大学 254校 (自エリア 144校、他エリア 110校)	全体 2710件 (男子 1284件・女子 1426件)

<集計対象の詳細一覧表>

	【回収実数】 全体(ウェイトバック前)	【回収実数】 大学進学希望者数	ウェイト値	【補正後】 全体	【補正後】 大学進学希望者数
3エリア・計	9117	7897		9108	7891
関東・計	4378	3924		4377	3925
男子	2152	1993	1.02	2195	2033
女子	2226	1931	0.98	2181	1892
文系	2271	2049		2263	2044
理系	1471	1402		1477	1408
どちらでもない	258	138		258	138
東海・計	2029	1623		2027	1617
男子	1051	917	0.97	1019	889
女子	978	706	1.03	1007	727
文系	964	810		968	812
理系	697	640		690	633
どちらでもない	247	83		248	83
関西・計	2710	2350		2704	2349
男子	1284	1157	1.04	1335	1203
女子	1426	1193	0.96	1369	1145
文系	1472	1310		1463	1303
理系	821	787		825	791
どちらでもない	249	115		249	116

うち、
大学進学希望者

※関東エリア、東海エリア、関西エリアそれぞれにおいて平成27年度版「学校基本調査」(文部科学省)の2年生(本調査の母集団:2017年3月卒業予定の高校3年生)から男女構成比を算出し、エリアごとの男女構成比を補正している。分析対象は大学進学希望者のみを抽出している。





CASE 1

龍谷大学

大学全体の質向上戦略としての 長期計画の実現

龍谷大学は、1639年に本願寺境内に設けられた学寮として始まり、創設370年以上の伝統を持ち、今日では9学部9研究科1専門職大学院1短期大学部に約2万人の学生を有する大規模大学である。建学の精神に基づき、豊かな人間性と創造性を育成することに一貫して取り組むと同時に、時代社会の変化に応じて教育研究の高度化を追求してきた。その基本姿勢は、1970年代から長期計画に基づく大学運営に取り組み、大学改革を続けてきたことにも表れている。



赤松徹真 学長

現在は、2010年度からの第5次長期計画（以下、5長）を展開している。実は、4年前に本誌（2012年、175号）において、筆者は赤松徹真学長に国際文化学部の移転や農学部の新設の構想についてお話をうかがった。今回は2度目のインタビューになるが、そうした取り組みの進展、成果、今後の課題等について改めて、赤松学長にお話をうかがった。

第5次長期計画(2010-19年度)前半の取り組み

5長では、前半の第1期中期計画（2010-2014年度）、後半の第2期中期計画（2015-2019年度）にわけて、事業推進している。社会の動きが早く、10年間という長いスパンを見通した計画を策定するのが難しいこと、具体項目を意識した取り組みが5年サイクルのほうが達成・検証しやすいこと等から、5長から5年ごとの中期計画方式を導入した。前半5年間には55のアクションプランを設定して諸改革を行ったが（図表1）、中心的な取り組みをいくつか紹介したい。

農学部新設と国際学部の改組・キャンパス移転

この20年近く、関西近隣の大学では、学部の新設、改組が相次いでいたが、龍谷大学では1996年の国際文化学部の開設以来、学部新設等の大きな動きがなく、学内でも停滞感があった。時代社会を見渡して何が新しく、また可能な取り組みなのかを熟議した結果、2015年の農学部の設置、国際文化学部のキャンパス移転、グローバルスタディーズ学科の新設を含む国際学部への改組を行った。農学部は全国で35年ぶりの設置で注目を集めたが、人のいのちを支える食を捉え農を学ぶことは今こそ必要な分野だと判断して作った。もう一つ新たに作ったグローバルスタディーズ学科も龍谷大学の今を語るうえで外せない。私立大学でこうした学科を置く場合、英語力重視の内容に傾くことが多いが、龍谷大学ではそれだけにとどまらない教育に力を入れている。半年以上の留学を必修化し、海外協定大学の正規科目を履修、単位修得することに力を入れている。様々な協定校があるが、例えば、現在、UCバークレー校では15名の2年生の学生が半年間、正規科目を履修している。この学科を立ち上げる際に「日本一勉強する学科」にしたいと教員達に交渉した。「本当に龍谷大学でそんなことがやれるのか」という顔をして聞いている人もいたが、その言葉通り、教員が熱心に指導し、学生もそれに応えてよく勉強している。留学先で正規科目を履修するためには高い語学力が必要になる。このため、Professional English Programでは教員が課題を大量に出し、学生はそれを消化して授業に出て議論をし、英語で話す

ことが求められるため、平日のアルバイトが難しいほどだという。

学部・学科の改組については、2016年にも文学部歴史学科文化遺産学専攻の設置、社会学部現代福祉学科の開設も行った。文化遺産学専攻を学べる大学は多くないため、倍率も高く、優秀で勉強意欲の高い学生が全国から入学した。

学生の学習環境の整備

5長前半のもう一つの目玉は、学生が学ぶ環境の整備である。2015年4月に深草キャンパスの「和顔館」、同年9月に瀬田キャンパスの「智光館」「瀬田図書館」にラーニングcommonsを開設し、学生の多様で主体的な学びを支援している。

和顔館では、スチューデントcommons、グローバルcommons、ナレッジcommonsという3つの機能別に分かれたcommonsを横並びで開設した。学長が学生の頃は1人で図書館に行くのが普通のスタイルだったが、今の学生はグループ学習が多く、そうした環境を整備した。龍谷大学の場合、併願者が多く、入学時点で第一志望でない学生も入学している。より早い段階で、大学での勉強の仕方を学び、自信をつけ、勉強の面白さを感じるように工夫している。こうした環境を与えただけで、学生が熱心にグループワークをするはずがないため、先生達の授業スタイルが双方向型に変わってきているのかを尋ねてみた。FDや教育改善研究会の効果もあるが、最近では高校時代に参加型の学びを経験した学生が多く、

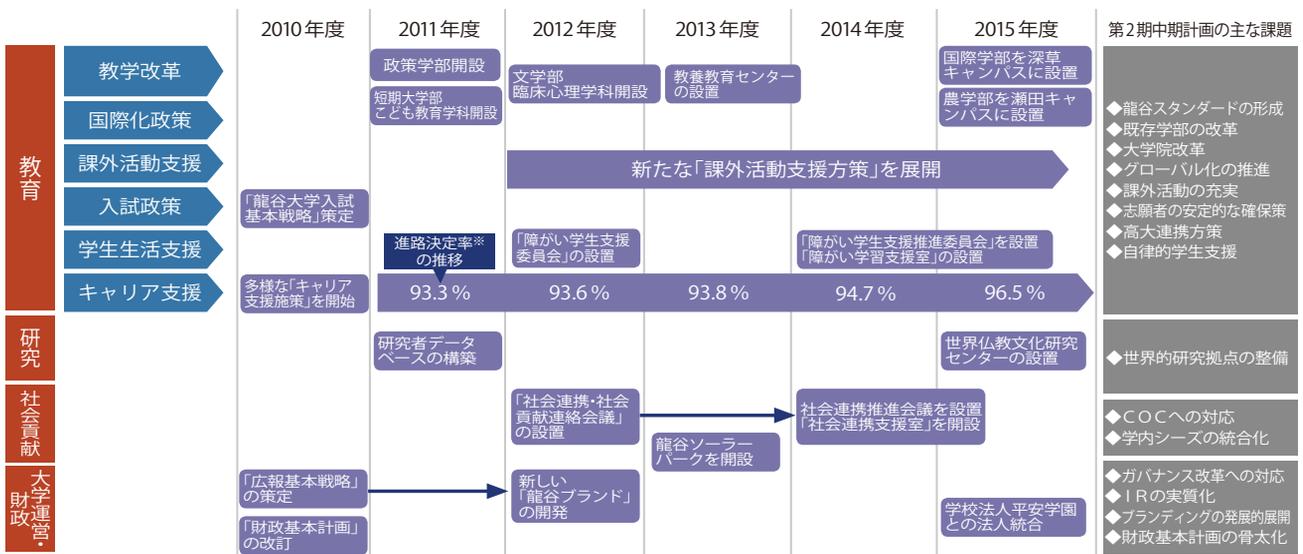
大学の先生が一方向的に講義しているだけでは満足しないケースが多い。そうした学生の要望をうけて、先生たちがこうした授業スタイルを取り入れるように意識が変わってきているという。和顔館はガラス張りのスタイリッシュな建物で、学生達が活き活きとグループで学んでいる姿が、自然と、他の学生や教員の目にも触れやすい。そうしたことで一層、教員も学生も多様な教授・学習スタイルを取り入れようとするのではないかという印象を受けた。

平安学園との法人統合

上記以外にも様々な取り組みをこの5年間に行っているが、2015年の平安学園との法人統合も話題を集めた。平安学園はもともと建学の精神を共有する約70校からなる龍谷総合学園というグループの関係校の1校としてこれまでも推薦枠で多くの学生が入学していた。法人合併を機に、付属化し、毎年200名強の学生が内部進学するようになった。平安高校に対しては、「3教科型の受験勉強ではなく、5教科型の勉強をしっかりとってきてほしい」と要望を伝えている。大学に入ってから様々な分野で勉強するときに、5教科型の幅広く学んだ経験のある学生のほうが伸びしろが大きい。また、就職する段階でも、企業の試験、公務員試験、教職試験等をうけることを考えても、3教科型しかやっておらず、数学は全くダメというようではやはり弱点になる。こうした要望を伝えたり、授業内容について高校の先生と勉強会をした

図表1 第5次長期計画 第1期中期計画 主な実施事業

龍谷大学第5次長期計画第1期中期計画総括より編集部にて抜粋



※進路決定率=就職・進学等進路決定者/就職・進学等希望者で算出。

り、望ましい高大接続の形を実現できるだけでなく、法人合併で、毎年200名ほどの学生が入学してくるのは経営上も大きなメリットであるし、建学の精神の理解力を持った学生が増えるのも望ましいことである。2015年春に平安高校の野球部が甲子園で優勝したが、龍谷大学付属として名前が出たことで、広報効果も高かったと学長はうれしそうに話した。関係校は多いが、こういうパターンが今後も増える可能性について尋ねてみたが、「法人合併に至るには様々な条件があって難しい」とのことであった。

ブランディングと龍谷大学イメージの変化

2012年9月からブランディング戦略にも力を入れてきた。パンフレッド等の色合いも一新、You Unlimitedというスローガンを掲げた。「龍大生のイメージが変わってきた」と学長は言う。まじめで誠実というイメージは変わらないが、明るく活発になった。自分を表現できる学生も増えた。京都市が企画しているボランティアのプロジェクトに応募するなど、積極的なイメージになった。

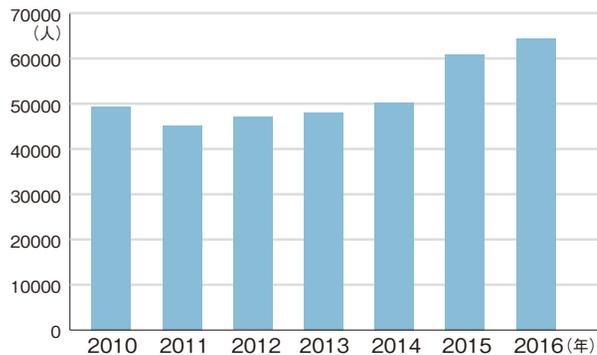
キャンパスのいたるところに、You Unlimitedという旗が掲げられ、ガラス張りのラーニングcommons、1階のスターバックスやカフェスペースに座りきれないほどの学生があふれ出て、活気がある様子に触れて、4年前に訪問した時とキャンパスの印象ががらりと変わり、明るく開放的なイメージになっており、筆者も大変驚いた。

様々な改革の効果

こうした5年間の改革で、様々な効果が表れている。入学者数も増え、志願者が大きく伸びた(図表2)。志願者数は2010年に4万9447名だったが、2016年には6万4403名と1.3倍に伸びた。学部別の内訳も見ると、新しい学部・学科を設置したことの効果ももちろん大きい、それ以外の学部の志願者も伸びている点も注目すべきだ。例えば、2016年の場合、文学部、経営学部、法学部、政策学部も前年度比10%以上の伸びを見せた。

「勉強意欲のある学生が増えて、講義をしていて感触が良い」と話す教員も多く、様々な取り組みの成果が表れつつあるという。そうした教育効果は、いくつかのエビデンスにも表れている。例えば、図書館の利用率である。深草キャン

図表2 大学・短大の志願者数



パスの場合、学生の図書館利用者数は9万7511名の増加(2011年度:75万6746名→2015年度:85万4257名)、貸出冊数も2015年度は2011年度に比べ、5万6939冊の増加となった(2011年度:19万891冊→2015年度:24万7830冊)。「本を持って学内を歩いている学生らしい姿が増えてきた」と学長も話す。また、深草キャンパスcommons及び瀬田キャンパスcommonsの合計利用延べ人数は、16万292名で、月平均では1万3358名と非常に多くの学生に利用されている。

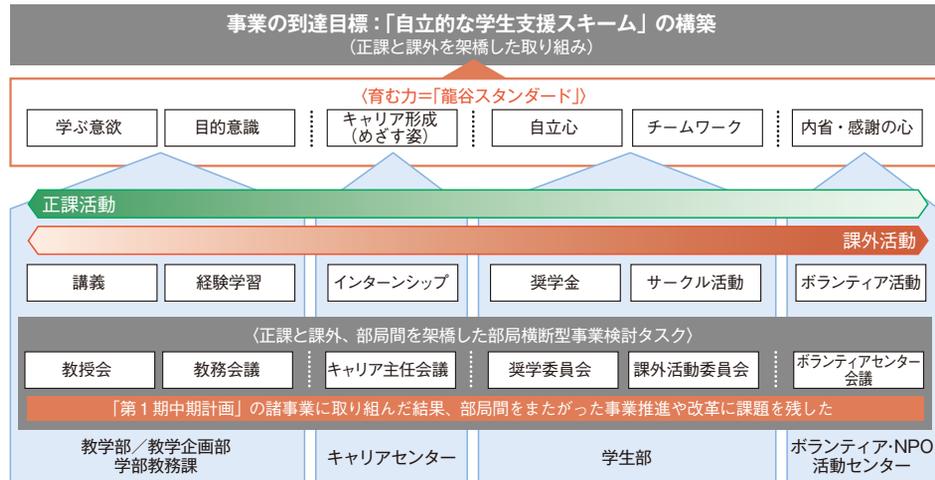
また、グローバルスタディーズ学科では、非常によく勉強させているが、一例として、グローバルスタディーズ学科の学生のTOEIC®テストのスコアの伸びを紹介してもらった。15人程度の少人数クラスで週8回~10回の徹底した英語運用能力を高める教育を行い、入学時は438点だった平均スコアが、10カ月で174点上昇し、610点を突破した。また、当学科では、TOEIC®テスト730点を卒業要件としている。卒業時の目標ではなく、卒業要件としている点に意気込みを感じるが、この要件をクリアした学生も入学後10カ月で17名となった。

卒業時の進路決定率も毎年、上昇を続けている。2011年度には93.3%であったが、2015年度には96.5%になった。また、2012年からは新たな「課外活動支援方式」を展開し、その効果もあり、課外活動での活躍も目立ってきた。伝統的には野球部が強かったが、女子バレー、バドミントン、女子柔道、ボート等、関西でもトップレベルの成績を収めている。

なぜ急激に変わってきたのか

なぜ龍谷大学はこれほど急激に変わってきたのか。「構成員の共有意識と施策実行力。そして、実行してみて手ごたえを感じるようになり、大学づくりに参加している意識も芽生えているからではないか」「以前に比べると全体を見

図表3 部局横断型事業の検討イメージ



渡してつなげる努力をするようになった」という。学長自身も「対話のある大学運営」を大事にしてきたと強調する。龍谷大学では、学部長理事制で、学部長は学部の長であると同時に、執行部の一員である。学部長が学部の意見を聞いてきて、学部長会で報告してもらおうが、厳しい意見が出た場合には、どうしたらよいかを全体で考える。急いで1つの議案を決定せず、一方的に決めない。時間のゆとりを持って議論し、調整するうちに、「意見はあるが、大学の意思なら協力する」というようになっていく。学部構成員からすると「意見を聞いてもらっている」、少なくとも「無視されていない」という意識を持つのは大事だという。そういう意味では時間をかけて議論をしているし、5長の学内共有を進めるための「コンセプトブック」の作成等の工夫も行っている。それでも学内の理解を得るのは至難の業だという。

教育力、教育水準の高度化に向けて

第1期の55のアクションプランの進捗度について厳しく評価し、第2期中期計画の課題(例えば、龍谷スタンダードの形成、既存学部の改革、グローバル化の推進等)をまとめているが、学長にも今後の課題を尋ねてみた。

教育力、教育水準の高度化が最も重要で、「勉強したくなる環境が龍大に入ると待っている、そうした環境を作り出したい。勉強熱心な学生の割合をいかに上げられるか、そうしたことを着実にやっていかないと、少子化が一層進む、ポスト5長の展望が見いだせない」と話す。教育の成果の可視化は難しいが、卒業して5年後くらいの卒業生に、龍谷大学で学んだことがどのように実質化しているのか、調査する必要があるという。

第1期では多くの成果を挙げた一方で、部局をまたがった事業推進や改革に課題を残したが、そうした課題への対策も始めた(図表3)。例えば、入試判定は各部局の教務課の判断だけでやってきたが、実際は複数の学部を併願する受験

生も多く、合格ラインをどこに設定するののかもそれぞれの学部が持つデータを共有して、全学的な観点で調整し、判断したほうが良い。そこで、昨年からは入試部、教務課、学部長が連携して、全学の検討会議で決定するように変更した。奨学金、生涯学生支援等、様々な分野でこうした組織連携を学長が呼び掛けると同時に、担当理事が、全学の会議体に参加したり、個々の部局と個別調整したりすることで部局横断的な事業推進を目指している。

4年前の取材で、「農学部、国際学部の設置でキャンパス内の相乗効果を高めていきたい」と話しておられたのが印象的で、そのアイデアについて尋ねたところ、大学院改革と絡んだ構想を語ってくれた。既存の大学院は煙突型、いわば細分化の方向性が強いが、グローバルスタディーズ学科単独の大学院を作るというよりも政策、経済、経営等広い分野に横断的な大学院を作ることで、相互連携を強めたいという。国立大学重点化の影響で、この10年ほどは多くの私立大学は大学院の定員確保に苦戦しているが、「大学院の力が弱くなると、学部も弱くなる」と学長は言う。大学院生の研究スタイルを日常的に見て、一緒に研究会・学習会等をする機会は学部生にとっても未知な領域への探究心を持つのに重要で、大学院もさらに充実させていきたいという。

今後の学生数については「2万人を少し超えるような規模が妥当。教育研究環境の質を維持し高度化していくためにも、財政的な担保として一定規模が必要になる」とのこと。さらなる教学再編について学内で検討中だが、変わり始めた龍谷大学の今後にますます注目したい。

(両角 亜希子 東京大学大学院教育学研究科准教授)



CASE 2

國學院大學

「3つの^{おも}慮い」と「5つの^{もと}基い」で育む國學院ブランド

大学のブランド構築は、一見、歴史の長い大学のほうが有利に映る。「歴史」はブランドになり得るからだ。世界で威信の高い大学の多くが周年事業等で創立年を誇っていることが何よりの証拠だ。だが、歴史の長さは諸刃の剣でもある。年月を積み重ねているが故に組織慣性が強く働き、新たな環境変化に即応できない大学も珍しくない。伝統が邪魔して好機を逸することもある。歴史や伝統は使い方次第だ。



赤井益久 学長

しかしだからこそ、時間を掛けて築いた伝統をブランド戦略にうまく活用できている事例から学べることは多い。本稿ではその好例として國學院大學(以下、國學院)に注目したい。國學院は東京都心部の中で常に新陳代謝を繰り返す、華やかな渋谷の地に拠点を置く大学だ。建学の精神に基づいて日本と日本文化を重視した教育・研究活動を展開する一方、近年は、教育の質保証、グローバル化への意識向上、キャリア支援といった諸施策を精力的に推進し、安定的な志願者確保にも成功している。やや結論的に言えば、際立つ個性を持ち、伝統と新しさを共存させる「しなやかさ」を備えていることが國學院の強みだ。

名目だけのブランドではない。國學院は、伝統に裏打ちされた、内実を伴った「國學院ブランド」を戦略的に構築するよう努めてきた。具体的にどんな取り組みが展開され、今後どこを目指そうとしているのか。渋谷駅東側に広がる

文教地区に位置する渋谷キャンパスに赤井益久学長を訪ね、お話をうかがった。

「國學院ブランド」の歴史的背景

國學院大學渋谷キャンパスには、現代的で機能的な建物と、厳かな空気の漂う神殿が調和する空間が広がる。國學院がこの地に移転してきたのは1923(大正12)年。國學院のそもそもの淵源は、1882(明治15)年に創立された「皇典講究所」に遡る。明治維新後、欧米列強に追いつこうと急進的な欧化主義が推進されたが、その欧化万能の風潮に抗し、日本古来の思想・文化・体制を尊重しようとする気運を背景に誕生したのが、皇典講究所だった。

その開業式当日、初代総裁・有栖川宮^{たかひと}職仁親王は、教職員・生徒に向けた告諭の中で「凡學問ノ道ハ本ヲ立ツルヨリ大ナルハ莫シ」と述べられた。この「本ヲ立ツ」が、國學院の建学の精神として現代に受け継がれている。これはつまり、日本人が「拠って立つ根本を明らかにする」の意味である。

かかる精神の下、1890(明治23)年、皇典講究所に国史・国文・国法を攷究する男子三年制の教育機関「國學院」が創設された。さらに1904(明治37)年、専門学校に昇格。1920(大正9)年には大学令に基づく大学に昇格している。戦後は、GHQの神道指令(1945年12月)によって皇典講究所は解散となるが、その苦難を乗り越え、1948(昭和23)年に新制大学として再生を果たす。文学部からの再出発だった。その後、経済学部や法学部が順次開設されていく。

こうした歩みを紐解けば、「國學院ブランド」が拠って立つ歴史的基盤は明らかだ。現在、國學院はビジョンとして『「國學院ブランド」の確立と強化』を掲げる。「建学の精神を活かした個性ある教育と研究の実現」と「日本社会の中核を担い、グローバル化する時代に対応できる人材の育成」の2つの課題で構成されたものだ。この2つの課題が示すように、國學院は自らのブランドが、歴史を通して育んできた自らの強みを伸長させ、現代的課題への対応に活かすことで強化されると認識していると言っていいだろう。当たり前のことを当たり前、真摯に追求してきているとも言える。

國學院が展開する取り組みは奇を衒ったものではない。

國學院は現在、文学部、経済学部、法学部、神道文化学部、人間開発学部の5学部に加え、文学・経済学・法学の3つの研究科と法務研究科（専門職大学院）で構成されている。日本に2つしかない神職養成大学の一つとして神道文化学部が特徴的だが、基本的に人文社会科学系の大学であり続けている。最近の改組は、2002（平成14）年の神道文化学科開設、2009（平成21）年の人間開発学部創設だ。他大学に比べると、学部学科を大幅に変えてきたわけではない。

ここから示唆されるように、國學院にはブレがない。創設時の理念を受け継ぎ、日本固有の考え方や感じ方を教育・研究していこうとする姿勢を変えていない。学部学科を作るにしても、歴史的なDNAに根差していなければダメだと赤井学長は述べる。

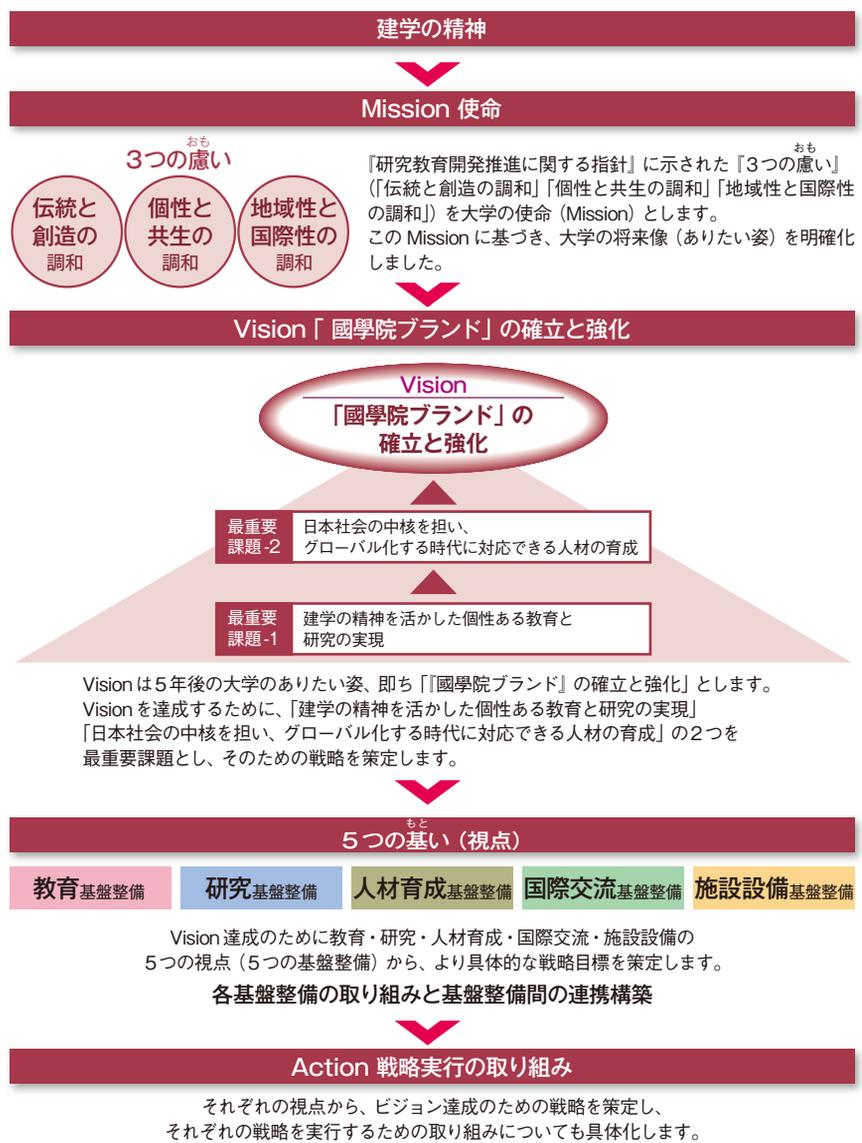
そもそも、目的養成型にシフトする国立大学と比較し、私立大学の選択肢はそれほど多くないと学長は語る。私立大学は個性や独自性を明らかにしていくしかないという。國學院の広報には、「もっと日本を。もっと世界へ。」といったコピーが使われているが、こ

れらも國學院の教育研究を分かりやすく描出したものと見てよいだろう。赤井学長は「教育研究の中身をちゃんと知ってもらえれば、國學院を選んで頂けるはず」と胸を張る。

3つの^{おも}慮い、5つの^{もと}基い

赤井学長自身、大学にブランド概念を持ち込んでよいか、最初は躊躇したそうだ。しかし2007年の副学長就任に際し、思い切って「ブランド」を使い始めたところ、思いのほか学内から支持を得られたという。それ以降、ブランド戦略を通して、少しでも國學院の教育研究の中身を知ってもらえるなら意味があると考えようになったと語る。

図表1 「21世紀研究教育計画(第3次)」の体系



では、ブランドを支える肝心の中身はどのようなのだろうか。

國學院は、5年ごとに策定される中期計画に基づいて多様な活動を展開している。中期計画である「21世紀研究教育計画」の策定を開始したのは2002年のこと。創立130年に当たる2012年には「21世紀研究教育計画(第3次)」を策定・公表し、現在は、PDCAに基づいて修正した第3次修訂版が運用されている。今年(2016年)はその最終年度に当たる。現在、実施状況の検証を行いつつ、来年度からの第4次計画の策定を進めているところだという。第4次計画は来年4月に公表される予定だ。

第1次から第3次に至る中で、中期計画自体変化してきたと赤井学長は述べる。第1次計画は個別事業的な計画を寄り集めたもので、体系的に組み立てられたものではなかった。第2次計画は、ミッション(使命)とアクション(行動計画)で構成したものの、計画立案とそれを実行に移す現場との間に乖離があった。ミッションとアクションとの間に距離があったというわけだ。そこで第3次計画では、ミッションとアクションの間に「ビジョン」を入れ、両者をつなげるように配慮したと赤井学長は説明する。

図表1が示すように、第3次計画は「建学の精神」から始まり、ミッション・ビジョンを経て、具体的なアクションに落とし込む構造となっている。

このうちミッションとして提示されているのが「3つの慮い」だ。「伝統と創造」「個性と共生」「地域性と国際性」のそれぞれの調和を意図している。あえて「慮」の字を用いているのは、神道精神に基づいて、「相手の立場を慮りつつ自己主張を行い、協調を図る」という意味を込めたものだ。そして、「國學院ブランド」の確立と強化を目指すビジョンをアクションに変換するための視点が、教育・研究・人材育成・国際交流・施設設備における「5つの基い」だ。「慮い」を支えるのが「基い」だと学長は説明する。

ただ、こうして整理して提示しても、現場の教職員が「21世紀研究教育計画」を理解し、実行に移していなければ意味がない。実行しやすい施策を示すことはリーダーの責任であり、課題をどう実行するか常に腐心していると赤井学長は述べる。そのために、計画内容を解説する機会を意識的に設けているという。可視化して分かりやすく、同じことを

何度も、教職員だけでなく父母や学生にも説明するのだそうだ。もちろん、学部長や学科代表との懇談の機会も重視する。学部の独自性を尊重しつつ、時にざっくばらんに、時にオフィシャルに話す場を持つという。

こうして学内外に幅広く理解を得る努力を続けながら、単年度ごとに事業計画・事業報告を進めていく。単年度の取り組みが5年分蓄積した結果が、中期目標・中期計画で謳った内容と重なることが理想だ。しかし、現実はそのほどたやすくはない。年度計画と中期計画とのリンクが目に見えて根付き始めたのはここ数年のことだと赤井学長は述べる。組織として理解が定着するには10年かかるというのが学長の実感だ。

國學院が育成する人材像

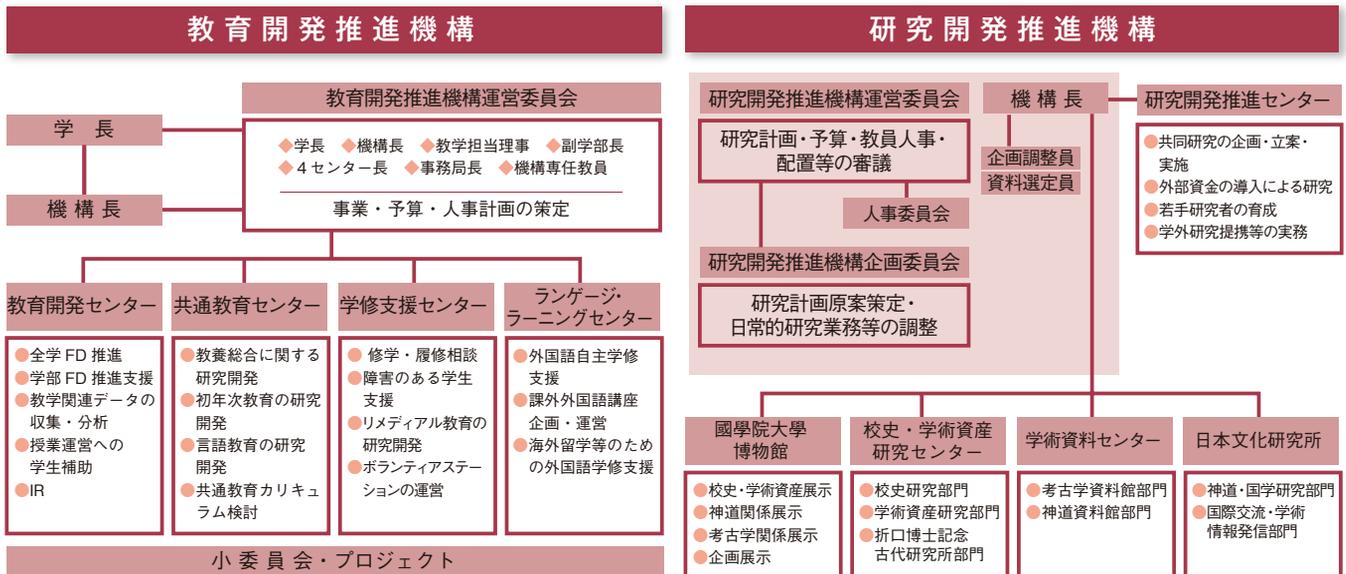
こうした地道な取り組みは徐々に実を結び始めている。國學院は近年、2万人強の志願者を安定的に集めることに成功している。もちろん、ただ数を集めることが全てではない。國學院には志向性の強い学生、つまり國學院のこの学部・学科で学びたいと志望して入学してくる学生が多いと赤井学長は述べる。確かに、歴史や文学はすぐ役立つ学問とは言えない。しかし、すぐに役立つ知識はすぐに役に立たなくなるとも言えるのだ。だからこそ、それらを学びたくて入学してくる学生は「國學院らしさ」や教育の中身を支持してくれているのではないかと学長はそう見ている。

そもそも、國學院が育んできた学問は、神道・国史を中心に約150万点の蔵書を誇る図書館や、考古学・神道・校史資料を展示する博物館において可視化されている。130年の歴史の中で何をしてきたのか、具体的に見せることができると



渋谷キャンパスに設置されている博物館

図表2 教育開発推進機構と研究開発推進機構



いう。さらに、教育・研究活動を直接支える組織として教育開発推進機構と研究開発推進機構もある(図表2)。いずれの機構も赤井学長が主導して整備してきたものだ。今後、教育開発推進機構の更なる充実や、そこでのIR機能の連携強化を図っていく方針だ。

では、こうしたインフラ整備を通して、國學院が養成を目指すのはどのような人材なのか。

赤井学長は、分かりやすく言えば「日本人としての芯が通っている人材」「空間軸・時間軸をしっかり持って自分の立場を相対化できる人材」だと説明する。そうした人材育成のために、國學院では教養総合科目として「國學院科目」「日本語科目」「神道科目」等、特色ある科目を開講している。國學院科目には、例えば、54畳の和室教室で行う日本文化体験型授業がある。和歌や将棋といった日本の伝統文化、所作や礼法等を教える授業だ。

赤井学長は、グローバル化が進行する中、海外の文化を学んで世界に出ていく「プッシュ型人材」だけでなく、日本の魅力を理解して海外の人を惹きつける「プル型人材」の育成も必要だと語る。例えば、日本固有の文化風土の背景を相手が解釈しやすいよう話せる人材。図書館にある古文書や巻物の歴史的意義を英語で説明できる人材。そうした人材を育成する等、國學院らしいグローバル化を目指したいと学長は言う。

ガバナンスとマネジメント強化に向けて

國學院は、歴史と伝統を保持しつつも、ニーズに即して変えるべきところは変えていこうと、果敢に挑戦している。

平成26年度から、学生1万人を対象にした「國學院大學生リアル調査」を実施している。学生の声に耳を傾け、本気で改革していこうという姿勢は明確だ。リアル調査報告は、認証評価結果や21世紀研究教育計画と並び、大学施策の判断材料の一つとして重視していると赤井学長は語る。

さらに、今後の課題は大学のガバナンスとマネジメントの強化だと学長は考えている。学部・組織や世代間を超えて、大学全体でベクトルを合わせていくことが必要だという。そのためにも、現在、教員の初任者研修を充実させて若い世代を育てることに力を入れている。若いミドルマネジメント層が育てば10年後・20年後に大学が変わっていくはずだと学長は見る。

赤井学長には、インタビューの最後に、神道に「中今なかいま」という言葉があることをご教示頂いた。中今とは、過去から未来へと連続と続く時間の中に「今」を捉える考え方だ。つまり、今やるべきことに思いを込めること。長い時間軸の中で今を捉え、それに真摯に向き合う姿勢は、まさに國學院の大学運営や改革に通底しているように思われた。

(杉本和弘 東北大学高度教養教育・学生支援機構教授)



CASE 3

広島修道大学

アウター、インナー双方の改革による ブランド力向上

地域の雄だからこそその改革の停滞

広島県には、1つの国立大学、4つの公立大学、16の私立大学がある。意外なほどに私立大学が多い。私立大学はいずれも第二次世界大戦後に設立されているが、そのうち学校法人として最も古い歴史をたどることができるのが、広島修道大学である。淵源を浅野藩の講学所に、そして、戦前期の旧制修道中学をもとにして、戦後の1952年に修道短期大学を設立、1960年には広島商科大学として4年制大学になり、その後は人文学部、法学部、経済科学部、人間環境学部と学部を増設し、2015年の総定員5040人、文系の総合大学として大きく発展してきた。その規模において、県内の他の私立大学の追随を許すことはない。また、入学時の偏差値においても、私立大学のなかではトップクラスに位置づいている。

そうした機関の規模の問題もさることながら、広島修道大学が誇る点は、地域への人材輩出の度合いである。その1つであり象徴的な数字は、朝日新聞出版の『2017大学ランキング』において、社長の就任数459名が中国地方の私立大学で第1位というものである。社長が多いということは、その裾野が広がっているということである。例えば2015年度の実績で見れば、卒業生のうち、広島県内への就職者率が58%、中国・四国を含めれば約70%が地元で就職しており、そのうち公務員や金融機関への就職者数が多い。「社会人が評価する大学：中国・四国地域」（大学通信社『大学探



市川太一 学長

しランキングブック2016』)においても、「地元の有名企業や自治体への就職に強い」(8位)、「企業や自治体との連携に積極的」(8位)などベスト10に入る項目が多くある。

これらを総合してみれば、広島修道大学は、広島県を中心としつつ中国・四国地方に県域を広げて、地域の経済界を牽引する人材を育成してきた大学と言うことができる。その意味では地域の雄である。その確立されたポジションはそうそうには揺るがないため、少子化のなかで周囲の私学が学部の増設などの改革に走るなかでも、広島修道大学は特段の改革をすることなく2000年代の後半を過ごしてきた。

規模拡大によるサバイバル

その広島修道大学が、再び動き始めたのは、2010年。市川太一学長が「再度」学長として登板してからである。実は、市川学長は1996年から2001年まで6年間学長を務められていた。その後2010年に2度目の学長に就かれて現在に至る。最初の学長職を退いてから8年間のブランクがあって、再び学長職に就くケースは極めて珍しい。最初の学長時代、改革派の学長として知られた市川氏が再登板するに至ったのは、学内において、いつまでも眠れる獅子ではいられないという危機感が高まったことによるものであろう。

第2期の学長になってこれまでのところ、特筆すべき改革は他法人との合併を果たしたことである。いくつかの私立大学で異なる法人が合併した前例はあるが、40%を超える私立大学が定員割れをしているにも拘わらず、法人の合併によるサバイバル戦略をとるところは多くはない。ただ学生定員を増やせば規模の経済が働くというのではなく、法人の特性の類似性、財務状況、学部構成、学生の資質など多様な条件を考慮する必要があり、安易にそれを選択することはできない。

そうしたなか、大学と修道中学校・高等学校からなる学校法人修道学園は、合併という道を選択した。相手は女子短期大学と女子中学校・女子高等学校を持つ鈴峯学園であった。協議の開始は2013年3月、合併の認可は2015年1月であり、およそ2年の歳月をかけて合併に至った。図表1にみるように、鈴峯女子短期大学は保育、食物栄養、キャリア創造という3学科を持っていた。これらはいずれも、広島修道大学にはなかった領域である。合併による規模の拡大と、新領域への進出とを同時に果たすことで、これまでとは異なる受験者層を取り込める可能性が広がる。

まず、2016年には、それまでの人文学部人間関係学科教育専攻と鈴峯女子短大の保育学科を活用して新たな教育学科に再編し、小学校・中学校・高等学校の教員免許に加えて、幼稚園・特別支援の教員免許及び保育士資格を取得できるようにした。2017年には健康科学部の開設が予定されているが、そのうち健康栄養学科では管理栄養士の受験資格が取得でき、人間関係学科心理学専攻を改組した心理学科では大学院修士課程において臨床心理士の受験資格の取得を視野に入れている。2018年には国際コミュニティ学部を設置し、一方でグローバルを視野に置き、他方で地方創生を担うような人材育成を目指すことを構想している。これが実現すれば総定員は5040人から5660人へと約12%も拡大する(図表1)。教員、管理栄養士、臨床心理士といった資格

は、女子に人気が高い。また、国際関連の領域もしかりである。既存の広島修道大学には、確かに人文学部はあるものの、最近、女子高生やその保護者に人気のある資格系の学部を持たないため、女子比率が減少傾向にあった。そこにあらたな学生マーケットである女子の取り込み、附属女子高校からの進学による入学者の安定的充足、こうして一層進む少子化時代を生き抜こうという戦略をとった。

「県内の他大学は既に新学部を設置しているため、後発であることの不安がなかったわけではないです。しかし、鈴峯学園の財務状況に問題はないしロケーションはよい。広島修道大学は、地域で築いてきた伝統がありますし、広島修道大学ならばどの学部でも良いから進学したいという層がいます。これらから、後発のリスクは回避できるのではないかと考えての合併でした」と、市川学長は話される。

1992年以降の最高志願者数に

その結果、まずは「吉」とでた。図表2にみるように、2016年合併・改組後の初の入試では、前年よりも入学者定員が50人増えているなか、入学志願者は前年に比して約3000人、36%の増加である。志願倍率は前年の5.5倍から一挙に7.2倍にまで跳ね上がった。2000年代後半には6倍を超えていた志願倍率が、2010年代に入って逡減し5倍台半ばにまで下がっていたところでの7倍を超える志願倍率は合併・改組効果以外の何ものでもない。これは、1992年以降の最高の志願者数である。

図表1 広島修道大学組織図



合併効果は改組された教育学科のみに表れたわけではなかった。すなわち、教育学科では定員100人のところに1500人ほどの志願者と群を抜いて高い倍率を示したが、それ以外の全学部において志願倍率が上がったという。加えて、偏差値が上昇し42.5(河合塾調べ)を下回る学科専攻がなくなったこともうれしい結果である。これは、より高学力層による志願者の増加であったことを意味し、ここ数年、やや翳ったかにみえた広島修道大学のブランド力が再評価された。それを示す別の証左として、これまでのオープンキャンパスの来場者5100人程度が、2015年度には一挙に6100人を超える人数にも増加したこと、また、中学生の見学ツアーには800人が参加したことを挙げれば、広島修道大学の評価が上昇したことは十分に納得されよう。「最近、高校の先生方からは、広島修道大学もようやく眠りからさめて動き始めましたねと、言われるようになりました」と、市川学長は苦笑されつつ話される。

教職協創によるマネジメント

法人合併の過程において、学内の一部の反対があったものの、学園及び大学全体としては円滑に進んだと言える。この一大事業が滞りなく進んだのは、何よりも大学のマネジメントを担当する事務局長を始めとする事務職員の力によるところが大であった。

大学職員のマネジメント力は今後の大学経営を左右す

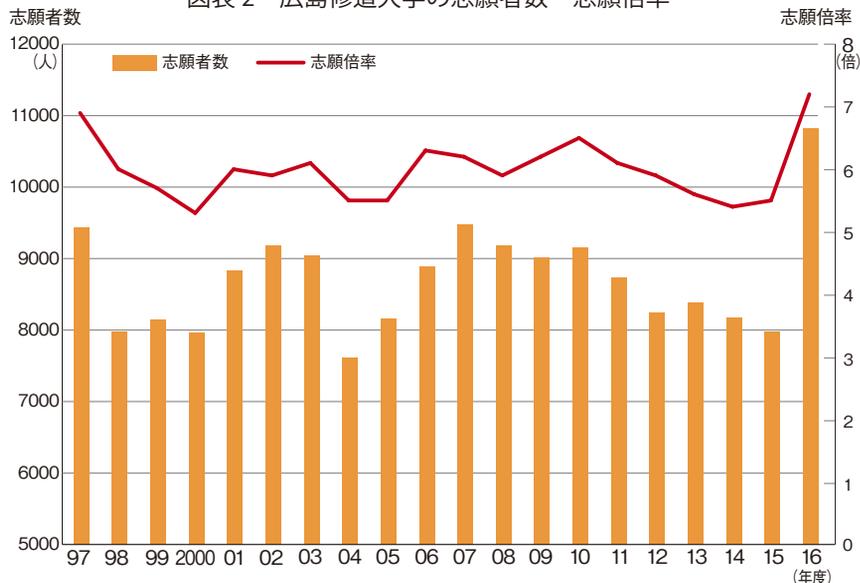
ることに気づいた大学は、各種の研修などにより職員の高度化に力を入れている。広島修道大学の場合、既に1990年代半ばに事務組織の改革に着手し職員の力量向上を図っていた。それ以来の事務組織に関する学内改革とその成果があつてこそ、法人合併がスムーズに進んだと言つてよいだろう。

市川学長が1996年最初の学長に就任したとき、110人の事務職員を年齢別に10人程度のグループに分けて全員と面談したのが、事務組織と事務職員の処遇の改革の契機であった。大学改革の鍵は、事務職員がいかに教育研究を支援し、かつ、大学を経営するマインドを持てるかにあると考えたからであるが、面談で明らかになったことは、職員の異動が少なく、大学の管理と教務との両方を理解する者が少ないということであった。そこで、7年以上同じポジションにいる者を異動の対象とし、結果的に30%以上の職員が異動することになった。それ以来、管理部門と教務部門の異動は必須となった。同時に外部機関を利用した管理職職員研修も数年間行つて、職員の意識改革に努めた。

2010年に市川学長が2度目の学長に就任すると、「教職協創」を掲げ、教員と職員とで学内に新たな価値を創造(Co-Creation)するための取り組みを実施してきた。代表的なものは人事制度の改革であり、例えば、2011年には教員の理事ポストを職員に回し、事務局長を理事としたこと、2013年に事務組織を部制からセンター制に変更し、職員部

長制を導入できるように規程改正したこと、2016年に役職定年制を導入し60歳を62歳へ引き上げたことなどである。特に、センター制・職員部長制への移行によって、センター、学長室、図書館など10の事務部門のうち5つの事務部門は教職員どちらでも長に就けるようになり、現在、学長室長、学生センター長が職員である。また、センター制の導入により、教学センター、入学センター、財務部、総務部、キャリアセンターなどでは事務部長(職員)を置いている。センター長・部長となった職員は教員と共に大学評議会に出て、運営に責任を持つように

図表2 広島修道大学の志願者数・志願倍率



なったことは特筆に値しよう(図表3)。

これらいずれの改革も、職員であっても教員と同等にマネジメントに参画し、大学経営に力量を発揮することができるシステムへの変更である。それは言い換えれば、事務職員がそのくらいの力を持たないと今後の大学経営は成り立たないとの判断があつたのであろう。学長は、これを「インナー・ブランディング」と呼ぶ。大学の外からの評価でもってブランド力を向上させることを、仮に「アウトター・ブランディング」とすれば、学内マネジメントの改革によるブランド力の向上を、それに勝るとも劣らない重要な戦略と位置づけてこのように命名されるのであろう。いや、後者を実現させるためには前者が不可欠なのだ。事実、こうした改革を経て、「職員の職務に対するモチベーションは明らかに高まり、意思決定のスピードが違ってきました。物事が早く進むようになりました」と、市川学長は改革の成果を実感されている。

大学の事務組織や事務職員の処遇に関する改革は、大学の外からは見えにくい。それが注目を浴びることもあまりない。しかし、こうした地道な改革が大学の足腰を強くしているのだろう。いうまでもないことだが、法人合併とは、事務組織も合併する。それがスムーズに進んでいるのも、こうした事務組織の改革が基底にあるのだ。2015年に竣工した8号館は、この教職協創をシンボルとして協創館(Center for Co-Creation)と命名された。

周到な改革計画

これで全てが片付いたわけではない。市川学長が考える主たる課題は2つある。1つは、修大附属鈴峯女子中学校・高等学校のブランド力の向上である。広島修道大学の安定的な定員充足の役割を持つ附属中等教育機関は、いわば学生の先取り機関である。いかにして質の高い生徒を引きつけるか、そのために大学への推薦枠をどのように設定するか、大学との連携による教育改革をどのように進めていくかは、喫緊の課題である。

もう1つは、かなり以前からの、そしてかなり長期的視点にたったキャンパス・マスタープランの遂行である。1974年に現在のキャンパスに移転したため、全ての建物が一斉に老朽化の時期を迎える。2000年に、2009年から2035年

図表3 事務組織・組織風土の改革

2010年	・学長・副学長・事務局長・人事課長で全職員とグループ面談を実施。 ・教職員(管理職)合宿研修をワークショップ形式で実施。 「教育力アップセミナー」(若手教職員対象)を開催(毎年実施)。
2011年	・大学事務局長を理事とする。 ・第1回「修道力フォーラム<修道力>をいかに統合するか」(全学教職員研修)を開催(毎年実施)。
2013年	・各部をセンターと名称変更し、各センターに事務部長を置けるように規程改正。 ・キャリアセンター長、学長室長に加え、学生センター長も職員が就任できるように規程改正。
2014年	・事務局を2部(総務部・財務部)4課(総務課・人事課、財務課・経理課)体制にし、総務部長、財務部長を置く。
2015年	・大学運営会議は教員(学長、4副学長、5学部長、教学センター長)、職員(事務局長、総務部長、財務部長、学長室長、学生センター長、総合企画課長)から構成。
2016年	・職員部長の定年を60歳から62歳に延伸する。

までの4期に分けての「校舎等建替計画」が大学評議会において承認されていたが、実際にはその通りに進まなかった。耐震化基準の変更、監査法人からの2号基本金積立における問題の指摘などが、計画を阻んでいた。しかし、それでもって計画を取りやめるわけにはいかない。キャンパス環境の整備は、学生に対する教育の質にも直結するし、いわゆるブランド力にも影響を持つ。当初計画を練り直しつつ、長期計画をいかに遂行していくか、これが課題である。

市川学長は、現代の大学を次のように見ておられる。「大学は、少子化時代の学生募集や卒業後の雇用など、いわば学生に関する変化だけを見ては対応できない時代にあると言えるでしょう。大学の内外を取り巻く個々の現象を関連づけて総合的にみる視点が欠かせなくなっています。こうした変化に対応できるよう、絶えず改革を続けていかななくてはならないのです」。

地域の雄として伝統を確立している大学でも、これだけの危機感に迫られ、それを受けて冷静に、かつ、改革の針路をとる。縮減する高等教育の時代の厳しさを教えられる。しかし、ここを乗り切り、卒業生の輩出による大学の地域社会への貢献が認知されれば、次世代の多くが広島修道大学を目指すという循環が生じるはずである。そのためにも、長期的な計画のもとに、常なる改革の継続を怠ってはならないのである。



(吉田 文 早稲田大学教授)



佐藤 圭一
国士館大学 学長

さとう・けいいち氏

1955年生まれ
1984年 国士館大学大学院政治学研究所博士課程修了
国士館大学宗教研究所助手
1994年 国士館大学政経学部二部専任講師
2002年 国士館大学政経学部二部教授
2003年 国士館大学政経学部教授
2012年 国士館大学大学院政治学研究所科長
2015年 国士館大学学長
宗教学会理事、比較憲法学会理事
「政治学博士」
専門：アメリカ政治史

100年の伝統と新しさが交差した日本人の心を育む国士館へ

国士館大学の成り立ちは、1917年に創立者である柴田徳次郎が麻布に私塾「国士館」を作ったのが最初です。日本近代化の祖となる人々の師、吉田松陰の考えに強く感銘を受けていた柴田は、日露戦争後、拝金主義に走る日本の行く末に危機感を抱きました。そこで、「誠意・勤労・見識・気魄」の四徳目を教育理念に、日本人が連綿と受け継いできた精神を復興し、「世のため人のために尽くす人材」即ち「国士」を養成する国士館を創立するに至ったのです。

防災・救急救命、公務員養成に強み

本学が今、一番力を入れているのは、四徳目を現代に継承した防災教育です。2011年に防災・救急救命総合研究所を設立し、新入生オリエンテーションの一環として、研究所主催の防災教育を行っています。なかでも「防災リーダー養成論実習」という科目では、地元町内会・日本赤十字社東京支部・世田谷警察署・世田谷消防署等の協力を得て防災訓練も行っています。

また、国士養成の理念から、公務員養成にも強みがあります。警察官就職者数は全国で2位、消防官就職者数と救急救命士国家試験の合格者数はともに全国1位の実績を誇ります*。

このように公務員志望学生が多いことから、今年4月より政経学部政治学科を政治行政学科に名称変更をし、「警察行政」や「消防行政入門」等、新たなカリキュラムを作りました。政治行政学科のAO入試受験者の多くは公務員志望なので、志を持ってきた学生には、何とんでもその夢を叶えてあげたいと思っています。

救急救命士につきましては、日本で初めて救急救命士の国家試験受験資格を得られる4年制大学として2000年、体育学部にはスポーツ医科学科を設置しました。救急救命センターや東京消防庁等と連携し、病院内実習や、救急車4台を利用した救急車同乗実習のほか、海外実習なども行っています。

キャリア形成支援センターでも公務員採用試験対策講座、警察官・消防官採用試験対策講座等、合格するための様々な講座を用意しサポートを行っています。

受験生はこうした本学の強みを知っていて志願してきますし、保護者の方も、本当になれるのかを非常に気にされます。ただ、受験の時は希望していても、実際に入学してから、3年半いかにモチベーションを維持させるかが問題です。そのため、キャリア教育で入学前に出口をしっかり設定して、結果を出すまでのサポートを行っています。例えば政経学部では、1年次必修科目「フレッシュマンゼミナール」の時に外部から専門家を呼び、公務員講座でも現職の警察官や消防官を呼ぶなどして、給料や福利厚生の内容まで話して頂きます。特に警察官を目指す女子学生はこれらを気にするので、ゼミの女子OBとも話せる機会を作り、安心してやる気を出してもらうような工夫を常に行っています。

女子学生が牽引する新たなイメージ

本学に対するイメージは世代によってかなり違います。私が入学した昭和50年代は、質実剛健、武道や体育のイメージが強く、少し怖い感じもありました。しかし今では女子学生が全体の22～23%で、昔の国士館を知る年配の方から驚かれます。

実は、ここ10年くらい女子を増やそうと戦略的に学生募集を行ってきました。日本の将来を考えるうえで、女子への教育は非常に重要です。女性の警察官や消防官も随分増えていきますし、社会は男女どちらかだけでは成立しません。男女がお互いの価値観を議論して、いかに女子の活躍の場が大切かを認識するのも、ひとつの教育だと思います。

本学に入学した女子学生はみんな、「入ってみてイメージが全然違う。楽しい」と言います。この女子学生の満足度の高さを高校生に直接伝えたくて、オープンキャンパスで「女子カフェ」を開催しています。女子カフェでは、スイーツを食べながら、希望学部の女子の先輩に、大学生活のこと、勉強や部活、将来のこと等を本音で相談できます。この気軽な感じが評判が良いようです。お母さんと娘さんで来ることが多く、お母さんの中には昔の国士館のイメージを引き続き持っている方もいるので、今の国士館をお伝えできる貴重な機会

になっています。

校舎の面でも工夫しています。世田谷キャンパスには塀がなく、創立100周年記念事業の一環で2008年に完成した34号館(梅ヶ丘校舎)は、地上10階、地下1階建てで、10階のスカイラウンジは東京スカイツリーや富士山も見える眺望で、土曜日の午後は地域住民がランチを取る姿も見られるようになりました。

さらに2013年に完成したメイプルセンチュリーホールは、地上5階、地下3階建てで、理工学部実習室、フィットネスジムや、温水プール等があり、全学生のほか公開講座で地域住民の方にも開放しています。地下1階にはヘアサロンとネイルサロンがあり、女子が利用しやすい雰囲気作りもしています。

日本人の価値観に基づいた教養教育

東日本大震災で列を乱さない日本人の姿に世界が驚きました。コンビニが自ら食料を配るなど、私欲を抑えて世のため人のために尽くす行動は、まさに日本人が連綿と受け継いできた精神で、国士館の四徳目に通じます。日本人は教養があるので広い心を持てるのです。教養がなければ自分のことしか考えられず、偏狭な人間は価値観の違う人間を理解することができません。本当のグローバル化とは、言語習得でなく、教養を身につけることなのです。

本学には482名の留学生在籍しております。また、世界51機関の協定校もあります。学生には、様々な交流をし教養を身につけてほしいと願っています。

古いものと新しいものが交差するのが今の国士館です。古いイメージのまま国士館を誤解している方もまだいるでしょう。

決して武道や体育だけでない、日本人の軸を大切にする7学部10大学院研究科をもつ総合大学で、防災教育や公務員養成の強みもあり、女子や留学生もたくさんいる、社会と世界に開かれた大学だということ。建物のハード面は随分整いましたので、今後はソフト面で、国士館のこの新しいイメージを発信していきたいというのが私の気持ちです。



※株式会社大学通信「大学探しランキングブック2016」



園田学園女子大学

経験値教育プログラムで 地域と共に歩む大学へ

大学は、最終学歴となるような「学びのゴール」であると同時に、「働くことのスタート」の役割を求められ、変革を迫られている。キャリア教育、PBL・アクティブラーニング等座学にとどまらない授業法、地域社会・産業社会、あるいは高校教育との連携・協働等、近年話題になっている大学改革の多くが、この文脈にあると言えるだろう。

この連載では、この「学ぶと働くをつなぐ」大学の位置づけに注目しながら、学長及び改革のキーパーソンへのインタビューを展開していく。各大学が活動の方向性を模索する中、様々な取り組み事例を積極的に紹介していきたい。

今回は、「経験値教育」を掲げる園田学園女子大学で、川島明子学長と、大江篤教授（人間教育学部／地域連携推進機構副機構長）にお話をうかがった。



引き継いだ
「動き続けていく必要がある」という思い

川島明子学長は、今の大学が置かれた状況を「戦後の、学制が変わったときと同じぐらいに、大きな変革の時期に

ある」と捉えている。

「少子化はもちろん、学生の多様化、ユニバーサル化、グローバル化といった変遷を踏まえ、女子大の地位をどうやって確立していくべきかについても一度考える段階にあると感じている。

園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部は2013年に、創立50年を迎え、建学の精神や教育理念を振り返り、その振り返りを経て、これからも女子大であり続ける」ことは、揺るぎのないものとなっている。さらに、幼、小、中、高教諭、保育士、看護師、管理栄養士等の資格を取得させ、それを生かして地域社会に貢献するという大学のミッションも確認した。

昨年就任した川島学長は、歴代の学長の教育改革への精神を引き継いでいる。「本学のような小規模の大学は、常にイノベーションしていかないといけない。そのためには、学長自ら動いて、前進していく必要がある」と。



知識を知恵に変える
「経験値教育」

人間健康学部と人間教育学部の2学部と短期大学部という、実学主体の

現在の学部構成は、大学での「学ぶ」が「働く」に直結しているということだが、そこからさらに「経験値教育」という独自性の高い言葉を打ち出した狙いは何だろうか。



川島明子 学長

「今の学生は、知識や技能は大学の講義を通じて身につけるが、学校という守られた環境から外に出ると、社会というのは容赦がない。いろんな経験をして、落ち込むこともあると思うのだが、それを乗り越えて、そしてそれを知恵として、社会で活躍してほしい。

特に本学は女子大学なので、結婚や出産、子育てでキャリアが中断した女性が、もう一度職場に復帰するとき、飛び上がる力というか、知識を知恵に変え、頑張りぬく力を身につけさせたいと思っています」(川島学長)。

2013年度に「〈地域〉と〈大学〉をつなぐ経験値教育」が文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択。「尼崎市を中心とした地域に学生を出させていただいて、学内では得にくい社会での経験を積み重ねて



いくうちに、知識を知恵に変えていく力ができてくると思っています。社会に出たときの強さや逞しさ、いわゆる人間力をつけるということ。それを『経験値教育』として教育の柱としています(川島学長)。

COC事業の運営の中心となる地域連携推進機構の副機構長を務める大江篤教授は、「経験値」を次のように整理する。「COCに申請した段階では、『知識を知恵に変える力』を経験値として可視化を目指していたが、今は、『知識』、『知識を知恵に変える力』、『知恵』の3つの力を「経験値」とし、高めていくのが経験値教育と考えている。今の高大接続改革の『新しい学力観』に対応しています」。

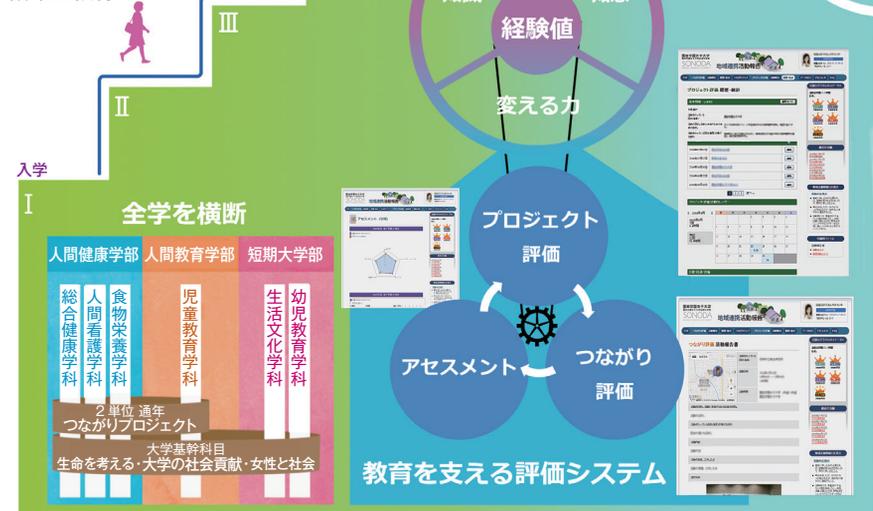
4学科を横断する「つながりプロジェクト」

COC事業の一環として今年度、4年制の2年生の必修で、地域の課題解決型の科目「つながりプロジェクト」がスタートした。4学科の380人を21のプロジェクトに分け、全員に尼崎市内をフィールドに1年間、学ばせる。

ポイントの1つは、1プロジェクト平均18人の学生が、4学科の混成であることだ。子育て分野でも、高齢介護分野でも、就職後はそれぞれの職場で、他職種との連携が求められる。そこで役立つ経験値になるだろうと言う。

「例えば、これまで、児童教育学科の学生に小学校の校区内を歩かせ、子どもが危険だと思う箇所を写真に撮り、子ども達にとって安心・安全なまちづくりを考える演習をしていました。ところが、人間看護学科の地域看護学の

経験値教育 「知識」を「知恵」に変え 自身を「変える力」を養う 循環型教育



学生も、授業の中で地域診断の実習があり、高齢者や子ども達にとってのまちの課題をフィールドワークしている。これまでのカリキュラムだと4年間一緒に学ぶことのない学生が、同じ地域のことを考えると、複眼的な視点で高齢者から子どもまで地域の課題やその解決が見えてくる。そこにこの科目のめざすところがあります(大江教授)。

学生だけでなく担当教員も学科混成だ。「地域で活躍されている方に非常勤講師としてお願いしているプロジェクトもあります。学内の教員が担当するものは、例えば児童教育学科の私と、人間看護学科の先生と、総合健康学科の先生というように、3人で持ちます。

学生は実習に行けば、病院や施設、学校園の中での体験はおのずからできます。しかし、実習先の外に目を向けようというのが『つながりプロジェクト』です。従って、一つの地域課題に複数の専門領域の教員がサポートできる

ところが重要だと考えている。

例えば、児童教育学科の学生が、保育所実習で乳幼児の保育について学びます。現場に出ても、学生の意識にのほりにくいのが、熱を出した子どもを、働いている保護者に迎えに来てもらう電話をかけることも保育士の仕事だということです。そのとき、自分も働く女性として、迎えに来てもらうことの大変さを理解できるかどうか。社会の問題として考えぬく力を身につけるのが『経験値教育』です(大江教授)。

こういった学びは、事務職など、資格や専門と関係ないところに就職した場合でも必ず役に立つだろう。食物栄養学科の管理栄養士課程で教える川島学長はこう言う。

「卒業生を見ていると、病院等で管理栄養士として働く学生も、事務職や営業職で一般企業に就職する学生も、勤めを辞める理由は同じ。人間関係。だからこそ、在学中に人間力をつけるためには、いろいろな場所で、多様な体験をし、経験値を高めることが必要だと」



「つながりプロジェクト」をキャリア教育としては早めの2年次に置いたのには、園田学園女子大学の学部学科構成が関係している。「大学4学科それぞれに、国家資格の養成課程のカリキュラムですので、3年生以降は実習の連続で、学内にもなかなかいない状態。学部学科を横断するカリキュラムで、地域での体験ができるのは低年次しかない。

それでも、養成課程の先生方には、学科横断の必修科目で学外での経験を積ませることの必要性をご理解頂くのに、若干苦勞したかもしれません」(大江教授)。

小さな困難を指摘しつつ、大江教授はこうも言う。「でも、こちらからお願いをしていくと、小さな大学ですので、教員間の風通しは非常にいいですね」。



「つながり」「プロジェクト」「アセスメント」の3評価

COC事業のもう1つの柱として、「経験値評価システム」がある。1つのシステムの中で、「つながり評価」「プロジェクト評価」「アセスメント」と3つの評価を出すことによって、経験値の可視化を意図している。

1つ目の「つながり評価」は、学生の活動をデータベース化していく独自開発のポートフォリオで、活動場所を地図アプリにピンで打っていく。活動時間10時間ごとに1つずつ王冠がつくというゲーム的な要素も入れて、学生の地域活動の活性化を狙っている。

2つ目が「プロジェクト評価」で、1年間のプロジェクト活動の記録で、カレ

ンダーに活動時間が表示され、中間と年度末に振り返りを書き込む。グループでの授業外活動や、自主的な活動などの正課外の時間数を把握し、評価につなげる。

3つ目が年に1回の「アセスメント」。127の項目について5段階で自己評価を行う。大きな指標は、「主体性」「コミュニケーション力」「気づく力」「協働する力」「考えぬく力」の5つ。

特徴的なのは、「つながり評価」「プロジェクト評価」に、連携先の地域の方から評価やコメントをもらう仕組みにしていることだ。スマートフォンでQRコード®を読むと、コメントと星5つの評価の入力画面になる。「やりっぱなしではなく、地域のコメントを必ずもらう。星の数もけっこう厳しくつけられますし、辛口のコメントも頂く。怒るときにはしっかりと怒ってもらっています」(大江教授)。

評価やコメントの手間をかけてもらえる関係性づくりに、地域連携推進機構が腐心する甲斐あって、書き込みの数は順調に増えているという。

「学生自身も書き込むのに慣れてきて、どんどん書き込んでくれると、学生の活動が見えてきます。GPAなどとデータを掛け合わせると、地域で頑張った学生の成長度合いとか、国家試験合格率や就職率との相関とか、いろいろな分析ができるのではないかと思います」(大江教授)。



地域に根付いた教育を

今後の課題と方向性を考えるにあたり、川島学長が気にかけているのは

「大学教育の遅効性」だ。

「学生は、卒業してすぐには教育の効果を実感しないと思います。その効果が出るのは遅いですよ。本当に効果を感じるのは、3年後、5年後、あるいは30代に入る頃だと思います。それを踏まえて、今後大学時代に地域で学んだ厳しい経験、社会人として得た経験をしっかりと受け止めて、学び続けてほしいと思っています」。

この観点では卒業生調査が有効だが、なかなかうまくいっていないのが課題だという。

COC事業では、PBL型の「つながりプロジェクト」と、その導入科目である1年生(大学、短大共通)の選択科目「大学の社会貢献」の2つの科目だけが正課の地域志向科目になっている。大江教授は、今後の展開として、専門科目まで含めて4年間(短大は2年間)のプログラムの中で、経験値を高めていけるようにしたいと言う。それを受けて川島学長は、「学んだ学生が、地域にどれだけ根付いて、就職していくか」を次の課題にあげる。「地域に根付くことによって、地域が発展し、大学も一緒に発展できると思いますので。地域に根付いた教育を地道に継続していかなければならないと思います」。

大学名が設立地の「園田村」に由来していることが示す通り、地域と共に歩む大学として誕生した園田学園女子大学にとって、〈地域〉と〈大学〉をつなぎ、〈地域で学ぶ〉と〈地域に根付いて働く〉をつなぐという方向性は、まさに建学の精神に立ち返るということでもあるのだろう。



(角方正幸 リアセックキャリア総合研究所 所長)



日本の未来を
つくる
若者の留学を、
オール
ジャパンで
応援しよう！

トビタテ2期生 シンガポールに留学

TOBITATE! NEXT JAPAN

トビタテ! 留学JAPAN 日本代表プログラム

返済不要の給付型奨学金、
年間約1,000人募集。

支援企業・団体一覧



朝日新聞社/アシックス/稲畑産業/岩谷産業/内田洋行/オークマ/大阪ガス/大阪シーリング印刷/大塚オーミ陶業/カシオ計算機/兼松/河合塾/紀伊國屋書店/共立製薬/クリーク・アンド・リバー社/グローリー/興和/サクラグローバルホールディング/サッポロホールディング/島村楽器/新日本有限責任監査法人/CBC/ジェイティービー/スズケン/ソニー/太平洋セメント/銀理/TSUCHIYA/TDK/東海旅客鉄道/東京急行電鉄/東武鉄道/東武トップツアーズ/長瀬産業/西日本旅客鉄道/日油/日鉄住金物産/日本触媒/日本製粉/日本アイ・ピー・エム/日本板硝子/日本カルミック/日本経済新聞社/日本女性エグゼクティブ協会/日本ユニシス/ハウス食品グループ本社/阪急電鉄/阪和興業/パブリックビジネスジャパン/日立造船/BNPパリバグループ/ビジョン/フジテック/牧野フライス製作所/ミズノ/Mizkan/八木通商/ユニリーバ・ジャパン・ホールディングス/ライオン/レンゴー/ワコールホールディングス(平成28年6月16日現在)

募集期間: 第6期 → 2016年7月~10月 (2017年4月~2017年10月 留学開始) | 第7期 → 2016年12月~3月 (2017年8月下旬~2018年3月に 留学開始)

詳しくは **トビタテ** 文部科学省 トビタテ! 留学JAPAN

新世紀のキャンパス

Campus of New Century

武蔵野美術大学
14号館(デザイン工房棟)





南側の外に面したベランダ。



階段やフロアはコンクリートベースだが、採光にこだわった造り。

2016年春、武蔵野美術大学(以下ムサビ)に14号館(デザイン工房棟)が完成した。キャンパスをまたぐ都市計画道路の建設に伴い、工芸工業デザイン学科の工房や関連研究室等を移転集約した建物だ。

美大にとって工房は学びの肝である。ムサビでも大事にしているのは「素材との格闘」であるという。「理論だけではなく、実際の素材に触れて手を動かすことが一番大事です」と同学科の山中一宏准教授は話す。現在はコンピュータ上で完結することが可能なデザインも、実際に設計図を引き、粘土を削り、溶接作業を行い、自分の手で創り上げることを何より重視する。「卒業後、会社に所属すると、どうしても利益観点が必要となるので、こうした作業は無駄なものと考えがち。学生時代は『無駄なものを作る』ことも勉強の1つだ」という。工芸工業デザイン学科は2年次の夏にインテリアデザイン・クラフトデザイン・インダストリアルデザインの3コースに分かれるため、そのコース選択に向け、1年次は好きな工房を回れるようにカリキュラム設計されている。

また、造形の勉強だけでは偏るため、一般教養もしっかり教える。造形活動において正解はない。自分なりの表

現を磨くため、学生たちは創作活動に打ち込む一方で、自らの感性を高める様々な人との出会いや経験が必要だ。また、自分の表現を相手に伝えるための教養がなければ、独りよがりの美術家にはなれても、社会で必要とされるデザイナーにはなり得ない。今回14号館を建設したことで3コースの学びが集約され、廊下を歩けば他コースの学びがガラス越しに見える教育環境ができた。専門に閉じずに横断的な空気を醸成し、双方向で多様な感性を刺激し合う意味合いもあるようだ。

もともとムサビは1929年に創立した帝国美術学校を起源とするが、当時から「教養を有する美術家養成」をうたい、美術は「技術的専門性」だけでなく、「総合的人間形成」をもって成るものと考えていた。その理念は今日にもしっかりと根づいている。現在でも教育目標の第一に「幅広い教養を備え、人格的にも優れた専門家を養成する」とあり、卒業要件の第一には「造形の各分野を専攻するにあたって、総合的判断力や批判力が養われているか」とある。こうしたポリシーに合致する人材を育成するうえで、必要とされるコンピテンシー養成に合った環境整備は必須であろう。

14号館は地上4階・地下1階の5層構造。大きな窓の工房あり、デザイン部屋あり、ろくろあり、CG設備あり、プレゼンルームありと、3コースに属する多彩な実習工房や教室が展開されている。全体は打ち放しコンクリートだが、教室・工房はガラス張りで中の様子がよく見える構造。端が吹き抜けになった建物中央の廊下や、南側一面に配置されたベランダから、光や風が存分に入る造りだ。また、階段の踊り場や廊下等のフリースペースを多く設けているが、これは、学生が自由に作品を展示できるようにとの配慮である。山中准教授は「大学は学生が主役なので、学生が入って初めて完成する空間にしたい」と話す。

取材当日、新しい工房棟の中で学生がプレゼンや創作活動に勤しむ様子は、無機質なコンクリート空間に花が咲いたような彩りであった。デザインは必ずしもアートに閉じたものではなく、社会に開けたものと認知されて久しい。デザイナーとは、それだけ社会的影響力を持つものの担い手ということでもある。こうした教育環境を通じて、教養あるデザイナーが多く輩出されることを期待したい。

(本誌 鹿島 梓)

3台のプロジェクター同時活用が可能なプレゼンテーションルーム。机・椅子は全て可動式。企業からのデザイン依頼も多いムサビでは、外部者を招いたプレゼンテーションも多く行われる。





インダストリアルデザインコースで使われる実習室。ツールが統一規格でモジュール化されたスタイリッシュな空間。



パソコンルームには40台のデザイン用PCが並ぶ。



地下展示室。教員や学生の作品展示が行われる。



インテリアデザイン研究室。部屋ごとの区画やツールは担当教員がこだわって発注したものばかり。



フリースペースには学生の作品が展示されることもある。



クラフトデザインコース陶磁専攻のろくろ部屋。40台のろくろと粘土をこねる作業台のほか、細かい作業に使う専用スペースも。



巨大な窯を複数配置した吹きガラス工房。工芸活動には火を多用するため、荒神様を祀る神棚も設置されている。

未来へつながら、学びが見えてくる。



リクナビ進学は
高校生の学びと未来を
支援いたします。

リクルートの
進学情報サービスは
「リクナビ進学」で
学校の魅力をお伝えます

リクルート進学情報サービスに
関するお問い合わせ

リクルート進学ホットライン

☎ 0120-161-656

受付時間

月～金曜日(祝日・年末年始を除く)

10:00～17:00(13:00～14:00を除く)

※電話内容については正確を期すため、
録音しております。あらかじめご了承ください。



編集のおと

▶今年の夏は選挙の夏。参院選と都知事選が続き、若者の政治参加の低さが取り沙汰されました。しかし街頭演説では他者批判が多く、自分が何をしたいのか、ほかとどう違うのかがいまいち分かりにくい。本来大事なはずの差別化・個性化があまり重視されていない印象です。誰に支持してもらいたいかという思惑は別にして、若者が欲しいのは自分達に届くメッセージを發してくれる政治家。今年の進学ブランド力調査でも、高校生に明確に伝わるメッセージを發信し続けている大学が支持される結果となりました。伝えたいことを単に言うだけではなく、「相手に伝わるように伝える」ことが、広報戦略の肝であるようです。(鹿島)

▶我が子が通う小学校ではクラブ活動がさかんで、数ある中から「天文クラブ」に入部しました。保護者同伴月1回の活動で、学生スタッフ・大学教授達の指導のもと天体観測。初めに望遠鏡を作り、スタッフの説明を聞き組み立てる子ども達は真剣。我が子は接着剤に苦戦しながらもなんとか完成。そして屋上での観測、最初に見つけた「火星」には感動でした。見つけると「天体収集帳」にスタンプを押してもらい、子ども達同士で星が見えた自慢大会で大盛り上がり。親子一緒に楽しめるこのクラブ、親子のつながりを改めて実感。もっとほかの小学校でも活動が広がってほしいと思いました。(鈴木)

▶本誌制作のピークである7～8月はスポーツニュースにきぎ付けでした。イチローの記録達成、夏の甲子園、なによりオリンピック。それらと比べるような記録ではありませんが、本誌もこのたび200号を迎えました。表紙の撮影は実際に過去の号を並べて行ったのですが、時代と編集長の好みによってか、様々変わる表紙のテイストの違いを楽しみつつ並べていると、つい本に手が伸び開いて読んでしまいがちに。200号に達するまで33年、これからお役に立てて頂けるような情報をお届けできればと思います。ご意見ご感想等、ホームページよりお寄せ下さい。(松本)

▶200号特集、いかがでしたでしょうか。創刊から33年、本当に皆様のご支援の賜物だと、感謝の念に堪えません。特集の企画に当たり、本誌が創刊された1983年を調べてみました。すると、なんと巷でブームのポケモンGOを開発した任天堂がファミコンを發売した年でした。任天堂は、私が幼い頃は花札の会社でした。それが、ファミコン、そしてバーチャルリアリティへ。ITの進展に目を見張るとともに、業務内容を大きく変貌させていることに驚かされます。日本人の18歳だけでユニバーサル化する日本の大学。グローバル化、IT化の進展等、時代は大きく変わっていきます。そろそろ、次の展開を考える時かもしれません。(小林)

【お詫びと訂正】

199号6～7頁の本文および図表に誤りがありました。また、68頁左段上から4行目「7学部」とありますのは「9学部」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。修正後のPDFはホームページに掲載しております。ダウンロードしてご覧ください。

◆バックナンバー・WEB限定 月次特集はこちらから◆

『カレッジマネジメント』で検索

http://souken.shingakunet.com/college_m/

発行人/山口文洋 編集人/小林 浩 発行所/株式会社リクルートホールディングス
編集制作/鹿島 梓・鈴木規子・松本 恵

本社/〒104-0031 東京都中央区京橋2-1-3 京橋トラストタワー

リクルート進学ホットライン 0120-161-656(フリーダイヤル)

受付時間/月～金曜日(祝日・年末年始を除く)10:00～17:00(13:00～14:00除く)

DTP・印刷/図書印刷株式会社

本誌の記事・写真・図表などの無断転載を禁じます。

部長



大島 彩弓 さん

(国際コミュニケーション学部3年)

笑顔のストーリーテラー

キャンパスに、真っ赤なハイビスカスが咲きそろった。群馬県立女子大学「ALOHA DANCE CIRCLE」のメンバー達だ。毎年8月に実施されるカレッジフラ・コンペティションにおいて、2013年団体・ソロの両部門で優勝、2014年団体優勝・ソロ3位、2015年団体・ソロとも準優勝という輝かしい実績を誇る。地域での活動も評価され、玉村町文化功労章も受賞している。8代目の部長として38名の部員を率いるのが、部長の大島彩弓さん。「フラには、一つひとつの踊りに意味があり、きれいな衣装を着て踊るだけのものではありません。精神的にも、女性としての美しさを磨いていくことが大切です。ダンサーはストーリーテラーであると言われていきます」。演技の指導をして下さるインストラクターの先生のスタジオに通い、練習に励んでいる。大会での演目も決まった。ハワイ・オアフ島のマノア地区に降る雨「トウアヒネ」をテーマにしたもの。フラは神にまつわるストーリーが多いが、これもその一つだ。「ソロの演目は、オアフ島にあるハナウマ湾をテーマにした曲だ」と先生から知らされて、びっくりした話があります。ハワイでこの曲の作詞をされた方のひ孫の方が、私達の先生をご指導された方でした。さらに、そのひ孫の方が来日された際に実際に歌われた声をレコーディングしたもので、私達が踊ることになったのです。受け継がれてきたものに対する感謝、そして、この出会いに感動しました！。まさに魂の伝承と言える偶然。いや、彼女がこの歌で踊ることは必然だったのかもしれない。「フラに出会って、私の人生は変わりました」と語る大島さん。全てをポジティブに考えるようになり、内面からの笑顔で生きることができるようになったという。「今は、勝ち負けだけでなく、仲間と一緒にいいものを創りたいという気持ちが大きいですね。様々な出会いが重なって、私達のフラが完成する。そんな想いを大切にして踊りたいです」。心にも太陽の光を注ぎ込まれた「笑顔のストーリーテラー」達が、フラを通して、大輪の花を咲かせてくれるだろう。

(写真・文／西山俊哉)

今年も約束します。

国公立・私立 全国の注目大学が語る未来

【大学特集】

スーパーグローバル大学の
実力と戦略

グローバルワーカーを創る
実践型教育

日本と世界の技術を
牽引する大学

教育イノベーション2016
今と未来を語る大学

女性の社会進出を
支援する大学

地域社会と人を
育てる大学



【特集記事】

大学改革 頻出キーワード10

- ・ 高大接続
- ・ 大学入学希望者学力評価テスト
- ・ 高等学校基礎学力テスト
- ・ アドミッションポリシー
- ・ 卒業要件の厳格化 ほか

【Interview】

気鋭の11人 **学者、未来を語る**

益川敏英 (京都産業大学 教授) / 長沼 毅 (広島大学大学院 教授) /
柳沢幸雄 (開成中学・高校 校長) / 稲見昌彦 (東京大学 教授) ほか

これからの価値をつくる、人をつくる。

大学の約束

2016-2017 ¥500 (税込)

by **リクナビ進学**

9月20日発売 全国の書店、ネット書店でお求めください。お電話での購入は「富士山マガジンサービス」で。0120-223-223 (24時間 年中無休・送料無料) <http://fujisan.co.jp/>

【Essay】

越境する人。

為末 大

高校1年～3年までの学事や進路意識にあわせた学校情報を無料でお届けし、進学後のキャリアを見据えた進路選びを総合的にサポート。全国の大学・短大・専門学校の教育方針や学びの特色、入試に関する情報などを多面的に広報することが可能です。

●リクナビ進学ブックシリーズ



●リクナビ進学 <http://rikunabi-shingaku.com>



[パソコン][スマートフォン]
いずれからお使いいただけます。



高等教育機関様には、上記メディアを中心に展開する募集広告戦略・コミュニケーション戦略の設計、学部学科構成に関するご相談、学校案内パンフレットの作成など、学生募集に関するソリューションをご提供しています。

●リクルート進学情報サービスに関するお問い合わせ

リクルート進学ホットライン **0120-161-656** (フリーダイヤル) 受付時間/月～金曜日(祝日・年末年始を除く) 10:00～17:00(13:00～14:00を除く)

※電話内容については正確を期すため、録音しております。あらかじめご了承ください。

